

資料編

資料編目次

1. 組織・運営に関する資料	1
(1) 新領域創成科学研究科 三つのポリシー.....	2
(2) 柏地区事務機構組織.....	4
(3) 連携講座・協力講座一覧.....	5
(4) 教職員数.....	5
(5) 外国人研究員.....	10
(6) その他研究員等.....	12
(7) 研究科支出予算.....	13
(8) 建物概要.....	14
2. 教育に関する資料	15
(1) 平成 28 年度在籍学生数	16
(2) 入学者数.....	18
(3) 教員指導学生数.....	21
(4) 学位取得状況.....	22
(5) 研究科留学生状況.....	24
(6) 就職状況.....	27
(7) 休退学・復学者数.....	28
(8) 学生の奨学金、学振など採択状況 平成 23 年度～ 27 年度.....	29
(9) 各賞.....	33
(10) 学生の海外派遣数 平成 23 年度～ 27 年度.....	61
(11) 研究科共通科目履修者数 (平成 27 年度).....	64
3. 研究に関する資料	65
(1) 専攻別論文数の変化.....	66
(2) 海外との共同研究件数.....	67
(3) 特許出願・契約状況.....	67
(4) 外部資金の獲得状況.....	68
4. 社会貢献	71
(1) 施設見学.....	72
(2) 出前授業.....	75
5. 平成 27 年度修了生アンケート集計	79
6. 【参考】 第 2 期中間目標期間の教育研究の状況についての評価 ((独)大学改革支援・ 学位授与機構実施) に係る学部・研究等現況調査表 (抜粋)	
(1) 研究.....	12-1
(2) 教育.....	25-1

組織・運営に関する資料

(1) 新領域創成科学研究科 三つのポリシー

【学位授与方針】

修士課程

東京大学大学院新領域創成科学研究科は、研究科の教育研究上の目的に定める人材を養成するため、次に掲げる目標を達成した学生に修士の学位を授与します。

- ・学融合の精神に基づき、新たな学問領域の積極的な開拓を行い、次世代の研究・指導リーダーとなるための最先端科学知識・技術を修得している。
- ・国際社会でリーダーシップを発揮し、積極的な交流と協力を推進するための素養を修得している。
- ・高い研究倫理意識のもと、社会からの要請に応じて問題解決に貢献するとともに、豊かな未来社会をデザインする能力を発揮するための素養を修得している。

博士課程

東京大学大学院新領域創成科学研究科は、研究科の教育研究上の目的に定める人材を養成するため、次に掲げる目標を達成した学生に博士の学位を授与します。

- ・学融合の精神に基づき、新たな学問領域の積極的な開拓を行い、次世代の研究・指導リーダーとなるための高度な最先端科学知識・技術を修得している。
- ・国際社会で創造的にリーダーシップを発揮し、自立して積極的な交流と協力を推進するための素養を修得している。
- ・高い研究倫理意識のもと、社会からの要請に応じて問題解決に貢献するとともに、豊かな未来社会をデザインする卓越した能力を発揮するための素養を修得している。

【教育課程の編成・実施方針】

修士課程

東京大学大学院新領域創成科学研究科は、研究科の学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を体系的に編成・実施します。

- ・学融合を目指す柔軟かつ実践的な分野横断型カリキュラムの編成、学融合型研究教育プログラムを充実させる。
- ・国内外の学生が共に学び研究を行うための授業・カリキュラムを整備する。
- ・研究倫理教育を推進する。また、附置研究所、学外研究機関と連携した最先端研究体験や、地域・社会連携実験プログラムを通じた実地教育を充実させる。

博士課程

東京大学大学院新領域創成科学研究科は、研究科の学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を体系的に編成・実施します。

- ・最先端の研究を通じた柔軟かつ実践的な分野横断型カリキュラムを編成し、卓越した専門的知識と技能を習得することのできる学融合型研究教育プログラムを充実させる。

- ・体系的な研究指導体制を通じて研究倫理教育を推進する。また、附置研究所、学外研究機関と連携した最先端研究体験や、地域・社会連携実験プログラムを通じた実地教育を充実させる。

【入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）】

修士課程

1. 求める学生像

東京大学大学院新領域創成科学研究科修士課程は、志望分野を学ぶための十分な基礎学力を備え、将来、多様な分野を融合した研究成果を創出できる学生を求めます。

2. 入学者選抜においては、以下が問われます。

- ・志望分野に関する基礎知識
- ・研究成果を英語で発信する能力
- ・志望分野において、課題を自ら発見し、解決する能力
- ・多様な分野を能動的に学ぶ意欲

博士課程

1. 求める学生像

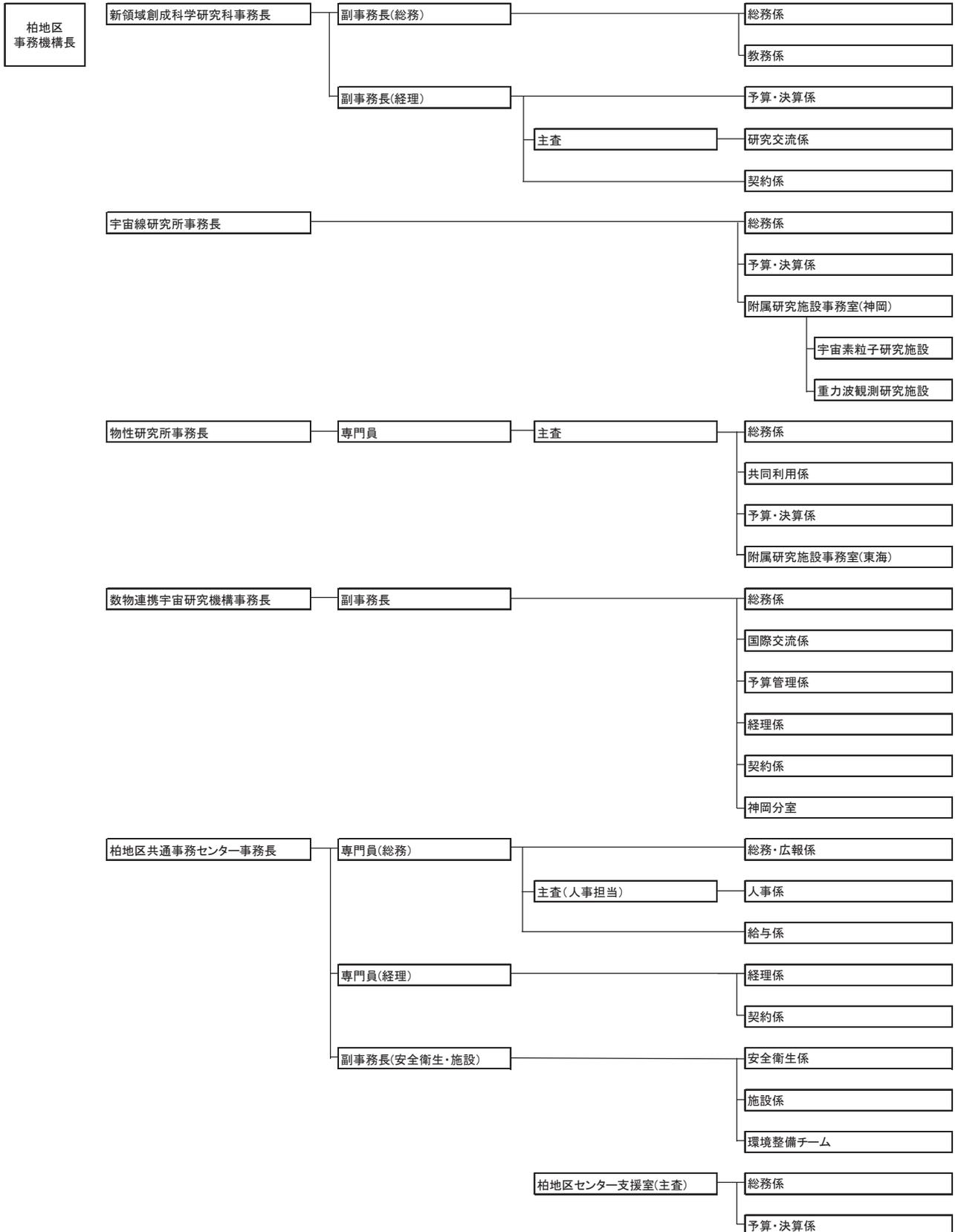
東京大学大学院新領域創成科学研究科博士課程は、自立して研究を行う強い意欲を持ち、将来、多様な分野を融合し、卓越した研究成果を創出できる学生を求めます。

2. 入学者選抜においては、以下が問われます。

- ・研究経験
- ・志望分野に関する専門知識
- ・研究成果を英語で発信する能力
- ・志望分野において、先駆的な研究課題を自ら設定し、解決する能力
- ・多様な分野を能動的に学ぶ意欲

(2) 柏地区事務機構組織

平成 28 年 4 月 1 日現在



(3) 連携講座・協力講座一覧

平成 27 年度

H27.4.1 現在

連携講座	協力講座
国立研究開発法人理化学研究所	物性研究所
一般財団法人電力中央研究所	医科学研究所
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構	分子細胞生物学研究所
国立研究開発法人国立がん研究センター	大気海洋研究所
国立研究開発法人農業生物資源研究所	空間情報科学研究センター
公益財団法人東京都医学総合研究所	東洋文化研究所
国立研究開発法人産業技術総合研究所	社会科学研究所
大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所	生産技術研究所
国立研究開発法人国立環境研究所	
独立行政法人国際協力機構	
株式会社国際協力銀行	
国立研究開発法人海洋研究開発機構	
公益財団法人がん研究会がん化学療法センター	

(4) 教職員数

(平成 27 年 5 月 1 日現在)

1) 教員

①教員数の推移 平成 11 年度～ 15 年度：教員配当定員、平成 16 年度～：採用可能数

	平成 10 年度	平成 11 年度	平成 12 年度	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度
教授	3	79	79	79	79	84
准教授	3	69	69	69	69	70
講師	0	0	0	0	0	0
助教	0	4	17	21	26	30
計	6	152	165	169	174	184
	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
教授	87	87	91	91	98	99
准教授	73	73	74	73	74	72
講師	0	0	0	0	1	1
助教	30	31	31	30	32	30
計	190	191	196	194	205	202
	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
教授	98	98	99	97	97	99
准教授	71	71	70	67	67	67
講師	1	1	0	0	0	0
助教	31	32	29	27	27	21
計	201	202	198	191	191	187

②専攻別教員数

基幹教員数

系	専攻	教授	准教授	講師	助教	小計
基盤科学	物質系	10	7	0	11	28
	先端エネルギー工学	8	6	0	4	18
	複雑理工学	9	4	1	5	19
生命科学	先端生命科学	11	7	0	0	18
	メディカル情報	9	6	1	5	21
環境学	自然環境学	8	5	0	2	15
	海洋技術環境学	5	1	1	1	8
	環境システム学	5	4	1	2	12
	人間環境学	7	6	2	0	15
	社会文化環境学	5	8	0	2	15
	国際協力学	5	2	1	2	10
附属施設	バイオイメージングセンター	0	1	0	0	1
	生涯スポーツ健康科学センター	0	1	0	0	1
合計		82	58	7	34	181

特任教員数

系	専攻	教授	准教授	講師	助教	小計
基盤科学	物質系			2	2	4
	先端エネルギー工学	2	1		1	4
	複雑理工学				3	3
生命科学	先端生命科学		1		3	4
	メディカル情報	1	2	2	7	12
環境学	自然環境学					0
	海洋技術環境学					0
	環境システム学				1	1
	人間環境学					0
	社会文化環境学	1	2		3	6
	国際協力学					0
附属施設	バイオイメージングセンター					0
	オーミックス情報センター		1			1
	生涯スポーツ健康科学センター					0
合計		4	7	4	20	35

③女性教員分布

教授	准教授	講師	助教	小計	特任教授	特任准教授	特任講師	特任助教	小計	合計
2	5	2	4	13	0	0	1	2	3	16

④職別（教授・准教授・講師・助教）着任後の年数

職	3年未満	3年以上～5年未	5年以上	計
教授	15	8	59	82
准教授	15	11	32	58
講師	6		1	7
助教	22	7	5	34
合計	58	26	97	181

⑤職別（教授・准教授・講師・助教）年代構成

職	20代	30代	40代	50代	60代	計
教授	0	0	16	46	20	82
准教授	0	9	35	13	1	58
講師	0	6	1	0	0	7
助教	7	23	4	0	0	34
合計	7	38	56	59	21	181

⑥出身部局（学位取得部局）ごとの人数

工学系	理学系	農学系	薬学系	医学系	その他	合計
92	40	19	5	4	21	181

2) 事務部職員

○事務系職員

	職員	非常勤職員等	派遣職員等	小計
事務長	1	0	0	1
副事務長	2	0	0	2
主査・専門職員	5	0	0	5
総務係	2	3	*1	6
教務係	4	5	0	9
予算・決算係	3	1	0	4
研究交流係	2	7	0	9
契約係	3	5	0	8
合計	22	21	1	44

*の1名はネットワーク管理室

3) 柏共通事務センター職員（参考）平成 28.3.31 現在

○事務系職員

	事務職員	非常勤職員等	派遣職員等	小計
事務機構長	1	0	0	1
事務長	1	0	0	1
副事務長	2	0	0	2
専門員	3	0	0	3
主査・専門職員	7	0	0	7
総務・広報係	1	2	0	3
給与係	5	2	0	7
人事係※	3	2	0	5
施設係	1	1	0	2
経理係	1	6	0	7
契約係	3	3	0	6
安全衛生係	2	1	0	3
小計	30	17	0	

※人事係…事務職員 3 名の内、1 名育休中

○技術系職員（技術補佐員）

	非常勤職員等
共通事務センター	4
施設係	1
小計	5

○教務職員（教務補佐員）

	非常勤職員等
共通事務センター	2
小計	2

4) 非常勤職員

①フルタイム勤務

		特任教員	特任 研究員	特認専門 員・ 専門職員	学術支援 専門員・ 支援職員	技術・技 能補佐員	事務 補佐員	小計
事務	新領域事務部			1				1
	放射線管理室							0
	国際交流室							0
基盤	物質系		8		1			9
	先端エネルギー工学						1	1
	複雑理工学					1	1	2
生命	先端生命科学		1				1	2
	メディカル情報生命		1	2	2	1	1	7
環境	自然環境学			1				1
	海洋技術環境学				1	1		2
	環境システム学							0
	人間環境学	1					1	2
	社会文化環境学						1	1
	国際協力学						1	1
附属施設	生涯スポーツ健康 科学研究センター							0
	附属オーミクス 情報センター	1						1
合計		2	10	4	4	3	7	30

②短時間勤務

		特任教員	特任 研究員	特認専門 員・ 専門職員	学術支援 専門員・ 支援職員	技術・技 能補佐員	事務 補佐員	教務 補佐員	小計
事務	新領域事務部			2		1	21		24
	放射線管理室								0
	国際交流室								0
基盤	物質系	1	6		1	3	13		24
	先端エネルギー工学		4	1			7		12
	複雑理工学				1	3	2		6
生命	先端生命科学	1	4	1		9	8	1	24
	メディカル情報生命		4	2	6	6	3		21
環境	自然環境学		3			1	1		5
	海洋技術環境学	1	5	2	2	6	3		19
	環境システム学		3			4	4		11
	人間環境学	3	8			2	13		26
	社会文化環境学	1	6	4	1		4		16
	国際協力学						4		4
附属 施設	生涯スポーツ健康 科学研究センター								0
	附属オーミクス 情報センター	1							1
その他				4			1		5
合計		8	43	16	11	35	84	1	198

(5) 外国人研究員

国別人数、滞在月数

【平成 23 年度】

出身国	人数	月数
インド	2	1 9
英国	1	3
エジプト	2	5 9
オーストリア	1	6
韓国	3	6 12 12
カンボジア	1	3
スペイン	1	10
スリランカ	1	3
タイ	1	4
チェコ	2	2 3
中国	12	2 2 2 2 2 3 3 3 4 4 4 6 7 12 12
ドイツ	1	4
フィリピン	1	5
米国	4	1 1 2 5
ポーランド	2	6 6
ルーマニア	1	1
ロシア	1	4
	3	182

【平成 24 年度】

出身国	人数	月数
イタリア	1	7
ウクライナ	2	5 4
エジプト	1	12
オーストラリア	1	1
オーストリア	1	12
韓国	4	12 12 6 2
タイ	2	2 2
中国	16	12 12 12 8 6 6 6 5 4 4 4 3 3 3 3 2 1 1
チュニジア	1	3
フィリピン	1	12
フランス	2	3 3
米国	6	12 5 2 2 2 2 1
ポーランド	3	3 2 1
マレーシア	1	3
リビア	1	12
ルーマニア	1	1
	44	232

【平成 25 年度】

出身国	人数	月数
イタリア	2	3 5
インド	3	1 1 2
ウクライナ	1	5
エジプト	3	3 12 12
オーストラリア	1	2
オーストリア	1	12
韓国	5	2 8 12 12 12
ギリシャ	1	5
スペイン	1	7
スリランカ	1	6
チェコ	1	2
中国	10	3 4 5 6 6 6 6 8 12 12 12
チュニジア	1	4
ナイジェリア	1	1
フィリピン	1	7
ブラジル	1	1
米国	6	3 3 9 11 12 12
ベトナム	1	12
ポーランド	1	5
ポルトガル	1	6
ミャンマー	1	8
メキシコ	1	4
ルーマニア	2	1 6
ロシア	1	1
	48	304

【平成 26 年度】

出身国	人数	月数
イタリア	2	1 3
イラン	1	6
インド	1	11
エジプト	3	3 6 10
オーストラリア	1	4
オーストリア	2	2 12
韓国	5	3 6 6 12 12
ギリシャ	1	11
スペイン	1	7
スリランカ	2	6 12
チェコ	1	9
中国	14	2 3 3 4 6 7 8 8 9 11 12 12 12 12
ドイツ	1	7
ブータン	1	3
ブラジル	1	1
フランス	2	2 2
米国	5	2 3 7 12 12
ベラルーシ	1	6
ベルギー	2	6 9
ポーランド	3	3 3 3
ポルトガル	2	1 2
マレーシア	1	4
ミャンマー	1	12
ロシア	3	2 2 4
	57	359

【平成 27 年度】

出身国	人数	月数
イラン	1	12
インド	2	2 6
インドネシア	2	4 12
エジプト	1	3
オーストラリア	1	2
オーストリア	2	3 12
韓国	10	1 2 5 5 6 6 6 6 10 12 12
スリランカ	2	5 6
中国	23	1 1 1 2 2 2 2 2 2 3 3 3 3 3 3 4 5 6 6 6 6 11 12 12 12 12 12
ドイツ	2	9 11
バングラデシュ	1	12
フィリピン	1	6
フランス	5	1 1 2 6 12
米国	5	1 1 1 1 3
ポーランド	3	3 3 3
ポルトガル	1	4
ロシア	2	3 3
	64	345

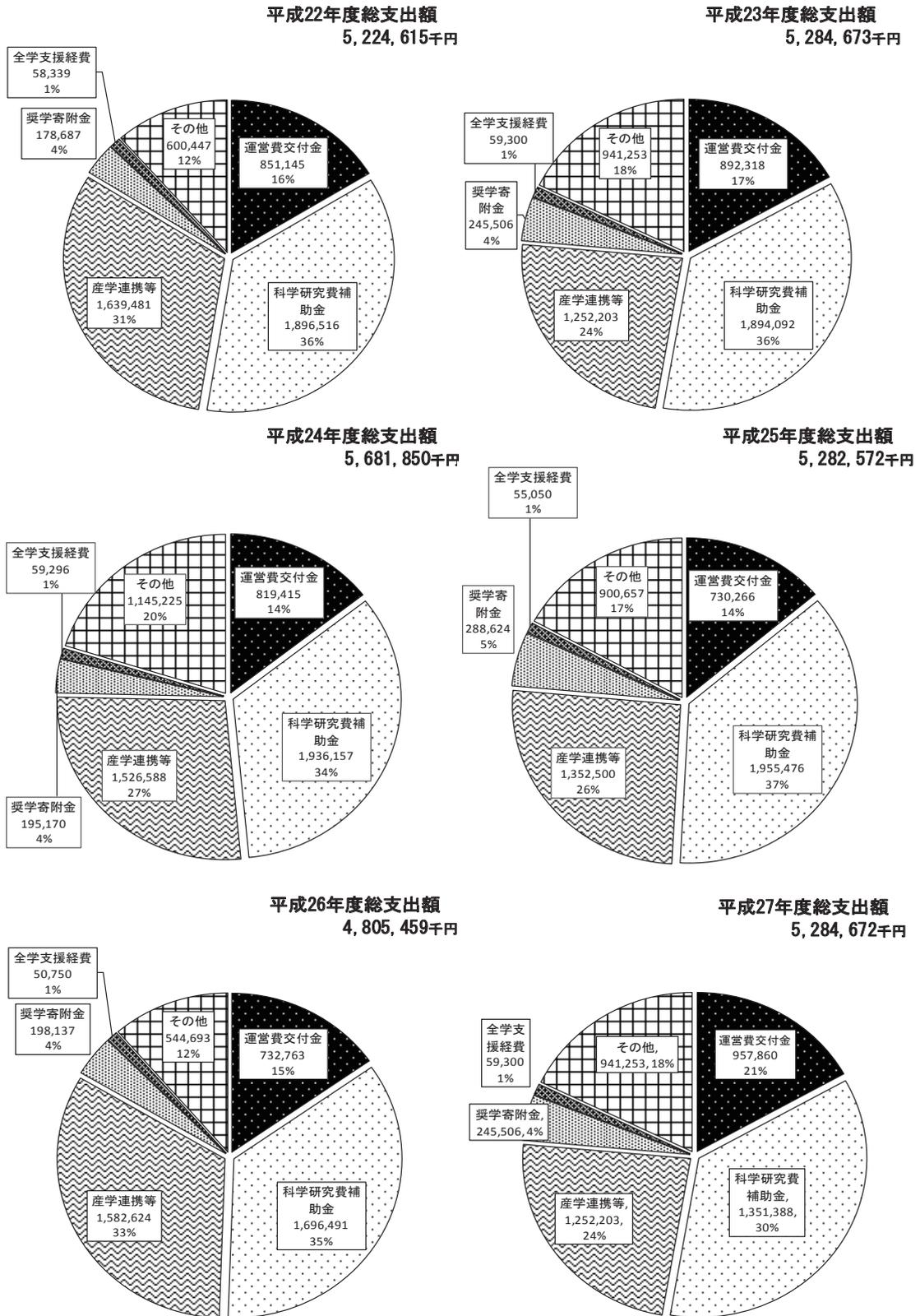
(6) その他研究員等

H28.5.1 現在

	受託研究員			国内 研究 員	私学 研修 員	日本学術振興会							合計
	一般	官庁	小計			特別研究員					外国人 特別 研究員	小計	
						SPD	PD	RPD	DC2	DC1			
物質系			0				5		5	8		18	18
先端エネルギー工学			0				1		2	8		11	11
複雑理工学			0				1		4	6		11	11
先端生命科学			0				1	2	3	2	1	9	9
メディカル情報生命	2		2						9	10		19	21
自然環境学			0					1	4	2		7	7
海洋技術環境学			0						1	1	1	3	3
環境システム学			0						1	0		1	1
人間環境学			0						2	3	1	6	6
社会文化環境学			0				1		1	0		2	2
国際協力学			0						1	0		1	1
サステナビリティ学 グローバルリーダー養成 大学院プログラム			0						3	0		3	3
計	2	0	2	0	0	0	9	3	36	40	3	91	93

(7) 研究科支出予算

平成22年度～27年度



(8) 建物概要

建物概要

建物名称	竣工年月日	総面積 (m ²)	使用専攻、プログラム、センター	備考
生命棟	平成 13 年 3 月	8,862	先端生命学専攻、メディカル情報生命専攻、 メディカルゲノムサイエンス・プログラム、 バイオイメージングセンター	
基盤棟 (I 期)	平成 14 年 3 月	9,048	物質系専攻、先端エネルギー工学専攻、 複雑理工学専攻、核融合研究教育プログラム、 基盤科学領域創成研究教育プログラム、 海洋技術環境学専攻	
情報生命科学実験棟	平成 15 年 3 月	1,056	メディカル情報生命専攻、 オーミクス情報センター	
基盤棟 (II 期)	平成 15 年 10 月	8,358	物質系専攻、先端エネルギー工学専攻、 複雑理工学専攻、核融合研究教育プログラム、 基盤科学領域創成研究教育プログラム、 海洋技術環境学専攻	
基盤科学実験棟	平成 15 年 12 月	5,630	物質系専攻、先端エネルギー工学専攻、 複雑理工学専攻、核融合研究教育プログラム	
総合研究棟	平成 16 年 10 月	2,200	メディカル情報生命専攻、 核融合研究教育プログラム	※
環境棟	平成 18 年 3 月	20,800	自然環境学専攻、海洋技術環境学専攻、 環境システム学専攻、人間環境学専攻、 社会文化環境学専攻、国際協力学専攻、 サステイナビリティ学教育プログラム	PFI 事業
計		55,954		

※ 総合研究棟総面積 15,793m²のうち、1,391m² (地階 353m²、3階 1,038m²) をメディカル情報生命専攻が使用し、809m² (地階 420m²、5階 389m²) を核融合研究教育プログラムが使用している。

教育に関する資料

(1) 平成 28 年度在籍学生数

1) 学生数一覧（平成 28 年 5 月 1 日現在）

※ 4 月入学と 9 月入学があり、一覧には平成 28 年 9 月入学者は含まれない。

修士（日本人及び留学生）

専攻	1 年		2 年		計			うち社会人		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
物質系専攻	59	1	53	6	112	7	119	0	1	1
先端エネルギー工学専攻	34	2	38	2	72	4	76	0	0	0
複雑理工学専攻	34	2	29	3	63	5	68	4	0	4
先端生命科学専攻	29	20	34	23	63	43	106	1	0	1
メディカル情報生命専攻	41	23	50	19	91	42	133	3	1	4
自然環境学専攻	13	5	21	11	34	16	50	0	1	1
海洋技術環境学専攻	21	2	26	0	47	2	49	0	0	0
環境システム学専攻	24	9	18	11	42	20	62	2	1	3
人間環境学専攻	37	7	28	5	65	12	77	2	0	2
社会文化環境学専攻	28	8	34	11	62	19	81	4	1	5
国際協力学専攻	15	15	20	16	35	31	66	2	5	7
サステイナビリティ学グローバル リーダー養成大学院プログラム (～2014 年 サステイナ ビリティ学教育プログラム)	2	15	8	7	10	22	32	3	6	9
計	337	109	359	114	696	223	919	21	16	37

博士（日本人及び留学生）

専攻	1 年		2 年		3 年		計			うち社会人		
	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
物質系専攻	17	2	19	0	20	1	56	3	59	6	2	8
先端エネルギー工学専攻	6	0	6	0	13	0	25	0	25	5	0	5
複雑理工学専攻	8	0	6	1	17	0	31	1	32	4	0	4
先端生命科学専攻	8	4	3	2	12	5	23	11	34	3	0	3
メディカル情報生命専攻	29	13	24	10	34	18	87	41	128	20	11	31
自然環境学専攻	7	3	8	4	12	14	27	21	48	2	1	3
海洋技術環境学専攻	2	0	1	2	6	2	9	4	13	3	1	4
環境システム学専攻	5	1	4	2	6	6	15	9	24	6	2	8
人間環境学専攻	9	1	12	1	12	3	33	5	38	7	0	7
社会文化環境学専攻	4	1	5	2	8	3	17	6	23	5	1	6
国際協力学専攻	0	1	3	1	9	12	12	14	26	9	9	18
サステイナビリティ学グローバル リーダー養成大学院プログラム (～2014 年 サステイナ ビリティ学教育プログラム)	6	6	4	5	3	7	13	18	31	3	4	7
計	101	32	95	30	152	71	348	133	481	73	31	104

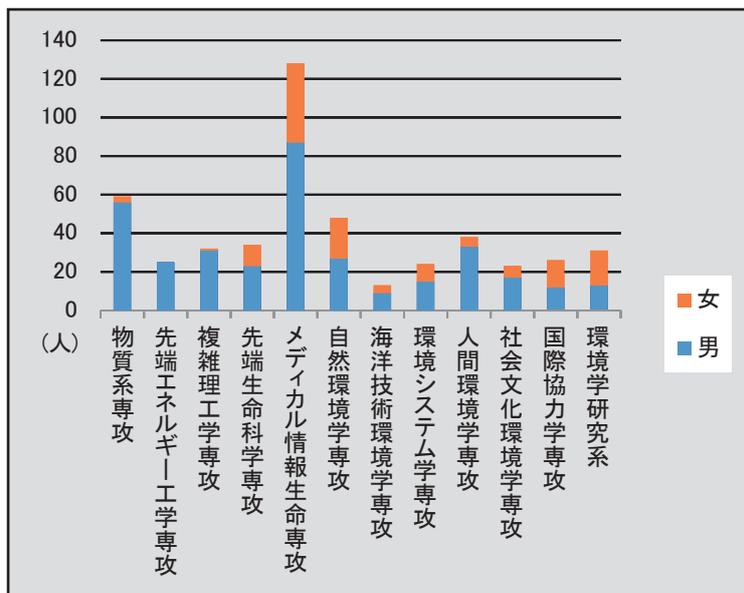
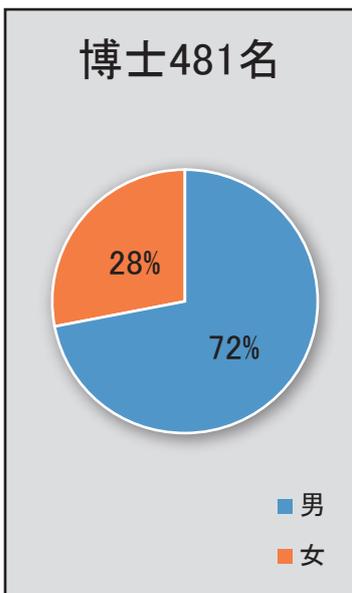
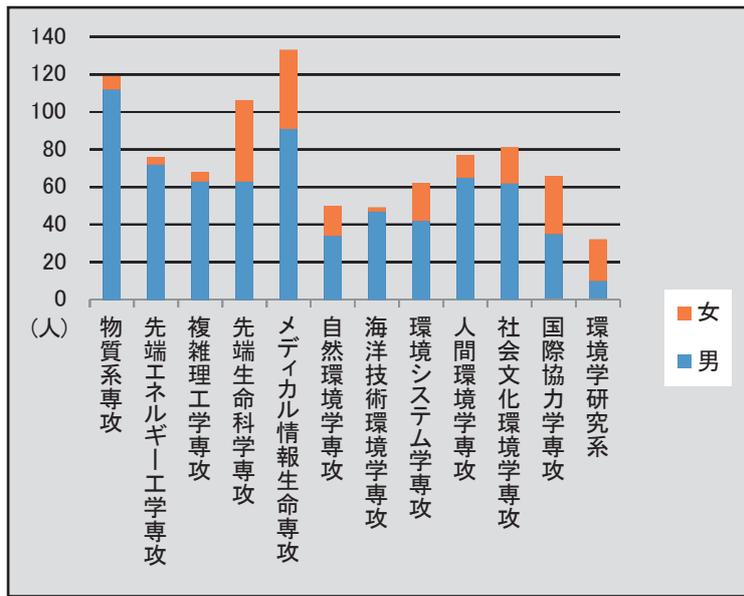
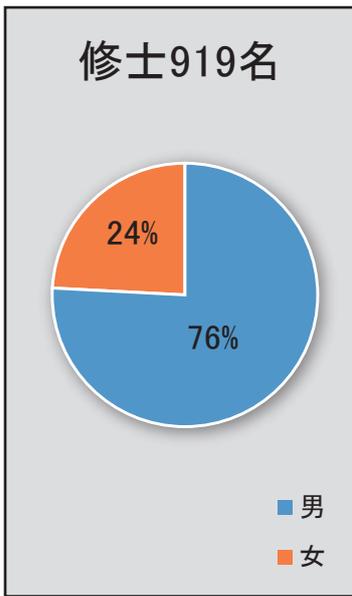
外国人学生

身分	人数
外国人学生（博士）在日含む	135
外国人学生（修士）在日含む	141
大学院研究生	2
大学院外国人研究生	20
特別研究学生	15
計	313

特別研究学生（日本人及び留学生）

所属専攻	人数
物質系専攻	1
複雑理工学専攻	3
メディカル情報生命専攻	8
海洋技術環境学専攻	1
環境システム学専攻	1
社会文化環境学専攻	1
計	15

2) 在籍数男女数比較



(2) 入学者数

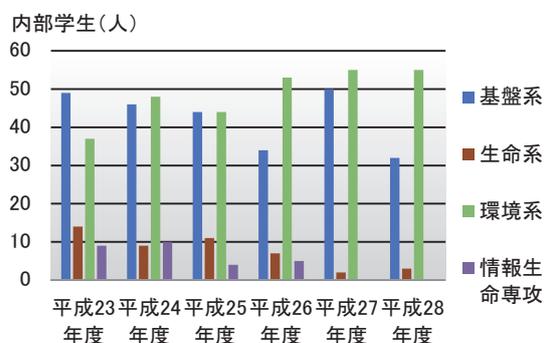
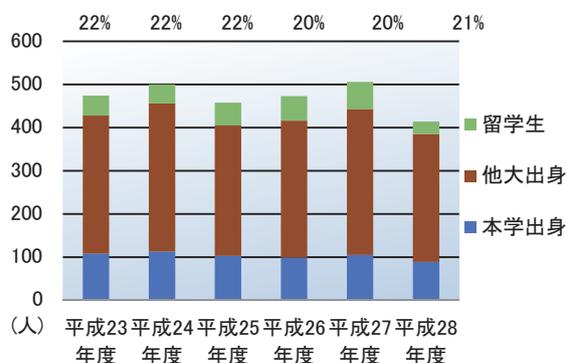
1) 入試状況

修士課程入学者数

	平成 23 年度				平成 24 年度				平成 25 年度			
	入学 定員	入学者	入学者 (本学)	入学者 (他大)	入学 定員	入学者	入学者 (本学)	入学者 (他大)	入学 定員	入学者	入学者 (本学)	入学者 (他大)
物質系専攻	38	57	33	24	38	51	22	29	38	42	25	17
先端エネルギー工学専攻	24	35	10	25	24	40	18	22	24	40	17	23
複雑理工学専攻	25	27	5	22	25	27	6	21	25	30	2	28
先端生命科学専攻	54	46	1	45	54	60	4	56	54	39	1	38
メディカルゲノム専攻	29	63	13	50	29	51	5	46	29	55	10	45
メディカル情報生命専攻												
自然環境学専攻	46	30	0	30	46	48	1	47	46	34	1	33
環境システム学専攻	18	14	7	7	18	20	6	14	18	22	9	13
人間環境学専攻	38	32	13	19	38	39	16	23	38	44	16	28
社会文化環境学専攻	32	41	9	32	32	30	9	21	32	31	7	24
国際協力学専攻	20	28	1	27	20	32	3	29	20	21	0	21
海洋技術環境学専攻	18	19	6	13	18	22	13	9	18	21	10	11
サステイナビリティ学グローバル リーダー養成大学院プログラム (～2014年 サステイナ ビリティ学教育プログラム)		22	1	21		16	0	16		18	1	17
情報生命科学専攻	24	14	9	5	24	20	10	10	24	8	4	4
	366	428	108	320	366	456	113	343	366	405	103	302

	平成 26 年度				平成 27 年度				平成 28 年度			
	入学 定員	入学者	入学者 (本学)	入学者 (他大)	入学 定員	入学者	入学者 (本学)	入学者 (他大)	入学 定員	入学者	入学者 (本学)	入学者 (他大)
物質系専攻	38	45	19	26	38	59	26	33	38	55	25	30
先端エネルギー工学専攻	24	39	15	24	24	38	22	16	24	34	6	28
複雑理工学専攻	25	32	0	32	25	33	2	31	25	34	1	33
先端生命科学専攻	54	37	0	37	54	56	0	56	54	43	2	41
メディカルゲノム専攻	29	51	7	44								
メディカル情報生命専攻					53	71	14	57	53	56	6	50
自然環境学専攻	46	36	2	34	46	24	0	24	46	16	1	15
環境システム学専攻	18	28	9	19	18	29	10	19	18	26	9	17
人間環境学専攻	38	38	21	17	38	32	15	17	38	41	21	20
社会文化環境学専攻	32	33	7	26	32	36	10	26	32	32	10	22
国際協力学専攻	20	31	4	27	20	26	1	25	20	22	3	19
海洋技術環境学専攻	18	19	10	9	18	23	5	18	18	21	5	16
サステイナビリティ学グローバル リーダー養成大学院プログラム (～2014年 サステイナ ビリティ学教育プログラム)		13	0	13		16	0	16		5	0	5
情報生命科学専攻	24	14	5	9								
	366	416	99	317	366	443	105	338	366	385	89	296

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
修士 留学生	46	44	53	57	63	29



博士課程入学者数

	平成 23 年度				平成 24 年度				平成 25 年度			
	入学定員	入学者	入学者(本学)	入学者(他大)	入学定員	入学者	入学者(本学)	入学者(他大)	入学定員	入学者	入学者(本学)	入学者(他大)
物質系専攻	18	13	10	3	18	20	16	4	18	15	13	2
先端エネルギー工学専攻	12	12	8	4	12	10	7	3	12	11	4	7
複雑理工学専攻	11	11	10	1	11	4	2	2	11	11	9	2
先端生命科学専攻	23	11	9	2	23	16	13	3	23	20	11	9
メディカルゲノム専攻	13	38	22	16	13	35	22	13	13	34	13	21
メディカル情報生命専攻												
自然環境学専攻	20	20	12	8	20	16	9	7	20	12	2	10
環境システム学専攻	8	4	2	2	8	8	5	3	8	3	1	2
人間環境学専攻	16	11	9	2	16	6	4	2	16	15	7	8
社会文化環境学専攻	14	10	6	4	14	8	5	3	14	7	3	4
国際協力学専攻	10	14	8	6	10	9	1	8	10	9	2	7
海洋技術環境学専攻	7	5	4	1	7	6	3	3	7	3	2	1
サステイナビリティ学グローバルリーダー養成大学院プログラム (～2014年 サステイナビリティ学教育プログラム)		3	1	2		5	3	2		7	4	3
情報生命科学専攻	11	7	4	3	11	3	3	0	11	8	6	2
	163	159	105	54	163	146	93	53	163	155	77	78

	平成 26 年度				平成 27 年度				平成 28 年度			
	入学定員	入学者	入学者(本学)	入学者(他大)	入学定員	入学者	入学者(本学)	入学者(他大)	入学定員	入学者	入学者(本学)	入学者(他大)
物質系専攻	18	22	17	5	18	19	15	4	18	14	12	2
先端エネルギー工学専攻	12	6	5	1	12	8	7	1	12	4	4	0
複雑理工学専攻	11	12	10	2	11	8	6	2	11	8	7	1
先端生命科学専攻	23	11	10	1	23	6	4	2	23	10	9	1
メディカルゲノム専攻	13	28	19	9								
メディカル情報生命専攻					24	32	20	12	24	31	19	12
自然環境学専攻	20	11	6	5	20	9	6	3	20	10	7	3
環境システム学専攻	8	10	7	3	8	3	1	2	8	5	2	3
人間環境学専攻	16	10	8	2	16	12	12	0	16	6	6	0
社会文化環境学専攻	14	7	4	3	14	3	3	0	14	4	2	2
国際協力学専攻	10	7	2	5	10	3	1	2	10	1	0	1
海洋技術環境学専攻	7	6	3	3	7	2	2	0	7	1	0	1
サステイナビリティ学グローバルリーダー養成大学院プログラム (～2014年 サステイナビリティ学教育プログラム)		10	3	7		11	6	5		3	3	0
情報生命科学専攻	11	11	8	3								
	163	151	102	49	163	116	83	33	163	97	71	26

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
博士 留学生	37	30	48	36	30	14

2) 平成 27 年度入試実施状況について

修士課程

専攻	出願者数	合格者数
物質系専攻	82	64
先端エネルギー工学専攻	95	40
複雑理工学専攻	58	39
先端生命科学専攻	87	73
メディカル情報生命専攻	140	101
自然環境学専攻	50	34
海洋技術環境学専攻	49	36
環境システム学専攻	83	53
人間環境学専攻	64	38
社会文化環境学専攻	66	47
国際協力学専攻	97	40
サステイナビリティ学グローバルリーダー養成大学院プログラム	55	16
	926	581

博士課程

専攻	出願者数	合格者数
物質系専攻	23	20
先端エネルギー工学専攻	12	9
複雑理工学専攻	9	9
先端生命科学専攻	9	6
メディカル情報生命専攻	37	35
自然環境学専攻	12	11
海洋技術環境学専攻	4	2
環境システム学専攻	5	3
人間環境学専攻	15	12
社会文化環境学専攻	8	3
国際協力学専攻	9	3
サステイナビリティ学グローバルリーダー養成大学院プログラム	22	11
	165	124

(3) 教員指導学生数

1) 平成 28 年度教員（基幹と連携、兼担、協力）学生指導数の分布

H28.5.1 現在

専攻名	基幹				連携		
	3名以下	4-10名	11-20名	21-30名	3名以下	4-10名	11-20名
物質系	4	6	4		1		
先端エネルギー工学	1	13			6		
複雑理工学	4	8	3		3		
先端生命科学	3	10	5		7	1	
メディカル情報生命	3	7	2	1	7	3	
自然環境学	3	7	1		1		
海洋技術環境学		5	1		2		
環境システム学	2	3	4			1	
人間環境学	6	4	3		2	1	
社会文化環境学	5	5	2				
国際協力学		5	3				
サステイナビリティ学グローバルリーダー養成大学院プログラム	11	4			1		
計	42	77	28	1	30	6	0

専攻名	兼担			協力		
	3名以下	4-10名	11-20名	3名以下	4-10名	11-20名
物質系	1			4	9	1
先端エネルギー工学		1				
複雑理工学	3	1				
先端生命科学	2					
メディカル情報生命	14	10	2	4		
自然環境学	2	3			4	
海洋技術環境学	1			1	2	
環境システム学		1				
人間環境学	2	1				
社会文化環境学				3	1	1
国際協力学					1	1
サステイナビリティ学グローバルリーダー養成大学院プログラム	7	2				
計	32	19	2	12	17	3

2) 平成 27 年度教員（基幹と連携、兼担、協力）外部受託学生指導数の分布

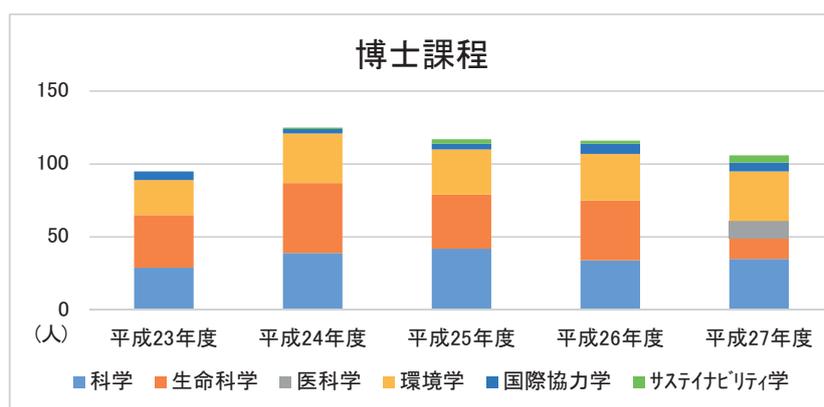
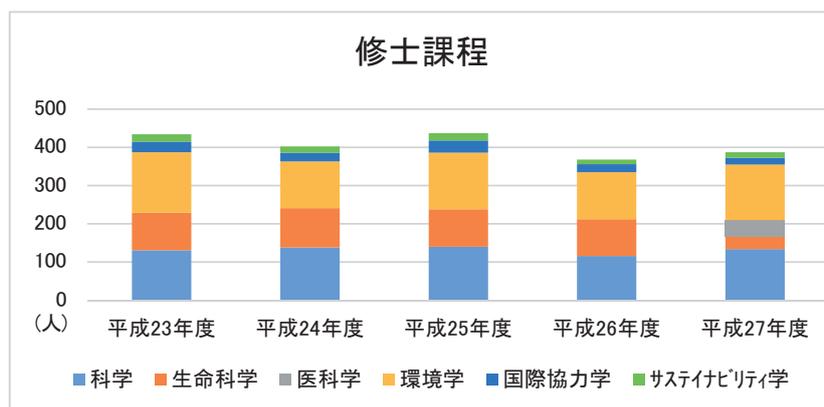
H27.5.1 現在

	基幹		兼担		協力	
	3 名以下	4-10 名	3 名以下	4-10 名	3 名以下	4-10 名
物質系	1	0	0	0	1	0
複雑理工学	1	1	0	0	0	0
先端生命科学	3	0	0	0	0	0
メディカル情報生命	1	0	1	0	0	0
自然環境学	0	0	0	0	1	0
海洋技術環境学	1	0	0	0	0	0
計	7	1	1	0	2	0

(4) 学位取得状況

1) 学位取得数 平成 23 年度～ 27 年度

		平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
修士課程	科学	131	138	140	116	134
	生命科学	98	103	98	96	32
	医科学					44
	環境学	158	122	148	123	145
	国際協力学	28	23	32	21	18
	サステイナビリティ学	19	16	19	12	14
計		434	402	437	368	387
課程博士	科学	29	39	42	34	35
	生命科学	36	48	37	41	14
	医科学					12
	環境学	24	34	31	32	34
	国際協力学	6	3	4	7	6
	サステイナビリティ学	1	3	2	5	
計		95	125	117	116	106
論文博士	科学	4	5	1	1	
	生命科学	0	3	1	1	2
	医科学					
	環境学	9	2	4	0	1
	国際協力学	1	0	0	0	1
計		14	10	6	2	4
博士総数		109	135	123	118	110
学位授与総数		543	537	560	486	497



2) 学位取得状況 修業期間別 (平成23年度～27年度)

修士課程

	9月修了								3月修了								合計
	短縮	正規	2年半	3年	3年半	4年	それ以上	小計	短縮	正規	2年半	3年	3年半	4年	それ以上	小計	
平成23年度		34	4		1			39		362	8	21		2	2	395	434
平成24年度		28	5	1		1		35		337	9	18		3		367	402
平成25年度		26	7	1	1		1	36		365	4	28		2	2	401	437
平成26年度		29	4	2	1		1	37		307	3	20			1	331	368
平成27年度		29	6	1				36		318	10	19		3	1	351	387
合計	0	146	26	5	3	1	2	183	0	1689	34	106	0	10	6	1845	2028

博士課程

	(2年)短縮	(2年半)短縮	(3年)短縮	正規	3年3ヶ月	3年半	3年9ヶ月	4年	4年3ヶ月	4年半	4年9ヶ月	5年	それ以上	合計
平成23年度		1		51	3	9	5	9	5	2		4	6	95
平成24年度		1		69	4	13	5	9	1	6	1	4	12	125
平成25年度				77	9	8	4	3	2		2	4	8	117
平成26年度				65	9	5	5	8		5	4	3	12	116
平成27年度				66	6	6		11	3	2			12	106
合計	0	2	0	328	31	41	19	40	11	15	7	15	50	559

(5) 研究科留学生状況

1) 国籍別外国人留学生数 (H28.5.1 現在)

区分	国費				私費				合計			
	大学院等			小計	大学院等			小計	大学院等			総計
	修士課程	博士課程	研究生等		修士課程	博士課程	研究生等		修士課程	博士課程	研究生等	
アジア												
パキスタン		2		2						2		2
インド	1	3		4	1	4		5	2	7		9
ネパール						2		2		2		2
バングラデシュ	2	1		3	2	1		3	4	2		6
スリランカ	1	1		2	3	1		4	4	2		6
ミャンマー					2			2	2			2
タイ	3	4		7	2	1		3	5	5		10
マレーシア	1	1	1	3	1			1	2	1	1	4
シンガポール						1		1		1		1
インドネシア	3	1	1	5	3	2	1	6	6	3	2	11
フィリピン	1	4		5					1	4		5
韓国		2		2	5	7	1	13	5	9	1	15
ベトナム					4	3		7	4	3		7
中国	3	6		9	73	36	18	127	76	42	18	136
カンボジア		1		1		1		1		2		2
ブルネイ		1		1						1		1
台湾					2	7	1	10	2	7	1	10
中国(内蒙古)						1		1		1		1
小計	15	27	2	44	98	67	21	186	113	94	23	230
中近東												
イラン			1	1		3		3		3	1	4
レバノン		1		1						1		1
イスラエル		1		1						1		1
ヨルダン		1		1		1		1		2		2
イラク						1		1		1		1
サウジアラビア						1		1		1		1
小計		3	1	4		6		6		9	1	10
アフリカ												
エジプト						2		2		2		2
チュニジア	1			1					1			1
ケニア	1	1		2	1			1	2	1		3
ガーナ		3		3		1		1		4		4
セネガル					1			1	1			1
エチオピア		2		2		1		1		3		3
ウガンダ						1		1		1		1
南アフリカ		1		1						1		1
マラウイ		1		1						1		1
小計	2	8		10	2	5		7	4	13		17

区分	国費				私費				合計			
	大学院等			小計	大学院等			小計	大学院等			総計
	修士課程	博士課程	研究生等		修士課程	博士課程	研究生等		修士課程	博士課程	研究生等	
オセアニア												
オーストラリア	1			1					1			1
サモア独立国	1			1					1			1
小計	2			2					2			2
北米												
カナダ					1			1	1			1
アメリカ	2			2	1	3		4	3	3		6
小計	2			2	2	3		5	4	3		7
中南米												
ブラジル	1	1		2					1	1		2
チリ	1			1					1			1
ペルー	1			1					1			1
コロンビア	1			1					1			1
小計	4	1		5					4	1		5
ヨーロッパ												
スウェーデン						1		1		1		1
ベルギー		1		1						1		1
フランス		2		2		2	9	11		4	9	13
スペイン		2		2			1	1		2	1	3
イタリア		1		1						1		1
ギリシャ			1	1							1	1
ルーマニア		1		1						1		1
ロシア		1		1						1		1
リトアニア							1	1			1	1
スロベニア						1		1		1		1
小計		8	1	9		4	11	15		12	12	24
未設定												
パレスチナ		1		1						1		1
小計		1		1						1		1
合計	25	48	4	77	102	85	32	219	127	133	36	296

2) 地域別外国人留学生数

H28.5.1 現在

区分	国費				私費				合計			総計
	修士課程	博士課程	研究生	小計	修士課程	博士課程	研究生	小計	修士課程	博士課程	研究生	
アジア	15	27	2	44	98	67	21	186	113	94	23	230
中近東	0	3	1	4	0	6	0	6	0	9	1	10
アフリカ	2	8	0	10	2	5	0	7	4	13	0	17
オセアニア	2	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0	2
北米	2	0	0	2	2	3	0	5	4	3	0	7
中南米	4	1	0	5	0	0	0	0	4	1	0	5
ヨーロッパ	0	8	1	9	0	4	11	15	0	12	12	24
その他 (パレスチナ)	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1
合計	25	48	4	77	102	85	32	219	127	133	36	296

3) 費用別外国人留学生数（永住者等、私費、国費、ADB 他）

H28.5.1 現在

	博士	修士	外国人研究生	特別研究学生・ 特別聴講学生	合計
永住者等	8	8	0	0	16
私費	74	92	16	3	185
国費	48	25	4	0	77
交流協会(台湾)	3	2	0	0	5
ADB	0	7	0	0	7
ADK	0	1	0	0	1
協定	0	0	0	13	13
中国政府派遣	8	0	0	0	8
合計	141	135	20	16	312

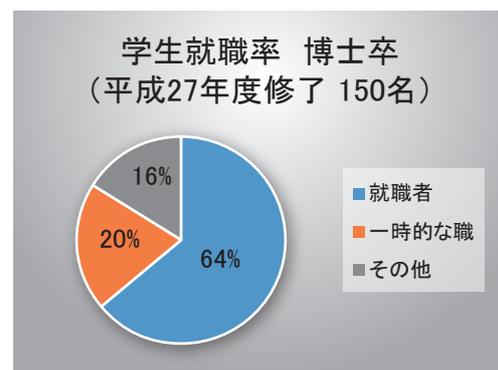
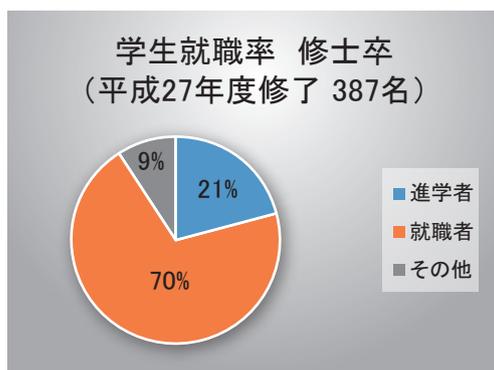
(6) 就職状況

1) 平成 27 年度修了者の就職状況

(人)

		修士課程	博士課程	合計
平成 27 年度修了者		387	150	537
上記のうち満期退学者		0	44	44
進学者	大学院	81	0	81
	学部	0	0	0
	専攻科	0	0	0
	別科	0	0	0
	小計	81	0	81
就職者	農業、林業	1	0	1
	漁業	0	1	1
	鉱業、採石業、砂利採取業	2	0	2
	建設業	10	1	11
	製造業	116	17	133
	電気・ガス・熱供給・水道業	10	1	11
	情報通信業	42	4	46
	運輸業、郵便業	6	0	6
	卸売業・小売業	4	0	4
	金融業・保険業	17	1	18
	不動産業、物品賃貸業	2	0	2
	学術研究、専門・技術サービス業	25	55	80
	宿泊業、飲食サービス業	0	0	0
	生活関連サービス業、娯楽業	2	0	2
	教育・学習支援業	2	8	10
	医療・福祉	3	2	5
	複合サービス事業	4	0	4
	サービス業	6	3	9
	公務（国家・地方）	12	2	14
	その他	7	1	8
	小計	271	96	367
一時的な仕事に就いた者		0	30	30
その他		35	24	59
合計		387	150	537

【備考】 ・ 博士課程修了者数には、満期退学後論文を提出して学位を授与された者を含む。
 ・ その他には、学振特別研究員、PD、留学者、帰国者、自宅勉学者などを含む。



(7) 休退学・復学者数

1) 休退学者数（理由別） 平成 23 年度～ 27 年度

理由別		平成 23 年度		平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度		総計	
		修士	博士	修士	博士								
新規	病気	8	3	5	2	6	3	14	9	13	3	46	20
	海外における修学	2	1	3			1	1	1	3	1	9	4
	海外における調査見学	2	1	1	1	2		2	1	3		10	3
	経済的理由	10	12	12	19	12	13	12	13	9	16	55	73
	外国人学生の一時的帰国	2	2		1							2	3
	出産又は育児	1		2	3		3		2	1	2	4	10
	介護	1	1		1						1	1	3
	社会に貢献する活動			2		1	1	1				4	1
	評議会決定											0	0
継続	病気	6	2	4	2		2		4	4	6	14	16
	海外における修学	1		1	1	1					1	3	2
	海外における調査見学		2	1	2		2		1			1	7
	経済的理由	4	8	3	8		10	2	8	4	9	13	43
	外国人学生の一時的帰国						1		1			0	2
	出産又は育児					2	1		1		1	2	3
	介護											0	0
	社会に貢献する活動							1	1	1	1	2	2
	評議会決定											0	0
計	37	32	34	40	24	37	33	42	38	41	166	192	

2) 復学者数 平成 23 年度～ 27 年度

復学者	平成 23 年度		平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度		総計	
	修士	博士	修士	博士								
		24	10	19	13	16	11	9	19	18	15	86

(8) 学生の奨学金、学振など採択状況 平成 23 年度～ 27 年度

1) 日本人

民間奨学金

日本人奨学金 専攻名	平成 23 年度		平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度		計
	修士	博士									
物質系	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	5
先端エネルギー工学	2	0	2	1	0	1	2	2	4	1	15
複雑理工学	2	0	1	0	0	0	0	0	2	0	5
先端生命科学	1	0	0	0	0	1	3	1	3	1	10
メディカルゲノム	0	1	0	1	0	1	0	1			4
メディカル情報生命									4	0	4
自然環境学	0	0	0	2	0	1	0	1	1	0	5
海洋技術環境学	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
環境システム学	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
人間環境学	2	0	0	0	1	0	3	0	3	2	11
社会文化環境学	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	3
国際協力学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
サステイナビリティ学 グローバルリーダー 養成大学院プログラム	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
情報生命科学	0	0	0	0	0	0	0	0			0
計	9	1	6	4	3	7	10	5	18	5	68

日本学術振興会特別研究員

専攻名	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	計
	博士	博士	博士	博士	博士	
物質系	11	10	14	14	16	65
先端エネルギー工学	7	10	10	6	6	39
複雑理工学	10	11	9	6	11	47
先端生命科学	15	10	7	6	3	41
メディカルゲノム	23	20	13	13		69
メディカル情報生命					23	23
自然環境学	9	9	7	4	3	32
海洋技術環境学	2	3	3	3	1	12
環境システム学	3	1	1	2	0	7
人間環境学	8	5	8	9	5	35
社会文化環境学	0	3	2	2	3	10
国際協力学	1	0	1	0	1	3
サステイナビリティ学 グローバルリーダー 養成大学院プログラム	0	0	1	1	0	2
情報生命科学	4	4	4	7		19
計	93	86	80	73	72	404

日本学生支援機構奨学金

年度	平成 23 年度			平成 24 年度			平成 25 年度			平成 26 年度			平成 27 年度		
	専攻名	修士	博士	計	修士	博士									
物質系	35	4	39	29	3	32	27	0	27	17	2	19	16	1	17
先端エネルギー工学	21	6	27	22	9	31	19	4	23	17	2	19	21	2	23
複雑理工学	13	7	20	20	1	21	14	4	18	23	6	29	14	6	20
先端生命科学	33	6	39	37	7	44	19	9	28	17	5	22	23	0	23
メディカルゲノム	39	14	53	29	16	45	30	8	38	28	10	38			
メディカル情報生命													28	7	35
自然環境学	9	5	14	31	9	40	17	5	22	16	3	19	8	3	11
海洋技術環境学	11	0	11	14	1	15	6	0	6	5	0	5	7	0	7
環境システム学	9	3	12	11	5	16	10	1	11	13	4	17	13	0	13
人間環境学	13	4	17	15	0	15	15	2	17	17	1	18	11	4	15
社会文化環境学	24	3	27	17	4	21	11	4	15	15	2	17	11	0	11
国際協力学	13	4	17	10	1	11	10	0	10	11	1	12	8	0	8
サステナビリティ学 グローバルリーダー 養成大学院プログラム	3	0	3	6	1	7	0	0	0	0	0	0	1	0	1
情報生命科学	5	2	7	5	0	5	2	1	3	1	0	1			
計	228	58	286	246	57	303	180	38	218	180	36	216	161	23	184

2) 外国人

東京大学外国人特別奨学制度（東大フェローシップ）

専攻名	平成 23 年度			平成 24 年度			平成 25 年度			平成 26 年度			平成 27 年度		
	専攻名	修士	博士	修士	博士	計									
物質系															1
先端エネルギー工学			1			1									
複雑理工学															
先端生命科学															
メディカルゲノム			1			1			2			3			
メディカル情報生命															5
自然環境学			1			2			2			1			1
海洋技術環境学												1			2
環境システム学			2			2			1			1			
人間環境学		1	1		1	1			1			1			1
社会文化環境学			2			2			2						
国際協力学			2			3			3			2			
サステナビリティ学 グローバルリーダー 養成大学院プログラム															
情報生命科学									1			1			
計	0	1	10	0	1	12	0	0	12	0	0	10	0	0	10

東京大学外国人留学生支援基金

専攻名	平成 23 年度			平成 24 年度			平成 25 年度			平成 26 年度			平成 27 年度		
	研究生	修士	博士												
物質系															
先端エネルギー工学								1							
複雑理工学															
先端生命科学					1										
メディカルゲノム									1						
メディカル情報生命															
自然環境学															
海洋技術環境学						1									
環境システム学															
人間環境学															
社会文化環境学															
国際協力学									1						1
サステナビリティ学 グローバルリーダー 養成大学院プログラム															
情報生命科学															
計	0	0	0	0	1	1	0	2	1	0	0	0	0	0	1

私費外国人留学生学習奨励費

専攻名	平成 23 年度			平成 24 年度			平成 25 年度			平成 26 年度			平成 27 年度		
	研究生	修士	博士												
物質系			2			2									
先端エネルギー工学			1			2									
複雑理工学									1			1			1
先端生命科学		1	1					1							
メディカルゲノム			3			4			3			1			
メディカル情報生命														1	1
自然環境学						2			3						1
海洋技術環境学		1							1						1
環境システム学			1			1			1			1			1
人間環境学			4		1	1					1	2			
社会文化環境学		1	4			4									
国際協力学		1	3		1	1		2	1		1	1			
サステナビリティ学 グローバルリーダー 養成大学院プログラム						1			1			1		2	3
情報生命科学												1			
計	0	4	19	0	2	18	0	3	11	0	2	8	0	3	8

私費外国人民間奨学金

専攻名	平成 23 年度			平成 24 年度			平成 25 年度			平成 26 年度			平成 27 年度		
	研究生	修士	博士												
物質系	1													2	
先端エネルギー工学		1				1		1	1		5	1		2	
複雑理工学		1	1			1									
先端生命科学			1		1			1			1			2	1
メディカルゲノム		6	6	2		5		2	4		1	2			
メディカル情報生命														2	1
自然環境学		1	1			1			1						
海洋技術環境学	1	2	1		1	1		2			1				
環境システム学		1	2												1
人間環境学	1	3	3		1	2			2	1	2	1		1	
社会文化環境学		1	1	1		3			1						
国際協力学					2	1		3	1		2	2		3	2
サステナビリティ学 グローバルリーダー 養成大学院プログラム			1			1		1			1				
情報生命科学		1	1	1		1		1			2	1			
計	3	17	18	4	5	17	0	11	10	1	14	8	0	12	5

国費国内採用

専攻名	平成 23 年度			平成 24 年度			平成 25 年度			平成 26 年度			平成 27 年度		
	博士			博士			博士			博士			博士		
物質系					1						1				
先端エネルギー工学															
複雑理工学															
先端生命科学															
メディカルゲノム								1			1				
メディカル情報生命														1	
自然環境学														1	
海洋技術環境学															
環境システム学															
人間環境学														1	
社会文化環境学															
国際協力学		1												1	
サステナビリティ学 グローバルリーダー 養成大学院プログラム															
情報生命科学															
計		1			1			1			2			4	

(9) 各 賞

1) 研究科長賞 平成 23 年度～ 27 年度

平成 23 年度

課程	専攻	学生氏名	受賞理由	指導教員	
修士	物質系	若村 太郎	学業	教授	大谷 義近
修士	先端エネルギー工学	福成 雅史	学業	教授	小紫 公也
修士	複雑理工学	関口 智樹	学業	教授	岡田 真人
修士	先端生命科学	依田 真一	学業	教授	藤原 晴彦
修士	メディカルゲノム	三浦 恵梨	学業	教授	津本 浩平
修士	自然環境学	氷上 愛	学業	教授	川幡 穂高
修士	海洋技術環境学	藤岡 弘幸	学業	教授	鈴木 英之
修士	環境システム学	高坂 文彦	学業	准教授	大友 順一郎
修士	人間環境学	小川 雄太郎	学業	准教授	小谷 潔
修士	社会文化環境学	帯刀 良之	学業	教授	神田 順
修士	国際協力学	戎 勇樹	学業	教授	堀田 昌英
修士	サステナビリティ教育プログラム	工藤 尚悟	学業	准教授	鎗目 雅
修士	情報生命科学	尾崎 遼	学業	教授	高木 利久
博士	物質系	上村 紘崇	学業	教授	岡本 博
博士	先端エネルギー工学	寺本 慶之	学業	准教授	小野 亮
博士	複雑理工学	川合 豊	学業	准教授	國廣 昇
博士	先端生命科学	吉川 敬一	学業	教授	東原 和成
博士	メディカルゲノム	宮房 孝光	学業	教授	津本 浩平
博士	自然環境学	丹羽 雄一	学業	教授	須貝 俊彦
博士	人間環境学	波田野 明日可	学業	教授	久田 俊明
博士	社会文化環境学	羅 元隆	学業	教授	神田 順
博士	国際協力学	渡邊（前川）美湖	学業	教授	中山 幹康

課程	専攻／団体名	学生氏名／ 代表者氏名	受賞理由	推薦者・職名等
	UT-OAK 震災救援団	国際協力学専攻 日向 淳	地域貢献部門 宮城県南三陸町における 緊急・復興支援活動	【他薦】 山路 永司教授
	We Love Today Pips	社会文化環境学専攻 中村 尚志	国際交流部門 柏キャンパスの国際交流 活発化プロジェクト	【自薦】 ※指導教員 出口 敦教授

平成 24 年度

課程	専攻	学生氏名	受賞理由	指導教員	
修士	物質系	井上 伊知郎	学業	教授	雨宮 慶幸
修士	先端エネルギー工学	前田 健太	学業	教授	堀 洋一
修士	複雑理工学	大野 義典	学業	教授	岡田 真人
修士	先端生命科学	伊藤 晴香	学業	准教授	鈴木 雅京
修士	メディカルゲノム	成瀬 健	学業	教授	泊 幸秀
修士	自然環境学	矢萩 拓也	学業	教授	小島 茂明
修士	海洋技術環境学	中島 拓也	学業	教授	佐藤 徹
修士	環境システム学	小澤 暁人	学業	教授	吉田 好邦
修士	人間環境学	榛葉 健太	学業	教授	神保 泰彦
修士	社会文化環境学	山本 総光	学業	教授	辻 誠一郎
修士	国際協力学	稲垣 翔太	学業	教授	戸堂 康之
修士	サステイナビリティ学 教育プログラム	秋山 勇樹	学業	准教授	鎗目 雅
修士	情報生命科学	松本 拓高	学業	准教授	木立 尚孝
博士	物質系	浅井 華子	学業	教授	柴山 充弘
博士	先端エネルギー工学	川面 洋平	学業	教授	吉田 善章
博士	複雑理工学	瀧山 健	学業	教授	岡田 真人
博士	先端生命科学	小野口 真広	学業	教授	後藤 由季子
博士	メディカルゲノム	佐藤 一樹	学業	准教授	和田 猛
博士	自然環境学	中村 和彦	学業	教授	斎藤 馨
博士	海洋技術環境学	吉田 毅郎	学業	教授	林 昌奎
博士	環境システム学	秋月 信	学業	教授	大島 義人
博士	人間環境学	李 艶栄	学業	准教授	染矢 聡
博士	社会文化環境学	宋 俊煥	学業	教授	出口 敦
博士	国際協力学	長山 大介	学業	教授	堀田 昌英
博士	サステイナビリティ学 教育プログラム	ムティシャ エマニユ エル ムサウ	学業	准教授	鎗目 雅
博士	情報生命科学	芦田 広樹	学業	教授	浅井 潔

課程専	専攻/団体名	学生氏名/ 代表者氏名	受賞理由	推薦者・職名等
修士	先端エネルギー工学 専攻	大嶽 晴佳	地域貢献部門 柏キャンパスの活性化と その魅力を伝える活動	【自薦】※指導教員 武田 展雄教授
	ベトナム紅河デルタ 農民支援活動グルー プ	国際協力学専攻 井上 果子	国際交流部門 ベトナム紅河デルタにおける 農民支援活動	【他薦】山路 永司教授 ※指導教員 山路 永司 教授

平成 25 年度

課程	専攻	学生氏名	受賞理由	指導教員	
修士	物質系	川原 一晃	学業	教授 准教授	川合 眞紀 高木 紀明
修士	先端エネルギー工学	兼松 正人	学業	教授	堀 洋一
修士	複雑理工学	山川 高志	学業	准教授	國廣 昇
修士	先端生命科学	酒井 弘貴	学業	准教授 教授	鈴木 雅京 青木 不学
修士	メディカルゲノム	関口 仁貴	学業	准教授	田中 稔
修士	自然環境学	廣瀬 公子	学業	教授	小島 茂明
修士	海洋技術環境学	石原 哲也	学業	教授	飯笹 幸吉
修士	環境システム学	庄野 洋平	学業	准教授	大友 順一郎
修士	人間環境学	磯村 拓哉	学業	教授	神保 泰彦
修士	社会文化環境学	垣内 彰悟	学業	教授	辻 誠一郎
修士	国際協力学	幾瀬 真希	学業	教授	堀田 昌英
修士	サステナビリティ学 教育プログラム	カールソン ブロル マーティン	学業	准教授	鎗目 雅
修士	情報生命科学	小松 慶太	学業	教授	黒田 真也
博士	物質系	井土 宏	学業	教授	大谷 義近
博士	先端エネルギー工学	小室 淳史	学業	准教授	小野 亮
博士	複雑理工学	山田 翔太	学業	准教授	國廣 昇
博士	先端生命科学	井元 祐太	学業	教授	河野 重行
博士	メディカルゲノム	尾勝 圭	学業	教授	田中 啓二
博士	自然環境学	荒岡 大輔	学業	教授	川幡 穂高
博士	海洋技術環境学	小平 翼	学業	准教授	早稲田 卓爾
博士	人間環境学	山口 郁博	学業	准教授	小谷 潔
博士	社会文化環境学	岩佐 礼子	学業	教授	鬼頭 秀一
博士	国際協力学	高橋 遼	学業	教授	戸堂 康之
博士	サステナビリティ学 教育プログラム	トレンチャー グレゴ リー パトリック	学業	准教授	鎗目 雅
博士	情報生命科学	若井 信彦	学業	准教授	北尾 彰朗

課程	専攻／団体名	学生氏名／ 代表者氏名	受賞理由	推薦者・職名等
	おいしい三陸応援団	サステナビリティ学 教育プログラム 永井 宏樹	地域貢献部門 情報発信による岩手県沿岸部 の東日本大震災被災事業者の 復興への断続的な貢献	【他薦】木村 伸吾教授 ※指導教員小貴 元治准 教授
	7th Asian Young Researchers Conference on Computational and Omics Biology (AYRCOB) 組織委員会	情報生命科学専攻 深沢 嘉紀	国際交流部門 バイオインフォマティクス, オーミクス生物学, システム生 物学を研究するアジアの学生・ 若手研究者を対象とした国際会 議 (AYRCOB) の開催	【他薦】岩崎 涉講師 ※指導教員 ポール ホートン客員准教 授

平成 26 年度

課程	専攻	学生氏名	受賞理由	指導教員	
修士	物質系	佐藤 直大	学業	教授	木村 薫
修士	先端エネルギー工学	大西 亘	学業	准教授	藤本 博志
修士	複雑理工学	竹中 光	学業	教授	岡田 真人
修士	先端生命科学	信田 真由美	学業	教授 准教授	藤原 晴彦 小嶋 徹也
修士	メディカルゲノム	坂下 卓矢	学業	教授	藤田 直也
修士	自然環境学	岡本 暁	学業	教授	鎌迫 典久
修士	海洋技術環境学	藤本 航	学業	准教授	早稻田 卓爾
修士	環境システム学	岩永 愛季	学業	准教授	大友 順一郎
修士	人間環境学	吉永 祐貴	学業	准教授	党 超鋌
修士	社会文化環境学	西村 裕喜子	学業	准教授	佐久間 哲哉
修士	国際協力学	李 根雨	学業	講師	鈴木 綾
修士	サステイナビリティ学 教育プログラム	徐 露怡	学業	教授	横張 真
修士	情報生命科学	鈴木 裕太	学業	教授	森下 真一
博士	物質系	若村 太郎	学業	教授	大谷 義近
博士	先端エネルギー工学	魏 啓為	学業	教授	小野 靖
博士	複雑理工学	山口 隆史	学業	教授	高瀬 雄一
博士	先端生命科学	蔦谷 匠	学業	教授	米田 穰
博士	メディカルゲノム	鈴木 絢子	学業	教授	菅野 純夫
博士	自然環境学	宮本 裕美子	学業	准教授	奈良 一秀
博士	環境システム学	後藤 宏樹	学業	教授	徳永 朋祥
博士	社会文化環境学	陸 恣	学業	教授	有川 正俊
博士	国際協力学	マエムラ ユウ オリバー	学業	教授	堀田 昌英
博士	サステイナビリティ学 教育プログラム	工藤 尚悟	学業	教授	長尾 眞文
博士	情報生命科学	尾崎 遼	学業	教授	高木 利久

課程	専攻／団体名	学生氏名／ 代表者氏名	受賞理由	推薦者・職名等
博士	複雑理工学専攻	羽村 太雅	地域貢献部門 東葛地域における 科学コミュニケーション活動	【他薦】小紫 公也教授 ※指導教員 杉田精司教授
博士	自然環境学専攻	新保 奈穂美	国際交流部門 新領域創成科学研究科所属学 生等に対する留学推進活動 および本学内外における国際 交流の促進活動	【他薦】松岡 万里助教 ※指導教員 斎藤 馨教授

平成 27 年度

課程	専攻	学生氏名	受賞理由	指導教員	
修士	物質系	前澤 俊哉	学業	教授	末元 徹
修士	先端エネルギー工学	中井 颯馬	学業	教授	小野 靖
修士	複雑理工学	増田 祐一	学業	教授	篠田 裕之
修士	先端生命科学	高橋 宏幸	学業	准教授 教授	鈴木 匡 宇垣 正志
修士	メディカル情報生命	甕 湧一	学業	教授	森下 真一
修士	自然環境学	塩見 直希	学業	准教授	奈良 一秀
修士	海洋技術環境学	志賀 俊成	学業	教授	鈴木 英之
修士	環境システム学	小城 元	学業	准教授	大友 順一郎
修士	人間環境学	藤森 千晴	学業	客員准教授	染矢 聡
修士	社会文化環境学	竹村 由紀	学業	准教授	清家 剛
修士	国際協力学	安藤 早紀	学業	准教授	坂本 麻衣子
修士	サステイナビリティ学 グローバルリーダー養成 大学院プログラム	鈴木 駿	学業	客員教授	田崎 智宏
博士	物質系	野村 肇宏	学業	准教授	松田 康弘
博士	先端エネルギー工学	東郷 訓	学業	教授	小川 雄一
博士	複雑理工学	中西（大野） 義典	学業	教授	岡田 真人
博士	先端生命科学	佐藤 陽一	学業	教授	河野 重行
博士	メディカル情報生命	藤川 大	学業	教授	渡邊 俊樹
博士	自然環境学	松神 秀徳	学業	客員教授	鑪迫 典久
博士	環境システム学	小澤 暁人	学業	教授	吉田 好邦
博士	社会文化環境学	笹尾 知世	学業	准教授	木實 新一
博士	国際協力学	李 艾桐	学業	准教授	坂本 麻衣子
博士	サステイナビリティ学 グローバルリーダー養成 大学院プログラム	チュウ ユ ティング ジョアン	学業	教授	横張 真

課程	専攻／団体名	学生氏名／ 代表者氏名	受賞理由	推薦者・職名等
修士	サステイナビリティ学 グローバルリーダー養成 大学院プログラム	趙 思嘉	地域貢献部門 柏の葉キャンパス駅周辺地区 案内ツアーガイド	【他薦】松岡 万里助教 ※指導教員 堀田 昌英 教授

2) 教職員学生各賞 平成 23 年度～ 27 年度

平成 22 年度

No	専攻名	授与団体名	賞の名称	受賞者	受賞年月	備考
1	物質系	文部科学省	文部科学大臣表彰科学技術分野 研究部門	高木英典 (教授)	平成22年4月	
2	物質系	Association for Iron and Steel Technology	AIST Hunt-Kelly Outstanding Paper Award	Hiroyuki Matsuura (Assistant Professor)	平成22年5月	
3	物質系	日本熱電学会	第 7 回日本熱電学会学術講演会・講演奨励賞	松林佑華 (M2)	平成22年8月	
4	物質系	International Workshop on Nitride Semiconductors (IWN 2010)	Poster Award	K. Nakamura (M2), T. Ishida (M1), M. Kakuda (D1), S. Kuboya (Assistant Professor) and K. Onabe (Professor)	平成22年9月	
5	物質系	応用物理学会	第 29 回応用物理学会・講演 奨励賞	矢嶋赳彬 (D2)、佐藤弘樹 (M2)、疋田育之 (助教)、ベル・クリストファー (特任助教)、ファン・ハロルド (教授)	平成22年11月	
6	物質系	応用物理学会	第 29 回応用物理学会・講演 奨励賞	宮副裕之 (博士研究員)	平成22年12月	
7	物質系	The Materials Research Society	Poster Award of the MRS Fall Meeting 2010 Symposium CC	Atsuro Sumiyoshi (D1)	平成22年12月	
8	物質系	American Physical Society	2010 APS Fellow	Hidenori Takagi (Professor)	平成23年3月	
9	物質系	American Physical Society	2010 APS Fellow	Maki Kawai (Professor)	平成23年3月	
10	先端エネルギー工学	日本機械学会	2009 年度日本機械学会賞 (論文)	武田展雄 (教授)、他 2 名	平成22年4月	
11	先端エネルギー工学	電気設備学会	星野賞	大崎博之 (教授)	平成22年6月	
12	先端エネルギー工学	電気学会	産業応用部門活動功労賞	大崎博之 (教授)	平成22年8月	
13	先端エネルギー工学	計測自動制御学会	2010 年度著述賞	藤本博志 (准教授)	平成22年9月	
14	先端エネルギー工学	電気学会	電力エネルギー部門誌優秀論文賞	横山明彦 (教授) (他 2 名)	平成22年9月	
15	先端エネルギー工学	経済産業省	工業標準化事業表彰 経済産業大臣賞	大崎博之 (教授)	平成22年10月	
16	先端エネルギー工学	プラズマ核融合学会	第 15 回技術進歩賞	吉田善章 (教授)、小川雄一 (教授)、森川惇二 (助教)、齋藤晴彦 (助教)、矢野善久 (特任研究員) (他 2 名)	平成22年11月	
17	先端エネルギー工学	電気学会	産業応用部門優秀論文発表賞	ベー テック チュアン (M2)	平成23年1月	
18	先端エネルギー工学	日本航空宇宙学会	第 54 回宇宙科学技術連合講演会若手奨励賞 (優秀論文)	本間直彦 (D1)	平成23年2月 (受賞通知日)	
19	先端エネルギー工学	自動車技術会	大学院研究奨励賞	加藤昌樹 (D1)	平成23年3月	
20	先端エネルギー工学	日本航空宇宙学会	第 51 回航空原動機宇宙推進講演会 学生優秀講演賞	王 宝潼 (D3)	平成23年3月	
21	先端エネルギー工学	電気学会	優秀論文発表賞 (基礎・材料・共通部門表彰)	宮副照久 (D3)	平成23年3月	
22	先端エネルギー工学	電気学会	平成 22 年度電気学術奨励賞	岡裕貴 (M1)	平成23年3月	
23	先端エネルギー工学	IEEE of Japan	Isao Takahashi Power Electronics Award, 2010	H. Fujimoto (Associate Professor)	平成22年6月	
24	先端エネルギー工学	Structural Health Monitoring: An International Journal	2010 Person of the Year	Nobuo Takeda (Professor)	平成22年7月	

No	専攻名	授与団体名	賞の名称	受賞者	受賞年月	備考
25	先端エネルギー工学	日本航空宇宙学会	第52回構造強度に関する講演会 若手奨励賞最優秀賞	水口周 (助教)	平成22年7月	
26	先端エネルギー工学	CIGRE	Technical Committee Award	Masahiro Takasaki (Professor、連携講座)	平成22年10月	
27	先端エネルギー工学	電気学会	産業計測制御技術委員会優秀論文発表賞	遠藤弘之 (M2 特別研究学生)	平成22年12月	
28	先端エネルギー工学	電気学会	産業応用部門優秀論文発表賞	遠藤弘之 (M2 特別研究学生)	平成23年1月	
29	先端エネルギー工学	計測自動制御学会	学術奨励賞技術奨励賞	坂田晃一 (D3 特別研究学生)	平成23年2月	
30	先端エネルギー工学	計測自動制御学会	制御部門研究奨励賞	坂田晃一 (D3 特別研究学生)	平成23年3月	
31	先端エネルギー工学	日本物理学会	第5回日本物理学会若手奨励賞	山田琢磨 (助教)	平成23年3月	
32	複雑理工学	情報処理学会	数理モデル化と問題解決研究会 プレゼンテーション賞	飯田宗徳 (D2)	平成22年4月	
33	複雑理工学	情報処理学会	数理モデル化と問題解決研究会 プレゼンテーション賞	清水裕一郎 (M2)	平成22年4月	
34	複雑理工学	電子情報通信学会	論文賞	山本博資 (教授) (他1名)	平成22年5月	
35	複雑理工学	電子情報通信学会	論文賞	國廣昇 (准教授) (他3名)	平成22年5月	
36	複雑理工学	画像電子学会	画像電子学会論文賞	西田友是 (教授) (他2名)	平成22年6月	
37	複雑理工学	日本生体磁気学会	生体磁気学会学会柏賞	宇野裕 (D3)	平成22年7月	2010/7/29,30
38	複雑理工学	日本惑星科学会	日本惑星科学会最優秀研究者賞	関根康人 (助教)	平成22年10月	
39	複雑理工学	IEEE (Institute of Electrical and Electronic Engineers)	Fellow	Hirosuke Yamamoto (Professor)	平成23年1月	
40	複雑理工学	日本視覚学会 2011年冬季大会	ベストプレゼンテーション賞	米家惇 (M1)、天野薫 (助教)、武田常広 (教授)	平成23年1月	2011/1/19-21
41	複雑理工学	NICOGRAPH (芸術科学会)	CG国際大賞優秀賞	楽詠コウ (助教)、西田友是 (教授) (他3名)	平成23年3月	国内学会
42	先端生命科学専攻	日本蚕糸学会	蚕糸学会賞	藤原晴彦 (教授)	平成22年4月	
43	先端生命科学専攻	第11回 Pharmaco-Hematology シンポジウム実行委員	優秀発表賞	赤塚宣明 (D4)	平成22年6月	
44	メディカルゲノム	東京大学医科学研究所	平成22年度医科学研究所発表会・最優秀ポスター賞	福田剛 (D3)	平成22年6月	
45	メディカルゲノム	ロレアル財団	ロレアル・ユネスコ女性科学者日本奨励賞 - 生命科学分野	依田真由子 (D1)	平成22年8月	
46	メディカルゲノム	6th International Conference on High Pressure Bioscience and Biotechnology	Best poster award	塚本雅之 (D3)	平成22年8月	
47	メディカルゲノム	アンチセンスDNA/RNA 研究会	第20回アンチセンスシンポジウム 学生講演賞 (川原賞)	新井浩一郎 (M2)	平成22年12月	
48	メディカルゲノム	文部科学省科研費 学術領域研究 個体レベル研究のワークショップ	優秀ポスター賞	西田知恵美 (D3)	平成23年2月	
49	メディカルゲノム	第一三共生命科学 研究振興財団	高峰記念第一三共賞	河岡義裕 (教授、協力講座)	平成23年2月	

No	専攻名	授与団体名	賞の名称	受賞者	受賞年月	備考
50	メディカルゲノム	日本再生医療学会	ヤングインベスティゲーター賞 基礎研究部門最優秀賞	鈴木奈穂 (D3)	平成23年3月	
51	メディカルゲノム	内藤記念財団	内藤記念科学振興賞	河岡義裕 (教授、協力講座)	平成23年3月	
52	メディカルゲノム	新領域創成科学研究科	研究科長賞	松田有加 (M2)	平成23年3月	
53	メディカルゲノム	東京大学医科学研究所	東京大学医科学研究所学生最優秀論文賞	古田芳一 (D3)	平成23年3月	
54	メディカルゲノム	文部科学省	平成22年度文部科学大臣表彰 科学技術賞 (研究部門)	富田耕造 (准教授) (連携)	平成22年4月	
55	メディカルゲノム	日本学士院	2010年度「日本学士院賞」	田中啓二 (教授) (連携)	平成22年6月	
56	自然環境学	農村計画学会	農村計画学会2010年度春季大会ポスター優秀賞	渡部陽介 (D3)	平成22年4月	
57	自然環境学	農村計画学会	農村計画学会2010年度春季大会ポスター優秀賞	古木治郎 (M2)	平成22年4月	2009年度修士課程修了
58	自然環境学	日本科学協会	平成21年度笹川科学研究奨励賞	南雲直子 (D3)	平成22年4月	
59	自然環境学	北太平洋海洋科学機構 (PICES) 他	シンポジウム: 「Climate Change Effects on Fish and Fisheries」 ベストポスター賞	Felipe Hurtado-Ferro (D1)	平成22年4月	
60	自然環境学	日本造園学会	平成21年度日本造園学会賞奨励賞 (研究論文部門)	寺田徹 (D3)	平成22年5月	
61	自然環境学	総務省	平成22年度関東総合通信局長表彰	斎藤馨 (准教授)	平成22年6月	
62	自然環境学	日本第四紀学会	2010年度日本第四紀学会奨励賞	丹羽雄一 (M2)	平成22年6月	
63	自然環境学	日本地球化学会	第57回日本地球化学会若手発表賞	吉村寿紘 (D1)	平成22年9月	
64	自然環境学	日本陸水学会	日本陸水学会第75回大会優秀ポスター賞	虻川和紀 (M2)	平成22年9月	
65	自然環境学	日仏海洋学会	第42回日仏海洋学会賞	小松輝久 (准教授、協力講座)	平成22年10月	
66	自然環境学	農学会	平成22年度 (第9回) 日本農学進歩賞	北川貴士 (助教)	平成22年11月	
67	自然環境学	環境情報科学センター	第24回環境研究発表会優秀ポスター賞	星子茉莉 (M1)	平成22年12月	
68	自然環境学	日本生態学会	第58回日本生態学会大会優秀ポスター賞 (群落分野)	稲岡哲郎 (M2)	平成23年3月	
69	自然環境学	水産海洋学会	水産海洋学会第16回宇田賞	木村伸吾 (教授)	平成23年3月	
70	海洋技術環境学	日本船舶海洋工学会	日本船舶海洋工学会賞 (著書部門) 受賞	鈴木英之 (教授)、高川真一 (特任教授) 他 11名	平成22年5月	“海洋底掘削の基礎と応用” 日本船舶海洋工学会海中技術研究委員会編、成山堂、2010 共著
71	海洋技術環境学	Organizing Committee of RENEWABLE ENERGY 2010	Best Poster Award	Ken Takagi (Professor) 他 1名	平成22年7月	
72	海洋技術環境学	日本沿岸域学会	研究討論会優秀講演賞	久松力人 (M)	平成22年7月	
73	海洋技術環境学	日本海運集会所	住田正一海事技術奨励賞受賞	鈴木英之 (教授)、高川真一 (特任教授) 他 11名	平成22年10月	“海洋底掘削の基礎と応用” 日本船舶海洋工学会海中技術研究委員会編、成山堂、2010 共著

No	専攻名	授与団体名	賞の名称	受賞者	受賞年月	備考
74	海洋技術環境学	IEEE Oceanic Engineering Society	2010 IEEE Oceanic Engineering Society Distinguished Technical Achievement Award	浦環 (教授)	平成22年9月	(生産技術研究所)
75	環境システム学	燃料電池開発情報センター	第17回燃料電池シンポジウム ポスター賞	嶋田五百里 (D1)	平成22年5月	
76	環境システム学	日本ウォータージェット学会	奨励賞	ウスマン プリアント (M2)	平成22年5月	
77	環境システム学	日本地下水学会	平成21年度秋季大会若手優秀講演者賞	橋口祥治 (M2)	平成22年5月	
78	環境システム学	日本環境化学会	環境化学学術賞	吉永淳 (准教授)	平成22年6月	
79	環境システム学	日本沿岸域学会	研究討論会優秀講演賞	須藤隆行 (M2)	平成22年7月	
80	環境システム学	化学工学会超臨界流体部会	化学工学会第42回秋季大会・超臨界流体部会シンポジウム 学生賞	秋月信 (D1)	平成22年9月	
81	環境システム学	大気環境学会	論文賞 (技術調査報告)	柳沢幸雄 (教授) (他名)	平成22年9月	
82	環境システム学	日本地下水学会	日本地下水学会若手優秀講演賞	後藤宏樹 (M1)	平成22年11月	
83	人間環境学	人工知能学会	研究会優秀賞	大和裕幸 (教授)、柳澤龍 (M1)、稗方和夫 (准教授)、坪内孝太 (特任研究員)、飯坂祐司 (M2) 他1名	平成22年6月	
84	人間環境学	19th International Conference of the Cardiovascular System Dynamics Society	Young Investigator's Award	Asuka Hatano (D2)	平成22年9月	
85	人間環境学	情報化月間推進会議	平成22年度情報化月間 国土交通大臣表彰 情報化推進部門	大和裕幸 (教授)	平成22年10月	
86	人間環境学	ITS World Congress	Outstanding Paper Award	Kota Tsubouchi (Dr.)	平成22年10月	
87	人間環境学	ITS Japan	ITS シンポジウム 2010 ベストポスター賞	坪内孝太 (特任研究員)	平成22年12月	
88	人間環境学	International Business Machines Corporation	IBM Faculty Awards	Hiroyuki Yamato (Professor)	平成23年2月	
89	人間環境学	三重県玉城町長	感謝状 (「安心・元気な町づくり事業」への貢献)	大和裕幸 (教授)、飯坂祐司 (M2)	平成23年3月	
90	社会文化環境学	都市住宅学会	都市住宅学会賞・論文賞	浅見泰司 (教授)	平成22年5月	

平成 23 年度

No	専攻名	授与団体名	賞の名称	受賞者	受賞年月日	備考
1	物質系	the IXth European Symposium of The Protein Society	Best Poster Award	Yuji C.SASAKI (Professor)	平成23年5月	
2	物質系	日本熱電学会	第 5 回欧論文賞	高際良樹 (助教)、木村薫 (教授)、他 2 名	平成23年8月	
3	物質系	日本熱電学会	第 8 回学術講演会・講演奨励賞	高際良樹 (助教)	平成23年8月	
4	物質系	応用物理学会	講演奨励賞	星指健太郎 (M2)	平成23年9月	
5	物質系	高分子学会	高分子学会 Wiley 賞	横山英明 (准教授)	平成23年9月	
6	物質系	日本放射光学会	学生発表賞	星指健太郎 (M2)	平成24年1月	
7	物質系	日本放射光学会	学生発表賞	鈴木祥仁 (M2)	平成24年1月	
8	物質系	日本物理学会	第 17 回論文賞	有馬孝尚 (教授)	平成24年3月	
9	先端エネルギー工学	日本航空宇宙学会	技術賞	藤田和央 (准教授、連携講座)	平成23年4月	
10	先端エネルギー工学	未踏科学技術協会	第 15 回超伝導科学技術賞	吉田善章 (教授)、小川雄一 (教授)、森川惇二 (助教) (他 4 名)	平成23年7月	
11	先端エネルギー工学	Institute of Applied Plasma Sciences	International Symposium on Applied Plasma Science 2011 Poster Award	Masafumi FUKUNARI (M2)	平成23年9月	
12	先端エネルギー工学	プラズマ・核融合学会他	Plasma Conference 2011 若手優秀発表賞	山口敏和 (D2)	平成23年11月	
13	先端エネルギー工学	日本マイクログラフィティ応用学会	第 25 回日本マイクログラフィティ応用学会学術講演会毛利ポスターセッション優秀賞	吉田昌史 (M2)	平成23年11月	
14	先端エネルギー工学	電気学会	電気学会産業計測制御技術委員会優秀論文発表賞受賞	前田健太 (M1)	平成24年1月	
15	先端エネルギー工学	自動車技術会	2011 年度自動車技術会大学院研究奨励賞	馬徳川 (M2)	平成24年3月	
16	先端エネルギー工学	自動車技術会	2011 年度自動車技術会大学院研究奨励賞	角谷勇人 (M2 特別研究学生)	平成24年3月	
17	先端エネルギー工学	日本機械学会	日本機械学会交通・物流部門大会優秀論文講演表彰	前田健太 (M1)	平成24年3月	
18	先端エネルギー工学	レーザー学会	第 12 回レーザー学会東京支部研究会 ポスター講演特別賞	嶋村耕平 (D1)	平成24年3月	
19	先端エネルギー工学	日本材料学会, 日本複合材料学会	第 3 回日本複合材料合同会議優秀講演賞	灘部岳晃 (D3)	平成24年3月	
20	先端エネルギー工学	レーザー学会	業績賞 (論文賞)	根本孝七 (教授、連携講座) (他 14 名)	平成23年5月	
21	先端エネルギー工学	日本航空宇宙学会	技術賞	吉田憲司 (教授、連携講座) (他 4 名)	平成23年4月	
22	先端エネルギー工学	IEEE	IMWS-IWPT2011 Best Paper Award Bronze	T. Yamaguchi (D2) K.Komurasaki (Professor) (他 5 名)	平成23年5月	
23	先端エネルギー工学	電気学会	業績賞	堀洋一 (教授)	平成23年5月	
24	複雑理工学	SCCG (Spring Conference on Computer Graphics) 2011	Best Paper Award (1 位)	Tomoyuki Nishita (Professor) (他 2 名)	平成23年4月	
25	複雑理工学	応用物理学会	第 9 回 APEX/JJAP 編集貢献賞	斉木幸一朗 (教授)	平成23年4月	
26	複雑理工学	The Japanese Society for Motor Control	第 5 回 Motor Control 研究会優秀発表賞	瀧山健 (D2)	平成23年6月	
27	複雑理工学	画像電子学会	フェロー	西田友是 (教授)	平成23年6月	
28	複雑理工学	情報処理学会 GCAD 研究会	GCAD 賞	楽詠瀬 (助教)	平成23年6月	
29	複雑理工学	人工知能学会	第 25 回人工知能学会全国大会 (JSAI2011) 優秀賞 (口頭発表部門)	寺島裕貴 (D1)	平成23年7月	

No	専攻名	授与団体名	賞の名称	受賞者	受賞年月日	備考
30	複雑理工学	IWSEC2011	Best Poster Awards	Noboru Kunihiro (Associate Professor), 他 1 名	平成23年11月	
31	複雑理工学	IWSEC2011	Best Poster Awards	Yutaka Kawai (D3)	平成23年11月	
32	複雑理工学	電子情報通信学会 情報論的学習理論と機械学習研究会 (IBISML)	情報論的学習理論ワークショップ (IBIS2011) ポスター奨励賞	永田賢二 (特任助教)	平成23年11月	
33	複雑理工学	The Fourth International Conference on Motion in Games	Best Paper Award	Witawat Rungjiratananon (D3), Tomoyuki Nishita (Professor), 他 4 名	平成23年11月	
34	複雑理工学	情報理論とその応用学会	2010 年 SITA 奨励賞	本多淳也 (D2)	平成23年12月	
35	複雑理工学	日本神経回路学会	日本神経回路学会第 21 回全国大会 (JNS2011) 大会奨励賞	寺島裕貴 (D1)	平成23年12月	
36	複雑理工学	映像情報メディア学会	優秀研究発表賞	楽詠瀬 (助教)	平成23年12月	
37	複雑理工学	電子情報通信学会 情報セキュリティ研究専門委員会	電子情報通信学会情報セキュリティ研究専門委員会	川合豊 (D3)	平成24年1月	
38	複雑理工学	情報処理学会	第 74 回全国大会 学生奨励賞	仲田将之 (M1)	平成24年3月	
39	複雑理工学	日本セキュリティ・マネジメント学会, 情報セキュリティ大学院大学	辻井重男セキュリティ学生論文賞	川合豊 (D3)	平成24年3月	
40	複雑理工学	情報処理学会	山下記念研究賞	楽詠瀬 (助教)	平成24年3月	
41	複雑理工学	IEEE Computational Intelligence Society Japan Chapter	2011 年度 IEEE CIS Japan Chapter Young Researcher Award	永田賢二 (特任助教)	平成24年3月	
42	複雑理工学	IEEE Computational Intelligence Society Japan Chapter	2011 年度 IEEE CIS Japan Chapter Young Researcher Award	大坪洋介 (D1)	平成24年3月	
43	先端生命科学	日本植物形態学会	平瀬賞	河野重行 (教授) (他 10 名)	平成23年9月	
44	メディカルゲノム	文部科学省	平成 23 年度科学技術分野 文部科学大臣表彰 若手科学者賞	深井周也 (准教授、協力講座)	平成23年4月	
45	メディカルゲノム	文部科学省	平成 23 年度科学技術分野 文部科学大臣表彰 科学技術賞 (研究部門)	若槻壮市 (教授、連携講座)	平成23年4月	
46	メディカルゲノム	日本内分泌学会	日本内分泌学会マイスター賞受賞 (2011 年度)	田中啓二 (教授、連携講座)	平成23年4月	
47	メディカルゲノム	東京大学医科学研究所	平成 23 年度医科学研究所発表会・優秀ポスター賞	柴寄孝幸 (D2)	平成23年6月	
48	メディカルゲノム	東京大学医科学研究所	平成 23 年度医科学研究所発表会・優秀ポスター賞	清水崇史 (D3)	平成23年6月	
49	メディカルゲノム	東京大学生命科学ネットワーク	第 11 回東京大学生命科学シンポジウムポスター賞	深谷雄志 (D1)	平成23年6月	
50	メディカルゲノム	東京大学生命科学ネットワーク	第 11 回東京大学生命科学シンポジウムポスター賞	五来武郎 (D2)	平成23年6月	
51	メディカルゲノム	Keystone Symposia on Molecular and Cellular Biology	Keystone Symposia Future of Science Fund Scholarship	Juan Guillermo Betancur (D1)	平成24年2月	
52	メディカルゲノム	日本化学会	日本化学会第 92 春季年会学生講演賞	岩田倫太郎 (D3)	平成24年3月	
53	メディカルゲノム	東京大学分子細胞生物学研究所	2011 年度分生研発表会 優秀賞	Pieter Bas Kwak (D3)	平成23年11月	

No	専攻名	授与団体名	賞の名称	受賞者	受賞年月日	備考
54	メディカルゲノム	The 38th International Symposium on Nucleic Acid Chemistry Organizing Committee	The 38th International Symposium on Nucleic Acid Chemistry Poster Award	Yohei Nukaga (D2)	平成23年11月	
55	自然環境学	日本造園学会	平成22年度日本造園学会奨励賞(研究論文部門)	武正憲 (D3)	平成23年5月	
56	自然環境学	日本造園学会	平成22年度日本造園学会奨励賞(研究論文部門)	中村和彦 (D3)	平成23年5月	
57	自然環境学	日本地球惑星科学連合	2011年大会地球生命科学セクション学生優秀発表賞	吉村寿紘 (D2)	平成23年5月	
58	自然環境学	日本気象学会	JMSJ award	今須良一(准教授)(共著者として。主著を含め他3名)	平成23年11月	
59	自然環境学	日本森林学会	日本森林学会賞	奈良一秀(准教授)	平成24年3月	
60	自然環境学	日本水産学会	平成23年度日本水産学会論文賞	北川貴士(助教)・木村伸吾(教授)	平成24年3月	
61	海洋技術環境学	IWMO Scientific Committee	Outstanding Young Scientist Awards 1st place	Tsubasa Kodaida (D1)	平成23年6月	
62	海洋技術環境学	IWMO Scientific Committee	Outstanding Young Scientist Award 2nd place	Ryota Wada (D1)	平成23年6月	
63	海洋技術環境学	MTS/IEEE	Student Poster Program 2nd Place Awards	Takumi Matsuda (M2)	平成23年9月	
64	海洋技術環境学	日本船舶海洋工学会	ポスターセッション優秀賞	吉田毅郎 (D2)、今泉大智 (M1)	平成23年11月	
65	海洋技術環境学	The American Bureau of Shipping	ABS 賞	横山立樹 (M2)	平成24年3月	
66	環境システム学専攻	資源素材学会	論文賞	乾正幸 (D3)	平成24年3月	
67	環境システム学専攻	日本地下水学会	日本地下水学会若手優秀講演賞	愛知正温(特任研究員)	平成23年5月	
68	人間環境学	日本生体医工学会	阪本賞(論文賞)	杉浦清了(特任教授)、久田俊明(教授)他4名	平成23年4月	
69	人間環境学	日本ライフサポート学会	若手プレゼンテーション賞	村松大陸 (M1)	平成23年11月	
70	人間環境学	日本電子材料技術協会	優秀賞	太田賀奈子 (M1)	平成23年11月	
71	人間環境学	日本電子材料技術協会	優秀賞	横内友理子 (M1)	平成23年11月	
72	人間環境学	日本船舶海洋工学会東部支部	若手優秀講演賞	木村彰吾 (M1)	平成23年11月	
73	人間環境学	心筋代謝研究会	Young Investigator's Award	波田野明日可 (D3)	平成23年7月	
74	人間環境学	日本船舶海洋工学会東部支部	ポスターセッション最優秀賞	曹樺楠 (M1)	平成23年11月	
75	社会文化環境学	日本不動産学会	平成22年度日本不動産学会論文賞(共同受賞)	浅見泰司(教授)、他1名	平成23年5月	
76	社会文化環境学	日本建築学会	2011年日本建築学会賞(作品)	大野秀敏(教授)	平成23年5月	
77	国際協力学	International Society of Paddy and Water Environment Engineering (PAWEES)	Paper Award 2011	Chapagain T (D3), 山路永司(教授)	平成23年10月	対象論文名: Chapagain T, Yamaji E. 2010. The effects of irrigation method, age of seedling and spacing on crop performance, productivity and water-wise rice production in Japan. Paddy Water Environ, 8 (1): 81-90.
78	情報生命科学	Cold Spring Harbor Asia	Best Poster Award at 1st Conference on Bioinformatics of Human and Animal Genomics Junko Tsuji (D2)	平成23年11月		

平成 24 年度

No	専攻名	授与団体名	賞の名称	受賞者	受賞年月	備考
1	物質系	東京応化科学技術振興財団	第 23 回 向井賞	川合真紀 (教授)	平成24年6月	
2	物質系	日本放射光学会	JSR13 学生賞	徳江真紀 (M2)	平成25年1月	
3	物質系	日本物理学会	日本物理学会若手奨励賞	貴田徳明 (准教授)	平成25年3月	
4	先端エネルギー工学	プラズマ核融合学会	第 29 回若手年会発表賞	魏啓為 (D1)	平成24年11月	
5	先端エネルギー工学	電気学会	電気学会産業応用部門部門優秀論文発表賞	前田健太 (M2)	平成24年6月	
6	先端エネルギー工学	The38th Annual Conference of the IEEE Industrial Electronics Society	Best Oral Presentation Award	天田順也 (M2)	平成24年10月	
7	先端エネルギー工学	電気学会	電気学会産業計測制御技術委員会優秀論文賞	青木元伸 (M2)	平成25年1月	
8	先端エネルギー工学	一般財団法人エヌエフ基金	2012 年度研究開発奨励賞優秀賞	居村岳広 (助教)	平成25年1月	
9	先端エネルギー工学	自動車技術会	自動車技術会 大学院研究奨励賞	前田健太 (M2)	平成25年3月	
10	先端エネルギー工学	日本航空宇宙学会	第 53 回航空原動機宇宙推進講演会 学生優秀講演賞	大楽到 (M2)	平成25年3月	
11	先端エネルギー工学	東京大学 大学院新領域創成科学研究科	新領域創成科学研究科長賞	前田健太 (M2)	平成25年3月	
12	先端エネルギー工学	東京大学 大学院新領域創成科学研究科 先端エネルギー工学専攻	先端エネルギー工学優秀賞	前田健太 (M2)	平成25年3月	
13	先端エネルギー工学	電気学会	電気学会産業応用部門研究会論文発表賞	青木元伸 (M2)	平成25年3月	
14	先端エネルギー工学	日本航空宇宙学会	宇宙科学技術連合講演会優秀発表賞	栗田哲志 (M1)	平成24年11月	
15	複雑理工学	The Japanese Society for Motor Control	第 6 回 Motor Control 研究会優秀発表賞	瀧山健 (D3)	平成24年6月	
16	複雑理工学	IWSEC2012	IWSEC2012 Best Poster Awards	山川高志 (M1)、山田翔太 (D2)、國廣昇 (准教授) (他 1 名)	平成24年11月	
17	複雑理工学	The IEEE Tokyo Gold Affinity Group	The 4th Career Development Essay Contest for Young Professionals and Women Engineers, 1st Prize	大坪洋介 (D2)	平成24年11月	
18	複雑理工学	地球化学研究協会	地球化学研究協会奨励賞	関根康人 (講師)	平成24年12月	
19	複雑理工学	日本セキュリティ・マネジメント学会、情報セキュリティ大学院大学	辻井重男セキュリティ学生論文賞	山田翔太 (D2)	平成25年3月	
20	複雑理工学	IEEE Computational Intelligence Society Japan Chapter	IEEE Computational Intelligence Society Japan Chapter Young Researcher Award	徳田悟 (M1)	平成25年3月	
21	先端生命科学	日本植物病理学会	学生優秀発表賞	早川豪人 (D3)	平成24年5月	
22	先端生命科学	日本畜産学会	優秀発表賞	金綾奈 (M2)	平成25年3月	
23	メディカルゲノム	東京大学医科学研究所	平成23年度学生最優秀論文賞	五来武郎 (D2)	平成24年4月	
24	メディカルゲノム	東京大学医科学研究所	平成23年度学生優秀論文賞	福世真樹 (D3)	平成24年4月	
25	メディカルゲノム	東京大学医科学研究所・先端科学技術研究センター グローバル COE	第 6 回リポート若手研究者の部・総合 1 位	小粥浩之 (D1)	平成24年11月	
26	メディカルゲノム	東京大学新領域創成科学研究科メディカルゲノム専攻	第 5 回「研究国際化演習Ⅲ」(英語論文発表会) 準優秀賞	Betancur Juan Guillermo (D2)	平成24年11月	
27	メディカルゲノム	東京大学大学院新領域創成科学研究科	第 5 回 研究国際化演習Ⅲ(英語論文発表会)	小粥浩之 (D1)	平成24年11月	
28	メディカルゲノム	東京大学分子細胞生物学研究所	2012 年度分生研所内発表会優秀賞	深谷雄志 (D2)	平成24年12月	
29	メディカルゲノム	東京大学新領域創成科学研究科	平成24年度新領域創成科学研究科長賞(修士)	成瀬健 (M2)	平成25年3月	

No	専攻名	授与団体名	賞の名称	受賞者	受賞年月	備考
30	メディカルゲノム	日本化学会	日本化学会第93春季年会学生講演賞	前田雄介 (D3)	平成25年3月	
31	メディカルゲノム	東京大学医科学研究所	平成24年度学生優秀論文賞	林庚澤 (D3)	平成25年3月	
32	自然環境学	Live E! プロジェクト	第1回サイエンスコンテストアイデア賞(プログラミング部門)	中村和彦 (D3)、他1名	平成24年9月	
33	自然環境学	日本陸水学会	優秀ポスター賞	中村隆宏 (M2)	平成24年9月	
34	自然環境学	日本陸水学会	優秀ポスター賞	田邊優貴子(学振PD)	平成24年9月	
35	自然環境学	日本環境毒性学会	若手奨励賞	中村中 (D2)	平成24年9月	
36	自然環境学	日本環境教育学会	研究・実践奨励賞	中村和彦 (D3)	平成24年10月	
37	自然環境学	樹木医学会	奨励賞	高橋由紀子(日本学術振興会特別研究員)	平成24年11月	
38	自然環境学	文部科学省	平成24年度文部科学大臣表彰科学技術賞 研究部門	佐藤克文(准教授・他2名)	平成24年4月	
39	自然環境学	文部科学省	平成24年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞	芳村圭(准教授)	平成24年4月	
40	自然環境学	日本動物学会	Zoological Science Award	後藤龍太郎(学振PD)	平成24年6月	
41	自然環境学	日本動物学会	藤井賞	後藤龍太郎(学振PD)	平成24年6月	
42	自然環境学	日本地球惑星科学連合	学生優秀発表賞	矢萩拓也(修士2年)	平成24年6月	
43	海洋技術環境学	WNI 気象文化創造センター	気象文化大賞	山口一(教授)	平成24年5月	
44	海洋技術環境学	IWMO Scientific Committee	Outstanding Young Scientist Award (2nd Place)	Tsubasa Kodaira (D1)	平成24年5月	
45	海洋技術環境学	日本船舶海洋工学会	学生ポスターセッション最優秀賞	柴田創 (M2)	平成24年11月	
46	海洋技術環境学	日本船舶海洋工学会	学生ポスターセッション優秀賞	和田良太 (D3)	平成24年11月	
47	海洋技術環境学	The American Bureau of Shipping	ABS賞	佐藤純一 (M2)	平成25年3月	
48	環境システム学	日本環境化学会	第21回環境化学討論会学生賞博士課程の部 優秀学生賞	小栗朋子 (D2)	平成24年7月	
49	環境システム学	化学工学会超臨界流体部会	学生賞	秋月信 (D3)	平成24年9月	
50	環境システム学	化学工学会超臨界流体部会	学生賞	藤井達也 (D3)	平成24年9月	
51	環境システム学	化学工学会超臨界流体部会	学生賞	横哲 (M1)	平成24年9月	
52	環境システム学	化学工学会エネルギー部会	化学工学会第44回秋季大会エネルギー部会シンポジウム学生優秀発表賞	嶋田五百里 (D3)	平成24年9月	
53	環境システム学	石油技術協会	平成24年度春季講演会 優秀発表賞	後藤宏樹 (D1)		
54	人間環境学	日本機械学会	学会賞(論文)	内田光則(M2)、富永馨(M1)、李艶榮(D3)、染矢聡(客員准教授)、他2名	平成24年4月	
55	人間環境学	日本冷凍空調学会	優秀講演賞	山下恭平 (D1)	平成24年5月	
56	人間環境学	日本冷凍空調学会	会長奨励賞	上赤匠 (M2)	平成24年5月	
57	人間環境学	財団法人中山科学振興財団	中山賞	奨励賞小谷潔(准教授)	平成24年9月	
58	人間環境学	日本電子材料技術協会	優秀賞	藤内由紀子 (M1)	平成24年11月	
59	社会文化環境学	平成23年度日本建築学会	優秀修士論文賞	尾瀬敦裕 (M2)	平成24年9月	
60	社会文化環境学	環境科学会	2012 年会優秀発表賞	高浦佑介 (D1)	平成24年9月	
61	社会文化環境学	GIScience 2012	Student Scholarship Award	Lu Min(D1)	平成24年9月	
62	社会文化環境学	第21回地理情報システム学会	大会優秀発表賞	笹尾知世 (M2)	平成24年10月	
63	社会文化環境学	第21回地理情報システム学会	大会優秀発表賞	羽田野真由美 (M2)	平成24年10月	
64	社会文化環境学	日本音響学会	第6回学生優秀発表賞	李孝振 (D3)	平成25年3月	
65	情報生命科学	第26回分子シミュレーション討論会	学生優秀発表賞	山守優 (D4)	平成24年11月	
66	サステナビリティ学教育プログラム	農村計画学会	農村計画学会賞	横張真(教授)	平成24年4月	

平成 25 年度

No	専攻名	授与団体名	賞の名称	受賞者	受賞年月	備考
1	物質系	日本化学会	第 93 春季年会 (2013)「学生講演賞」	李相哲 (D3)	平成25年4月	
2	物質系	OSA(米国光学会)/SPIE(国際光工学会) 学生チャプター	ベストオーラルプレゼンテーション賞	Tong BU (D3)	平成25年7月	
3	物質系	16th International Symposium on Laser-Aided Plasma Diagnostics	Prize for the Best Combination of Pre-Poster Talk and Poster Presentation	占部継一郎 (研究員)	平成25年9月	
4	物質系	日本中性子科学会	第 13 回年会ポスター賞	松浦慧介 (M1)	平成25年12月	
5	物質系	日本 MRS	第 23 回学術シンポジウム「奨励賞」	占部継一郎 (研究員)	平成26年1月	
6	物質系	ICRP-8	Young Award “Silver Medal”	宗岡均 (D2)	平成26年2月	
7	物質系	電気化学会	第 81 回電気化学会ポスター賞	木内久雄 (D1)	平成26年3月	
8	物質系	ISPlasma 2014/IC-PLANTS 2014	Best Presentation Award	占部継一郎 (研究員)	平成26年3月	
9	物質系	応用物理学会	第 35 回 (2013 年秋季) 応用物理学会講演奨励賞	川崎聖治 (D1)	平成26年3月	
10	先端エネルギー工学	日本航空宇宙学会	流体力学講演会 / 航空宇宙数値 シミュレーション技術シンポジウム 優秀発表賞	大道勇哉 (D3)	平成25年8月	
11	先端エネルギー工学	一般社団法人電気学会 産業応用部門	電気学会産業応用部門大会ヤングエンジニアポスターコンペティション優秀発表賞	松下通生 (M2)	平成25年8月	
12	先端エネルギー工学	電気学会	平成 24 年電気学会産業応用部門大会部門優秀論文発表賞	宮島孝幸 (D3)	平成25年8月	
13	先端エネルギー工学	電気学会	平成 24 年電気学会産業応用部門大会部門奨励賞優秀論文発表賞 A	兼松正人 (M2)	平成25年8月	
14	先端エネルギー工学	日本物理学会	領域 2 学生優秀発表賞	江本伸悟 (D3)	平成25年10月	
15	先端エネルギー工学	IEEE	The 39th Annual Conference of the IEEE Industrial Electronics Society Best Paper in session SS28	Teruaki Ishibashi (M2)	平成25年11月	
16	先端エネルギー工学	IEEE	The 39th Annual Conference of the IEEE Industrial Electronics Society, Best Paper in session SS29	Shingo Harada (M2)	平成25年11月	
17	先端エネルギー工学	電気学会	メカトロニクス制御技術委員会優秀論文発表賞	大西亘 (M1)	平成26年1月	
18	先端エネルギー工学	電気学会	メカトロニクス制御技術委員会優秀論文発表賞	高橋健一郎 (M1)	平成26年1月	
19	先端エネルギー工学	電気学会	メカトロニクス制御技術委員会優秀論文発表賞	落直哉 (M2)	平成26年1月	
20	先端エネルギー工学	一般財団法人電気学会	優秀論文発表賞 A 賞	今中政輝 (D3)	平成26年1月	
21	先端エネルギー工学	自動車技術会	大学院研究奨励賞	原田信吾 (M2)	平成26年3月	

No	専攻名	授与団体名	賞の名称	受賞者	受賞年月	備考
22	先端エネルギー工学	国際光工学会	NDE Lifetime Achievement Award (非破壊評価・生涯功績賞)	武田展雄 (教授)	平成 26 年 3 月	
23	先端エネルギー工学	電気学会	電気学会産業応用部門研究会論文発表賞 (部門表彰)	大西亘 (M1)	平成 26 年 3 月	
24	先端エネルギー工学	電気学会	電気学会産業応用部門研究会論文発表賞 (部門表彰)	落直哉 (M2)	平成 26 年 3 月	
25	先端エネルギー工学	電気学会	電気学会産業応用部門研究会論文発表賞 A (本部表彰)	高橋健一郎 (M1)	平成 26 年 3 月	
26	先端エネルギー工学	日本物理学会 領域 2	学生優秀発表賞	川面洋平 (D3)	平成 25 年 4 月	
27	先端エネルギー工学	日本航空宇宙学会	フェロー	武田展雄 (教授)	平成 25 年 4 月	
28	複雑理工学	IWSEC2013	IWSEC2013 Best Poster Awards	山田翔太 (D3)、國廣昇 (准教授)、(他 2 名)	平成 25 年 11 月	
29	複雑理工学	電子情報通信学会情報セキュリティ研究専門委員会	SCIS2013 論文賞	山川高志 (M2)	平成 26 年 1 月	
30	複雑理工学	情報処理学会	第 76 回全国大会学生奨励賞	能野琴 (M1)	平成 26 年 3 月	
31	先端生命科学	日本植物病理学会	学生優秀発表賞	内堀美和 (D3)	平成 25 年 5 月	
32	先端生命科学	日本バイオイメージング学会	日本バイオイメージング学会奨励賞	桧垣匠 (特任助教)	平成 25 年 5 月	
33	先端生命科学	第 19 回小型魚類研究会	Best Poster Award	久保田祥子 (M1)、三谷啓志 (教授)、尾田正二 (准教授)	平成 25 年 9 月	2013/9/20-21
34	先端生命科学	日本比較内分泌学会	若手研究者最優秀口頭発表賞	五十嵐史彦 (学振 PD)	平成 25 年 10 月	
35	先端生命科学	井上科学振興財団	第 30 回井上研究奨励賞	田中若菜 (学振 PD)	平成 26 年 2 月	
36	先端生命科学	日本藻類学会	日本藻類学会奨励賞	大田修平 (特任助教)	平成 26 年 3 月	
37	メディカルゲノム	東京大学医科学研究所	平成 25 年度医科学研究所 研究成果発表会・優秀ポスター賞	Douaa Dhahri (D1)	平成 25 年 5 月	
38	メディカルゲノム	東京大学医科学研究所	平成 25 年度医科学研究所 研究成果発表会・優秀ポスター賞	藤川大 (D1)	平成 25 年 5 月	
39	メディカルゲノム	International Retrovirology Association (IRVA)	16th International Conference on Human Retrovirology HTLV and Related Viruses Top10 posters	Dai Fujikawa (D1)	平成 25 年 6 月	
40	メディカルゲノム	日本 RNA 学会	第 15 回日本 RNA 学会青葉賞	深谷雄志 (D3)	平成 25 年 8 月	
41	メディカルゲノム	International Conference on O-CHA (Tea) Culture and Science	The 5th International Conference on O-CHA (Tea) Culture and Science Outstanding Poster Award	Bui Thi Kim Ly (D2)	平成 25 年 11 月	
42	メディカルゲノム	東京大学分子細胞生物学研究所	2013 年度分生研所内発表会 優秀賞	深谷雄志 (D3)	平成 25 年 12 月	
43	メディカルゲノム	日本学術振興会	第 4 回 (平成 25 年度) 学術振興会 育志賞	深谷雄志 (D3)	平成 26 年 2 月	
44	メディカルゲノム	日本ゲノム微生物学会	第 8 回日本ゲノム微生物学会年会 ポスター賞	佐藤允治 (D2)	平成 26 年 3 月	
45	メディカルゲノム	日本ゲノム微生物学会	第 8 回日本ゲノム微生物学会年会若手賞	矢原耕史 (学振特別研究員 PD)	平成 26 年 3 月	

No	専攻名	授与団体名	賞の名称	受賞者	受賞年月	備考
46	メディカルゲノム	International Retrovirology Association (IRVA)	16th International Conference on Human Retrovirology HTLV and Related Viruses HTLV 2013 Young Investigator Travel Award	Makoto Yamagishi (PD)	平成 25 年 6 月	
47	自然環境学	農村計画学会	ポスター賞	石原光訓 (M2)・渡部陽介 (特任研究員)・横張真 (教授)	平成 25 年 4 月	
48	自然環境学	日本森林学会	大会学生ポスター賞	中村和彦 (D3)	平成 25 年 4 月	
49	自然環境学	日本貝類学会	奨励賞	後藤龍太郎 (日本学術振興会特別研究員)	平成 25 年 4 月	
50	自然環境学	日本造園学会	研究論文部門研究奨励賞	宮本万理子 (特任研究員)	平成 25 年 5 月	
51	自然環境学	日本地球惑星科学連合	学生優秀発表賞	中村祐貴 (D2)	平成 25 年 6 月	
52	自然環境学	SAME13 organizers	Most outstanding poster	Yu Nakajima (M2)	平成 25 年 9 月	
53	自然環境学	日本ベントス学会・プランクトン学会	学生優秀発表賞	日高裕華 (D2)	平成 25 年 9 月	
54	自然環境学	日本造園学会関東支部	優秀研究発表賞 (ポスター発表部門)	新保奈穂美 (D2)	平成 25 年 10 月	
55	自然環境学	日本生態学会	ポスター賞優秀賞	板倉光 (D3)	平成 26 年 3 月	
56	海洋技術環境学	地下水学会	地下水学会論文賞	塩莉恵 (D3)、徳永朋祥 (環境システム学専攻教授)、他 1 名	平成 25 年 5 月	
57	海洋技術環境学	IWMO Scientific Committee	Outstanding Young Scientist Award (2nd Place)	Tsubasa Kodaira (D3)	平成 25 年 6 月	
58	海洋技術環境学	北方圏国際シンポジウム	青田昌秋賞	De Silva, Liyanarachchi Waruna Arampath (客員連携研究員)	平成 26 年 2 月	
59	海洋技術環境学	The American Bureau of Shipping	ABS 賞	宮村明孝 (M2)	平成 26 年 3 月	
60	環境システム学	一般財団法人エンジニアリング協会	平成 25 年度エンジニアリング功労者賞	徳永朋祥 (教授)	平成 25 年 7 月	
61	環境システム学	日本環境化学会	第 22 回環境化学討論会優秀学生賞	小栗朋子 (D3)	平成 25 年 8 月	
62	環境システム学	化学工学会エネルギー部会	化学工学会第 44 回秋季大会エネルギー部会シンポジウム 学生優秀発表賞	庄野洋平 (M2)	平成 25 年 9 月	
63	環境システム学	SuperGreen 2013 -The 8th International Conference on Supercritical Fluids-	Best Student Poster Award	Eriko Shimoda (M2)	平成 25 年 10 月	2013/10/11-13
64	人間環境学	日本冷凍空調学会	会長奨励賞	堀江勇人 (D3)	平成 25 年 5 月	
65	人間環境学	日本伝熱学会	優秀プレゼンテーション賞	田中千歳 (D3)	平成 25 年 5 月	
66	人間環境学	ASME 2013 Conference on Information Storage and Processing Systems	Best Paper Award	Shin'ichi Warisawa (Associate Professor), Ichiro Yamada (Professor) (他 2 名)	平成 25 年 6 月	
67	人間環境学	ISPE	Best Student Paper Award	孫晶鈺 (D1)	平成 25 年 9 月	
68	人間環境学	5th International Conference Solar Air- Conditioning	1st prize of the award for the best poster presentation	Akihiko Shimizu (M2)	平成 25 年 9 月	

No	専攻名	授与団体名	賞の名称	受賞者	受賞年月	備考
69	人間環境学	IEEE Consumer Electronics Society	IEEE GCCE 2012 Excellent Poster Award (3rd Prize)	村松大陸 (D2)	平成 25 年 10 月	
70	人間環境学	The Institute of Image Information and Television Engineers The Society for Information Display	IDW'13 Outstanding Poster Award	Y Komazaki(M1) T Torii(Professor)	平成 25 年 12 月	2013/12/4-6
71	人間環境学	日本機械学会	交通物流部門功績賞 (2012 年度)	鎌田実 (教授)	平成 25 年 12 月	
72	人間環境学	IEEE Consumer Electronics Society Japan Chapter	IEEE CE Japan Chapter ICCE Young Scientist Paper Award	村松大陸 (D2)	平成 26 年 1 月	
73	人間環境学	日本機械学会	フェロー	鎌田実 (教授)	平成 26 年 2 月	
74	人間環境学	日本機械学会	関東支部創立 20 周年記念表彰	山田一郎 (教授)	平成 26 年 3 月	
75	人間環境学	IACM (International Association for Computational Mechanics)	IACM Scholarship for Participation at WCCM XI	稲垣和久 (D2)	平成 26 年 3 月	
76	人間環境学	日本船舶海洋工学会	日本船舶海洋工学会奨学褒賞	中村覚 (M2)	平成 26 年 3 月	
77	社会文化環境学	HCI International	Best Paper Award of the 1st International Conference on Distributed, Ambient and Pervasive Interactions	Shoji Kenta(M2), Wataru Ohno (M2), (他 1 名)	平成 25 年 7 月	
78	社会文化環境学	日本音響学会	第 8 回学生優秀発表賞	江田和司 (D3)	平成 25 年 11 月	
79	国際協力学	ソプロチミスト日本財団	学生ボランティア賞	UT-OAK 震災救援団	平成 25 年 11 月	
80	国際協力学	ソプロチミスト日本財団	東京一広尾 花菖蒲賞	UT-OAK 震災救援団	平成 26 年 2 月	
81	情報生命科学	The 10th International Workshop on Advanced Genomics	Best Poster Award	Lena Takayasu (M2)	平成 25 年 5 月	
82	情報生命科学	The International Human Microbiome Consortium	Outstanding Paper Award	西嶋傑	平成 25 年 9 月	学会名は The 4th International Human Microbiome Congress 2013
83	生涯スポーツ健康科学研究センター	公益財団法人 日本体育協会	第 16 回秩父宮記念スポーツ医・科学賞功労賞	小林寛道 (特任教授)	平成 26 年 1 月	

平成 26 年度

No	専攻名	授与団体名	賞の名称	受賞者	受賞年月	備考
1	物質系	International Conference on Thermoelectrics - ICT2014	The 2014 ITS Outstanding Poster Award	Y. Takagiwa (Assistant Professor) T. Yoshida (M2) D. Yanagihara (M2) K. Kimura (Professor)	平成 26 年 7 月	
2	物質系	International School and Workshop on Electronic Crystals ECRYS-2015	ポスター賞	寺重翼 (D1)	平成 26 年 8 月	
3	物質系	IUMRS-ICA 2014	The Award for Encouragement of Research in IUMRS-ICA2014	宗岡均 (D2)	平成 26 年 8 月	
4	物質系	応用物理学会 プラズマエレクトロニクス分科会	第 8 回プラズマエレクトロニクス インキュベーションホール優秀ポスター賞	安井涼馬 (M1)	平成 26 年 8 月	
5	物質系	応用物理学会	第 8 回 (2014 年度) フェロー表彰	寺嶋和夫 (教授)	平成 26 年 9 月	
6	物質系	応用物理学会	第 4 回 JSAP フォトンテスト優秀賞	岸征之 (M1)	平成 26 年 9 月	
7	物質系	公益社団法人 高分子学会	平成 26 年度高分子学会日立化成賞	岡本敏宏 (准教授)	平成 26 年 9 月	
8	物質系	分子科学会	分子科学会優秀ポスター賞	吉田順哉 (D2)	平成 26 年 10 月	
9	物質系	アメリカ物理学会	Outstanding Referees 表彰	貴田徳明 (准教授)	平成 26 年 12 月	
10	物質系	表面・界面スペクトロスコープ 2014 事務局	Student Prize	川原一晃 (D1)	平成 26 年 12 月	
11	物質系	日本放射光学会	第 28 回日本放射光学会・放射光科学合同シンポジウム 学生発表賞	井上伊知郎 (D2)	平成 27 年 1 月	
12	物質系	日本放射光学会	第 28 回日本放射光学会・放射光科学合同シンポジウム 学生発表賞	山本奈央子 (M2)	平成 27 年 1 月	
13	物質系	一般社団法人 資源・素材学会	第 40 回奨励賞	松浦宏行 (准教授)	平成 27 年 3 月	
14	先端エネルギー工学	日本航空宇宙学会	日本航空宇宙学会技術賞 (基礎技術部門)	本間直彦 (D3)、鈴木宏二郎 (教授)、(他 8 名)	平成 26 年 4 月	
15	先端エネルギー工学	一般社団法人 未踏科学技術協会 超伝導科学技術研究会	超伝導科学技術賞	大崎博之 (教授)	平成 26 年 4 月	
16	先端エネルギー工学	HPLA/BEP Symposium	2014 HPLA/BEP 2nd Place Poster	嶋村耕平 (D3)	平成 26 年 4 月	
17	先端エネルギー工学	日本物理学会	領域 2 学生優秀発表賞	近末吉人 (M2)	平成 26 年 5 月	
18	先端エネルギー工学	電気電子情報学術振興財団	電気電子情報学術振興財団	犬飼健二 (M2)、大西亘 (M2)	平成 26 年 5 月	
19	先端エネルギー工学	The 2014 American Control Conference	Best Presentation Award Precision Mechatronics III - motion control	石橋央成 (M2)	平成 26 年 6 月	
20	先端エネルギー工学	プラズマ・核融合学会	若手優秀発表賞	内島健一郎 (D3)	平成 26 年 6 月	

No	専攻名	授与団体名	賞の名称	受賞者	受賞年月	備考
21	先端エネルギー工学	先端材料技術協会協会	特別賞	武田展雄（教授）	平成 26 年 7 月	
22	先端エネルギー工学	先端材料技術協会協会	感謝状	平野滝子（学術支援専門職員）	平成 26 年 7 月	
23	先端エネルギー工学	先端材料技術協会	先端材料技術協会論文賞	宇平圭吾 (M2)	平成 26 年 7 月	
24	先端エネルギー工学	電気学会	平成 25 年電気学会産業応用部門大会優秀論文発表賞（本部表彰）	郡司大輔	平成 26 年 8 月	
25	先端エネルギー工学	電気学会	平成 26 年電気学会産業応用部門奨励賞	郡司大輔 (D2)	平成 26 年 8 月	
26	先端エネルギー工学	電気学会	平成 25 年度東京支部連合研究会 優秀論文発表賞 A	大西亘 (M2)	平成 26 年 9 月	
27	先端エネルギー工学	日本複合材料学会	第 39 回複合材料シンポジウム優秀学生賞	丹羽翔麻 (M1)	平成 26 年 9 月	
28	先端エネルギー工学	The40th Annual Conference of the IEEE Industrial Electronics Society	Best Presentation in session MR--Motion control for High-Precision Systems	山田翔太 (M1)	平成 26 年 10 月	
29	先端エネルギー工学	The40th Annual Conference of the IEEE Industrial Electronics Society	Best Presentation in session AE--Automotive Electronics I	郡司大輔 (D3)	平成 26 年 10 月	
30	先端エネルギー工学	IEEE Industrial Electronics Society	Best Paper Award for the IEEE Transactions on Industrial Electronics	藤本博志（准教授）、堀洋一（教授）	平成 26 年 11 月	
31	先端エネルギー工学	プラズマ・核融合学会	若手学会発表賞	東郷訓 (D2)	平成 26 年 11 月	
32	先端エネルギー工学	電気学会	メカトロニクス制御技術委員会優秀論文発表賞	大西亘 (M2)	平成 27 年 1 月	
33	先端エネルギー工学	電気学会	メカトロニクス制御技術委員会優秀論文発表賞	矢崎雄馬 (M1)	平成 27 年 1 月	
34	先端エネルギー工学	自動車技術会	2014 年度自動車技術会大学院研究奨励賞	武井大輔 (M2)	平成 27 年 3 月	
35	先端エネルギー工学	日本複合材料学会	第 6 回日本複合材料合同会議学生優秀講演賞	丹羽翔麻 (M1)	平成 27 年 3 月	
36	先端エネルギー工学	2015 IEEE International Conference on Mechatronics	Best paper in session SS02-2: Advanced Motion Control on Electric Vehicles and Sustainable Mobility	郡司大輔 (D3)	平成 27 年 3 月	
37	先端エネルギー工学	2015 IEEE International Conference on Mechatronics	Best paper in session TT05: Control Theory	Binh Minh Nguyen (D3)	平成 27 年 3 月	
38	先端エネルギー工学	The 1st IEEEJ International Workshop on Sesign, Actuation, and Motion Control	Best presentation in session TT3-1: High Precision Control	大西亘 (M2)	平成 27 年 3 月	
39	先端エネルギー工学	一般社団法人日本物理学会領域 2	学生優秀発表賞	大野裕司 (D1)	平成 27 年 3 月	
40	先端エネルギー工学	電気学会	自動車技術委員会優秀論文発表賞	武井大輔 (M2)	平成 27 年 3 月	

No	専攻名	授与団体名	賞の名称	受賞者	受賞年月	備考
41	先端エネルギー工学	The International Conference on Electrical Engineering (ICEE) 2014	Best Paper of ICEE 2014	三ツ木康晃 (M2)	平成 26 年 6 月	
42	先端エネルギー工学	日本 AEM 学会	第 23 回 MAGDA コンファレンス in 高松 優秀講演論文賞	横山悠介 (M2)	平成 26 年 12 月	
43	複雑理工学	船井情報科学振興財団	平成 25 年度 船井研究奨励賞	野田聡人 (特任助教)	平成 26 年 4 月	
44	複雑理工学	Annual BCI-Research Award (supported by G.tec)	The winner of the BCI Award 2014	篠田裕之 (教授) 他 3 名	平成 26 年 9 月	
45	複雑理工学	計測自動制御学会 計測部門	論文賞	篠田裕之 (教授) 他 1 名	平成 26 年 9 月	
46	複雑理工学	ACM UIST (User Interface Software and Technology Symposium)	People's Choice Best Demo Award	門内靖明 (特任助教)、長谷川圭介 (特任助教)、篠田裕之 (教授) 他 3 名	平成 26 年 10 月	
47	複雑理工学	デジタルコンテンツ EXPO 2014 (経済産業省、デジタルコンテンツ協会 主催)	Industry 特別賞, Innovative Technologies 2014	篠田・牧野研究室	平成 26 年 10 月	
48	複雑理工学	デジタルコンテンツ EXPO 2014 (経済産業省、デジタルコンテンツ協会 主催)	SIGGRAPH 特別賞, Innovative Technologies 2014	篠田・牧野研究室	平成 26 年 10 月	
49	複雑理工学	Plasma Conference 2014	若手優秀発表賞	新屋貴浩 (D2)	平成 26 年 11 月	
50	複雑理工学	Asia Haptics 2014	Honorable Mention of Best Demonstration Award	門内靖明 (特任助教)、長谷川圭介 (特任助教)、篠田裕之 (教授) 他 3 名	平成 26 年 11 月	
51	複雑理工学	Asia Haptics 2014	Honorable Mention of Best Demonstration Award	長谷川圭介 (特任助教)、篠田裕之 (教授)	平成 26 年 11 月	
52	複雑理工学	計測自動制御学会	SI 部門講演会 優秀講演賞	増田祐一 (M1)	平成 26 年 12 月	
53	複雑理工学	電子情報通信学会	情報セキュリティ研究専門委員会 SCIS 論文賞	高安敦 (D1)	平成 27 年 1 月	
54	複雑理工学	情報処理学会	第 77 回全国大会 学生奨励賞	芦沢未菜 (M1)	平成 27 年 3 月	
55	複雑理工学	情報処理学会	第 77 回全国大会 学生奨励賞	大高悠希 (M1)	平成 27 年 3 月	
56	複雑理工学	酸化グラフェン研究会	第 3 回シンポジウム 優秀ポスター賞	赤田圭史 (博士 2 年)	平成 26 年 12 月	
57	複雑理工学	日本神経回路学会	日本神経回路学会大会奨励賞	唐木田亮 (D1)	平成 26 年 9 月	
58	複雑理工学	IEEE Computational Intelligence Society Japan Chapter	IEEE Computational Intelligence Society Japan Chapter Young Researcher Award	唐木田亮 (D1)	平成 27 年 3 月	
59	先端生命科学	第 66 回日本細胞生物学会	若手最優発表秀賞	井元 裕太 (D3)	平成 26 年 6 月	
60	先端生命科学	フジサンケイ ビジネスアイ	第 28 回先端技術大賞「フジテレビジョン賞」	井元 裕太 (D3)	平成 26 年 7 月	
61	先端生命科学	第 20 回小型魚類研究会	Best Poster Award	平川慶 (M2)	平成 26 年 9 月	

No	専攻名	授与団体名	賞の名称	受賞者	受賞年月	備考
62	メディカルゲノム	日本農芸化学会	2014年度日本農芸化学会大会トピックス賞	小林一三(教授)	平成26年4月	
63	メディカルゲノム	東京大学医科学研究所	平成26年度医科学研究所研究成果発表会・優秀ポスター賞	Jane Weng(D2)	平成26年5月	
64	メディカルゲノム	東京大学医科学研究所	平成25年度医科学研究所研究成果発表会・ポスター賞	Salita Eiamboonsert(D2)	平成26年5月	
65	メディカル情報生命	第11回21世紀大腸菌研究会	口頭発表賞	松林英明(博士課程2年)	平成26年6月	
66	メディカル情報生命	第54回生命科学夏の学校	ポスター賞デザイン賞	松林英明(博士課程2年)	平成26年8月	
67	メディカル情報生命	第8回バイオ関連化学シンポジウム	部会講演賞	松長遼(博士課程3年)	平成26年9月	
68	メディカル情報生命	RNA フロンティアミーティング2014	ベストプレゼンテーション賞(MBL賞)	増淵岳也(博士課程1年)	平成26年9月	
69	メディカル情報生命	東京大学	Excellent Research Award, MGS	松長遼(博士課程3年)	平成27年3月	
70	自然環境学	日本造園学	会田村剛賞	斎藤馨(教授)	平成26年5月	
71	自然環境学	東アジア鰻資源協議会日本支部	公開シンポジウム最優秀ポスター賞	板倉光(D3)	平成26年7月	
72	自然環境学	アジア・オセアニア地球惑星科学会	学生優秀ポスター賞	中村祐貴(D3)	平成26年7月	
73	自然環境学	日本ベントス学会	学生優秀発表賞	日高裕華(D3)	平成26年9月	
74	自然環境学	日本環境毒性学会	若手奨励賞	菅原幸恵(M1)	平成26年9月	
75	自然環境学	Asian Marine Biology Symposium 2014	Young Scientist Award	小林元樹(M1)	平成26年10月	
76	自然環境学	樹木医学会	奨励賞	松村愛美(客員共同研究員)	平成26年11月	
77	自然環境学	水産海洋学会	若手優秀講演賞	板倉光(学振特別研究員)	平成26年11月	
78	自然環境学	日刊工業新聞社	第15回理工系学生科学技術論文コンクール入賞	松村俊吾(M2)	平成27年3月	
79	自然環境学	海洋研究開発機構	ブルーアース2015若手奨励賞	矢萩拓也(D2)	平成27年3月	
80	自然環境学	日本生態学会	学生発表優秀賞	小泉敬彦(D1)	平成27年3月	
81	自然環境学	日本森林学会	奨励賞	小笠真由美(学振特別研究員)	平成27年3月	
82	海洋技術環境学	日本船舶海洋工学会	乾賞	西田智哉(PD)	平成26年5月	
83	海洋技術環境学	海洋音響学会	論文賞	徐純輝(M2)、虻川和紀(D3)、(他2名)	平成26年5月	
84	海洋技術環境学	日本船舶海洋工学会	日本船舶海洋工学会若手優秀講演賞	関谷哲(M1)	平成26年7月	
85	海洋技術環境学	The International Workshop on Modeling the Ocean 2014 Scientific Committee	Outstanding Young Scientist Award(1st place)	Tsubasa Kodaira(D3)	平成26年6月	H25年度博士課程修了
86	海洋技術環境学	IEEE OES Japan Chapter	Young Researcher Award2014	松田匠未(D3)	平成26年10月	
87	海洋技術環境学	The Aota Masaaki Award Advisory Committee, the 30th International Symposium on Okhotsk Sea and Sea Ice	The Aota Masaaki Award 2015 (Physical Oceanography Section)	Dulini Yasara Mudunkotuwa (D2)	平成27年2月	

No	専攻名	授与団体名	賞の名称	受賞者	受賞年月	備考
88	海洋技術環境学	The Aota Masaaki Award Advisory Committee, the 30th International Symposium on Okhotsk Sea and Sea Ice	The Aota Masaaki Award 2015 (Polar Technology Section)	Toshinari Shiga (M2)	平成 27 年 2 月	
89	海洋技術環境学	日本船舶海洋工学会	日本船舶海洋工学会奨学褒賞	TSAI Chin-Leong (ツァイ チンリオン) (M2)	平成 27 年 3 月	
90	海洋技術環境学	ABS	ABS 賞	福岡玄貴 (M2)	平成 27 年 3 月	
91	環境システム学	日本ヒートアイランド学会	学会論文賞	井原智彦 (准教授)、(他 2 名)	平成 26 年 5 月	
92	環境システム学	日本ヒートアイランド学会	ベストポスター賞	橋本侑樹 (M1)、井原智彦 (准教授) (他 4 名)	平成 26 年 7 月	
93	環境システム学	Third International Conference on Countermeasures to Urban Heat Island	Award	井原智彦 (准教授) (他 19 名)	平成 26 年 10 月	
94	環境システム学	1st Asian Conference on Safety and Education in Laboratory (ACSEL2014)	Poster Award	鍋島優輝 (M1)	平成 26 年 11 月	
95	環境システム学	日本 LCA 学会	奨励賞	井原智彦 (准教授)	平成 27 年 3 月	
96	環境システム学	化学工学会	第 80 年会・学生賞 (銀賞)	横哲 (D1)	平成 27 年 3 月	
97	環境システム学	The Society for Risk Analysis - Europe SRA Europe	Conference Student Scholarship	Etsuko YOSHIDA(D3)	平成 26 年 6 月	
98	環境システム学	日本学術振興会	平成 25 年度特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会書面審査員の表彰	戸野倉賢一 (教授)	平成 26 年 7 月	
99	環境システム学	日本内分泌攪乱化学物質学会	優秀ポスター賞	西浜柚季子 (D1)、吉永淳 (教授) (他 6 名)	平成 26 年 12 月	
100	環境システム学	化学工学会	化学工学会第 80 年会・学生賞・金賞 (ポスターセッション)	宮崎 顕也 (M2)	平成 27 年 3 月	
101	人間環境学	IEEE CPMT Society Japan Chapter	IEEE CPMT Japan Chapter Young Award	村松大陸 (D2)	平成 26 年 4 月	
102	人間環境学	日本冷凍空調学会	学術賞	党超鋌 (准教授)、飛原英治 (教授)、(他 1 名)	平成 26 年 5 月	
103	人間環境学	空気調和・衛生工学会	論文賞技術論文部門	飛原英治 (教授)、(他 4 名)	平成 26 年 5 月	
104	人間環境学	日本冷凍空調学会	研究奨励賞	岡本洋明 (特任研究員)	平成 26 年 5 月	
105	人間環境学	日本冷凍空調学会	2013 年年次大会優秀講演賞	田中千歳 (D3)	平成 26 年 5 月	
106	人間環境学	日本冷凍空調学会	2013 年年次大会優秀講演賞	古谷野起弘 (M2)	平成 26 年 5 月	
107	人間環境学	日本冷凍空調学会	会長奨励賞	中川直紀 (M2)	平成 26 年 5 月	
108	人間環境学	日本船舶海洋工学会	日本船舶海洋工学会賞 (論文賞)	稗方和夫 (准教授)、(他 2 名)	平成 26 年 5 月	
109	人間環境学	Fourteenth International Conference on Knowledge, Culture, and Change in Organizations, Saïd Business School, University of Oxford	Graduate Scholar Award	顧潔 (D2)	平成 26 年 8 月	

No	専攻名	授与団体名	賞の名称	受賞者	受賞年月	備考
110	人間環境学	ICCM (International Conference on Computational Methods)	ICCM 2014 Best Paper Award	北山健 (特任研究員)、橋本学 (講師)、奥田洋司 (教授)、(他 1 名)	平成 26 年 8 月	
111	人間環境学	IEEE Consumer Electronics Society	IEEE GCCE 2014 Best Student Paper Award (1st Prize)	村松大陸 (D3)	平成 26 年 10 月	
112	人間環境学	空気調和衛生工学会	優秀講演賞	東朋寛 (M1)	平成 26 年 10 月	
113	人間環境学	The 6th International Conference on Integration of Renewable and Distributed Energy Resources	IREDD2014 Poster Award for Young Engineer	橋本有史 (M2)	平成 26 年 11 月	
114	人間環境学	IEEE Transdisciplinary - Oriented Workshop for Emerging Researchers Committee	The 11th IEEE TOWERS Best Award	村松大陸 (D3)	平成 26 年 11 月	
115	人間環境学	IEEE Transdisciplinary - Oriented Workshop for Emerging Researchers Committee	The 11th IEEE TOWERS Innovative Research Award	村松大陸 (D3)	平成 26 年 11 月	
116	人間環境学	国土交通省	交通文化賞	鎌田実 (教授)	平成 27 年 1 月	
117	社会文化環境学	日本騒音制御工学会	平成 25 年度研究奨励賞	井上尚久 (D3)	平成 26 年 4 月	
118	社会文化環境学	日本音響学会	第 9 回学生優秀発表賞	井上尚久 (D3)	平成 26 年 5 月	
119	社会文化環境学	農村計画学会	ポスター賞	原田恵 (M2)、清水亮 (准教授)、鬼頭秀一 (教授)、宮本万理子 (特任研究員)	平成 26 年 4 月	
120	社会文化環境学	Water of Environment Technology Conference (WET)	The WET Excellent Research Award	鯉淵幸夫 (准教授)	平成 26 年 6 月	
121	社会文化環境学	日本下水道協会	ポスター発表・最優秀賞	佐藤弘泰 (准教授)	平成 26 年 7 月	
122	社会文化環境学	日本建築学会	2014 年度大会学術講演会若手優秀発表	江田和司 (博士 3 年)	平成 26 年 11 月	
123	社会文化環境学	土木学会環境工学	委員会新技術・プロジェクト賞	佐藤弘泰 (准教授)、庄司仁 (特任研究員)、(他 2 名)	平成 26 年 12 月	
124	社会文化環境学	国際ボランティア学会	学会優秀発表賞	望月美希 (修士 2 年)	平成 27 年 2 月	
125	国際協力学	大学セミナーハウス	2014 年留学生論文コンクール銀賞	李根雨 (M2)	平成 26 年 11 月	
126	国際協力学ライトストーン社	第 6 回学生論文コンテスト光	石賞	李根雨 (M2)	平成 27 年 3 月	
127	サステイナビリティ学グローバルリーダー養成大学院プログラム	Karlstad University (Sweden)	Notable Alumni Award	Emmanuel Mutisya (Project Assistant Professor)	平成 26 年 11 月	

平成 27 年度

No	専攻名	授与団体名	賞の名称	受賞者	受賞年月	備考
1	物質系	Thomson Reuters	Highly Cited Researchers	芝内孝禎 (教授)	平成 27 年 6 月	
2	物質系	シクロデキストリン学会	シクロデキストリン学会賞	伊藤耕三 (教授)	平成 27 年 5 月	
3	物質系	日本物理学会	第 10 回日本物理学会若手奨励賞	塚原規志 (助教)	平成 28 年 3 月	
4	物質系	第 25 回日本 MRS 年次大会	奨励賞	木内久雄 (D3)	平成 28 年 1 月	
5	物質系	日本放射光学会	学生発表賞	菊竹大樹 (M1)	平成 28 年 1 月	
6	物質系	UNICAT (Unifying Concepts in Catalysis)	Gerhard Ertl Lecture Award 2015	川合眞紀 (教授)	平成 27 年 12 月	
7	物質系	中性子科学会	ポスター賞	廣澤和 (D1)	平成 27 年 12 月	
8	物質系	第 5 回 CSJ 化学フェスタ 2015	優秀ポスター発表賞	山元明人 (M2)、三津井親彦 (特任助教)、竹谷純一 (教授)、岡本敏宏 (准教授)	平成 27 年 11 月	
9	物質系	AEPSE2015 (Asian-European International Conference on Plasma Surface Engineering)	Student Award	宗岡均 (D3)	平成 27 年 9 月	
10	物質系	日本熱電学会	第 9 回欧文論文賞	高際良樹 (助教)、北原功一 (D2) 木村薫 (教授)	平成 27 年 9 月	
11	物質系	IUPAC (国際純正・応用化学連合)	IUPAC 2015 Distinguished Women in Chemistry/Chemical Engineering	川合眞紀 (教授)	平成 27 年 8 月	
12	物質系	NIMS Conference 2015	Young Scientist Poster Award	塩足亮隼 (助教)	平成 27 年 7 月	
13	物質系	8th International Conference on Molecular Electronics and Bioelectronics (M&BE8)	Outstanding Student Poster Award	山下侑 (M2)、鶴見淳人 (D2)、添田淳史 (D3)	平成 27 年 6 月	
14	物質系	日本化学会	欧文誌論文賞 (BCSJ 賞)	三津井親彦 (特任助教)、竹谷純一 (教授)	平成 27 年 6 月	
15	物質系	宇部興産学術振興財団	学術奨励賞	杉本宜昭 (准教授)	平成 27 年 6 月	
16	先端エネルギー工学	一般社団法人レーザー学会	第 35 回年次大会優秀論文発表賞	川上言美 (D3)	平成 27 年 5 月	
17	先端エネルギー工学	IEEE 2015WoW	2015 Best Paper Award @ IEEE PELS Workshop on Emerging Technology : Wireless Power	小林大太 (M2)、居村岳広 (特任講師)、堀洋一 (教授)	平成 27 年 6 月	
18	先端エネルギー工学	電気学会部門	論文賞 (平成 27 年産業)	居村岳広 (准教授)	平成 27 年 9 月	
19	先端エネルギー工学	The41th Annual Conference of the IEEE Industrial Electronics Society	Best Presentation in session SS44-01: Dyamic Wireless Charging for Electric Transportation	小林大太 (M2)	平成 27 年 11 月	
20	先端エネルギー工学	第 13 回 ITS シンポジウム 2015	第 13 回 ITS シンポジウム 2015 ベストポスター賞	小林大太 (M2)	平成 27 年 12 月	
21	先端エネルギー工学	電気学会	平成 27 年電気学会産業応用部門大会 優秀論文発表賞	深川智史 (M2)	平成 28 年 1 月	
22	先端エネルギー工学	電気学会	技術委員会奨励賞	向雲 (M2)	平成 28 年 3 月	

No	専攻名	授与団体名	賞の名称	受賞者	受賞年月	備考
23	先端エネルギー工学	電子情報通信学会	電子情報通信学会 2016年総合大会無線電力伝送研究専門委員会「移動体への無線電力伝送コンテスト」優秀発表賞	小林大太 (M2)	平成 28 年 3 月	
24	先端エネルギー工学	30th International Symposium on Space Technology and Science (ISTS)	Modi Memorial Jaya-Jayant Award	Robin L. Karlsson (M2)	平成 27 年 7 月	
25	先端エネルギー工学	プラズマ・核融合学会	第 20 回学術奨励賞	田辺博士 (助教)	平成 27 年 11 月	
26	複雑理工学	船井情報科学振興財団	船井研究奨励賞	門内靖明 (特任助教)	平成 27 年 4 月	(ただし門内は4月から慶応大学に転出)
27	複雑理工学	SS2015 実行委員会	CSS2015 優秀論文賞	高安敦 (D2)、國廣昇 (准教授)	平成 27 年 10 月	
28	複雑理工学	SS2015 実行委員会	CSS2015 学生優秀論文賞	高安敦 (D2)、國廣昇 (准教授)、他 1 名	平成 27 年 10 月	
29	複雑理工学	日本セキュリティ・マネジメント学会	辻井重男優秀論文賞	高安敦 (D2)	平成 28 年 3 月	
30	複雑理工学	船井情報科学振興財団	平成 25 年度 船井研究奨励賞	長谷川圭介 (特任助教)	平成 28 年 4 月	
31	複雑理工学	日本VR学会	学術奨励賞	長谷川圭介 (特任助教)	平成 28 年 3 月	
32	複雑理工学	計測自動制御学会 SI 部門	SICE SI2015 優秀講演賞	馬少翔 (当時 M2)、長谷川圭介 (特任助教)、牧野泰才 (講師)、篠田裕之 (教授)	平成 27 年 12 月	
33	複雑理工学	計測自動制御学会 計測部門	SICE センシングフォーラム研究奨励賞	長谷川圭介 (特任助教)	平成 27 年 9 月	
34	複雑理工学	経済産業省	Innovative technologies 2015	篠田・牧野研究室	平成 27 年 9 月	
35	複雑理工学	日本VR学会	日本VR学会論文賞	長谷川圭介 (特任助教) 篠田裕之 (教授)	平成 27 年 9 月	
36	複雑理工学	計測自動制御学会	SICE Annual Conference Young Author's Award, 2015	増田祐一 (現在 D1、受賞当時は M2)	平成 27 年 7 月	
37	複雑理工学	IEEE World Haptics Conference	Best Demo Award Winner	牧野泰才 (講師)、篠田裕之 (教授)	平成 27 年 6 月	
38	先端生命科学	日本放射線影響学会	岩崎民子賞	保田隆子 (特任研究員)	平成 27 年 5 月	
39	先端生命科学	日本薬学会	優秀賞	本田智子 (博士課程 3 年)	平成 27 年 6 月	
40	先端生命科学	東京大学生命科学ネットワーク	優秀ポスター賞	吉田光範 (客員共同研究員)	平成 27 年 6 月	
41	先端生命科学	第 38 回日本分子生物学会・第 88 回日本生化学会合同大会 (BMB2015)	若手優秀発表賞	金弘淵 (修士 2 年)	平成 27 年 12 月	
42	メディカル情報生命	第 2 回日本 HTLV-1 学会学術集会	Young Investigator Award	藤川大 (D3)	平成 27 年 8 月	
43	メディカル情報生命	日本電気泳動学会	優秀ポスター賞	藤岡興 (M2)	平成 27 年 9 月	
44	メディカル情報生命	生命医薬情報学連合大会 2015 年大会	バイオグリッド奨励賞 (産業応用賞)	中村司 (M2)、富井健太郎 (客員准教授)	平成 27 年 10 月	
45	メディカル情報生命	日本分子生物学会・日本生化学会 (BMB2015)	若手優秀発表賞	大内梨江 (D3)	平成 27 年 12 月	
46	メディカル情報生命	the 57th ASH Annual Meeting and Exposition	the 57th ASH Abstract Achievement Award	山岸誠 (特任助教)	平成 27 年 12 月	

No	専攻名	授与団体名	賞の名称	受賞者	受賞年月	備考
47	メディカル情報生命	日本癌学会 (at the 10th AACR-JCA Joint Conference on Breakthroughs in Cancer Research)	JCA Scholar-in-Training Award	大内梨江 (D3)	平成 28 年 2 月	
48	メディカル情報生命	情報処理学会第 78 回全国大会	学生奨励賞	中村司 (M2)	平成 28 年 3 月	
49	メディカル情報生命	Biosystems Design 2.0	Merit Poster Award	佃美雪 (D3)	平成 28 年 3 月	
50	自然環境学	第 24 回環境化学討論会	優秀学生賞	松神秀徳 (D3)	平成 27 年 6 月	
51	自然環境学	The international symposium of Sustainable Forest Ecosystem Management 2015	Student Award	辻周真 (M2)	平成 27 年 9 月	
52	自然環境学	7th International Symposium on Submarine Mass Movements and Their Consequences	Best Poster Presentation Runner up	中村祐貴 (D3)	平成 27 年 11 月	
53	海洋技術環境学	日本船舶海洋工学会	日本船舶海洋工学会奨励賞	柴田昌男 (M2)	平成 27 年 5 月	H25 年度修士修了
54	海洋技術環境学	International Worksho on Modeling the Ocean	IWMO Young Scientist Award 1st place and IWMO Best Presentation Award 3rd place	Webb, A. (特任研究員)	平成 27 年 11 月	
55	海洋技術環境学	The Organizing Committee of the 2015 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies	Pacificchem 2015 Student Poster Competition Award	Takahashi, T. (D2)	平成 27 年 12 月	
56	海洋技術環境学	Organizing Committee of 3rd International Conference on Violent Flows	Best Student Paper Award	Fujimoto, W. (D1)	平成 28 年 3 月	
57	海洋技術環境学	日本船舶海洋工学会	日本船舶海洋工学会奨学褒賞	志賀俊成 (M2)	平成 28 年 3 月	
58	海洋技術環境学	米国船級協会 (ABS)	ABS 賞	黒沢俊哉 (M2)	平成 28 年 3 月	
59	海洋技術環境学	日本船舶海洋工学会	日本船舶海洋工学会賞 (論文賞)	清松啓司 (特任研究員)、小平翼、門元之郎 (特任研究員)、早稲田卓爾 (准教授)	平成 27 年 5 月	
60	海洋技術環境学	日本船舶海洋工学会	日本船舶海洋工学会奨励賞 (乾賞)	和田良太 (特任研究員)	平成 27 年 5 月	
61	環境システム学	化学工学会	Outstanding Paper Award of 2014: Journal of Chemical Engineering of Japan	Iori Shimada(D3), Yoshito Oshima(Prof.), and Junichiro Otomo (Assoc. Prof.)	平成 27 年 4 月	
62	環境システム学	日本沿岸域学会	研究討論会優秀講演賞	武藤弘晃 (D2)	平成 27 年 10 月	
63	環境システム学	日本原子力学会	JNST Most Popular Article Award 2015	飯本武志 (准教授)	平成 28 年 3 月	
64	環境システム学	日本 XAFS 研究会	第 18 回 XAFS 討論会学生奨励賞	横哲 (D2)	平成 27 年 7 月	
65	環境システム学	SUPERGREEN 2015	SUPERGREEN 2015 Best Poster Award	中井佑輔 (M2)	平成 27 年 10 月	
66	環境システム学	化学工学会	化学工学会第 81 年会優秀学生賞	中井佑輔 (M2)	平成 28 年 3 月	

No	専攻名	授与団体名	賞の名称	受賞者	受賞年月	備考
67	環境システム学	化学工学会	化学工学会第47回秋季大会・優秀ポスター賞	小城元・修士2年(2016年3月修了)	平成27年9月	
68	環境システム学	化学工学会	化学工学会第81年会・優秀学生賞	小城元・修士2年(2016年3月修了)	平成28年3月	
69	人間環境学	日本ウォータージェット学会	功労賞	割澤伸一(教授)	平成27年5月	
70	人間環境学	日本冷凍空調学会	会長奨励賞	新山周史(M2)	平成27年5月	
71	人間環境学	日本冷凍空調学会	研究奨励賞	田中千歳(D3)	平成27年5月	
72	人間環境学	日本冷凍空調学会	学術賞	吉永祐貴(D1)、党超鋌(准教授)、飛原英治(教授)	平成27年5月	
73	人間環境学	永守財団	第一回永守賞	森田剛(准教授)	平成27年8月	
74	人間環境学	日中韓・冷凍空調学会	Asian Academic Award	Eiji Hihara (Professor)	平成27年10月	
75	人間環境学	日本冷凍空調学会	年次大会優秀講演賞	東朋寛(M2)	平成27年10月	
76	人間環境学	日本冷凍空調学会	年次大会優秀講演賞	吉永祐貴(D1)	平成27年10月	
77	人間環境学	Asia Simulation Conference 2015	Best Paper Award	Yuta Mitsuhashi (D2)、Gaku Hashimoto (Lecturer)、Hiroshi Okuda (Professor)、他1名	平成27年11月	
78	人間環境学	東京大学産学連携本部(現東京大学産学協創推進本部)	第11期東京大学アントレプレナー道場最優秀賞	井原遊(D1)、森田直樹(D1)、生野達大(M1)	平成27年11月	
79	人間環境学	土木学会	優秀講演者賞	三橋祐太(D2)	平成27年11月	
80	人間環境学	化学とマイクロ・ナノシステム学会	第32回研究会優秀研究賞	平間宏忠、杉浦悠介、大寺貴裕、鳥居徹(教授)	平成27年11月	
81	人間環境学	Society of Information Display	IDW'15 Outstanding Poster Award	Yusuke Komazaki (D1)、Toru Torii (prof.)	平成27年12月	
82	人間環境学	東京大学工学部	ベストティーチング賞	森田剛(准教授)	平成28年1月	
83	人間環境学	公益社団法人自動車技術会	論文賞	小竹元基(准教授)、鎌田実(教授)	平成27年5月	
84	社会文化環境学	日本建築仕上学会	日本建築仕上学会賞、作品賞・建築部門	佐藤淳(准教授)	平成27年5月	
85	社会文化環境学	日本音響学会	第38回栗谷潔学術奨励賞	李孝振(特任研究員)	平成27年9月	
86	社会文化環境学	日本建築学会	2015年度大会学術講演会若手優秀発表	橋本梯(M2)	平成27年11月	
87	社会文化環境学	日本建築学会	2015年度大会学術講演会若手優秀発表	井上尚久(特任研究員)	平成27年11月	
88	社会文化環境学	日本音響学会	第12回学生優秀発表賞	橋本梯(M2)	平成28年3月	
89	社会文化環境学	日本音響学会	第39回栗谷潔学術奨励賞	井上尚久(特任研究員)	平成28年3月	
90	社会文化環境学	日本水環境学会	論文賞	佐藤弘泰(准教授)	平成27年6月	
91	国際協力学	International Society of Environmental and Rural Development	Awards of Excellent Paper -7th ICERD	チェ・ソンユン(D2)	平成28年1月	
92	国際協力学	Group Decision and Negotiation Section of the Institute for Operations Research and the Management Sciences	GDN Young Researcher Award Runner up	Takahiro Suzuki (D2)	平成27年6月	
93	国際協力学	水文・水資源学会	論文賞	廣木謙三	平成27年9月	

(10) 学生の海外派遣数 平成 23 年度～ 27 年度

1) 東京大学による助成

東京大学 海外渡航助成	平成 23 年度		平成 24 年度	
	修士	博士	修士	博士
物質系	0	2	0	0
先端エネルギー工学	0	1	0	2
複雑理工学	0	2	0	0
先端生命科学	0	1	0	0
メディカルゲノム	1	0	0	0
メディカル情報生命				
自然環境学	0	2	0	1
海洋技術環境学	0	1	0	0
環境システム学	0	2	0	1
人間環境学	0	0	0	0
社会文化環境学	0	1	0	1
国際協力学	0	2	0	2
サステイナビリティ学 グローバルリーダー養成 大学院プログラム	1	1	1	1
情報生命科学	0	0	0	0
計	2	15	1	8

※平成 24 年度までは東京大学学術活動等奨励事業（国外）の採用数
 ※平成 25 年度以降は全学の「短期の調査・学会発表の助成」制度はなし

2) 新領域創成科学研究科による助成

新領域 海外渡航助成	平成 23 年度		平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度	
	修士	博士								
物質系	0	1	0	1			0	1	0	1
先端エネルギー工学	0	1	0	1			0	1	0	1
複雑理工学	1	0	0	1			0	1	0	1
先端生命科学	0	0	0	1			0	1	0	0
メディカル情報生命									0	1
メディカルゲノム	0	1	0	1			0	0		
自然環境学	0	2	0	1			0	1	0	1
海洋技術環境学	0	0	0	0			0	1	0	1
環境システム学	0	1	0	0			0	1	0	1
人間環境学	0	1	0	1			0	0	0	1
社会文化環境学	0	1	0	1			0	1	0	1
国際協力学	2	0	1	0			0	1	0	1
サステイナビリティ学 グローバルリーダー養成 大学院プログラム	1	0	0	1			0	1	1	0
情報生命科学	0	0	1	0			0	0		
計	4	8	2	9			0	10	1	10

※平成 25 年度は全学制度の変更があり、研究科による助成制度の検討を行っていたため実施せず

3) 理由別 (平成 23 年度～ 27 年度)

平成 23 年度

事由	専攻	修士	博士	計	総数(事由別)
休学による海外修学	メディカルゲノム	1	1	2	4
	環境システム学	1		1	
	国際協力学	1		1	
休学による海外調査	社会文化環境学	1		1	5
	国際協力学	1	3	4	
留学	先端エネルギー工学	1		1	14
	メディカルゲノム		1	1	
	海洋技術環境学	2		2	
	環境システム学	2		2	
	社会文化環境学	5		5	
	国際協力学	3		3	
計		18	5	23	23

平成 24 年度

事由	専攻	修士	博士	計	総数(事由別)
休学による海外修学	先端エネルギー工学	1		1	5
	メディカルゲノム	1	1	2	
	海洋技術環境学	1		1	
	人間環境学	1		1	
休学による海外調査	メディカルゲノム	1		1	5
	国際協力学	1	3	4	
留学	先端エネルギー工学	1		1	10
	自然環境学		1	1	
	海洋技術環境学	1		1	
	環境システム学	1		1	
	人間環境学	1		1	
	社会文化環境学	3		3	
	国際協力学	2		2	
計		15	5	20	20

平成 25 年度

事由	専攻	修士	博士	計	総数(事由別)
休学による海外修学	先端エネルギー工学	1	1	2	2
休学による海外調査	先端エネルギー工学	1		1	4
	海洋技術環境学	1		1	
	国際協力学		2	2	
留学	物質系	1	1	2	13
	先端エネルギー工学	1	2	3	
	メディカルゲノム	2		2	
	環境システム学	1		1	
	社会文化環境学	2		2	
	国際協力学	2		2	
	情報生命科学	1		1	
計		13	6	19	19

平成 26 年度

事由	専攻	修士	博士	計	総数(事由別)
休学による海外修学	先端生命科学	1		1	2
	国際協力学		1	1	
休学による海外調査	複雑理工学専攻	1		1	4
	海洋技術環境学	1		1	
	環境システム学		1	1	
	国際協力学		1	1	
留学	メディカルゲノム	1		1	7
	環境システム学	1	1	2	
	人間環境学		1	1	
	社会文化環境学	3		3	
計		8	5	13	13

平成 27 年度

事由	専攻	修士	博士	計	総数(事由別)
休学による海外修学	メディカル情報生命		1	1	4
	先端生命科学	1		1	
	国際協力学	2		2	
休学による海外調査	海洋技術環境学	1		1	4
	環境システム学		1	1	
	社会文化環境学	1		1	
	国際協力学	1		1	
留学	メディカル情報生命	2	1	3	9
	環境システム学	1		1	
	社会文化環境学	3		3	
	国際協力学	2		2	
計		14	3	17	17

(11) 研究科共通科目履修者数 (平成 27 年度)

	物質系	先端エネルギー工学	複雑理工学	先端生命科学	メディカル情報生命	自然環境学	海洋技術環境学
新領域創成科学特別講義 I	1	0	0	0	0	0	0
新領域創成科学特別講義 II	2	0	0	0	0	0	0
新領域創成科学特別講義 III	0	0	0	1	0	1	2
新領域創成科学特別講義 IV	3	2	0	0	0	1	0
新領域創成科学特別講義 V	—	—	—	—	—	—	—
新領域創成科学特別講義 VI	—	—	—	—	—	—	—
新領域創成科学特別講義 VII (学融合セミナー I)	—	—	—	—	—	—	—
新領域創成科学特別講義 VIII (学融合セミナー II)	3	2	2	44	2	0	1
新領域創成科学特別講義 IX (学融合セミナー III)	—	—	—	—	—	—	—
新領域創成科学特別講義 X (科学・技術英語 S)	3	4	1	0	2	0	2
新領域創成科学特別講義 XI (科学・技術英語 W)	4	2	0	1	0	4	1
新領域創成科学海外演習 I	—	—	—	—	—	—	—
新領域創成科学海外演習 II	0	0	0	0	0	0	0
新領域創成科学海外演習 III	0	0	0	0	0	0	0
新領域創成科学海外演習 IV	0	0	0	0	0	0	0
ストレスマネジメント論	32	12	2	49	4	0	0
健康スポーツ科学 I	—	—	—	—	—	—	—
健康スポーツ科学 II	4	6	0	0	0	0	1

	環境システム学	人間環境学	社会文化環境学	国際協力学	サステイナビリティ学グローバルリーダー養成大学院プログラム	他研究科
新領域創成科学特別講義 I	0	12	0	2	0	2
新領域創成科学特別講義 II	0	6	0	1	0	0
新領域創成科学特別講義 III	0	5	5	2	0	0
新領域創成科学特別講義 IV	0	3	0	3	0	1
新領域創成科学特別講義 V	—	—	—	—	—	—
新領域創成科学特別講義 VI	—	—	—	—	—	—
新領域創成科学特別講義 VII (学融合セミナー I)	—	—	—	—	—	—
新領域創成科学特別講義 VIII (学融合セミナー II)	0	4	1	0	0	2
新領域創成科学特別講義 IX (学融合セミナー III)	—	—	—	—	—	—
新領域創成科学特別講義 X (科学・技術英語 S)	1	1	2	2	2	5
新領域創成科学特別講義 XI (科学・技術英語 W)	1	0	0	2	1	2
新領域創成科学海外演習 I	—	—	—	—	—	—
新領域創成科学海外演習 II	1	0	1	0	0	0
新領域創成科学海外演習 III	0	0	1	0	0	0
新領域創成科学海外演習 IV	1	0	0	0	0	0
ストレスマネジメント論	11	29	0	4	0	7
健康スポーツ科学 I	—	—	—	—	—	—
健康スポーツ科学 II	0	23	0	2	0	3

注：新領域創成科学特別講義 I～IV

H23～H26 グローバル COE プログラム「ゲノム情報ビッグバン」に関連する最先端の研究を紹介

H27～人文社会系研究科（集英社 高度教養寄付講座）教員による文系講義

研究に関する資料

(1) 専攻別論文数の変化

1) 平成 27 年度の研究業績

	論文		国際 会議	学会発表 (左記以外)	著書・ 教科書	マスコミ 報道	その他 出版物	計	教員数	業績数/ 教員数	会議主催 ・チェア
物質系	127	(124)	70	415	10	13	2	637	28.75	22.2	6
先端エネルギー工学	91	(79)	79	245	2	6	5	428	19.67	21.8	6
複雑理工学	74	(71)	48	206	6	22	9	365	23.58	15.5	5
先端生命科学	61	(60)	26	115	8	15	8	233	24.00	9.7	3
メディカル情報生命	97	(97)	26	114	5	2	8	252	28.92	8.7	9
自然環境学	57	(47)	23	73	3	6	9	171	15.00	11.4	0
海洋技術環境学	20	(16)	15	53	2	7	9	106	9.83	10.8	4
環境システム学	31	(24)	10	102	1	0	6	150	13.00	11.5	1
人間環境学	46	(37)	64	72	0	0	0	182	19.00	9.6	1
社会文化環境学	31	(17)	14	67	5	5	8	130	13.67	9.5	4
国際協力学	25	(13)	3	20	10	0	6	64	9.17	7.0	0
研究科総計	654	(579)	378	1,475	52	76	69	2,704	204.58	13.2	39

() 内は英語論文数で内数、単位：件

2) 原著論文の推移 平成 22 年度～ 27 年度

専攻名	年度 (平成)						合計
	22 年	23 年	24 年	25 年	26 年	27 年	
物質系	92(84)	83(77)	77(72)	114(108)	95(91)	127(124)	588(556)
	17	21	12	18	15	70	153
先端エネルギー工学	81(52)	77(56)	80(56)	83(73)	109(87)	91(79)	521(403)
	118	130	108	120	101	79	656
複雑理工学	112(100)	67(62)	84(78)	77(72)	98(89)	74(71)	512(472)
	41	30	64	42	55	48	280
先端生命科学	57(57)	37(37)	47(46)	57(54)	61(58)	61(60)	320(312)
	29	28	24	11	30	26	148
メディカルゲノム	51(50)	48(48)	41(40)	47(42)	56(55)		243(235)
	11	14	3	14	10		52
情報生命科学	9(9)	18(18)	14(14)	16(16)	44(44)		101(101)
	0	0	0	0	5		5
メディカル情報生命						97(97)	97(97)
						26	26
自然環境学	45(28)	46(30)	44(28)	54(42)	50(33)	57(47)	296(208)
	14	27	25	25	24	23	138
海洋技術環境学	22(13)	9(6)	14(11)	18(9)	21(12)	20(16)	104(67)
	8	17	9	13	10	15	72
環境システム学	29(18)	38(29)	52(36)	38(22)	43(31)	31(24)	231(160)
	11	1	4	5	5	10	36
人間環境学	46(36)	47(32)	48(35)	55(35)	57(39)	46(37)	299(214)
	53	30	81	66	74	64	368
社会文化環境学	16(14)	10(7)	21(13)	34(18)	43(25)	31(17)	155(94)
	18	18	16	19	12	14	97
国際協力学	18(11)	11(11)	17(10)	23(14)	17(12)	25(13)	111(71)
	11	13	16	11	9	3	63
研究科総計	567(466)	481(403)	532(433)	593(490)	687(570)	654(579)	3,514(2,941)
	321	318	359	339	353	378	2,068

上段：学術論文誌 () 内は英語論文数で内数 下段：国際学会発表論文 (英語) 単位：件

3) 基調講演・招待講演数の推移 平成22年度～27年度

専攻名	年度（平成）						合計
	22年	23年	24年	25年	26年	27年	
物質系	18	19	20	50	57	115	279
先端エネルギー工学	21	28	31	32	25	40	177
複雑理工学	18	36	32	47	42	21	196
先端生命科学	18	22	15	16	29	14	114
メディカルゲノム	7	13	5	13	6		44
情報生命科学	0	4	0	0	5		9
メディカル情報生命						21	21
自然環境学	2	8	9	5	5	4	33
海洋技術環境学	8	6	10	12	16	7	59
環境システム学	6	5	2	3	3	6	25
人間環境学	13	13	23	33	32	23	137
社会文化環境学	2	4	5	8	19	7	45
国際協力学	2	3	4	1	4	9	23
研究科総計	115	161	156	220	243	267	1,162

対象：国際会議等の重要な会議 単位：件

(2) 海外との共同研究件数

1) 学振・二国間交流事業 平成23年度～27年度

23年度	3件
24年度	1件
25年度	3件
26年度	3件
27年度	2件
計	12件

2) その他外国との共同研究 平成22年度～27年度

22年度	3件
23年度	2件
24年度	0件
25年度	0件
26年度	1件
27年度	2件
計	8件

(3) 特許出願・契約状況

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
知的財産権出願（国内）	23	17	26	28	33	34
知的財産権出願（外国）	8	21	17	39	32	32
知的財産権保有件数（国内）	29	39	54	67	76	90
知的財産権保有件数（外国）	37	80	104	106	112	130

※保有件数については、当該年度末時点における数

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
契約件数	12	10	15	10	17	41

(4) 外部資金の獲得状況

1) 科学研究費補助金

(単位：千円)

研究種目名	平成 22 年度		平成 23 年度		平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度	
	内定 件数	内定額										
学術創成研究費	0	0	0	0								
基盤研究 (S)	7	238,420	6	170,300	5	127,790	5	108,290	3	137,540	4	164,710
基盤研究 (A)	22	312,390	25	362,440	22	261,820	26	309,400	24	305,890	22	287,170
基盤研究 (B)	51	290,550	50	240,760	41	210,600	41	226,850	42	215,540	52	268,710
基盤研究 (C)	16	24,570	15	25,740	22	38,220	19	34,320	21	34,710	23	34,060
特定領域研究	7	66,700	6	61,200	2	15,900						
若手研究 (S)	1	21,580	1	12,740	1	9,360						
若手研究 (A)	6	28,990	7	58,110	8	62,400	14	89,050	14	87,210	12	65,520
若手研究 (B)	30	51,610	25	41,470	25	41,080	27	41,080	25	33,280	28	39,260
研究活動スタート支援 (～ H21 年度 若手研究 スタートアップ)	5	7,462	2	2,574	1	1,560	1	1,300	4	5,200	9	11,570
挑戦的萌芽研究 (～ H20 年度 萌芽研究)	13	19,000	25	50,700	58	114,270	36	59,150	34	51,480	42	82,550
研究成果公開促進費	1	7,000	1	700	0	0	1	7,500	1	7,500	0	0
研究拠点形成費補助金	1	146,277	0	0	0	0	1	120,012	0	0	0	0
新学術領域研究	17	355,550	18	266,500	17	256,360	26	314,600	24	251,290	18	179,140
国際共同研究加速基金 (国際活動支援班) H27 年度～											1	10,660
国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化) H27 年度～											1	12,220
計	177	1,570,099	181	1,293,234	202	1,139,360	197	1,311,552	192	1,129,640	212	1,155,570

2) 受託研究, 共同研究, 寄付金

(単位：千円)

区分		平成 22 年度		平成 23 年度		平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度	
産学連携等	受託研究	83	918,612	83	737,436	73	773,966	79	856,907	94	946,331	111	1,247,358
	共同研究	172	301,279	174	366,203	159	441,898	201	448,410	207	501,699	209	622,071
寄付金		99	119,760	122	174,094	95	114,142	104	159,285	92	128,462	99	162,733
寄付金 (寄付講座)		3	45,000	4	115,000	3	80,000	12	116,000	10	87,000	26	152,500
計		357	1,384,651	383	1,392,733	330	1,410,006	396	1,580,602	403	1,663,492	445	2,184,662

3) 受入額 5000 万円以上の大型研究予算

平成 22 年度

研究費名称	研究課題名	研究者名	金額 (千円)
基盤研究 (S)	地球表層システムにおける海洋酸性化と生物大量絶滅	川幡 穂高	58,100
新学術領域研究 (領域提案型) 生命科学 3 分野	ゲノム科学の総合的推進に向けた大規模ゲノム情報生産・高度情報解析支援	菅野 純夫	243,050
新学術領域研究 (領域提案型) 生命科学 3 分野	ゲノム科学の総合的推進に向けた大規模ゲノム情報生産・高度情報解析支援	森下 真一	64,600
研究拠点形成費補助金	ゲノム情報ビッグバンから読み解く生命圏	森下 真一	146,277
受託研究	ノンフロン型省エネ冷凍空調システム開発/実用的な性能評価、安全基準の構築/エアコン用低 GWP 混合冷媒の物性と LCCP 評価	飛原 英治	179,996
受託研究	先進的地域基盤技術を活用した次世代型抗体創薬システム及び診断用デバイスの開発事業化	上田 卓也	78,375
受託研究	昆虫脱皮ホルモン合成系に着目した昆虫発育制御剤の探索	片岡 宏誌	58,500
受託研究	サハラを起点とするソーラーブリーダー研究開発	鯉沼 秀臣	101,865
受託研究	タンパク質生産技術開発に基づく「タンパク質発現ライブラリー基盤」の構築	上田 卓也	67,300

平成 23 年度

研究費名称	研究課題名	研究者名	金額 (千円)
新学術領域研究 (領域提案型) 生命科学 3 分野	ゲノム科学の総合的推進に向けた大規模ゲノム情報生産・高度情報解析支援	菅野 純夫	249,720
新学術領域研究 (領域提案型) 生命科学 3 分野	ゲノム科学の総合的推進に向けた大規模ゲノム情報生産・高度情報解析支援	森下 真一	64,600

平成 24 年度

研究費名称	研究課題名	研究者名	金額 (千円)
新学術領域研究 (領域提案型) 生命科学 3 分野	ゲノム科学の総合的推進に向けた大規模ゲノム情報生産・高度情報解析支援	菅野 純夫	318,710
新学術領域研究 (領域提案型) 生命科学 3 分野	ゲノム科学の総合的推進に向けた大規模ゲノム情報生産・高度情報解析支援	森下 真一	64,600
共同研究	持続可能な地圏開発に向けた環境問題対応技術の高度化とマネジメント手法の開発・適用	徳永 朋祥	50,600
共同研究	ウインドチャレンジャー (次世代風力推進船) の開発	尾崎 雅彦	108,000

平成 25 年度

研究費名称	研究課題名	研究者名	金額 (千円)
新学術領域研究 (領域提案型) 生命科学 3 分野	ゲノム科学の総合的推進に向けた大規模ゲノム情報生産・高度情報解析支援	菅野 純夫	311,099
新学術領域研究 (領域提案型) 生命科学 3 分野	ゲノム科学の総合的推進に向けた大規模ゲノム情報生産・高度情報解析支援	森下 真一	63,000
研究拠点形成費補助金	ゲノム情報ビッグバンから読み解く生命圏	森下 真一	120,012

平成 26 年度

研究費名称	研究課題名	研究者名	金額 (千円)
基盤研究 (S)	環動分子構造を利用した物質輸送膜システムの創成	伊藤 耕三	68,600
新学術領域研究 (領域提案型) 生命科学 3 分野	ゲノム科学の総合的推進に向けた大規模ゲノム情報生産・高度情報解析支援	菅野 純夫	76,800
共同研究	有機半導体関連技術研究	竹谷 純一	57,964

平成 27 年度

研究費名称	研究課題名	研究者名	金額 (千円)
基盤研究 (S)	2次元画像比較を駆使した超高磁場リコネクションの巨大加熱・加速の解明と応用開拓	小野 靖	61,800
新学術領域研究 (領域提案型) 生命科学 3 分野	ゲノム科学の総合的推進に向けた大規模ゲノム情報生産・高度情報解析支援	菅野 純夫	304,440
新学術領域研究 (領域提案型) 生命科学 3 分野	ゲノム科学の総合的推進に向けた大規模ゲノム情報生産・高度情報解析支援	森下 真一	63,000
共同研究	有機半導体関連技術研究	竹谷 純一	74,520
共同研究	革新的高性能有機トランジスタを用いたプラスチック電子タグの開発	松井 弘之	54,000
共同研究	有機半導体合成技術研究	竹谷 純一	64,800

社 会 貢 献

(1) 施設見学

平成23年度～27年度（柏共通事務センター受付分）

平成23年度

NO	日時	機関名	人数	見学・視察場所					担当部局等
1	H23.8.5	高松第一高等学校	48	図書館	物)低温液化室	物)強磁場実験棟	新)屋外メダカ飼育場		リエゾン室対応
2	H23.8.26	久米建設(株)	8	新)生命棟	新)環境棟				総務・広報係対応
3	H23.10.17	ウィーン工科大学		新領域					部局対応
4	H23.11.9	国際公共政策研究センター	13	新領域					小泉元首相来訪
5	H23.11.30	柏市立大津ケ丘中学校	38	大海)海洋生物飼育実験施設	新)環境棟	新)風洞			リエゾン室対応
6	H23.12.14	千葉県保安課高圧ガス管理者研修	95	物)低温液化室	物)強磁場実験棟	新)風洞実験室			リエゾン室対応
7	H24.3.23	群馬工業高等専門学校	53	柏図書館	新)生命棟	新)極超音速高エンタルピー風洞	物)強磁場実験棟		リエゾン室対応
8	H24.3.28	タイ訪問団	12	新)基盤棟					部局対応
		合計	267						

平成24年度

NO	日時	機関名	人数	見学・視察場所					担当部局等
1	H24.8.3	高松第一高等学校	44	新)極超音速高エンタルピー風洞	物)強磁場実験棟	人工物	柏図書館		リエゾン室対応
2	H24.8.10	愛媛県立西条高等学校	15	新)環境棟	新)めだか屋内飼育室	新)めだか屋外飼育場	新)基盤科学実験棟高温プラズマ実験装置	新)極超音速高エンタルピー風洞	部局対応
3	H24.10.5	南アフリカケープタウン大学長・南アフリカ大使館員訪問	3	新)基盤棟	新)メダカ屋外飼育場	新)電気自動車実験施設	新)環境棟		部局対応
4	H24.11.2	国際エネルギー機関(IEA)の実験設備見学	25	新)総合研究棟					部局対応
5	H24.11.2	都立多摩科学技術高校	45	新)基盤科学実験棟	高温プラズマ実験装置	新)極超音速高エンタルピー風洞	新)生命棟		部局対応
6	H24.11.2	千葉県産業支援技術研究所	52	新)情報生命科学実験棟	新)総合研究棟	物)強磁場実験棟			リエゾン室対応
7	H24.12.6	電気学会調査専門委員会	12	新)総合研究棟					部局対応
8	H25.3.21	群馬工業高等専門学校	55	柏図書館	新)環境棟	物)強磁場実験棟	新)極超音速高エンタルピー風洞		リエゾン室対応
		合計	251						

平成25年度

NO	日時	機関名・目的等	人数	見学・視察場所						担当部局等
1	H25.5.10	山中伸一(文部科学審議官)訪問	2	カブリ数物	物性)本館強磁場実験棟	新)極超音速高エンタルピー風洞	大気海洋研究所			柏地区
2	H25.5.24	市川高等学校SSH研修(化学分野)	17	新)基盤棟(川合研究室)						新領域
3	H25.5.29	マスダール科学技術大学(日本国際協力センター)施設見学・研究発表	10	新)環境棟国際協力学専攻	柏図書館自動書庫、館内見学	新)先端エネルギー工学専攻、電気自動車見学				新領域
4	H25.6.18	電気学会東京支部	30	新)総合研究棟(地下1階)						新領域
5	H25.6.21	オランダ使節団	6	新)総合研究棟(地下1階)						新領域
6	H25.10.3	関東第一高等学校見学	22	宇宙)第2総合研究棟	新)生命棟	新)メダカ飼育室(屋内・屋外)				柏リエゾン室
7	H25.11.8	千葉・神奈川銀杏会東葛地区在住OB	22	Kavli IPMU	(IOG)第2総合研究棟施設見学1・2F	新)基盤実験棟EVガレージ	新)基盤棟5階5A1			柏地区
8	H25.12.13	桜田義孝(文科副大臣)の視察	2	新)基盤棟大会議室	物性)先端分光実験棟	物)国際超強磁場科学研究施設	新)極超音速高エンタルピー風洞	新)環境棟	新)柏II(生涯スポーツ)、柏インターナショナル・ロッジ	新領域
9	H26.2.4	平田竹男内閣官房参与(2020年オリンピック・パラリンピック東京大会推進室長)の訪問	2	Kavli	IPMU(3階:藤原交流広場)	物性)強磁場実験棟	物性)先端分光実験棟	新)柏II(生涯スポーツ)		柏地区
		合計	113							

平成26年度

NO	日時	機関名・目的等	人数	見学・視察場所						担当部局等
1	H26.5.27	会計検査院原田課長視察	20	Kavli IPMU	宇宙線研)6展示場	物)強磁場実験棟	新)極超音速高エンタルピー風洞	新領)メダカ飼育室(屋内・屋外)	大海研)加速器実験棟FC)柏の葉キャンパス駅前サテライト	柏地区
2	H26.7.9	都立多摩科学技術高校	33	新)極超音速高エンタルピー風洞	新)プラズマ	新領)メダカ飼育室(屋外)				新領域
3	H26.7.10	読売テクノ・フォーラム	14	大海研)講義室2F	大海研)飼育室	Kavli IPMU	新)生命棟講義室	新)メダカ飼育室(屋内)		柏リエゾン室
4	H26.7.31	柏の葉サイエンスフォーラム参加高校生施設見学	79	新)基盤棟、生命棟、環境棟	物性)本館、B棟	宇宙線研	大海研	Kavli IPMU	情セ)第2総合研究棟	柏リエゾン室
5	H26.10.9	茨城県立竜ヶ崎第一高等学校	47	物性)本館第一会議室	物)スパコン施設	物)低温・多重極限実験棟	物)強磁場実験棟	新)生命棟講義室(地下1階)	新)屋外メダカ飼育室	柏リエゾン室
6	H26.12.5	放電学会若手セミナー	40	宇宙線研究所	新領域					宇宙線研
		合計	233							

平成27年度

NO	日時	機関名(目的)等	人数	見学・視察場所					担当部局等	
1	H27.7.10	海城中学高等学校(模擬授業・施設見学)	32	新)生命棟講義室	新)メダカ屋内飼育室	新)めだか屋外飼育場				新領域
2	H27.7.13	同済大学(施設見学)	30	新)メダカ屋内飼育施設	新)植物生存システム分野(河野重行教授)					新領域
3	H27.8.23	岡山学芸館清秀中学校・高等部(施設見学)	30	新)生命棟	情セ)第2総合研究棟スーパーコンピュータOakleaf-FX	新)めだか屋外飼育場				新領域
4	H27.9.11	国際会議:US-Japan workshop on compact torus (施設見学)	20	新)基盤科学実験棟球状トカマク実験装置(TST-2)	新)基盤科学実験棟球状トカマク合体実験装置(UTST)	新)基盤科学実験棟高温プラズマ実験装置(RT-1)				新領域
5	H27.10.14	茨城県立竜ヶ崎第一高等学校(講義・施設見学)	45	物性)6階第一会議室	物性)スパコン施設、低温液化室、強磁場施設	新)基盤棟2階大講義室、基盤実験棟極超音速高エンタルピー風洞				柏リエゾン室
6	H27.10.23	未来子ども学校(施設見学)	25	新)基盤科学実験棟高温プラズマ実験装置(RT-1)	新)一般公開施設	大海)一般公開施設	カブリ)一般公開施設			共同学術経営委員会
7	H27.11.9	沖縄県立球陽高等学校(講義・施設見学)	43	新)基盤棟2階大講義室、基盤実験棟極超音速高エンタルピー風洞	高齢社会)第2総合研究棟2階202会議室					柏リエゾン室
8	H27.11.10	群馬県前橋高校(模擬授業・施設見学)	40	新)基盤棟講義室	新)めだか屋外飼育場					新領域
9	H27.12.16	富山大学長(施設見学)	2	新)研究科長、基盤等6階、メダカ屋内飼育室	物性)強磁場施設	カブリ)建物内施設				柏リエゾン室
10	H28.2.2	千葉県異業種交流融合化協議会(講義・施設見学)	30	物性)6階第一会議室	物性)スパコン施設、強磁場施設	新)基盤科学実験棟極超音速高エンタルピー風洞				柏リエゾン室
11	H28.2.18	柏商工会議所女性会(施設見学)	23	図書館)館内施設	新)保坂研究室	大海)飼育実験施設、海洋観測機器棟				柏リエゾン室
		合計	320							

(2) 出前授業

平成 23 年度 (途中から)

No	日程	実施対象校	授業タイトル	講師	系
1	11 / 10(木)	関東第一高等学校	未来のロケット推進	小紫 公也	基盤
2	11 / 17(木)	柏市立松葉中学校	クロマグロ：熱い血潮を持つ魚	北川 貴士	環境
3	11 / 22(火)	広島城北中高等学校	未来のロケット推進	小紫 公也	基盤
4	12 / 6 (火)	昭和女子大学付属昭和中学校	海洋エネルギー	影本 浩	環境
5	12 / 7 (水)	開智中学・高等学校	メダカが教えてくれること	尾田 正二	生命
6	12 / 7 (水)	鈴鹿中学高等学校	生物多様性を考える	影本 浩	環境
7			クロマグロ：熱い血潮を持つ魚	北川 貴士	環境
8	12 / 10(土)	神奈川県立相模原中等教育学校	身近な環境問題を考える	影本 浩	環境
9			生物多様性を考える	影本 浩	環境
10	2 / 23 (木)	NPO 法人 新現役ネット	海洋の再生可能エネルギーと洋上風力発電	鈴木 英之	環境
11	2 / 23 (木)	関東第一高等学校	海洋エネルギー	影本 浩	環境

平成 24 年度

No	日程	実施対象校	授業タイトル	講師	系
1	6 / 23 (土)	私立土佐塾高等学校	未来のロケット推進	小紫 公也	基盤
2	6 / 26 (火)	ニュートンプレイスシニアクラブ	メダカが教えてくれること	尾田 正二	生命
3	6 / 28 (木)	平塚中等教育学校	海洋の再生可能エネルギーと洋上風力発電	鈴木 英之	環境
4	7 / 12 (木)	芝浦工業大学柏中学高等学校	未来のロケット推進	小紫 公也	基盤
5	9 / 14 (金)	青森県立弘前高等学校	未来のロケット推進	小紫 公也	基盤
6	9 / 15 (土)	長野県屋代高等学校	身近な環境問題を考える	影本 浩	環境
7	9 / 20 (木)	美浜生き生き大大学校	生物多様性を考える	影本 浩	環境
8	9 / 28 (金)	新潟県立新潟南高等学校	未来のロケット推進	小紫 公也	基盤
9	11 / 2 (金)	都立多摩科学技術高等学校	メダカが教えてくれること	尾田 正二	生命
10	11 / 13(火)	神奈川県立座間高等学校	先端科学技術と生命科学	佐々木 裕次	基盤
11	11 / 21(水)	千葉県立東葛飾高等学校	身近な環境問題を考える	影本 浩	環境
12	12 / 20(木)	都立小石川中等教育学校	ナノスペースで決まるマテリアルの機能 ー準結晶の物理や熱電発電までー	木村 薫	基盤
13	1 / 23 (水)	新潟県立小千谷高等学校	メダカが教えてくれること	尾田 正二	生命
14	3 / 6 (水)	東村山市立公民館	海洋の再生可能エネルギーと洋上風力発電	鈴木 英之	環境
15	3 / 18 (月)	栃木県立栃木高等学校	ワイヤレスエネルギー伝送技術	小紫 公也	基盤

平成 25 年度

No	日程	実施対象	校授業タイトル	講師	系
1	4 / 27(土)	岡山学芸館清秀中学校・高等部	メダカが教えてくれること	尾田 正二	生命
2	5 / 28(火)	柏市立田中北小学校	メダカが教えてくれること	尾田 正二	生命
3	6 / 27(木)	神奈川県立平塚中等教育学校	ナノスペースで決まるマテリアルの機能 ー準結晶の物理や熱電発電までー	木村 薫	基盤
4	7 / 12(金)	八千代松陰高等学校	先端科学技術と生命科学	佐々木 裕次	基盤
5	7 / 18(木)	岡山県立岡山芳泉高等学校	メダカが教えてくれること	尾田 正二	生命
6	7 / 25(木)	徳島市立高等学校 (※柏キャンパスにて実施)	先端科学技術と生命科学	佐々木 裕次	基盤
7	8 / 17(土)	NPO 法人 新現役ネット	体内時計と健康	大石 勝隆	生命
8	8 / 28(水)	社会福祉法人くわの実会 原谷学童クラブ	メダカが教えてくれること	尾田 正二	生命
9	9 / 6(金)	青森県立弘前高等学校	海洋の再生可能エネルギー or 洋上風力発電	鈴木 英之	環境
10	9 / 6(金)	芝浦工業大学柏中学高等学校	CO2 貯留技術の環境影響評価	佐藤 徹	環境
11	10 / 4(金)	福島県立葵高等学校	インフルエンザと糖	山本 一夫	生命
12	10 / 23(水)	新潟明訓高等学校	未来のロケット推進	小紫 公也	基盤
13	10 / 24(木)	静岡県立富士高等学校	染色体を解析して分かること	佐藤 均	生命
14	10 / 25(金)	茨城県立緑岡高等学校	がん化の仕組みと新しい治療薬	武川 睦寛	生命
15	10 / 30(水)	宮崎県立延岡高等学校	インフルエンザと糖	山本 一夫	生命
16	11 / 6(水)	済々黌高等学校	未来のロケット推進	小紫 公也	基盤
17	11 / 6(水)	東京都市大学等々力中学校・ 高等学校	インフルエンザと糖	山本 一夫	生命
18			海洋エネルギー	影本 浩	環境
19	11 / 16(土)	都立大泉高等学校附属中学校	未来のロケット推進	小紫 公也	基盤

20	11/18(月)	千葉県立船橋高等学校	インフルエンザと糖	山本 一夫	生命
21			染色体を解析して分かること	佐藤 均	生命
22	11/19(火)	鈴鹿中学校・高等学校	インフルエンザと糖	山本 一夫	生命
23	11/20(水)	千葉県立東葛飾高等学校	ナノスペースで決まるマテリアルの機能 ー準結晶の物理や熱電発電までー	木村 薫	基盤
24	12/14(土)	静岡県立葎山高等学校	未来のロケット推進	小紫 公也	基盤
25	1/7(火)	江東区社会福祉協議会	メダカが教えてくれること	尾田 正二	生命
26	1/17(金)		メダカが教えてくれること	尾田 正二	生命
27	3/12(水)	須磨学園高等学校	未来のロケット推進	小紫 公也	基盤
28	3/17(月)	栃木県立栃木高等学校	がん化の仕組みと新しい治療薬	武川 睦寛	生命
29	3/17(月)	新潟県立高田高等学校	ナノスペースで決まるマテリアルの機能 ー準結晶の物理や熱電発電までー	木村 薫	基盤

平成 26 年度

No	日程	実施対象校	授業タイトル	講師	系
1	5/10(土)	都立大泉高等学校附属中学校	メダカが教えてくれること	尾田 正二	生命
2	6/14(土)	岡山学芸館清秀中学校・高等部	メダカが教えてくれること	尾田 正二	生命
3	6/18(水)	茨城県立並木中等教育学校	染色体を解析して分かること	佐藤 均	生命
4			ナノスペースで決まるマテリアルの機能 ー準結晶の物理や熱電発電までー	木村 薫	基盤
5			体内時計と健康	大石 勝隆	生命
6	6/21(土)	高知県私立土佐塾高等学校	染色体を解析して分かること	佐藤 均	生命
7	6/24(火)	成田市立豊住小学校	メダカが教えてくれること	尾田 正二	生命
8	6/25(水)	柏市立田中北小学校	メダカが教えてくれること	尾田 正二	生命
9	7/10(木)	埼玉県立越谷総合技術高等学校	未来のロケット推進	小紫 公也	基盤
10	7/19(土)	岡崎城西高等学校	未来のロケット推進	小紫 公也	基盤
11	8/3(土)	江戸川区立東葛西図書館	メダカが教えてくれること	尾田 正二	生命
12	9/13(土)	長野県屋代高等学校・付属中学校	ナノスペースで決まるマテリアルの機能 ー準結晶の物理や熱電発電までー	木村 薫	基盤
13	9/30(火)	埼玉県立越谷総合技術高等学校	暗号と情報セキュリティ符号化 ー情報を安全に伝送・保管する方法ー	山本 博資	基盤
14	10/3(金)	山梨県立都留高等学校	生物多様性を考える	影本 浩	環境
15	10/15(水)	都立国際高等学校	サステナビリティ ～未来をデザインするコンセプト	味埜 俊	環境
16	10/15(水)	群馬県立太田高等学校	染色体を解析して分かること	佐藤 均	生命
17	10/22(水)	新潟明訓高等学校	体内時計と健康	大石 勝隆	生命
18	10/23(木)	栃木県立矢板高等学校	サステナビリティ ～未来をデザインするコンセプト	味埜 俊	環境
19	10/23(木)	愛知県立半田高等学校	核融合エネルギー開発の最前線	小川 雄一	基盤
20	10/24(金)	茨城県立緑岡高等学校	体内時計と健康	大石 勝隆	生命
21	10/24(金)	鹿児島県立鶴丸高等学校	サステナビリティ ～未来をデザインするコンセプト	田中 俊徳	環境
22	10/29(水)	宮城県立延岡高等学校	体内時計と健康	大石 勝隆	生命
23	10/31(金)	熊本県立宇土高等学校	核融合エネルギー開発の最前線	小川 雄一	基盤
24	11/9(日)	足立区役所環境部環境政策課	生物多様性を考える	影本 浩	環境
25	11/12(水)	熊本県立済々黌高等学校	染色体を解析して分かること	佐藤 均	生命
26	11/14(金)	岡山県立岡山芳泉高等学校	メダカが教えてくれること	尾田 正二	生命
27	11/14(金)	山梨県立都留高等学校	核融合エネルギー開発の最前線	小川 雄一	基盤
28	11/15(土)	都立大泉高等学校附属中学校	核融合エネルギー開発の最前線	小川 雄一	基盤
29	11/19(水)	千葉県立東葛飾高等学校	先端科学技術と生命科学	佐々木 裕次	基盤
30	11/21(金)	鹿児島県立甲南高等学校	サステナビリティ ～未来をデザインするコンセプト	田中 俊	環境
31	11/28(金)	埼玉県立所沢北高等学校	ワイヤレスエネルギー伝送技術	小紫 公也	基盤
32	12/17(水)	都立小石川中等教育学校	ナノスペースで決まるマテリアルの機能 ー準結晶の物理や熱電発電までー	木村 薫	基盤
33	1/17(土)	豊島区立千川中学校	インフルエンザと糖	山本 一夫	生命
34	1/29(木)	鈴鹿中学校・高等学校	染色体を解析して分かること	佐藤 均	生命
35	2/16(月)	埼玉県秩父郡小鹿野町立尚神小学校	メダカが教えてくれること	尾田 正二	生命
36	3/16(月)	栃木県立栃木高等学校	核融合エネルギー開発の最前線	小川 雄一	基盤

平成 27 年度

No	日程	実施対象校	授業タイトル	講師	系
1	5/23(土)	実践女子学園高等学校	先端科学技術と生命科学	佐々木 裕次	基盤
2	6/11(木)	長野県松本深志高等学校 (医科研にて実施)	がん化の仕組みと新しい治療薬	武川 睦寛	生命
3	6/17(水)	茨城県立並木中等教育学校	先端科学技術と生命科学	佐々木 裕次	基盤
4			未来のロケット推進	小紫 公也	基盤
5	6/17(水)	学校法人静岡理工科大学星陵高等学校	核融合エネルギー開発の最前線	小川 雄一	基盤
6	6/20(土)	國學院大學栃木高等学校	ナノスペースで決まるマテリアルの機能 ー準結晶の物理や熱電発電までー	木村 薫	基盤
7	6/26(金)	多摩大学附属聖ヶ丘中学高等学校	インフルエンザと糖	山本 一夫	生命
8	7/2(木)	青森県立五所川原高等学校	染色体を解析して分かること	佐藤 均	生命
9	7/22(水)	(独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構	ウナギとマグロの大回遊 ー持続的資源の利用に向けてー	木村 伸吾	環境
10	9/5(土)	実践女子学園高等学校	染色体を解析して分かること	佐藤 均	生命
11	9/26(土)	大泉高等学校附属中学校	メダカが教えてくれること	尾田 正二	生命
12	10/8(木)	開智中学・高等学校	インフルエンザと糖	山本 一夫	生命
13	10/16(金)	群馬県立前橋女子高等学校	海洋エネルギー	影本 浩	環境
14	10/16(金)	熊本県立宇土高等学校	体内時計と健康	大石 勝隆	生命
15	10/22(木)	静岡県立富士高等学校	未来のロケット推進	小紫 公也	基盤
16	10/23(金)	鹿児島県立鶴丸高等学校	核融合エネルギー開発の最前線	小川 雄一	基盤
17	10/27(火)	群馬県立太田高等学校	未来のロケット推進	小紫 公也	基盤
18	10/28(水)	宮崎県立延岡高等学校	未来のロケット推進	小紫 公也	基盤
19	10/28(水)	日本橋女学館高等学校	体内時計と健康	大石 勝隆	生命
20	10/29(木)	千葉県立船橋高等学校	ナノスペースで決まるマテリアルの機能 ー準結晶の物理や熱電発電までー	木村 薫	基盤
21	10/30(金)	鹿児島県立楠隼高等学校	サステナビリティ ～未来をデザインするコンセプト	田中 俊徳	環境
22	11/5(木)	開智中学・高等学校	未来のロケット推進	小紫 公也	基盤
23	11/6(金)	埼玉県立所沢北高等学校	ワイヤレスエネルギー伝送技術	小紫 公也	基盤
24	11/10(火)	熊本県立済々黉高等学校	インフルエンザと糖	山本 一夫	生命
25	11/11(水)	都立国際高等学校	ウナギとマグロの大回遊 ー持続的資源の利用に向けてー	木村 伸吾	環境
26	11/13(金)	愛知県立半田高等学校	核融合エネルギー開発の最前線	小川 雄一	基盤
27	11/13(金)	岡山県立岡山芳泉高等学校	メダカが教えてくれること	尾田 正二	生命
28	11/20(金)	足立区立千寿青葉中学校	先端科学技術と生命科学	佐々木 裕次	基盤
29	11/20(金)	鹿児島県立甲南高等学校	ウナギとマグロの大回遊 ー持続的資源の利用に向けてー	木村 伸吾	環境
30	11/21(土)	大泉高等学校附属中学校	身近な環境問題を考える	影本 浩	環境
31	11/26(木)	渋谷教育学園幕張中学高等学校	ナノスペースで決まるマテリアルの機能 ー準結晶の物理や熱電発電までー	木村 薫	基盤
32	12/4(金)	青森県立五所川原高等学校	暗号と情報セキュリティ符号化 ー情報を安全に伝送・保管する方法ー	山本 博資	基盤
33	12/8(木)	茨城県立古河中等教育学校	未来のロケット推進	小紫 公也	基盤
34	12/9(金)	静岡理工科大学星陵高等学校	生物多様性を考える	影本 浩	環境
35	12/19(土)	東海大学付属高輪台高等学校	生物多様性を考える	影本 浩	環境
36	12/21(月)	都立小石川中等教育学校	ナノスペースで決まるマテリアルの機能 ー準結晶の物理や熱電発電までー	木村 薫	基盤
37	1/26(火)	鈴鹿中学校・高等学校	体内時計と健康	大石 勝隆	生命
38	2/4(木)	石川県立金沢錦丘高等学校	海洋エネルギー	影本 浩	環境
39	2/13(土)	大泉高等学校附属中学校	インフルエンザと糖	山本 一夫	生命
40	3/14(月)	栃木県立栃木高等学校	海洋エネルギー	影本 浩	環境
41	3/18(金)	山梨県立都留高等学校	サステナビリティ ～未来をデザインするコンセプト	小貫 元治	環境

平成 28 年度 (11 月 25 日現在)

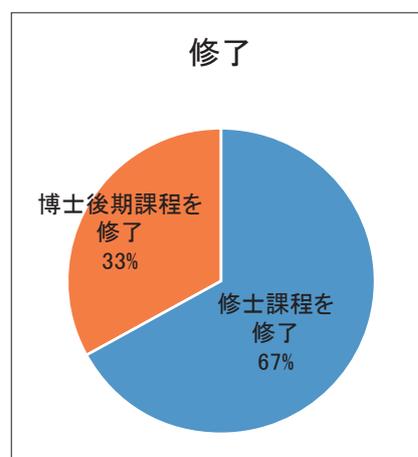
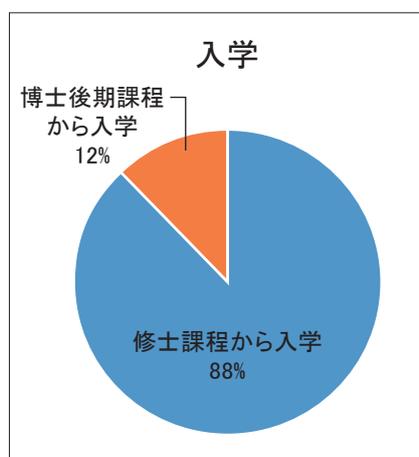
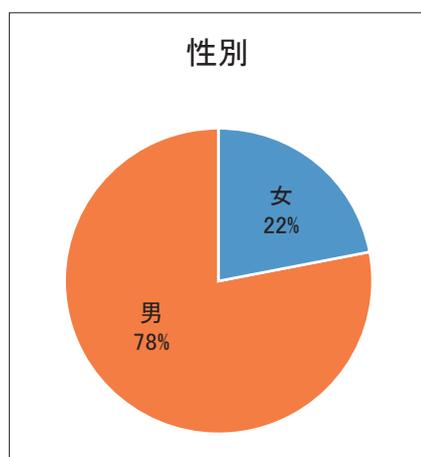
No	日程	実施対象校	授業タイトル	講師	系
1	6/17(金)	茨城県立並木中等教育学校	ナノスペースで決まるマテリアルの機能 ー準結晶の物理や熱電発電までー	木村 薫	基盤
2			核融合エネルギー開発の最前線	小川 雄一	基盤
3	6/22(水)	星陵高等学校	体内時計と健康	大石 勝隆	生命
4	6/22(水)	昭和学院秀英高等学校	ウナギとマグロの大回遊 ー持続的資源の利用に向けてー	木村 伸吾	環境
5	6/30(木)	青森県立五所川原高等学校	未来のロケット推進	小紫 公也	基盤
6	7/12(火)	洗足学園高等学校	CO2 貯留技術の環境影響評価	佐藤 徹	環境
7	7/25(月)	江戸川学園取手中学・高等学校	核融合エネルギー開発の最前線	小川 雄一	基盤
8	8/3(水)	星野高等学校	未来のロケット推進	小紫 公也	基盤
9	8/4(木)	高松第一高等学校 (※柏キャンパスにて実施)	海洋の再生可能エネルギー or 洋上風力発電	鈴木 英之	環境
10	9/13(火)	江戸川学園取手中学・高等学校	未来のロケット推進	小紫 公也	基盤
11	9/24(土)	大泉高等学校附属中学校	未来のロケット推進	小紫 公也	基盤
12	9/26(月)	NPO 法人新現役ネット	染色体を解析して分かること	佐藤 均	生命
13	10/5(水)	多摩大学附属聖ヶ丘中学高等学校	体内時計と健康	大石 勝隆	生命
14	10/19(水)	都立南多摩中等教育学校	サステイナビリティ ～未来をデザインするコンセプト	関山 牧子	環境
15	10/20(木)	熊本県立玉名高等学校	サステイナビリティ ～未来をデザインするコンセプト	松田 浩敬	環境
16	10/21(金)	東京農業大学第二高等学校	体内時計と健康	大石 勝隆	生命
17			昆虫に学ぶ性を決めるスイッチのしくみ	鈴木 雅京	生命
18	10/26(水)	宮崎県立延岡高等学校	ウナギとマグロの大回遊 ー持続的資源の利用に向けてー	木村 伸吾	環境
19	10/28(金)	都立立川高等学校	メダカが教えてくれること	尾田 正二	生命
20	10/28(金)	鹿児島県立鶴丸高等学校	核融合エネルギー開発の最前線	小川 雄一	基盤
21	10/28(金)	芝浦工業大学柏高等学校	インフルエンザと糖	山本 一夫	生命
22	11/8(火)	群馬県立前橋高等学校 (柏キャンパスにて実施)	体内時計と健康	大石 勝隆	生命
23	11/9(水)	熊本県立済々黌高等学校	未来のロケット推進	小紫 公也	基盤
24	11/9(水)	群馬県立館林高等学校	ナノスペースで決まるマテリアルの機能 ー準結晶の物理や熱電発電までー	木村 薫	基盤
25	11/11(金)	鹿児島県立甲南高等学校	メダカが教えてくれること	尾田 正二	生命
26	11/11(金)	愛知県立半田高等学校	核融合エネルギー開発の最前線	小川 雄一	基盤
27	11/12(土)	江戸川学園取手中学・高等学校	染色体を解析して分かること	佐藤 均	生命
28	11/15(火)	星陵高等学校	サステイナビリティ ～未来をデザインするコンセプト	工藤 尚悟	環境
29	11/17(木)	千葉県立船橋高等学校	未来のロケット推進	小紫 公也	基盤
30	11/18(金)	渋谷教育学園幕張中学高等学校	サステイナビリティ ～未来をデザインするコンセプト	田中 俊徳	環境
31	11/18(金)	岡山県立岡山芳泉高等学校	メダカが教えてくれること	尾田 正二	生命

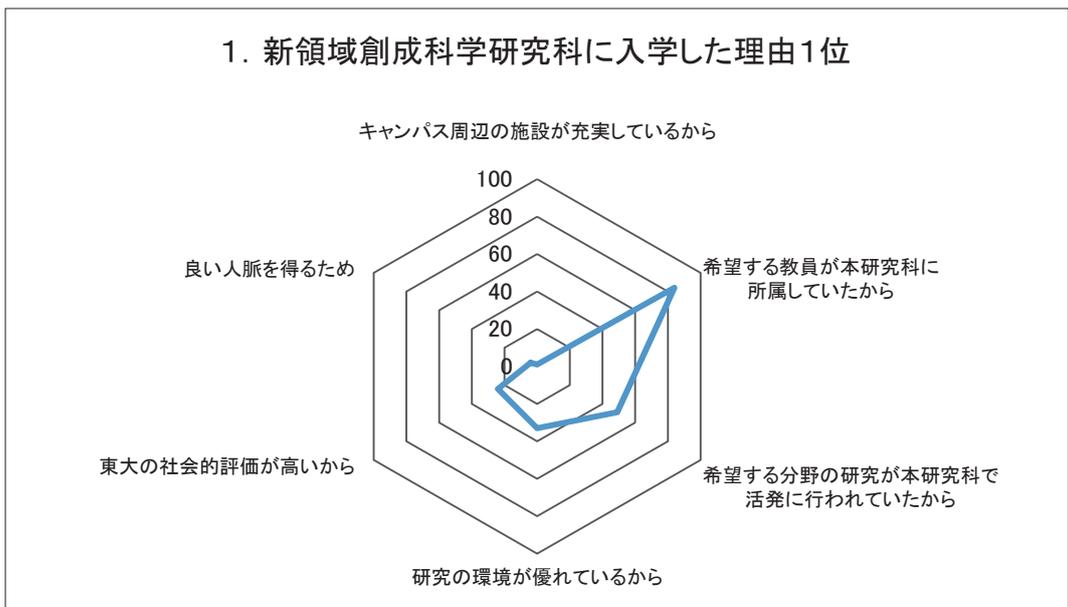
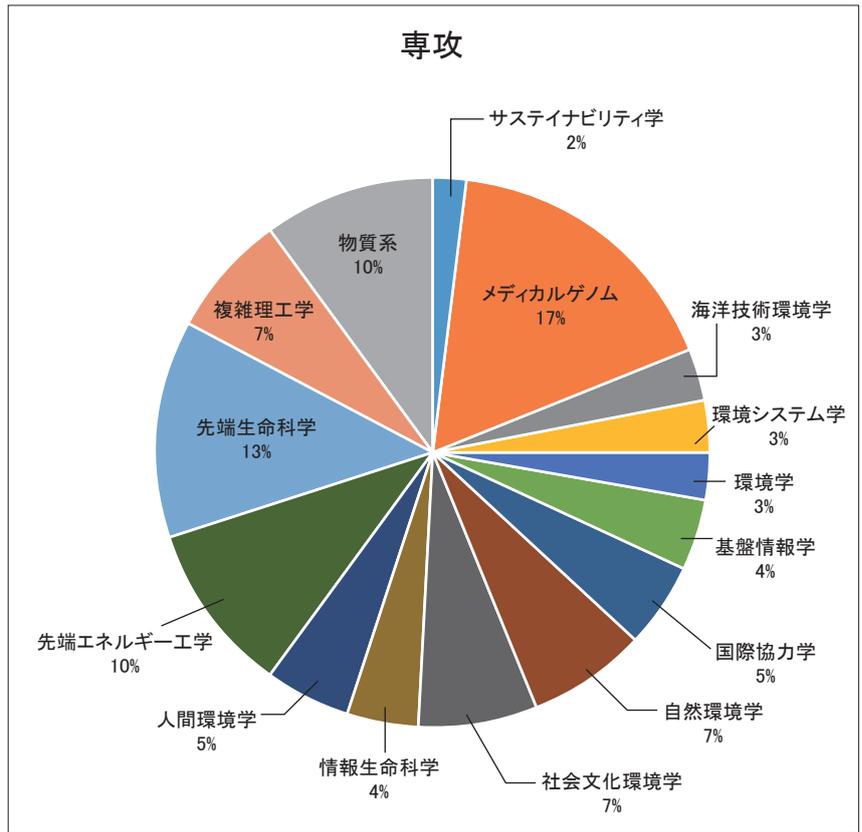
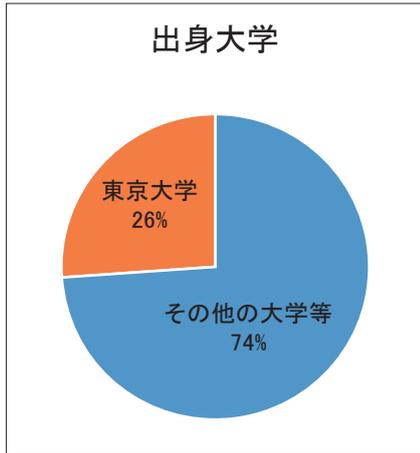
平成 27 年度修了生 アンケート集計

4. 平成27年度修了生アンケートの集計

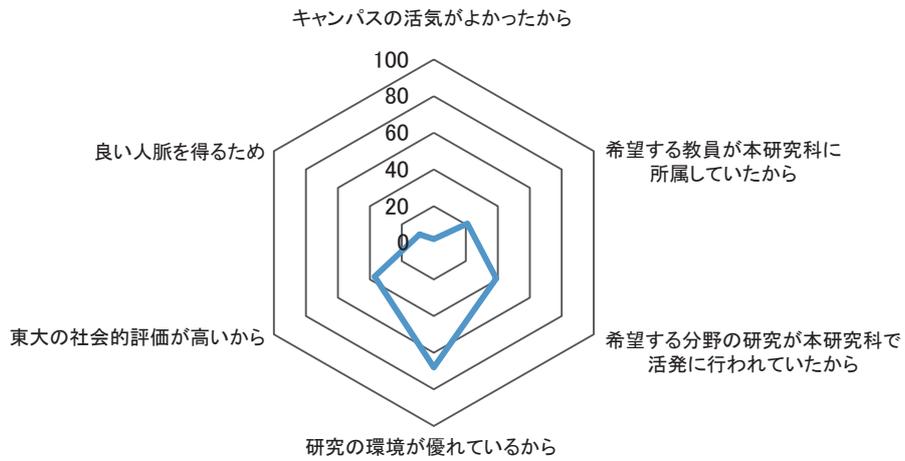
回答数 195名 (男 152名 女 43名)

専攻	回答者学生数 (男)	回答者学生数 (女)	専攻別合計
物質系	17	3	20
先端エネルギー工学	19	1	20
複雑理工学	12	1	13
先端生命	18	8	26
メディカルゲノム	21	11	32
情報生命科学	7	1	8
自然環境学	7	7	14
海洋技術環境学	4	1	5
環境学	6	0	6
基盤情報学	8	0	8
環境システム学	5	1	6
人間環境学	10	0	10
社会文化環境	10	4	14
国際協力学	7	3	10
GPSS-GLI	1	2	3
全体	152	43	195

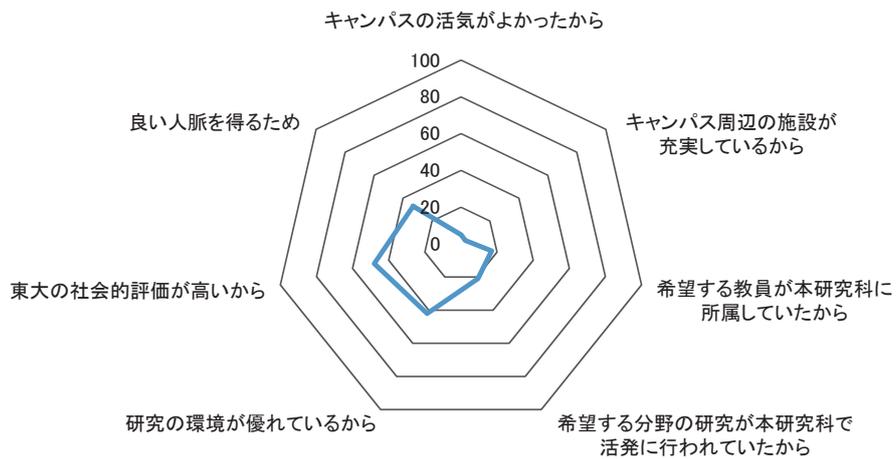




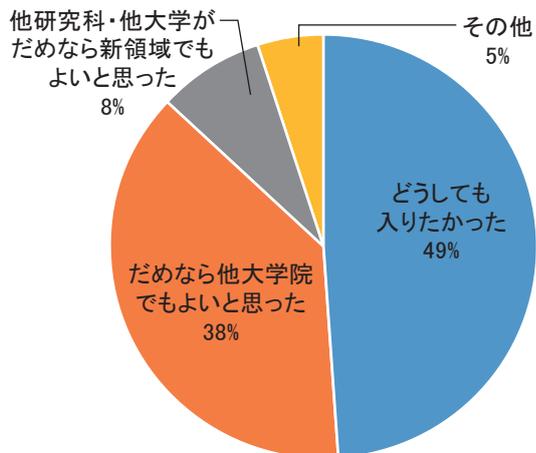
1. 新領域創成科学研究科に入学した理由2位



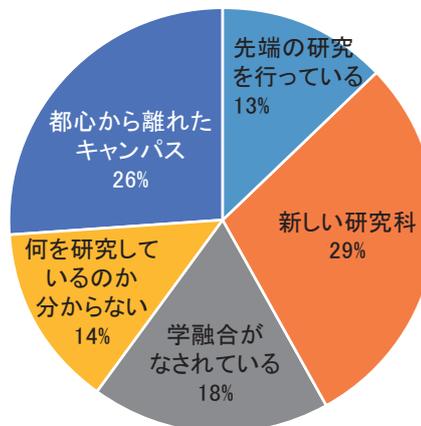
1. 新領域創成科学研究科に入学した理由3位



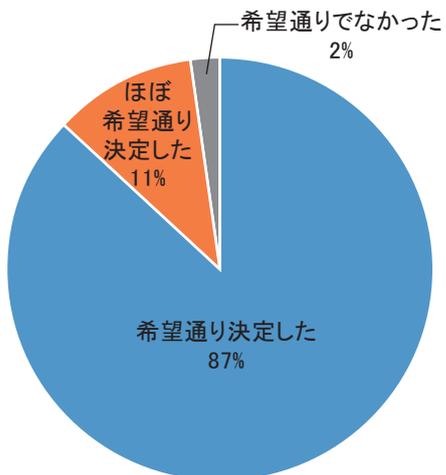
2. 新領域創成科学研究科に入学することをどの程度希望していましたか？



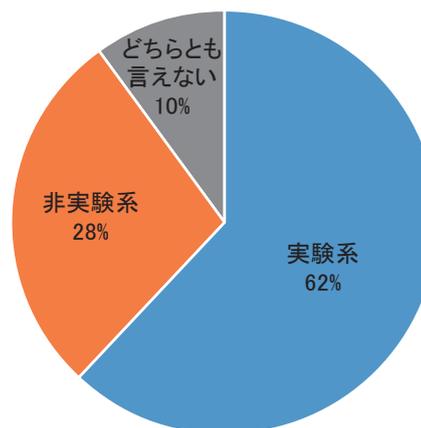
3. 東大のなかでの新領域創成科学研究科に対してどのような印象を持っていますか？



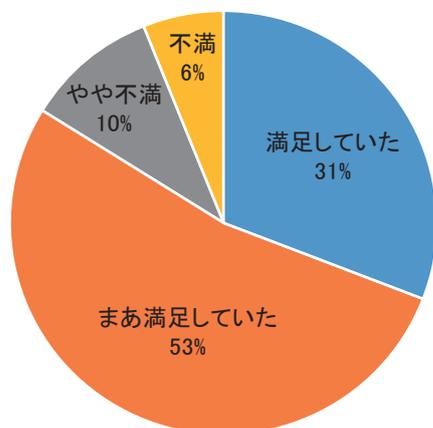
4. 配属研究室の決定について



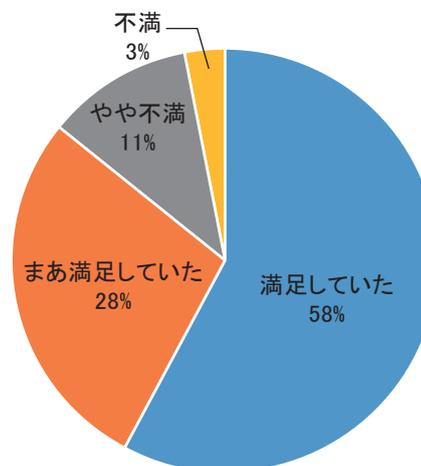
5. 在学時の主たる研究内容はどれにあたりますか？



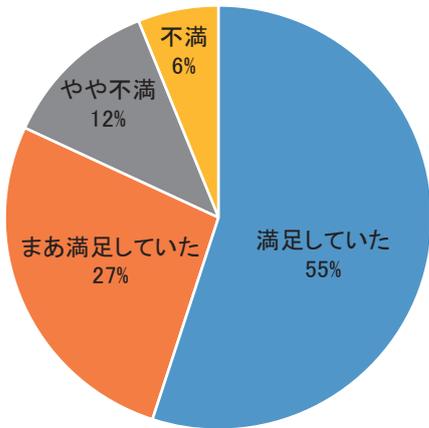
6. 在籍当時は、専攻のカリキュラムに満足していましたか？



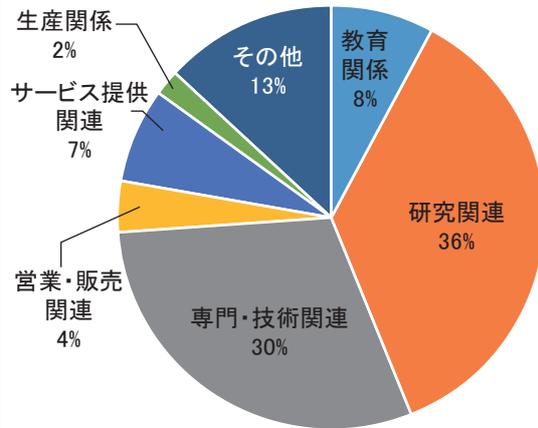
7. 在籍当時は、研究室の施設／設備に満足していましたか？



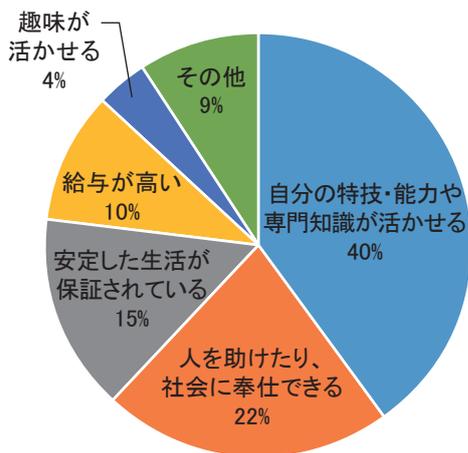
8. 在籍当時は、研究指導に満足していましたか？



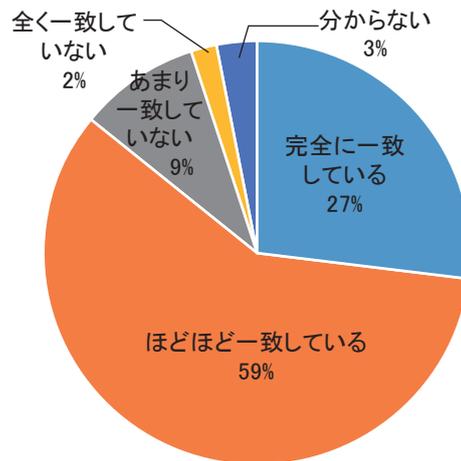
9. 現在の職業について、職種として一番近いのはどれですか？



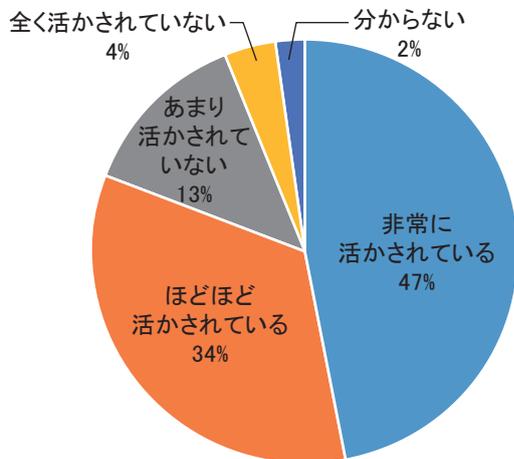
10. 現在の職業に就いた理由は何ですか？



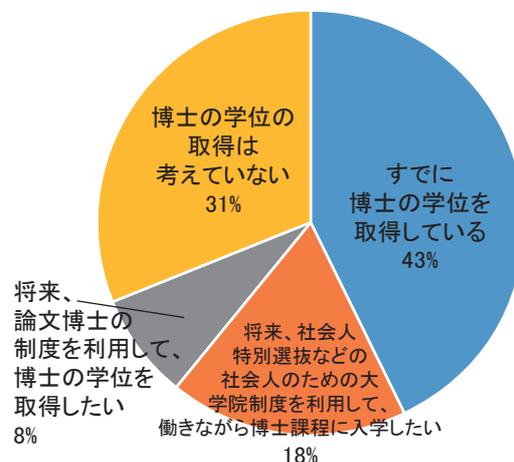
11. 現在の職業は、自分のやりたいことと一致していますか？



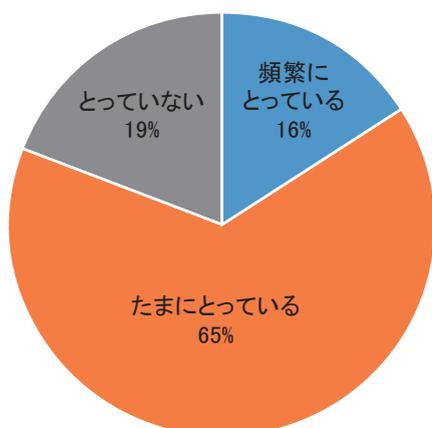
12. 新領域創成科学研究科での経験は現在の自分に活かされていますか？



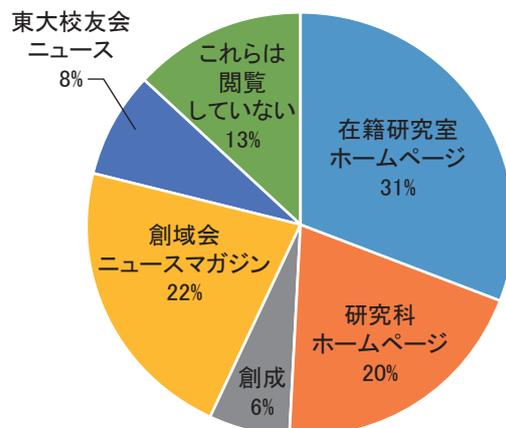
13. 将来、博士の学位取得について考えていますか？



14. 在籍当時の友人と連絡をとっていますか？



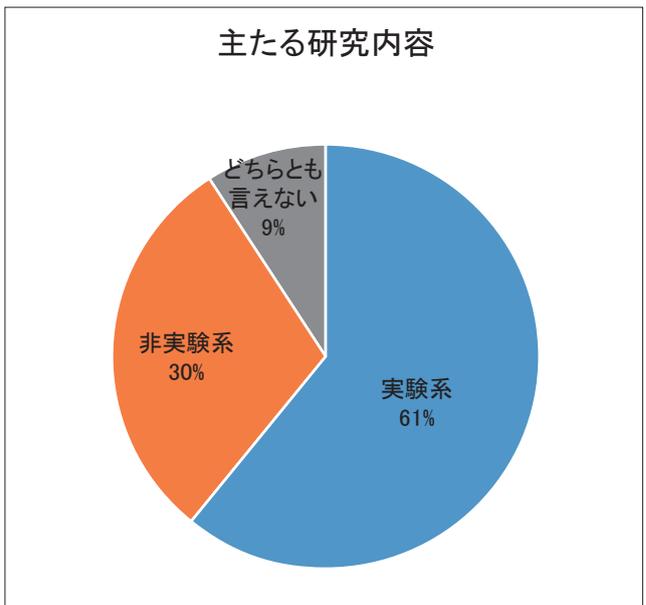
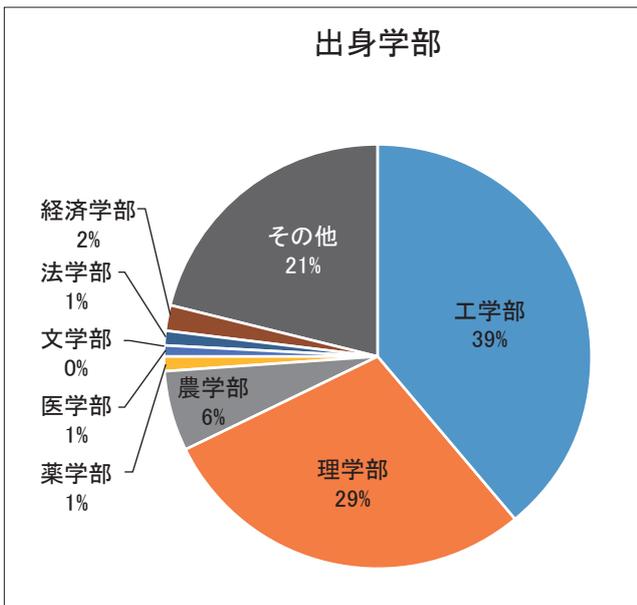
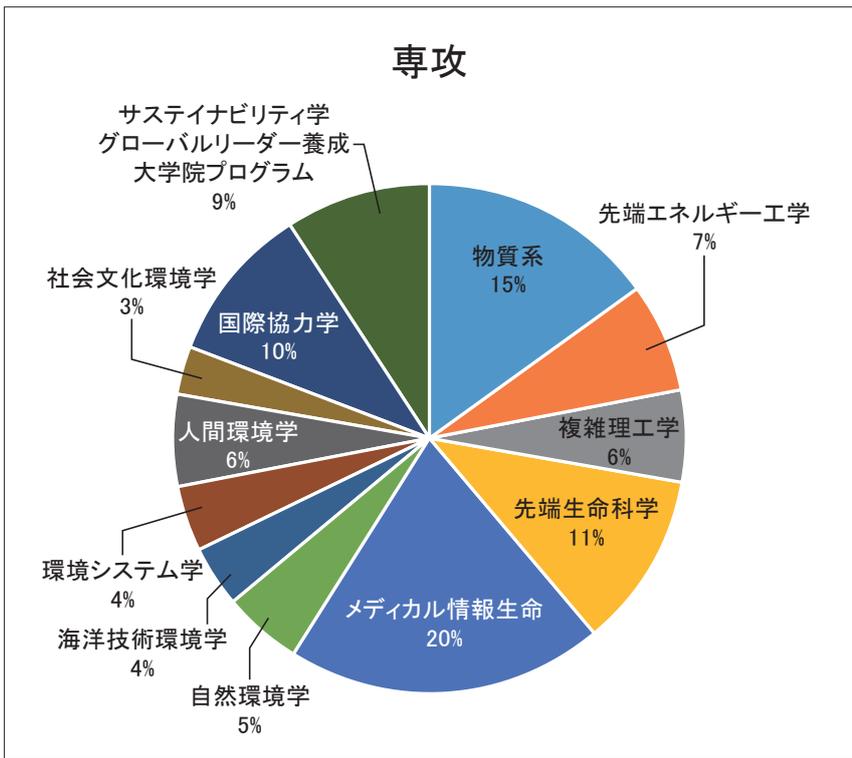
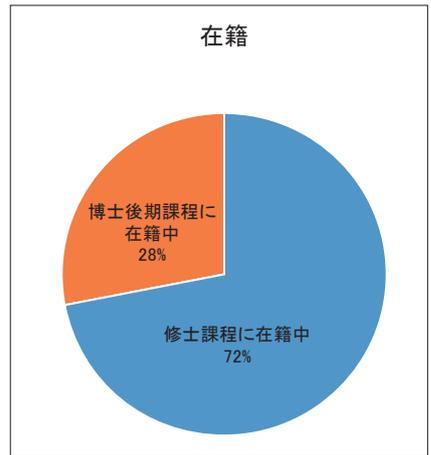
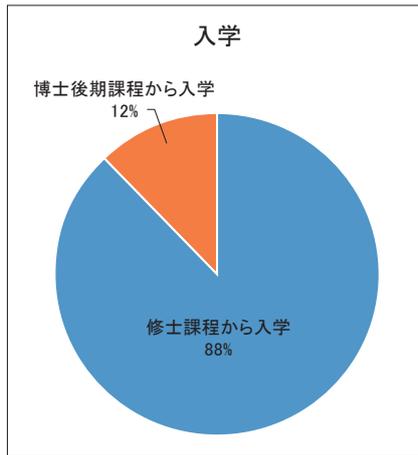
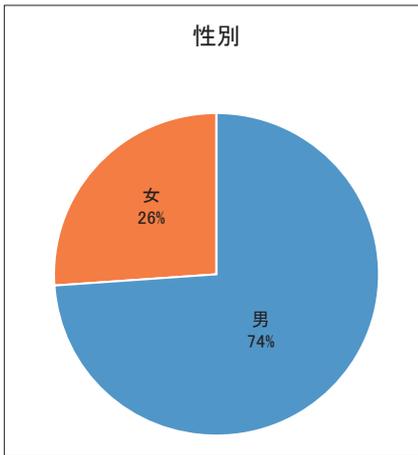
15. この一年間で閲覧したものはどれですか？



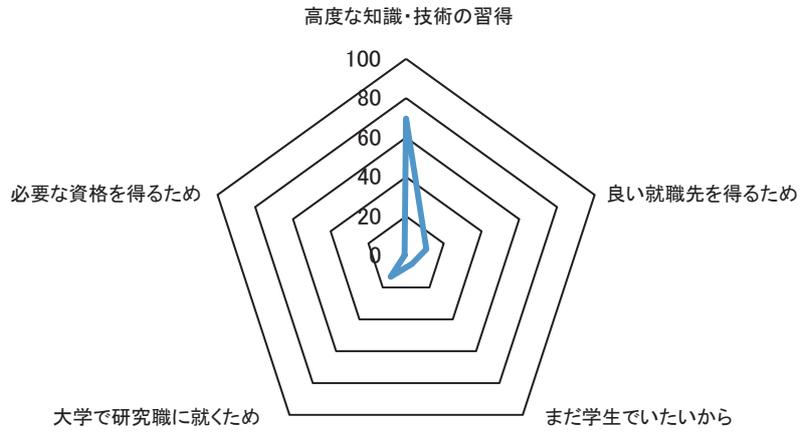
在籍生アンケート（日本語）

回答数 391名（男 286名 女 103名 不明 2名）

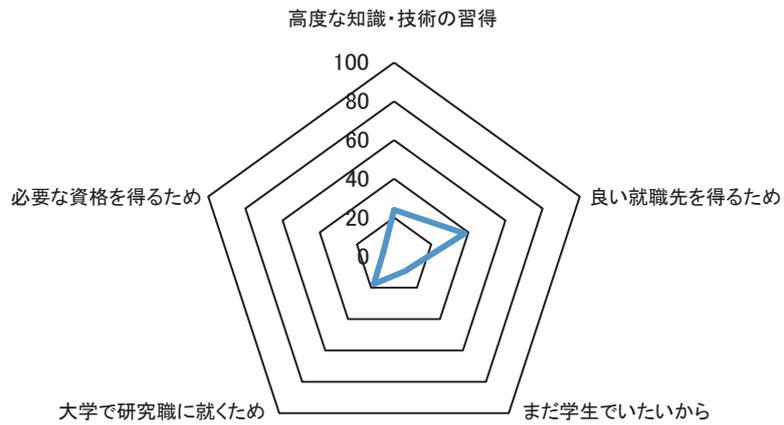
専攻	回答者学生数 (男)	回答者学生数 (女)	回答学生数 (不明)	専攻別合計
物質系	56	3	0	59
先端エネルギー工学	28	1	0	29
複雑理工学	23	2	0	25
先端生命	19	22	0	41
メディカル情報生命	50	27	0	77
自然環境学	12	9	0	21
海洋技術環境学	13	1	0	14
環境システム学	8	9	0	17
人間環境学	19	4	0	23
社会文化環境	8	2	1	11
国際協力学	27	9	1	37
GPSS-GLI	23	14	0	37
全体	286	103	2	391
国際協力学	7	3	10	
GPSS-GLI	1	2	3	
全体	152	43	195	



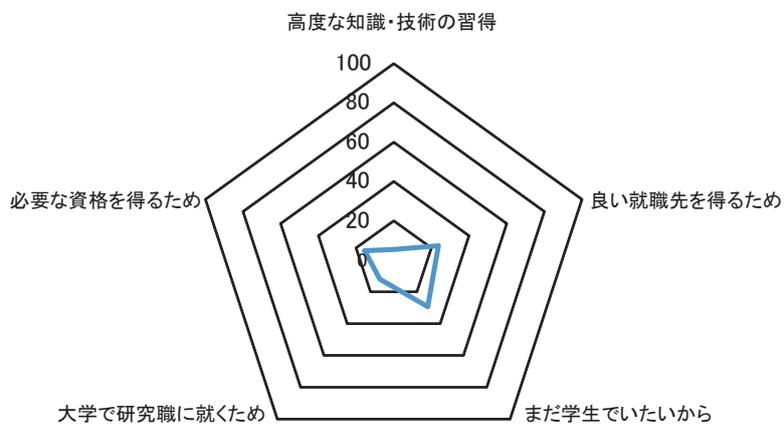
1. 大学院に入学した理由(1位)



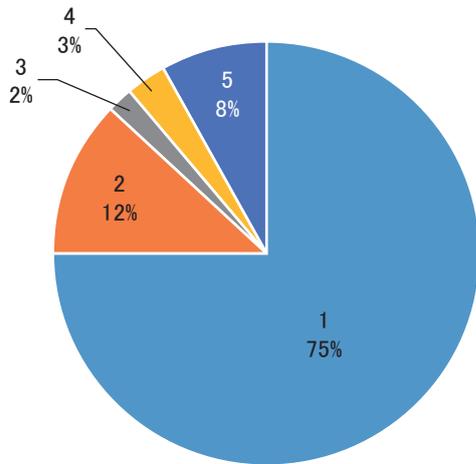
1. 大学院に入学した理由(2位)



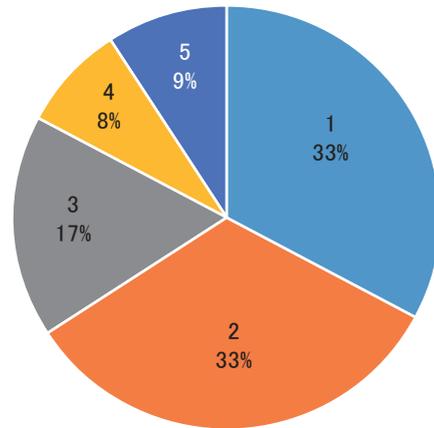
1. 大学院に入学した理由(3位)



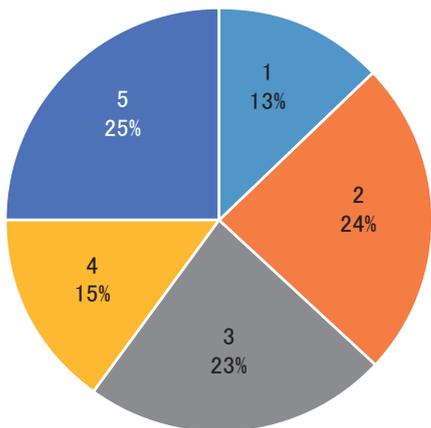
2. 大学院に入学した理由
「高度な知識・技術の習得」



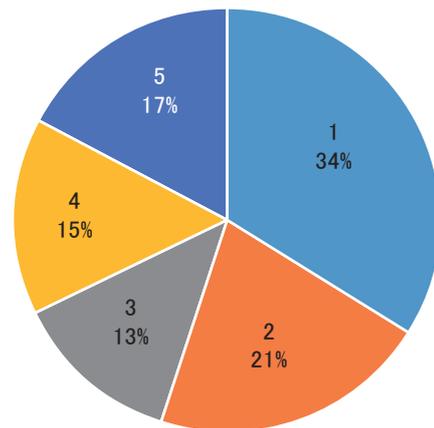
2. 大学院に入学した理由
「良い就職先を得るため」



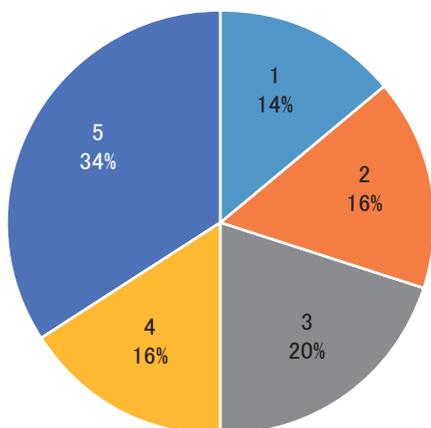
2. 大学院に入学した理由
「まだ学生でいたいから」



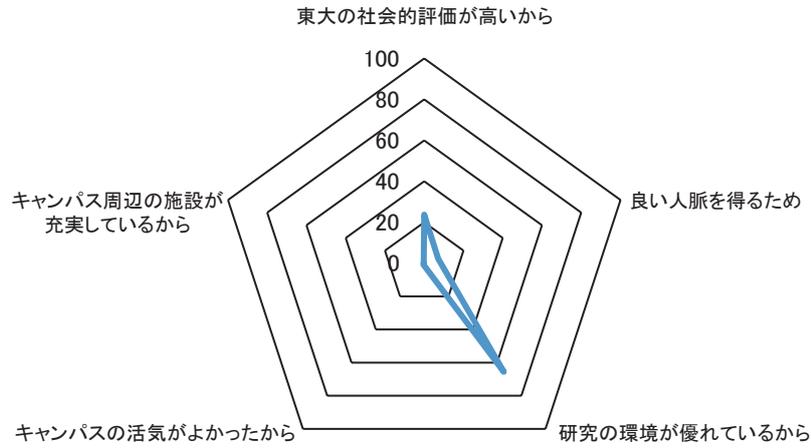
2. 大学院に入学した理由
「研究職に就くため」



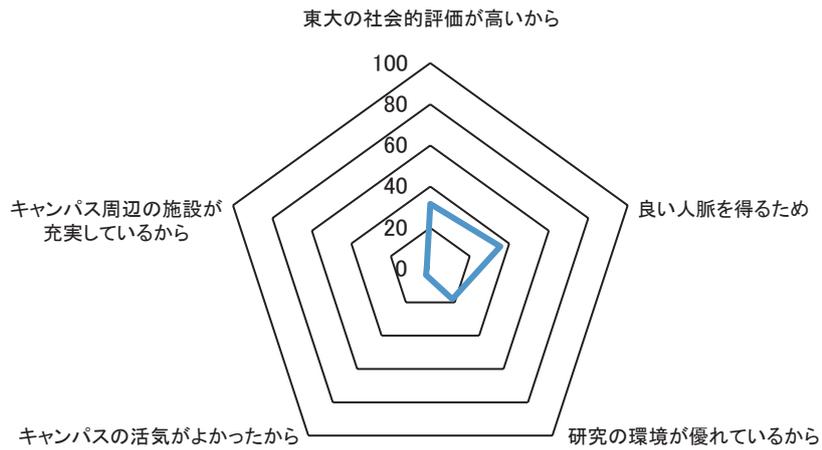
2. 大学院に入学した理由
「必要な資格を得るため」



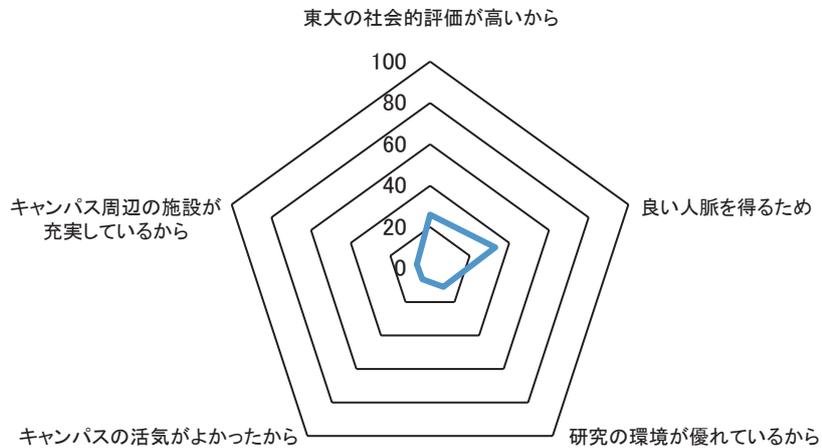
3. 新領域に入学した理由 1位



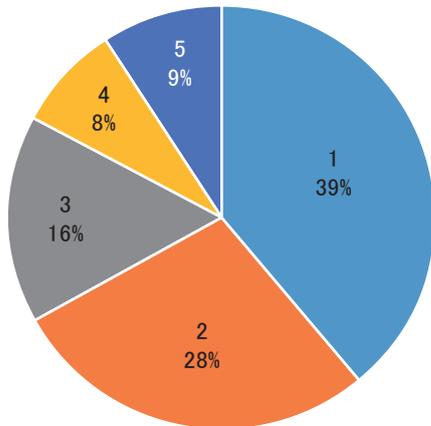
3. 新領域に入学した理由 2位



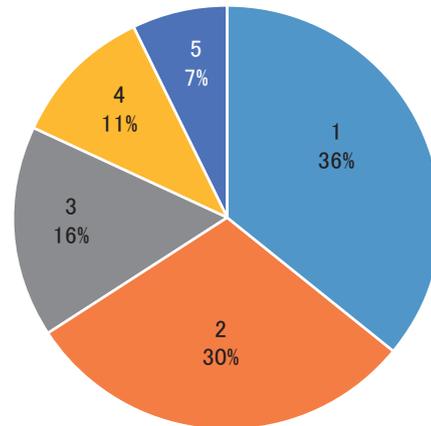
3. 新領域に入学した理由 3位



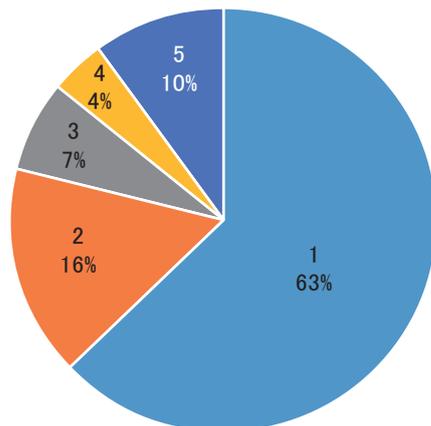
4. 新領域創成科学研究科に入学した理由
「東大の社会的評価が高いから」



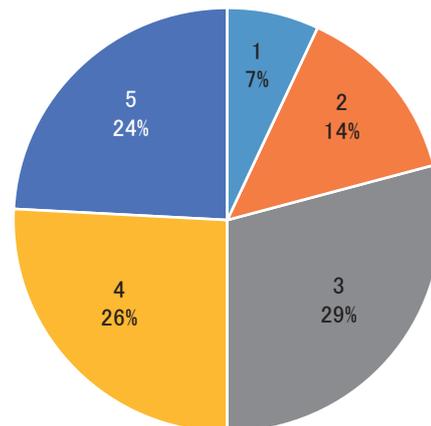
4. 新領域創成科学研究科に入学した理由
「良い人脈を得るため」



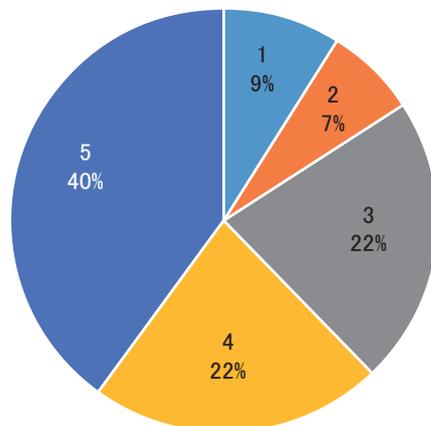
4. 新領域創成科学研究科に入学した理由
「研究の環境が優れているから」



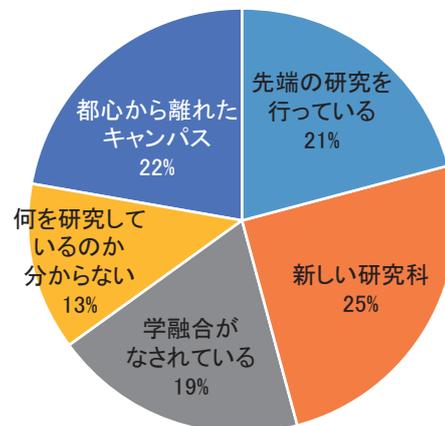
4. 新領域創成科学研究科に入学した理由
「キャンパスの活気がよかったから」



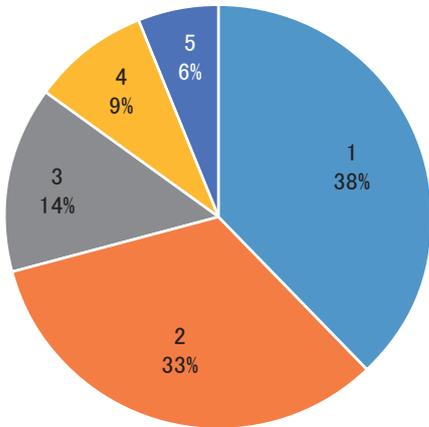
4. 新領域創成科学研究科に入学した理由
「キャンパス周辺の施設が充実しているから」



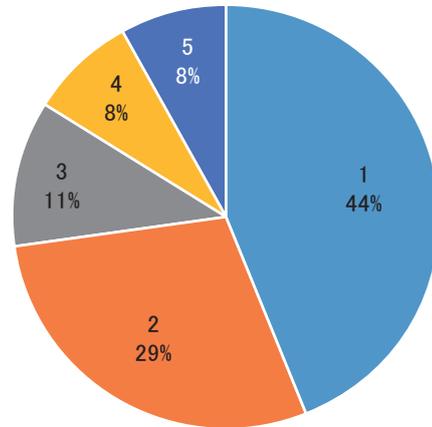
5. 新領域創成科学研究科に対して
どのような印象を持っていますか？



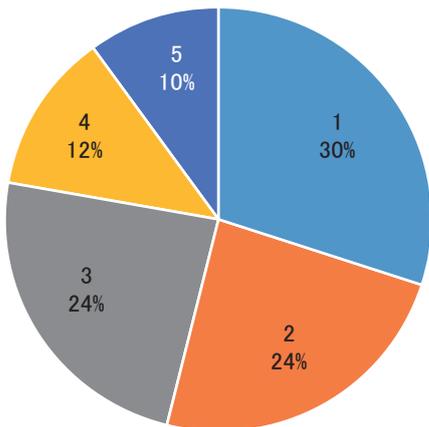
6. 新領域創成科学研究科に対して
どのような印象を持っていますか？
「先端の研究を行っている」



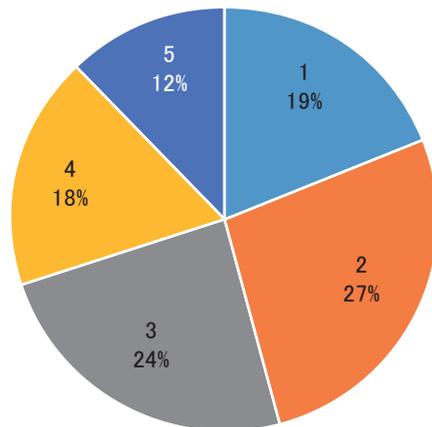
6. 新領域創成科学研究科に対して
どのような印象を持っていますか？
「新しい研究科」



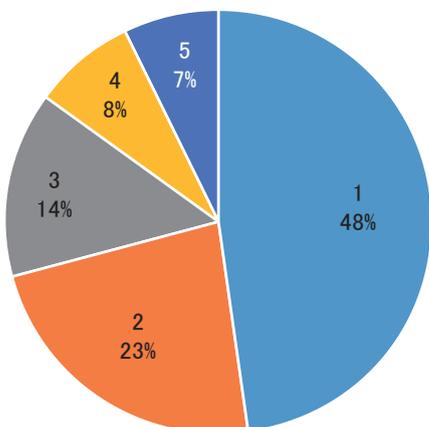
6. 新領域創成科学研究科に対して
どのような印象を持っていますか？
「学融合がなされている」



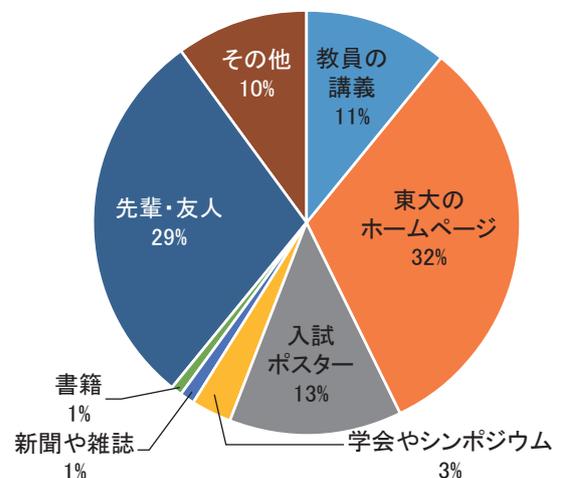
6. 新領域創成科学研究科に対して
どのような印象を持っていますか？
「何を研究しているのか分からない」



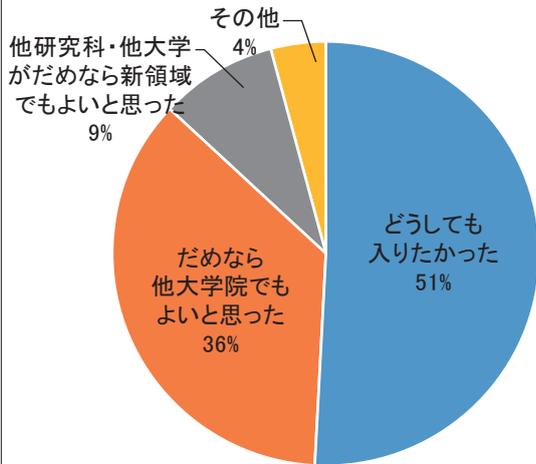
6. 新領域創成科学研究科に対して
どのような印象を持っていますか？
「都心から離れたキャンパス」



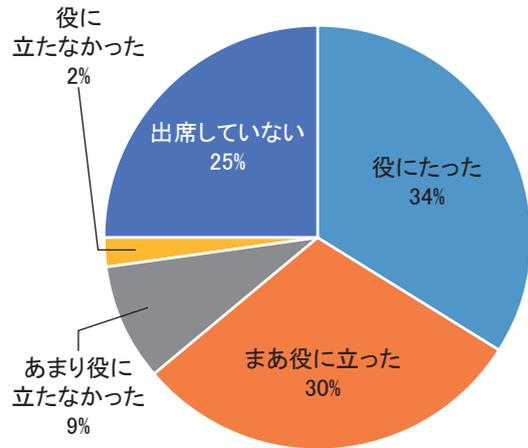
7. 新領域創成科学研究科の存在を
どこで知りましたか？



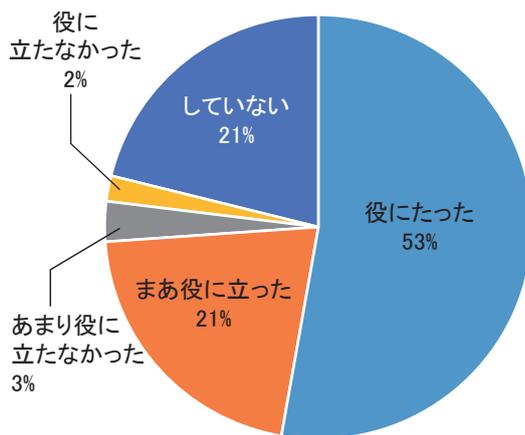
8. 受験時に新領域創成科学研究科に入学することをどの程度希望していましたか？



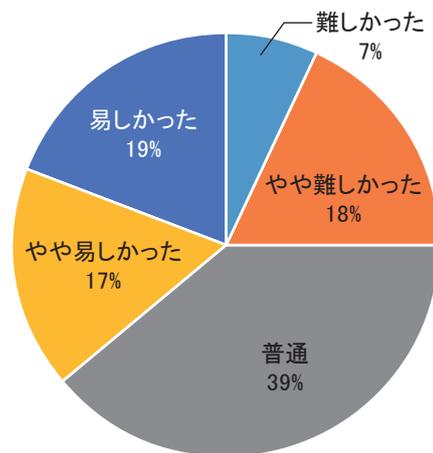
9. 研究科の大学院説明会は、志望校を選ぶのに役に立ちましたか？



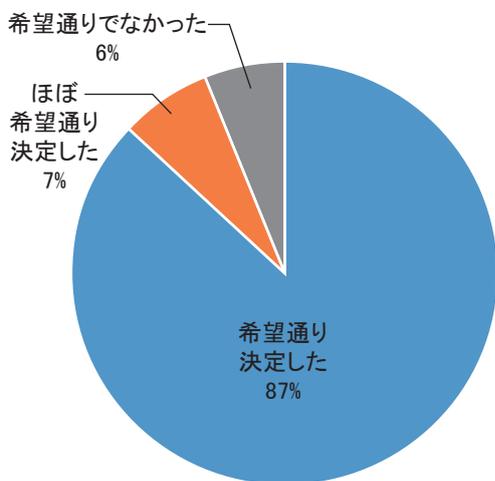
10. 研究室見学は、志望校を選ぶのに役に立ちましたか？



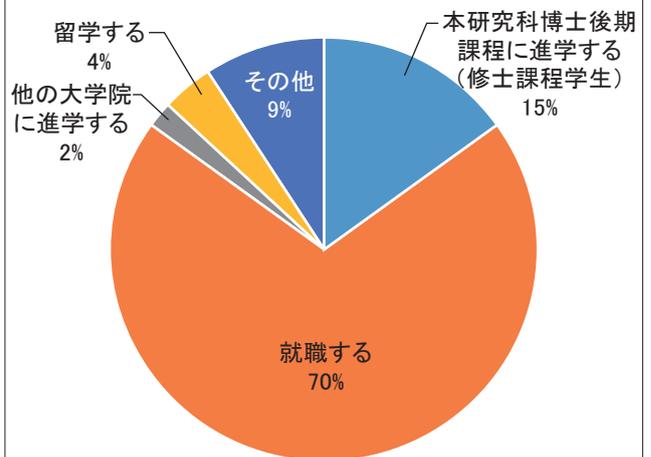
12. 入試問題についてどのように感じましたか？



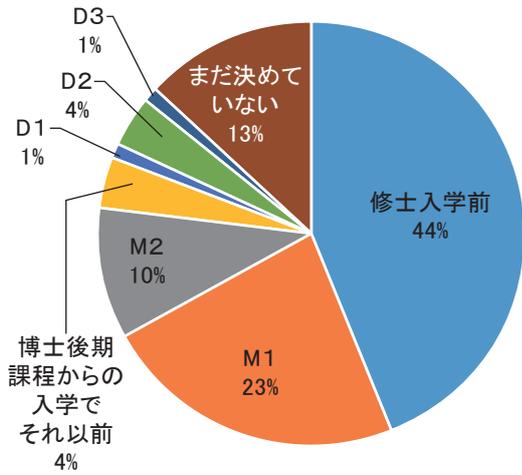
13. 配属研究室の決定について



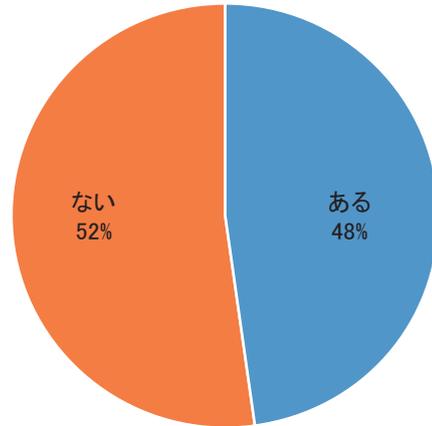
14. 卒業後、どのような進路を予定していますか？



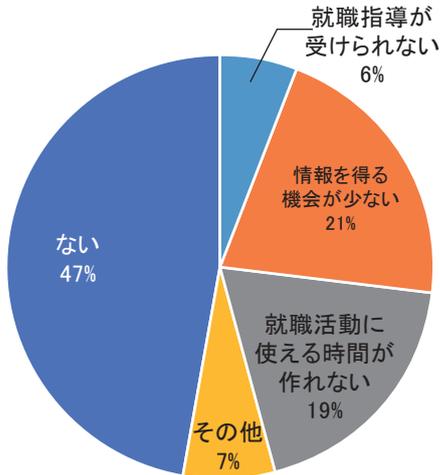
15. 進路を決めたのはいつですか？



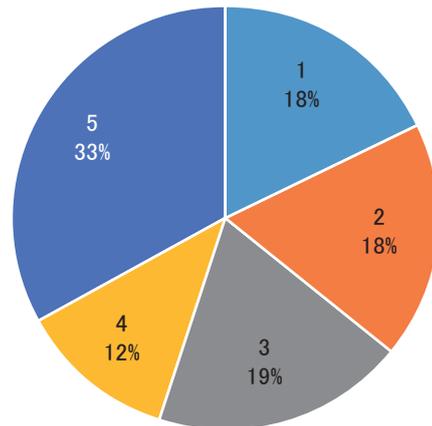
16. 就職活動をしたことがありますか？



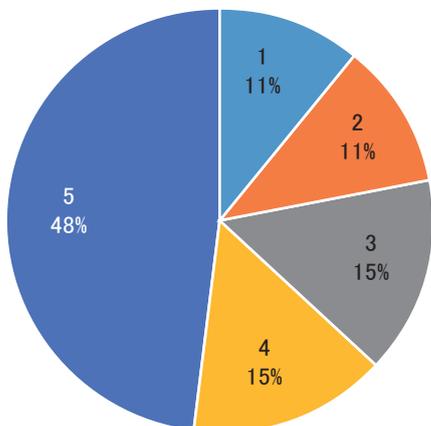
17. 就職活動で困ったことがありますか？



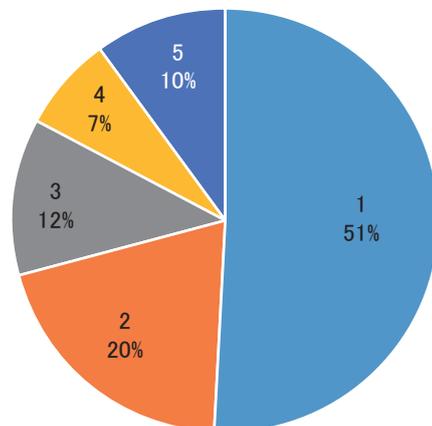
18. どういった職種に興味をもっていますか？
「コンサル・シンクタンク系」



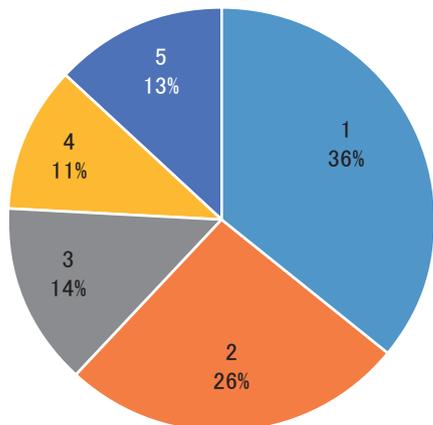
18. どういった職種に興味をもっていますか？
「金融系」



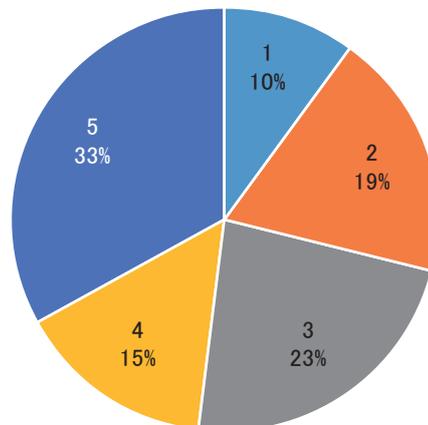
18. どういった職種に興味をもっていますか？
「研究職」



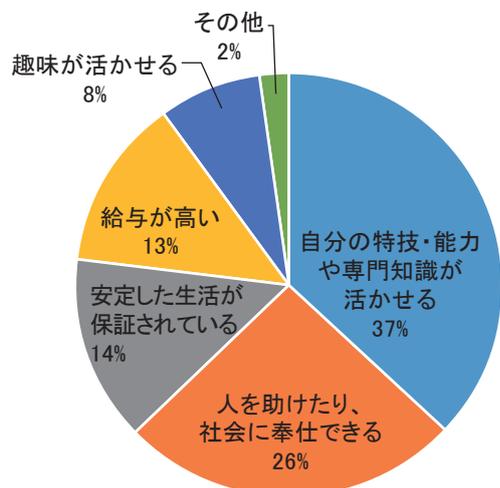
18. どのような職種に興味をもっていますか？
「メーカー系」



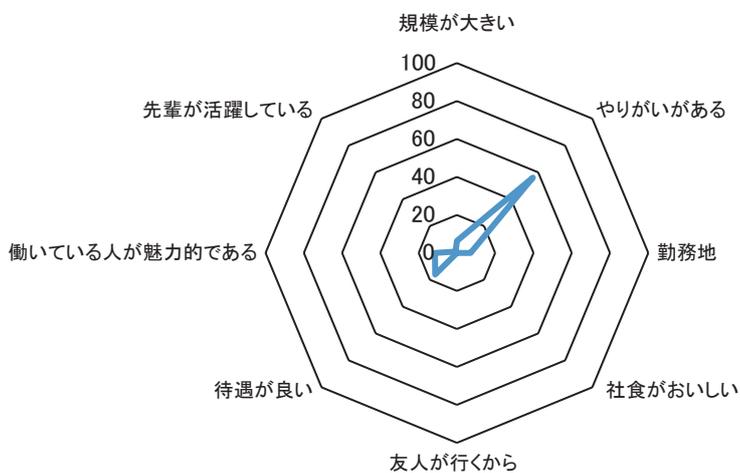
18. どのような職種に興味をもっていますか？
「行政職」



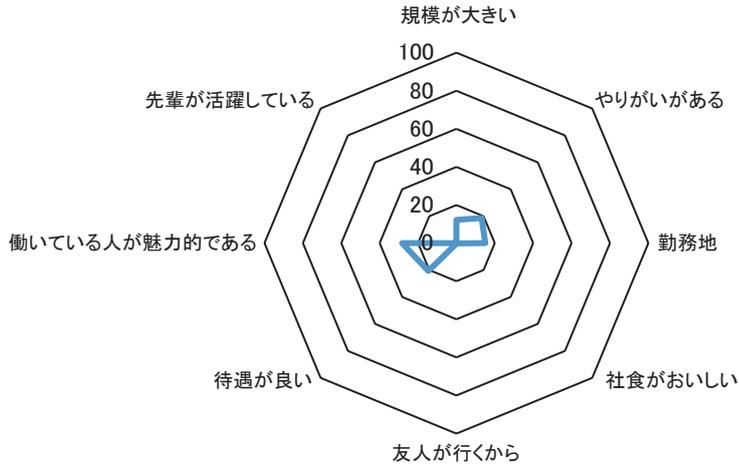
19. その職業に就きたい理由は何ですか？



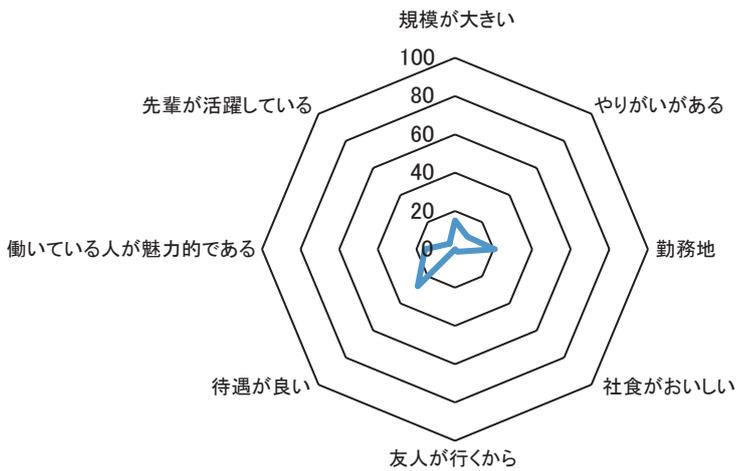
20. 仕事や職場を選ぶ際に重視する点1位



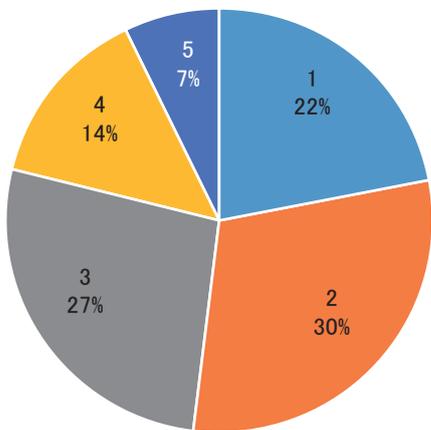
20. 仕事や職場を選ぶ際に重視する点2位



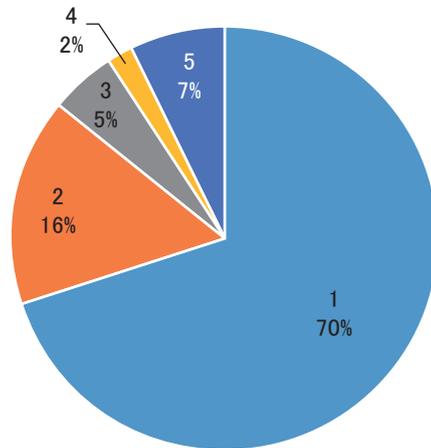
20. 仕事や職場を選ぶ際に重視する点3位



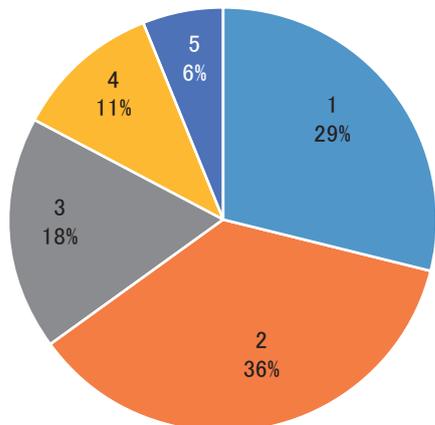
21. 仕事や職場を選ぶ際に重視する点「規模が大きい」



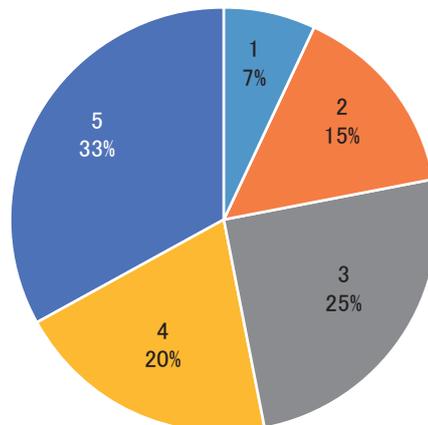
21. 仕事や職場を選ぶ際に重視する点「やりがいがある」



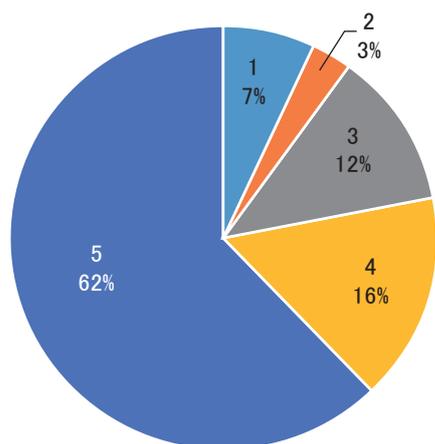
21. 仕事や職場を選ぶ際に重視する点
「勤務地」



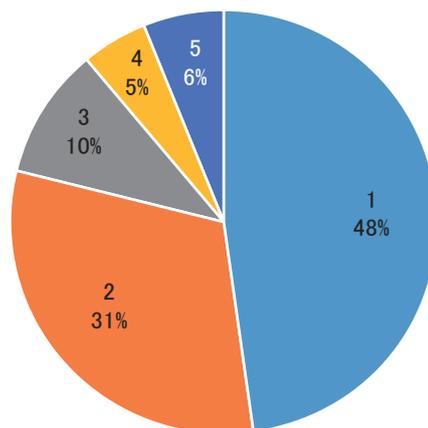
21. 仕事や職場を選ぶ際に重視する点
「社食がおいしい」



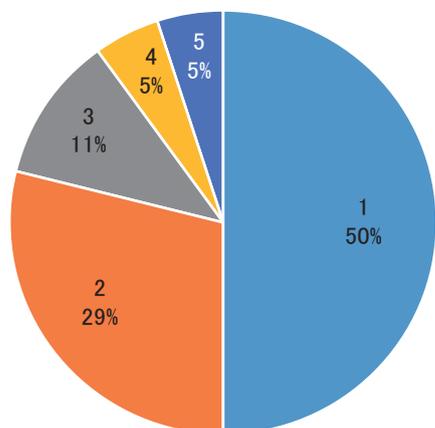
21. 仕事や職場を選ぶ際に重視する点
「友人が行くから」



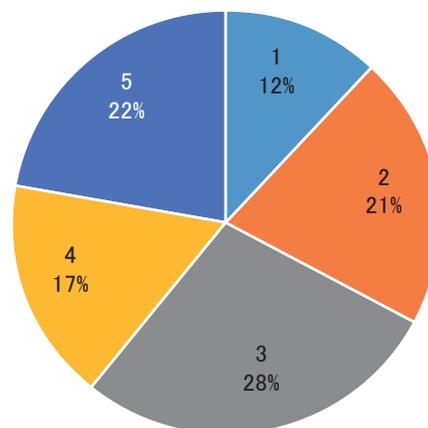
21. 仕事や職場を選ぶ際に重視する点
「待遇が良い」



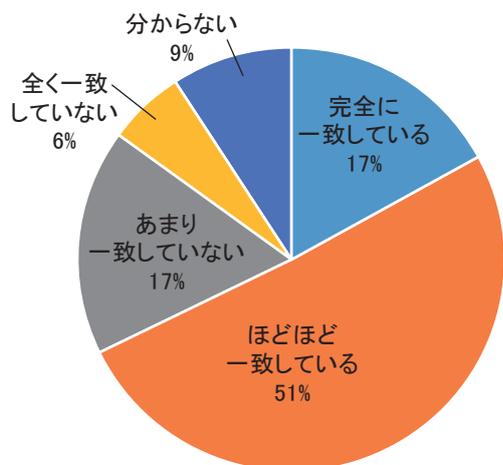
21. 仕事や職場を選ぶ際に重視する点
「働いている人が魅力的である」



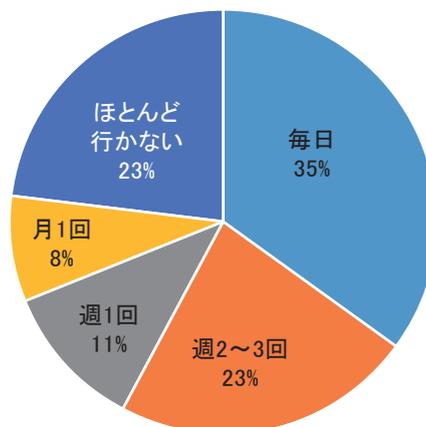
21. 仕事や職場を選ぶ際に重視する点
「先輩が活躍している」



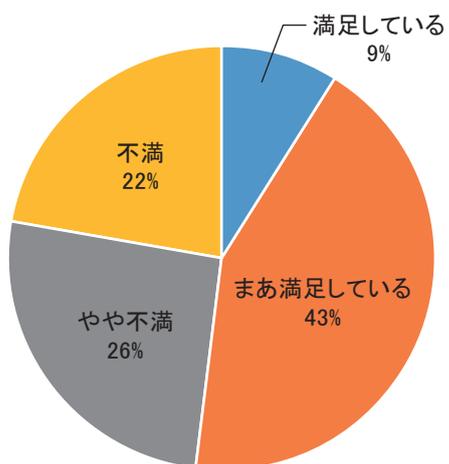
22. 現在の研究は、将来自分のやりたいことと一致していますか？



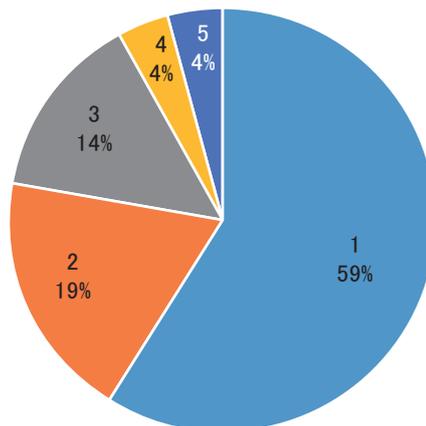
23. 学食にはどれくらいの頻度で行きますか？



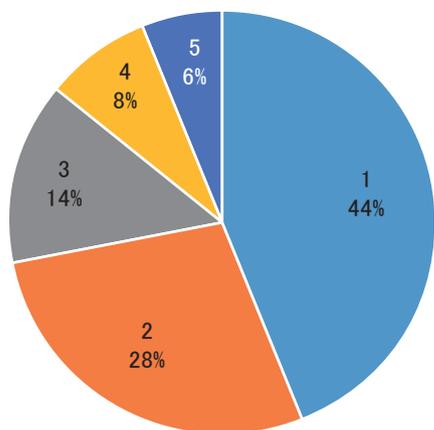
24. 今の学食のメニューに満足していますか？



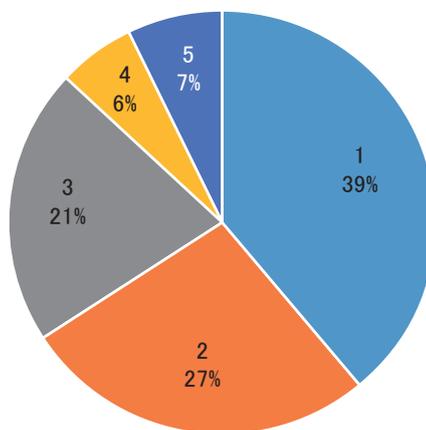
25. 好きな料理のジャンル「日本料理」



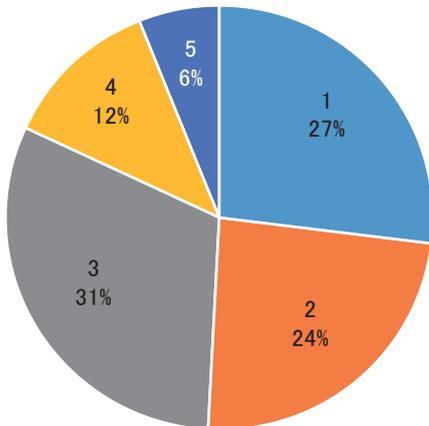
25. 好きな料理のジャンル「中華料理」



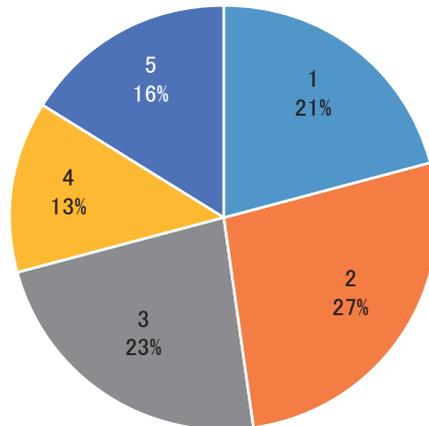
25. 好きな料理のジャンル「イタリア料理」



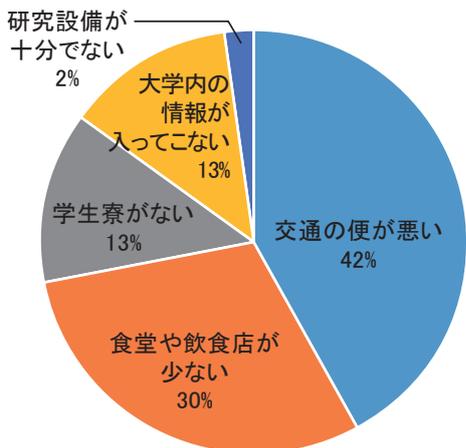
25. 好きな料理のジャンル
「フランス料理」



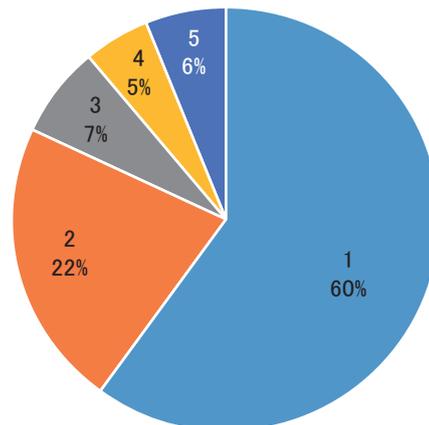
25. 好きな料理のジャンル
「ジャンクフード」



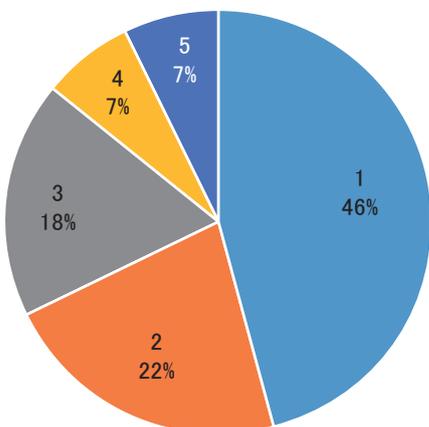
26. 柏キャンパスでの生活で不満に
思っていることはありますか？



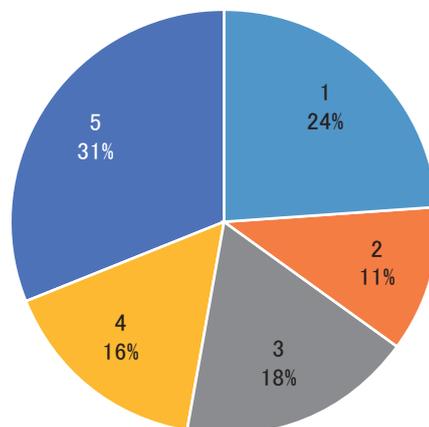
27. 柏キャンパスでの生活で不満に
思っていることはありますか？
「交通の便が悪い」



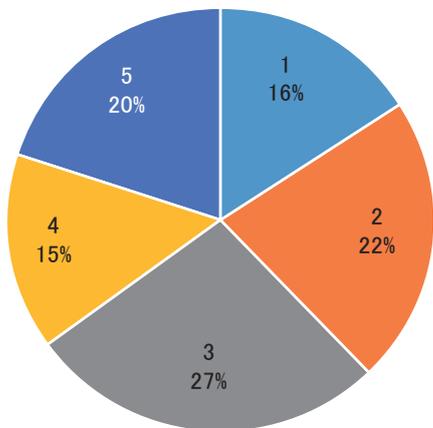
27. 柏キャンパスでの生活で不満に
思っていることはありますか？
「食堂や飲食店が少ない」



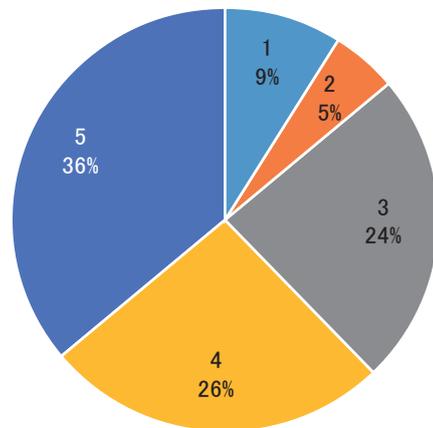
27. 柏キャンパスでの生活で不満に
思っていることはありますか？
「学生寮がない」



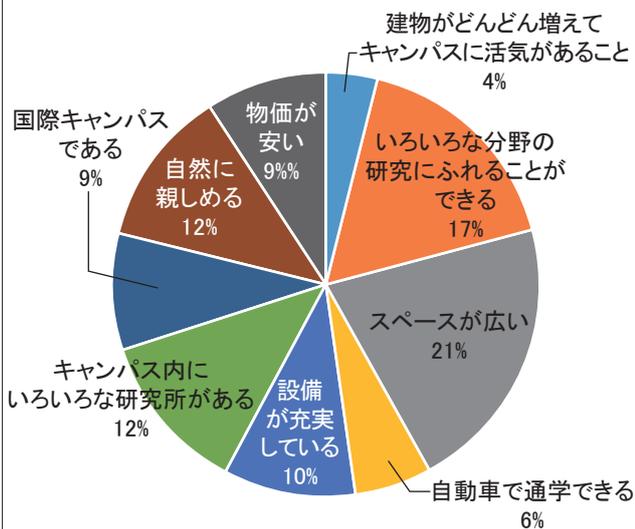
27. 柏キャンパスでの生活で不満に
思っていることはありますか？
「大学内の情報が入ってこない」



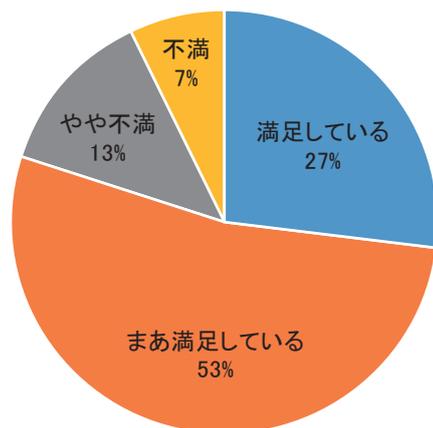
27. 柏キャンパスでの生活で不満に
思っていることはありますか？
「研究設備が十分でない」



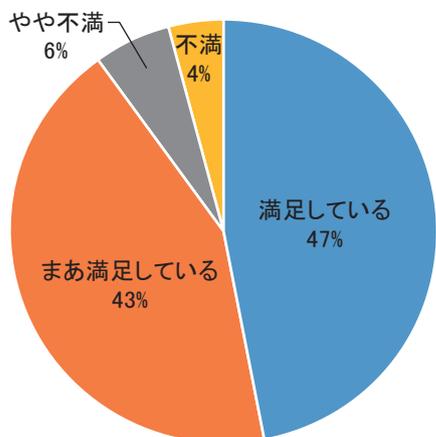
28. 柏キャンパスのよい所はどこですか



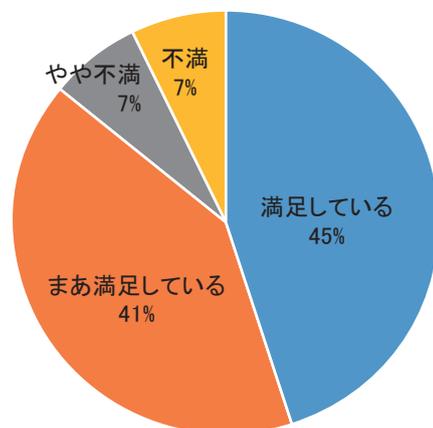
29. 現在在籍している専攻のカリキュラムに
満足していますか？



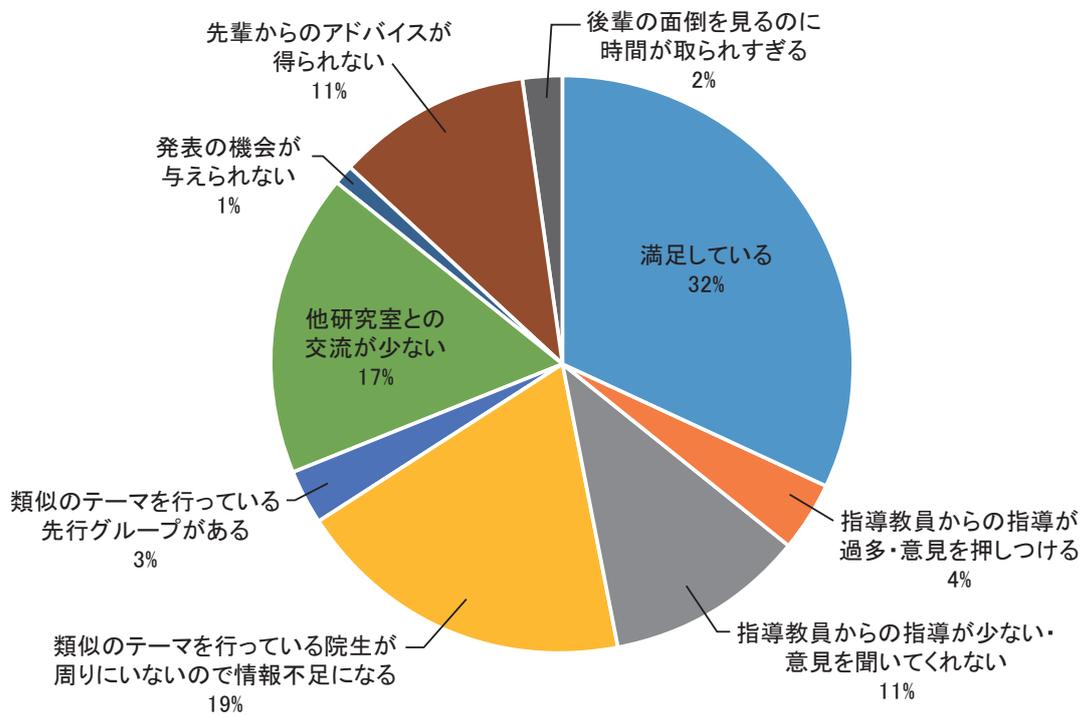
30. 現在在籍している研究室の施設／設備に
満足していますか？



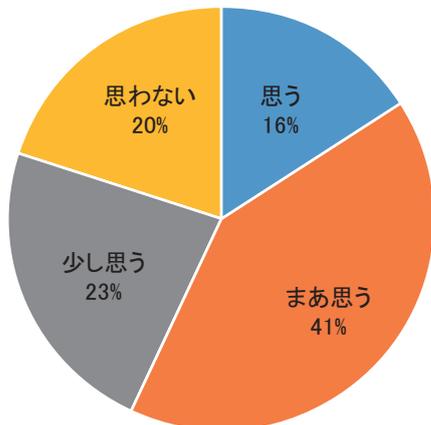
31. 現在の研究指導に満足していますか？



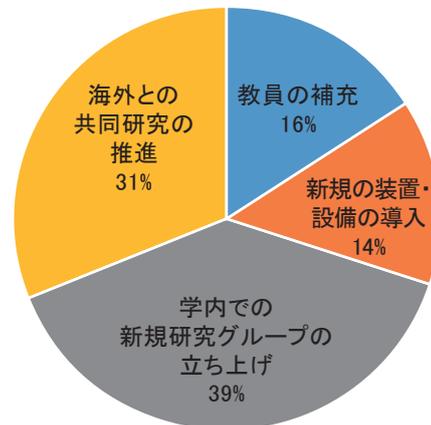
32. 現在の研究指導の不満点はどれですか？



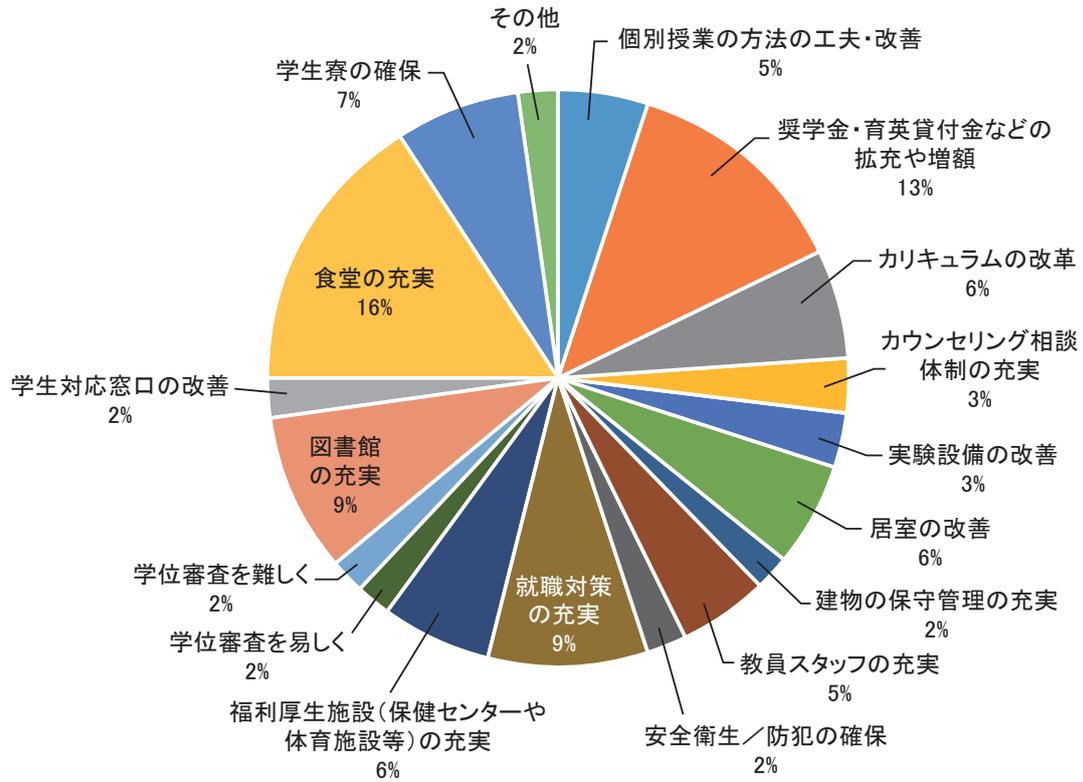
33. 新領域創成科学研究科で学融合研究が推進されていると思いますか？



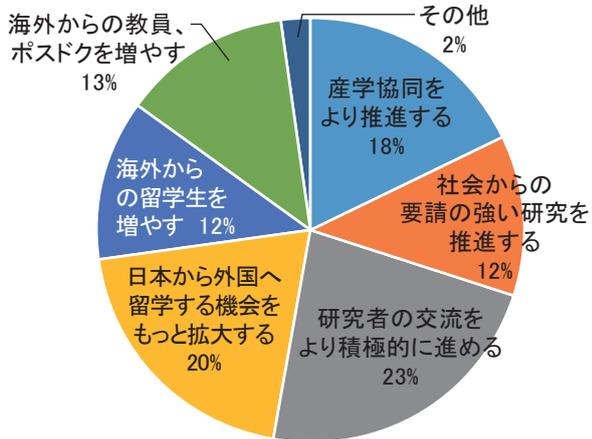
34. 学融合研究をより促進するために必要な方策はどれだと思いますか？



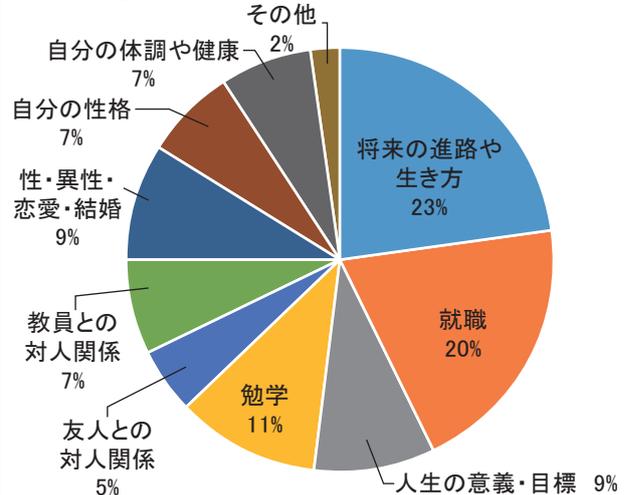
35. 大学への要望や期待することは、何ですか？



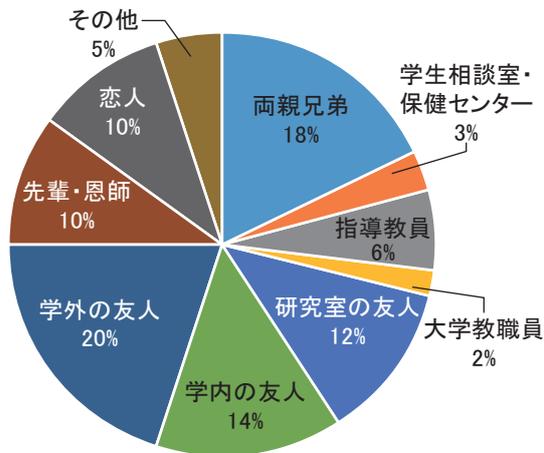
36. 大学の社会的貢献を促進したり、国際化を推進するため方策として有効と考えられることは何ですか？



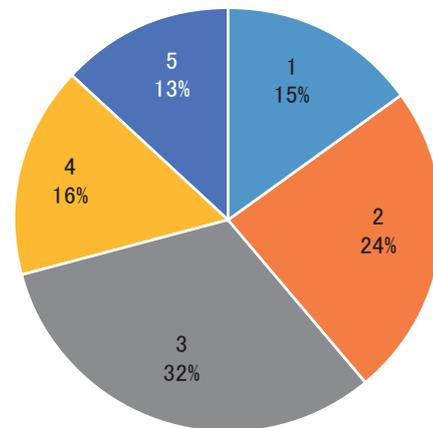
37. 学生生活の中で、悩みや不安を感じたりしているものは何ですか？



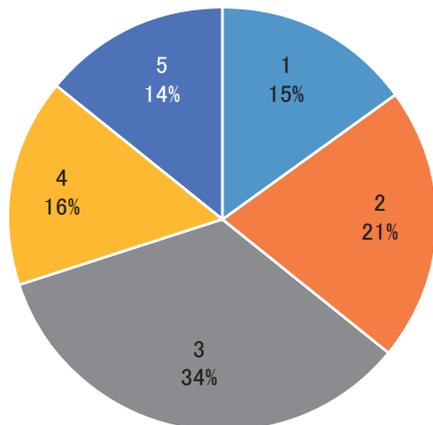
38. 不安や悩みを感じたときに
誰に相談しますか？



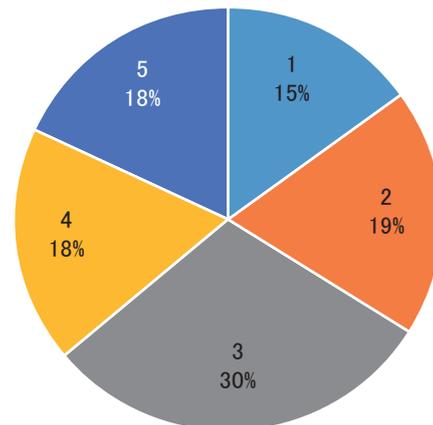
39. 不安や悩みを解消するために大学には
どのような対応があればよいと思いますか。
「大学の教職員と接触する機会をふやす」



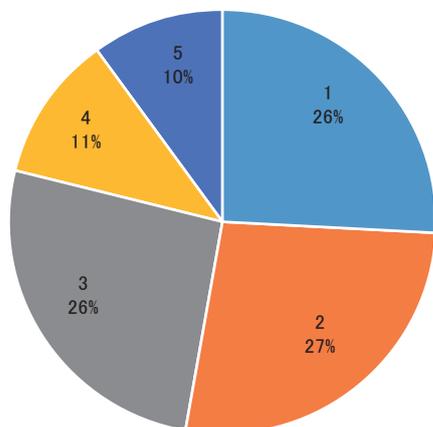
39. 不安や悩みを解消するために大学には
どのような対応があればよいと思いますか。
「教務課・学生課の機能を充実させる」



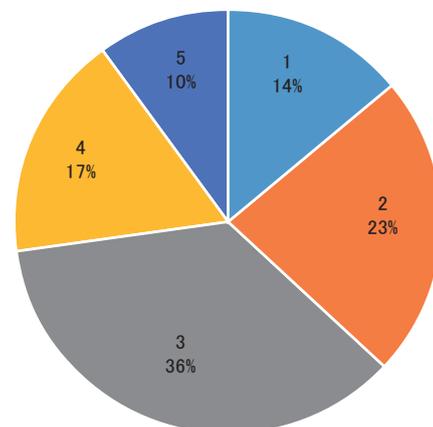
39. 不安や悩みを解消するために大学には
どのような対応があればよいと思いますか。
「複数指導教員制度を導入する」



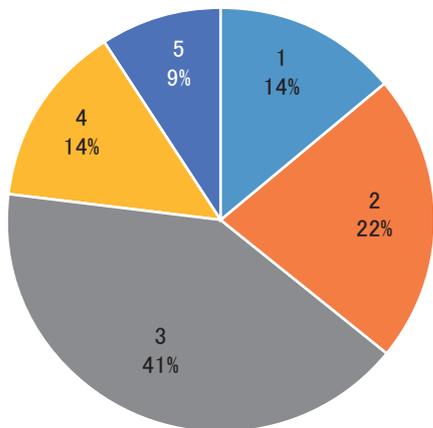
39. 不安や悩みを解消するために大学には
どのような対応があればよいと思いますか。
「就職相談の機能を充実させる」



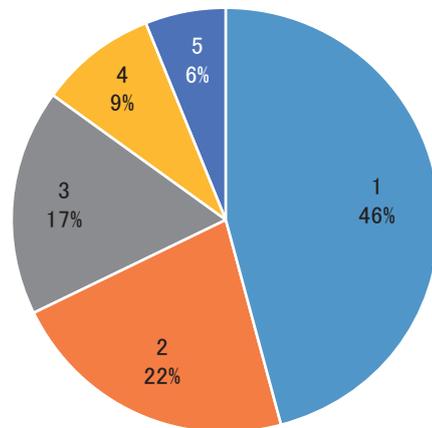
39. 不安や悩みを解消するために大学には
どのような対応があればよいと思いますか。
「保健センターの機能を充実させる」



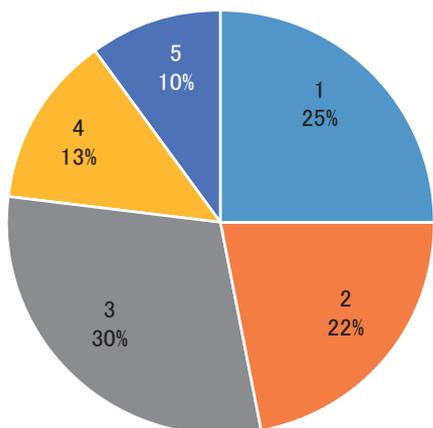
39. 不安や悩みを解消するために大学にはどのような対応があればよいと思いますか。
「学生相談室の機能を充実させる」



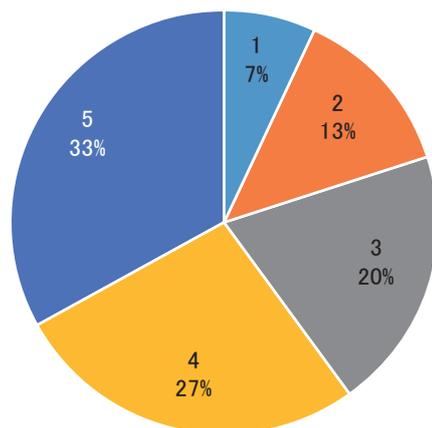
39. 不安や悩みを解消するために大学にはどのような対応があればよいと思いますか。
「奨学金・授業料免除が得られる機会を増やす」



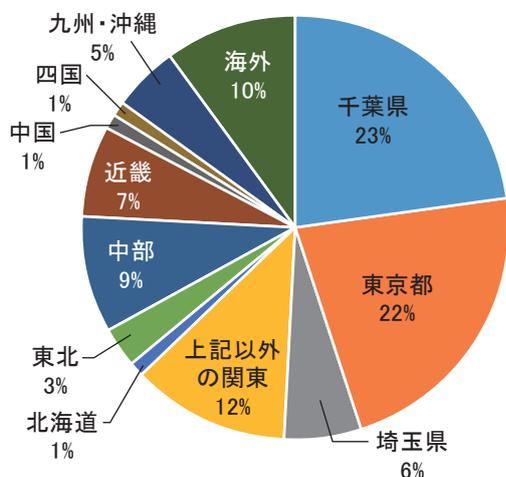
39. 不安や悩みを解消するために大学にはどのような対応があればよいと思いますか。
「RA/TAの機会を増やす」



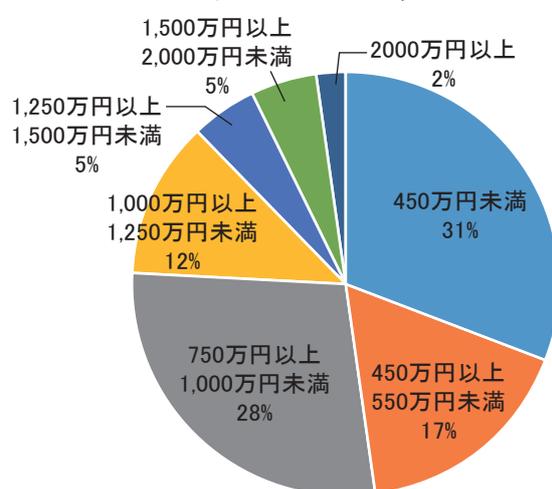
39. 不安や悩みを解消するために大学にはどのような対応があればよいと思いますか。
「学生同士の活動を支援する」



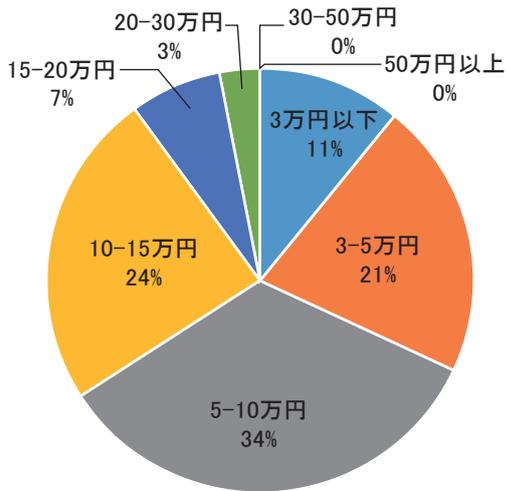
40. 家庭の所在地



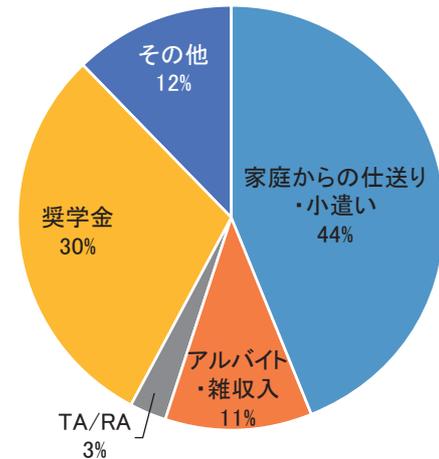
41. 家計支持者の年収の分布状況は、以下のどれですか？



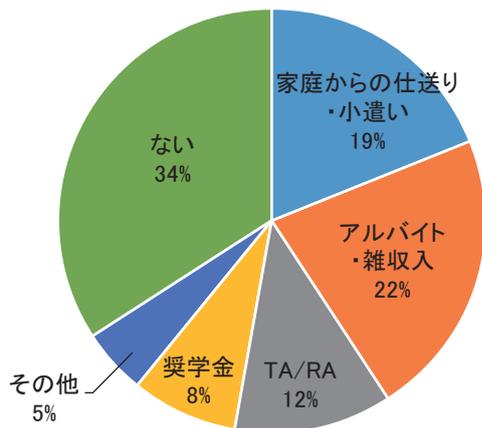
42. 1か月当たりの生活費はいくらですか？



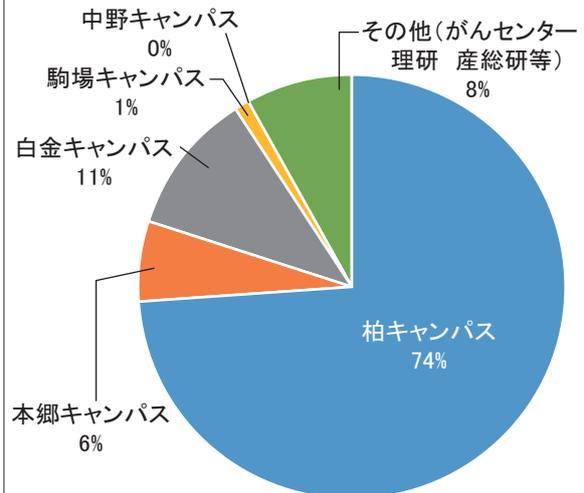
43. 主たる収入源は何ですか？



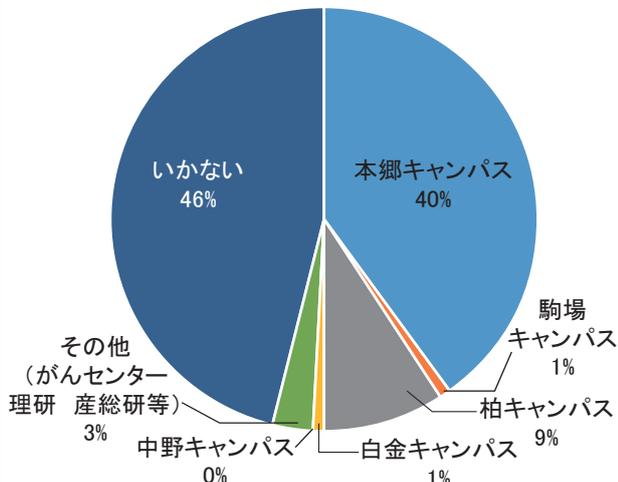
44. 上記以外に収入源はありますか？



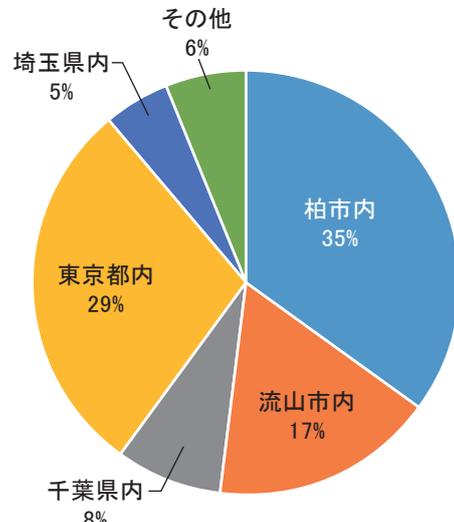
45. 所属研究室の主たる所在地



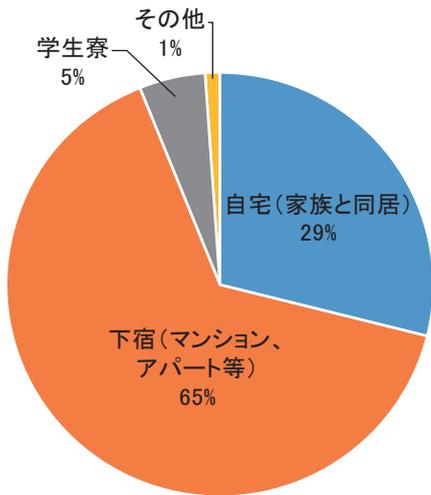
46. 所属研究室のあるキャンパス以外に定期的に訪問するキャンパスがありますか？



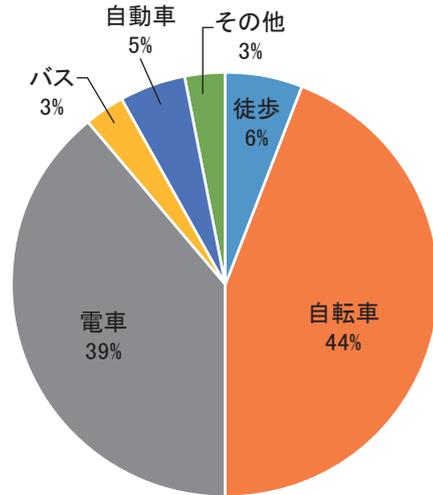
47. 現在どこに住んでいますか？



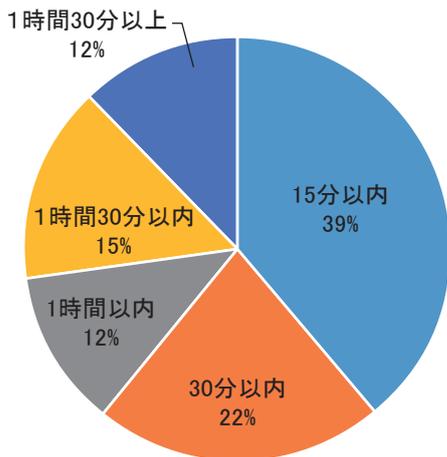
48. 住居形態はどれですか？



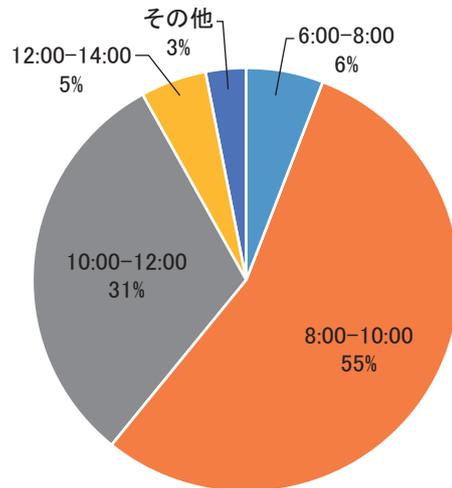
49. 主たる通学手段はどれですか？



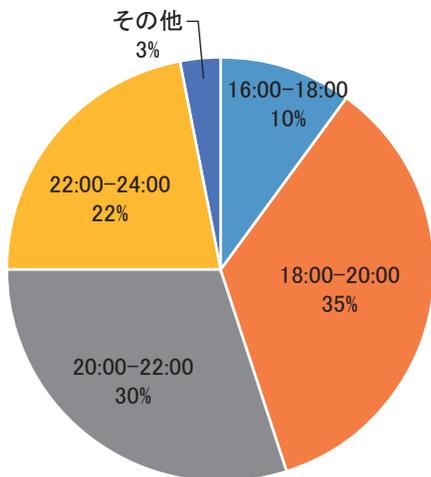
50. 片道通学時間



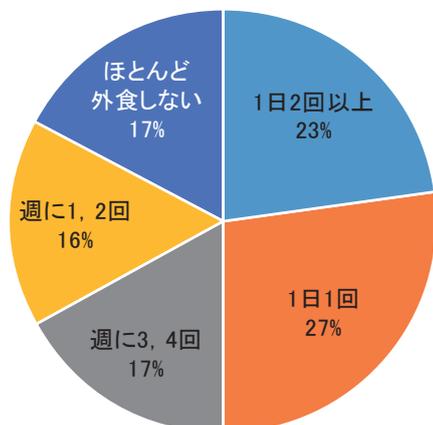
51. 平日の平均的な登校時間はどれですか？



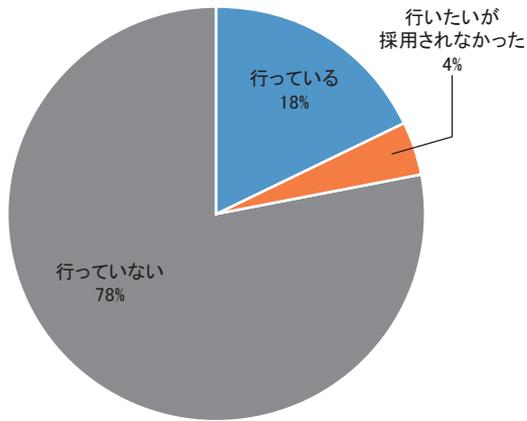
52. 平日の平均的な下校時間はどれですか？



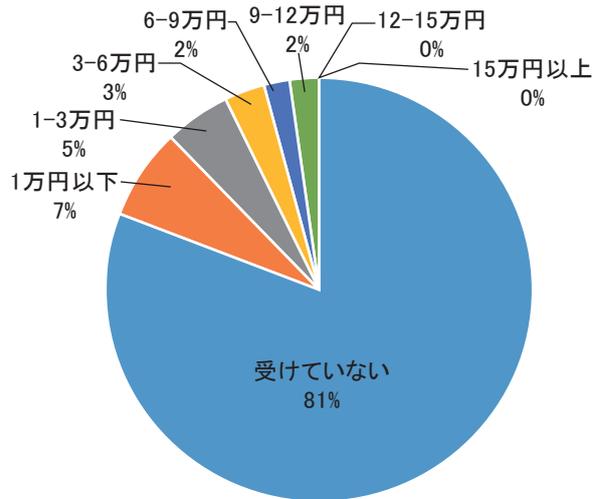
53. 平日は、一日どれくらい
外食していますか？



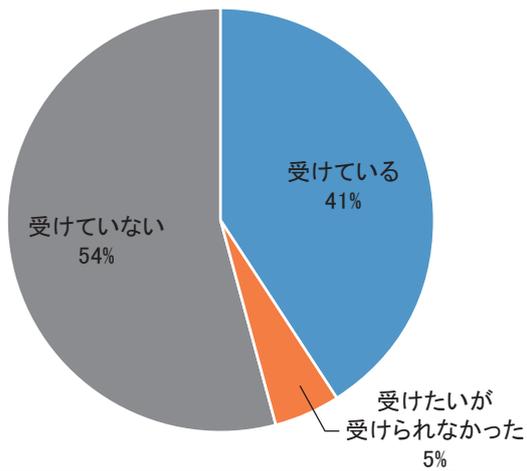
54. TA/RAを行っていますか？



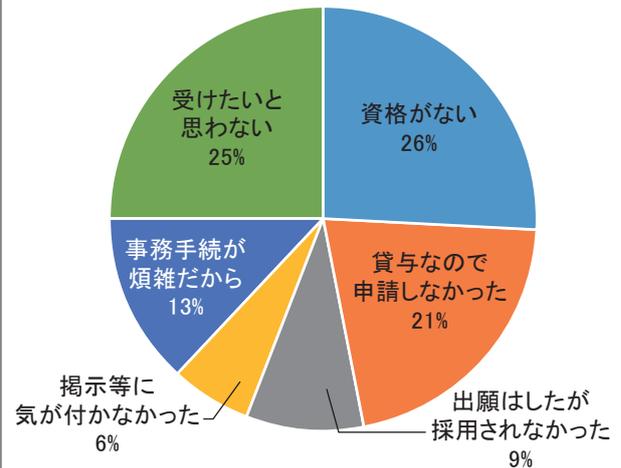
55. TA/RAの月あたりの給与



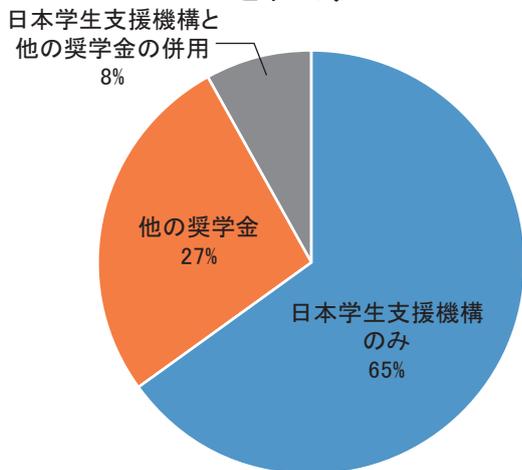
56. 奨学金を受けていますか？



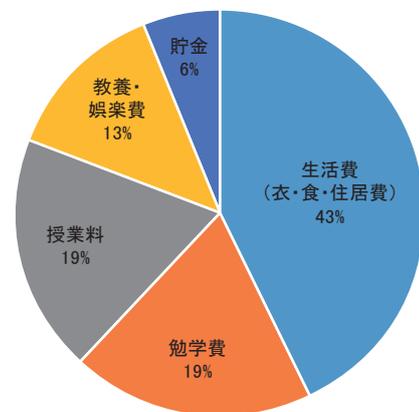
57. 奨学金を受けていない理由は何ですか？



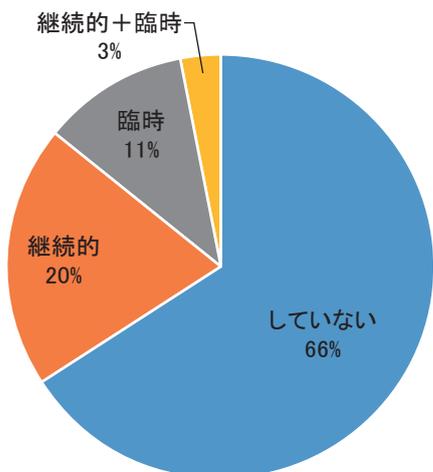
58. 利用している奨学金の内訳は、
どれですか



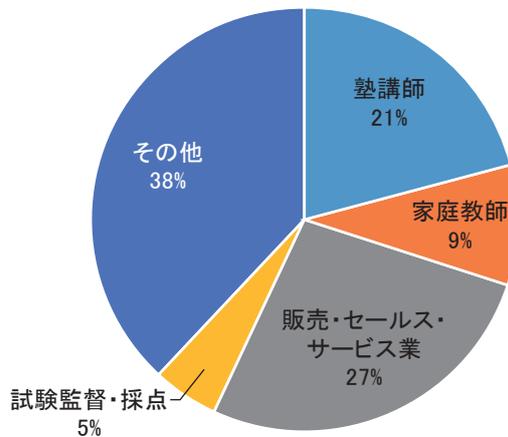
59. 奨学金の主たる支出目的はどれですか？



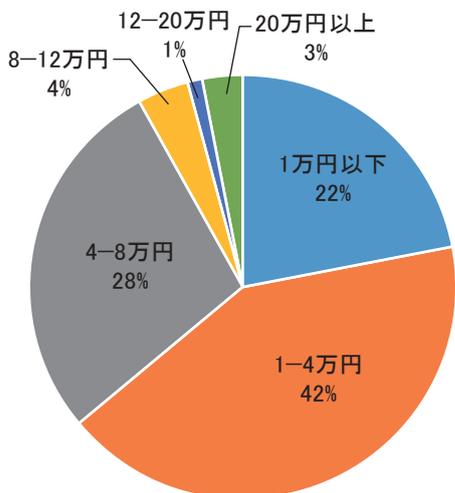
60. アルバイトの勤務形態はどれですか？



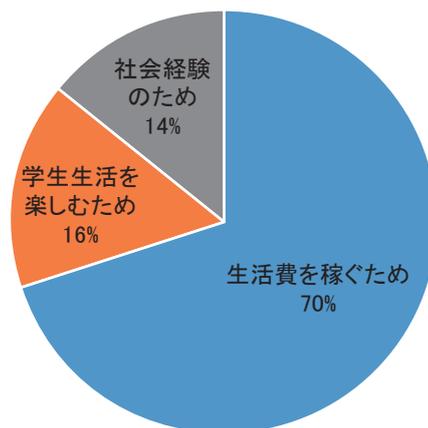
61. アルバイトの種類はどれですか？



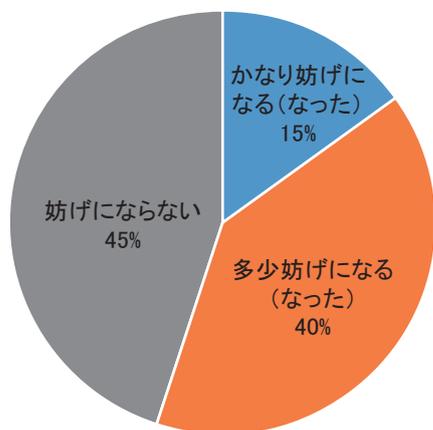
62. 1か月当たりの平均アルバイト収入額



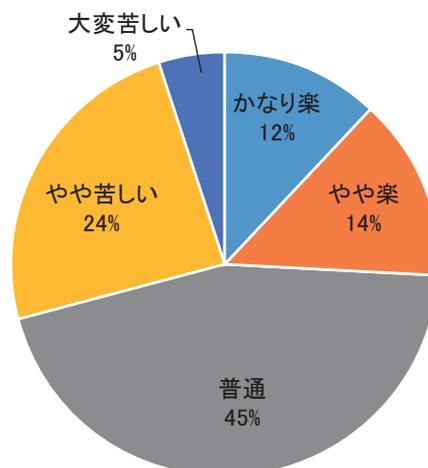
63. アルバイトをする理由



64. アルバイトが勉学の妨げになりませんか？



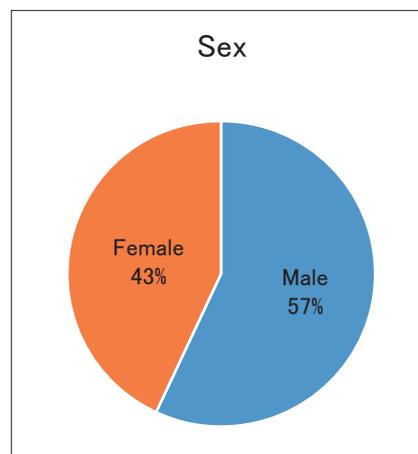
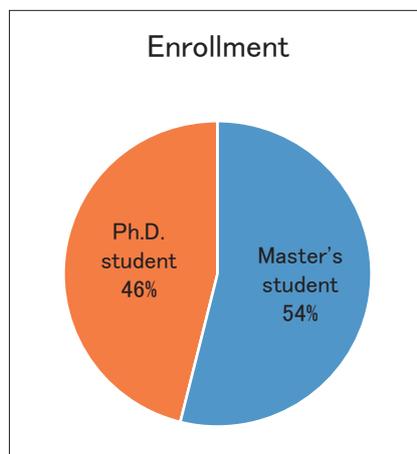
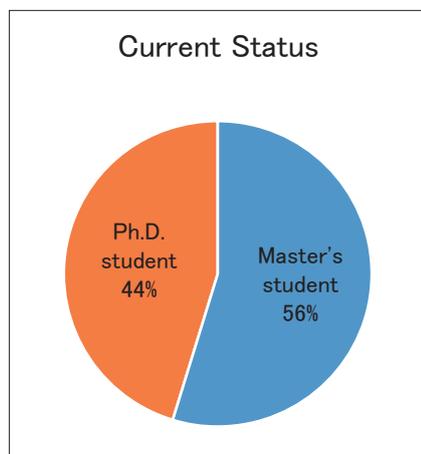
65. 現在の暮らし向きについては



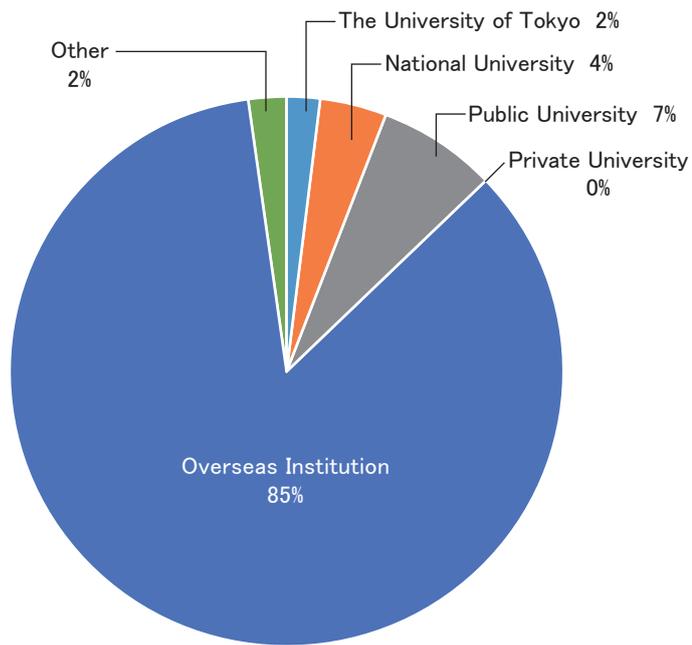
在籍生アンケート（英語）

回答数 46名（男 26名 女 20名）

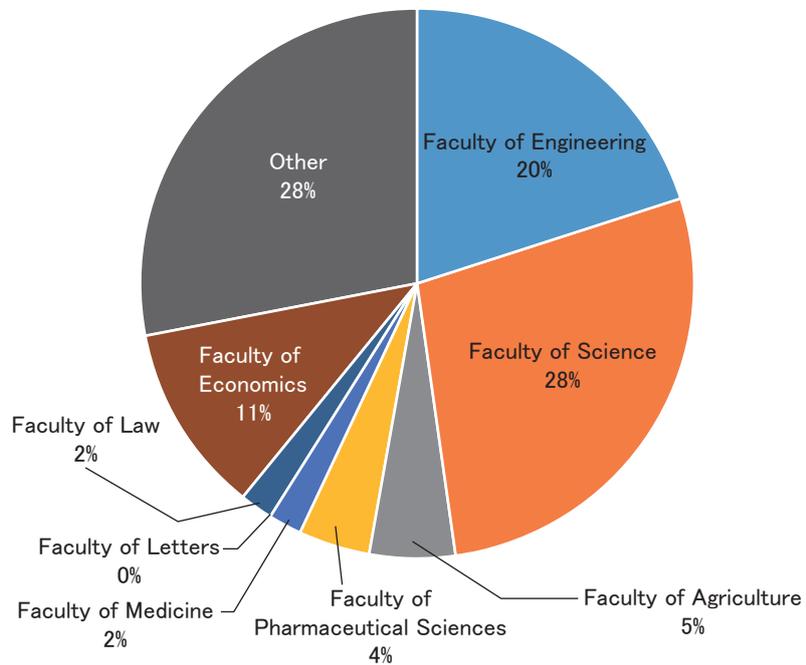
専攻	回答者学生数（男）	回答者学生数（女）	専攻別合計
物質系	2	0	2
先端エネルギー工学	3	0	3
複雑理工学	1	0	1
先端生命	1	2	3
メディカル情報生命	2	3	5
自然環境学	1	3	4
海洋技術環境学	0	0	0
環境システム学	2	0	2
人間環境学	0	1	1
社会文化環境	1	2	3
国際協力学	3	2	5
GPSS-GLI	10	7	17
全体	26	20	46
国際協力学	7	3	10
GPSS-GLI	1	2	3
全体	152	43	195

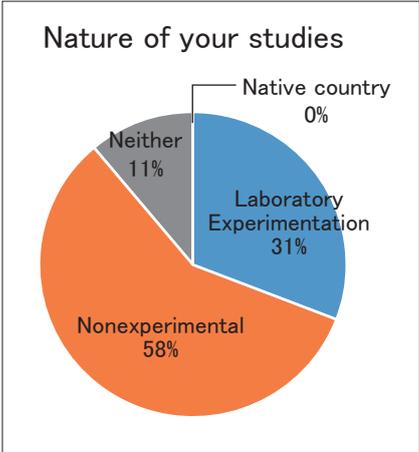
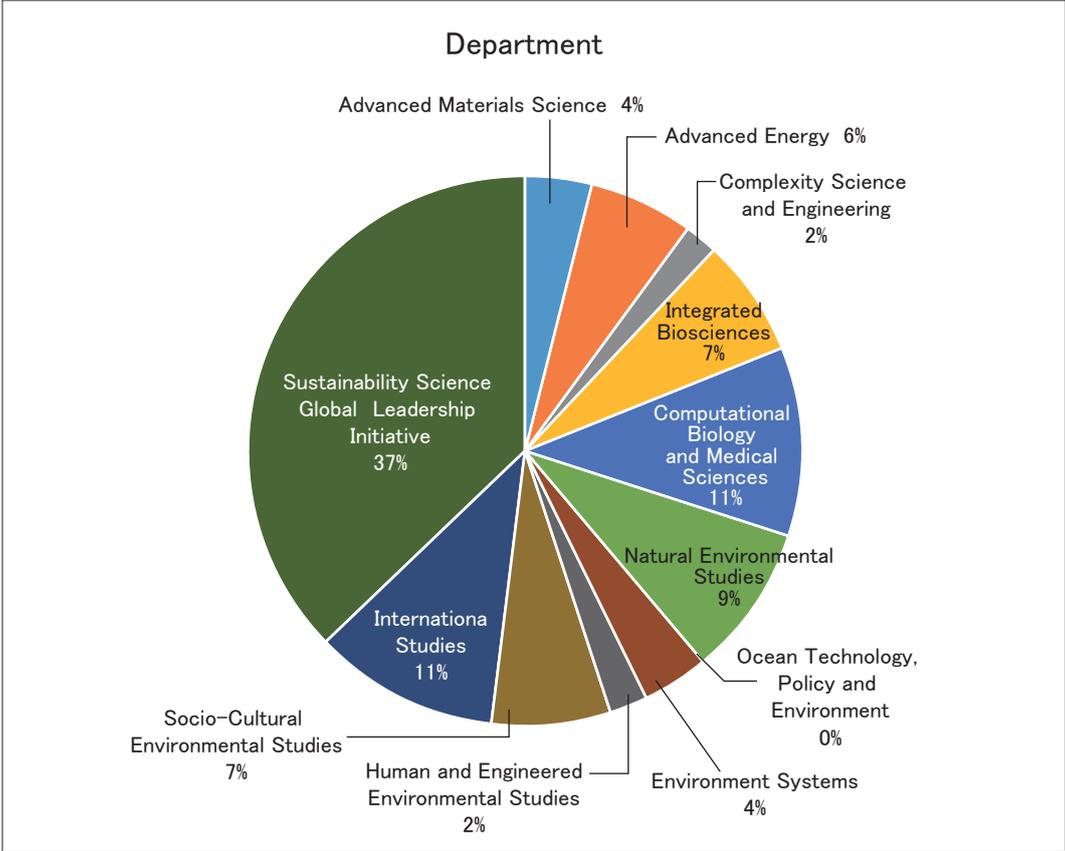


Undergraduate studies were completed at

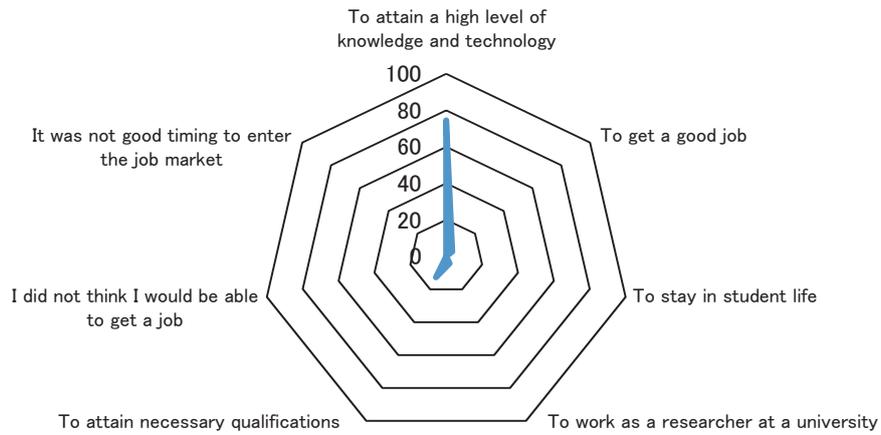


Faculty you have graduated from

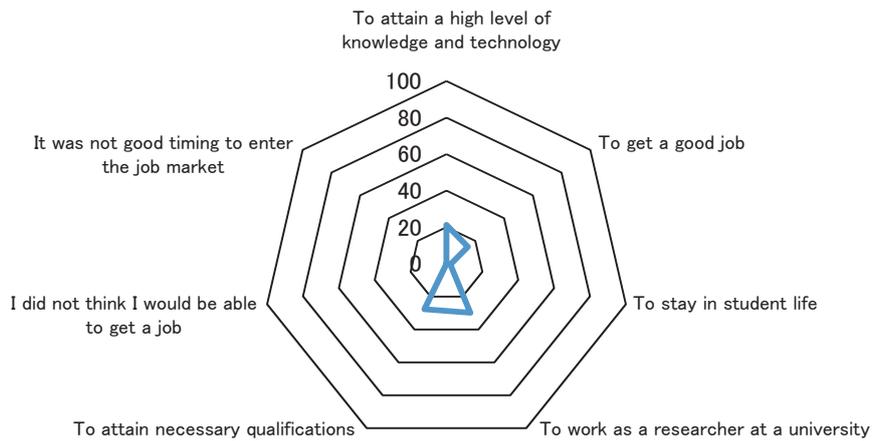




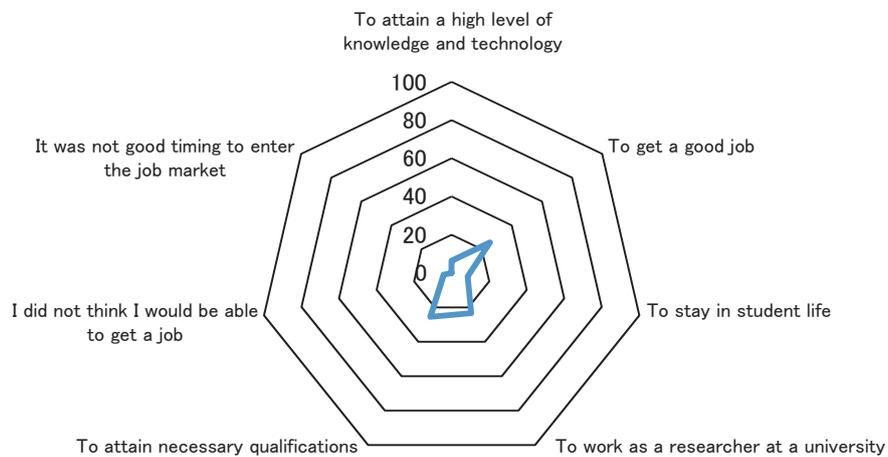
1. The main reason why you came to graduate school 1st



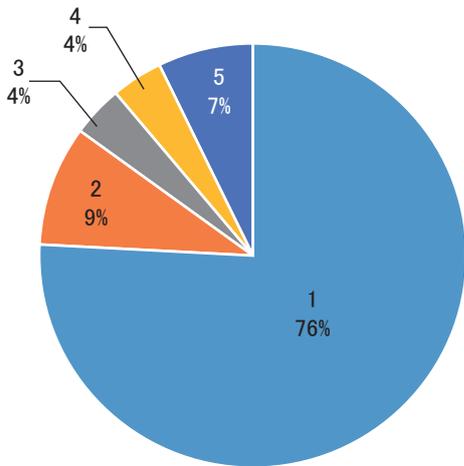
1. The main reason why you came to graduate school 2nd



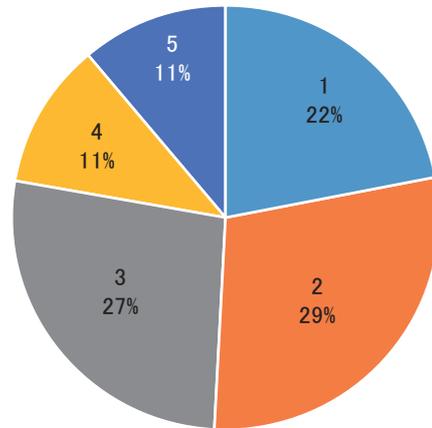
1. The main reason why you came to graduate school 3rd



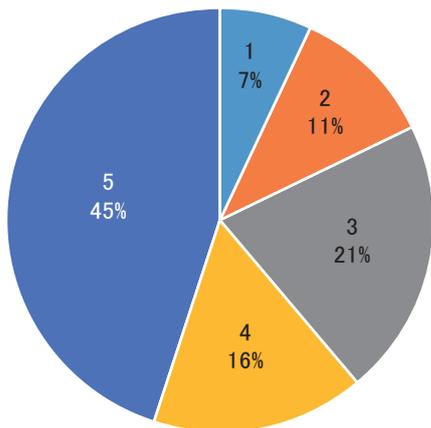
2. The main reason why you came to graduate school
'To attain a high level of knowledge and technology'



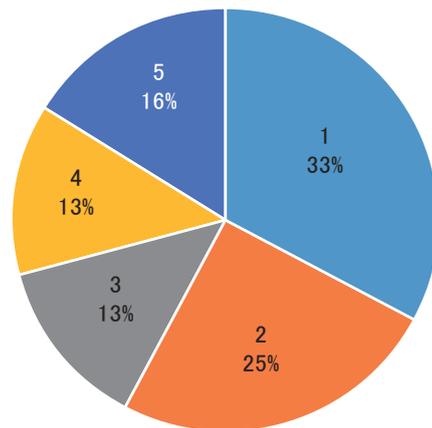
2. The main reason why you came to graduate school
'To get a good job'



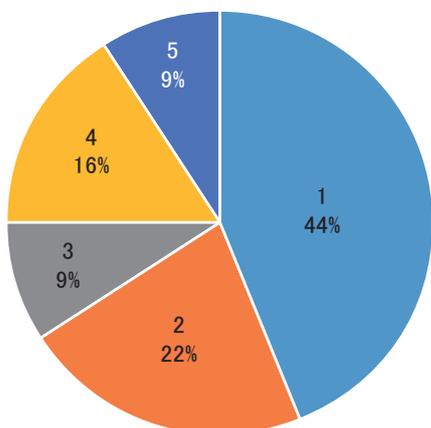
2. The main reason why you came to graduate school
'To stay in student life'



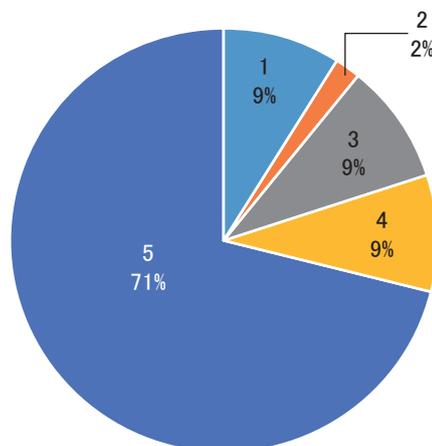
2. The main reason why you came to graduate school
'To work as a researcher at a university'



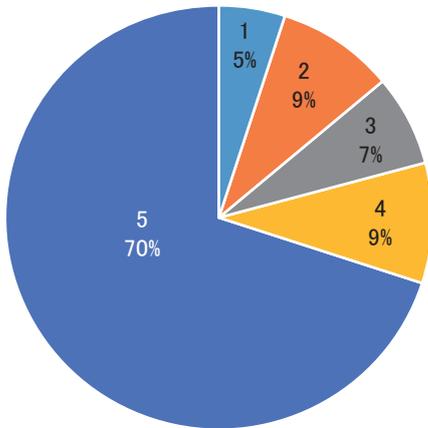
2. The main reason why you came to graduate school
'To attain necessary qualifications'



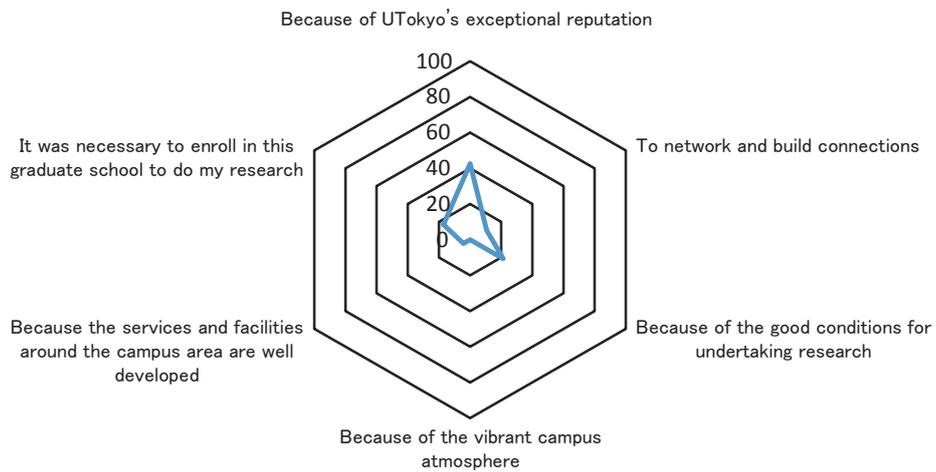
2. The main reason why you came to graduate school
'I did not think I would be able to get a job'



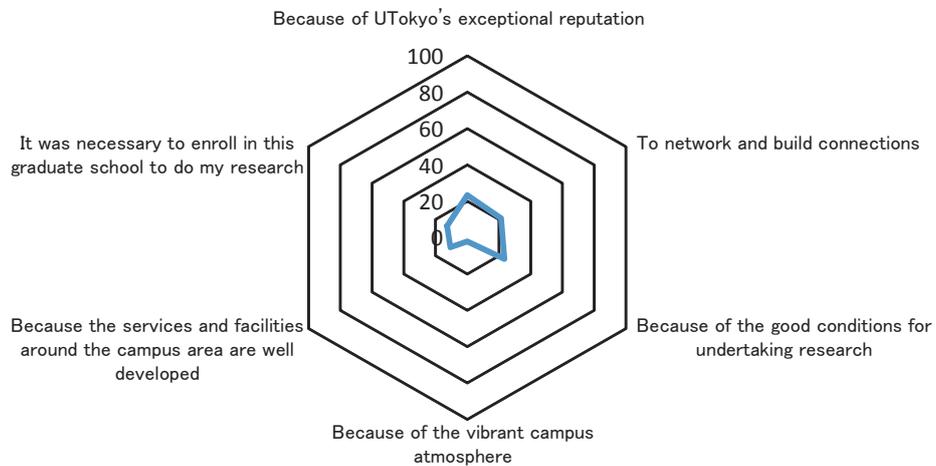
2. The main reason why you came to graduate school
'It was not good timing to enter the job market'



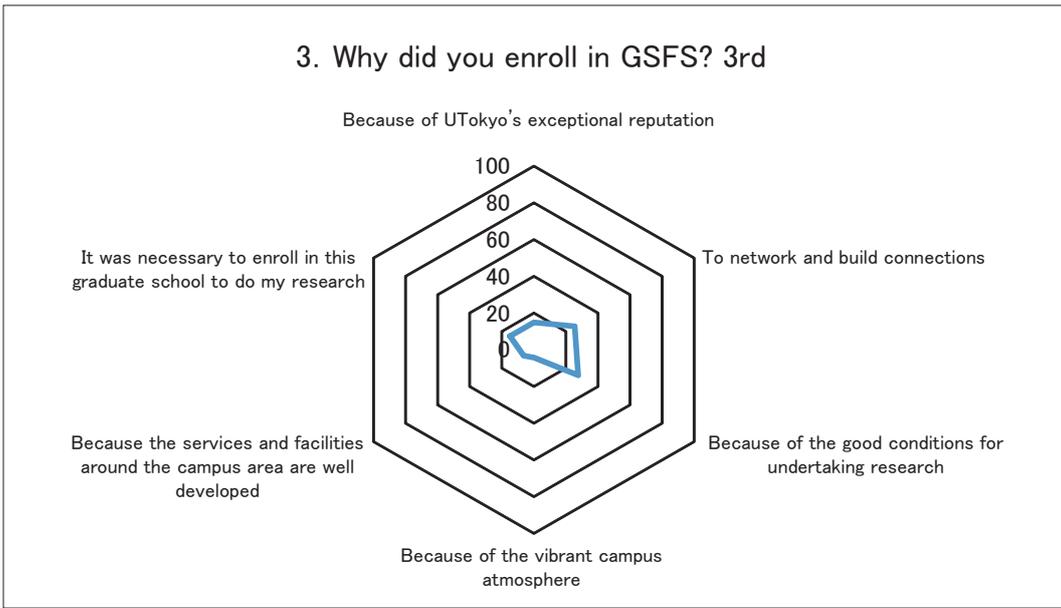
3. Why did you enroll in GSFS? 1st



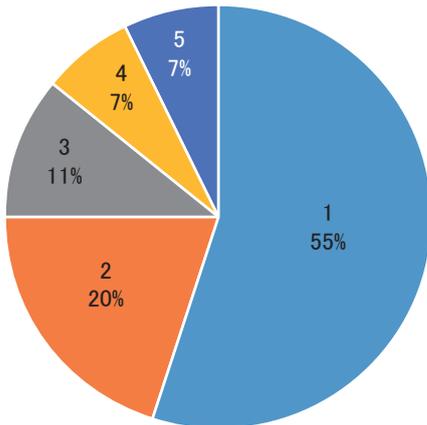
3. Why did you enroll in GSFS? 2nd



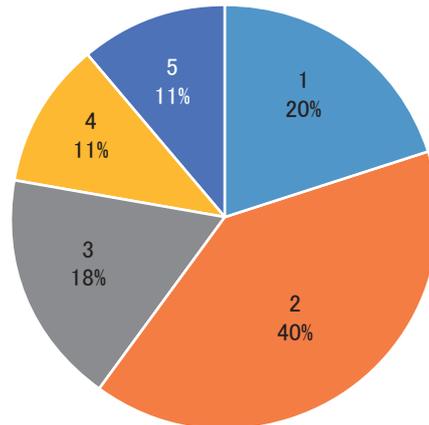
3. Why did you enroll in GSFS? 3rd



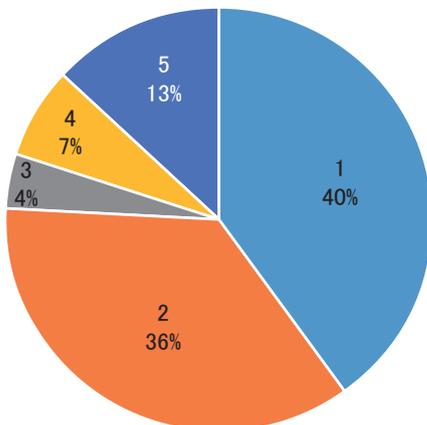
4. Why did you enroll in GSFS? 'Because of UTokyo's exceptional reputation'



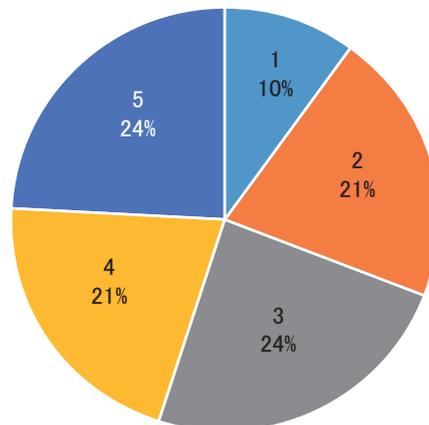
4. Why did you enroll in GSFS? 'To network and build connections'



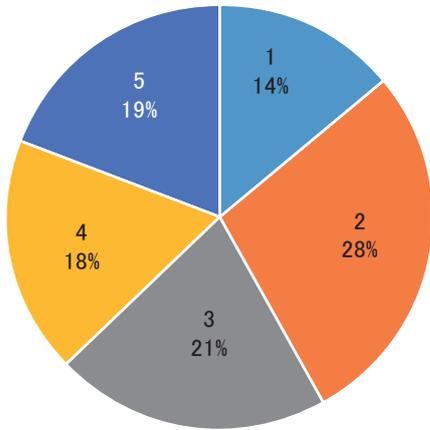
4. Why did you enroll in GSFS? 'Because of the good conditions for undertaking research'



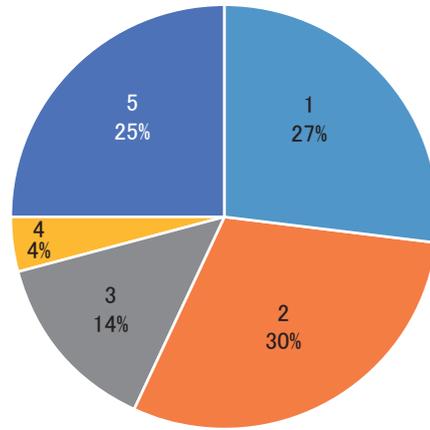
4. Why did you enroll in GSFS? 'Because of the vibrant campus atmosphere'



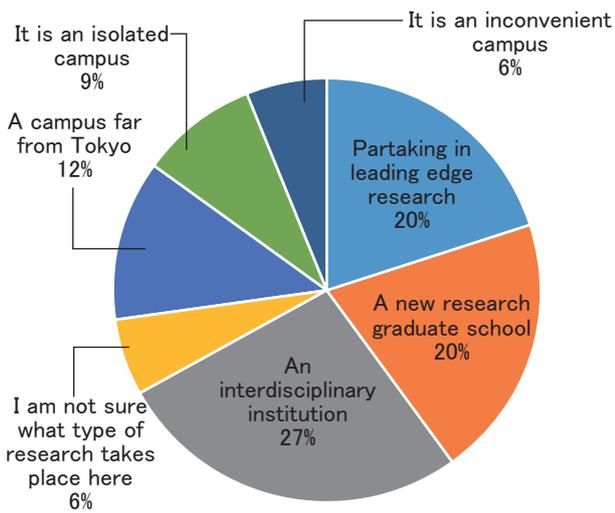
4. Why did you enroll in GSFS?
 'Because the services and facilities around the campus area are well developed'



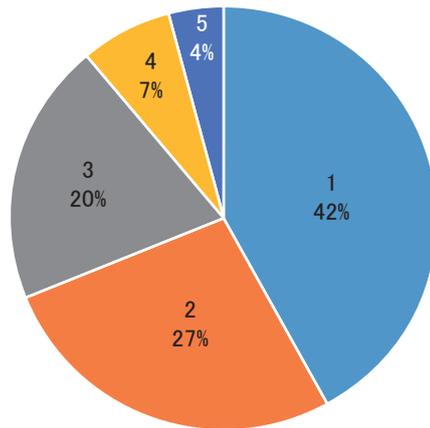
4. Why did you enroll in GSFS?
 'It was necessary to enroll in this graduate school to do my research'



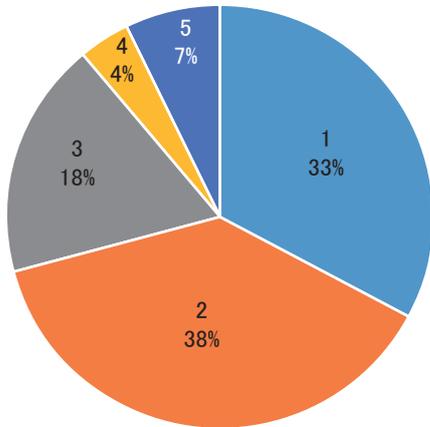
5. What is your general opinion of the GSFS?



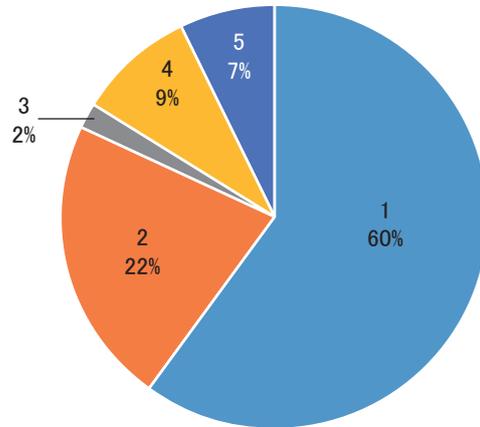
6. What is your general opinion of GSFS?
 Partaking in leading edge research



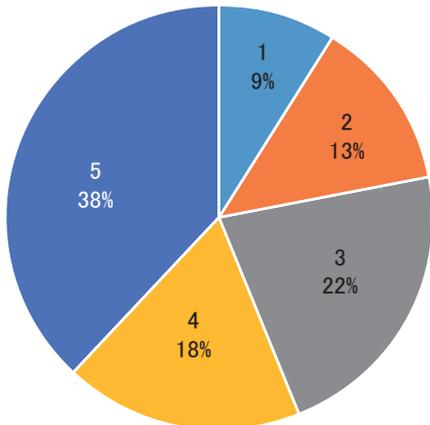
6. What is your general opinion of GSFS?
'A new research graduate school'



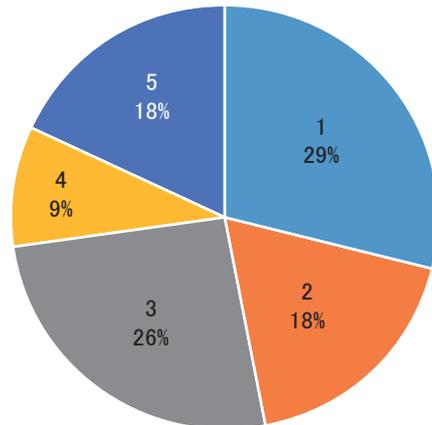
6. What is your general opinion of GSFS?
An interdisciplinary institution



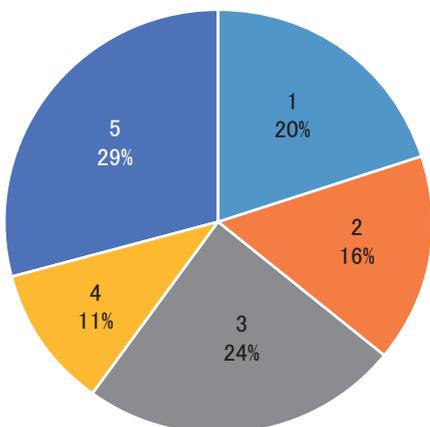
6. What is your general opinion of GSFS?
I am not sure what type of research takes place here



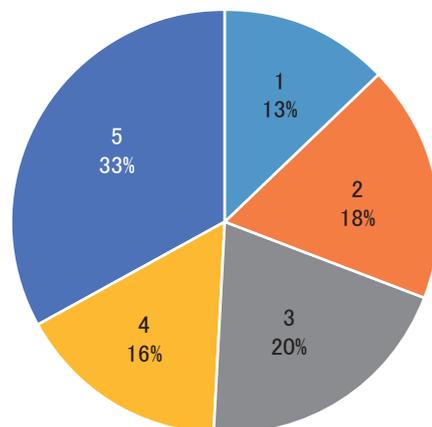
6. What is your general opinion of GSFS?
A campus far from Tokyo



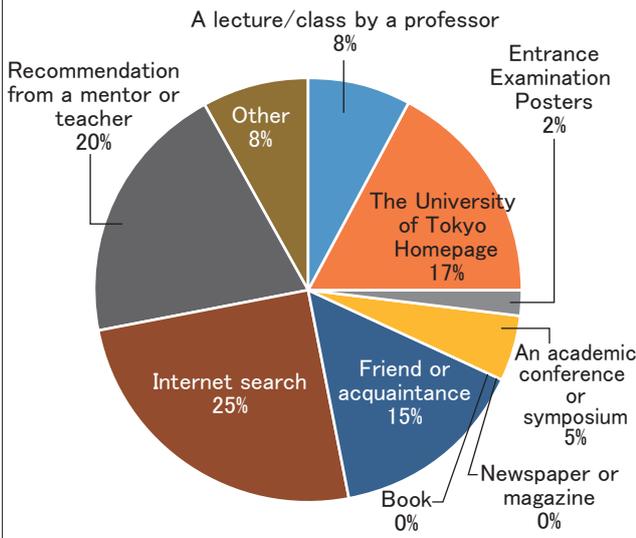
6. What is your general opinion of GSFS?
It is an isolated campus



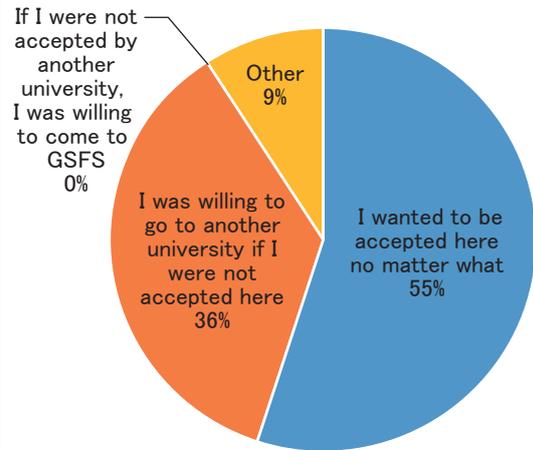
6. What is your general opinion of GSFS?
It is an inconvenient campus



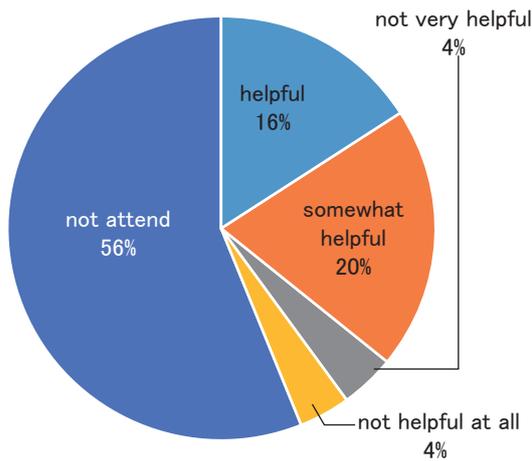
7. How did you find out about GSFS?



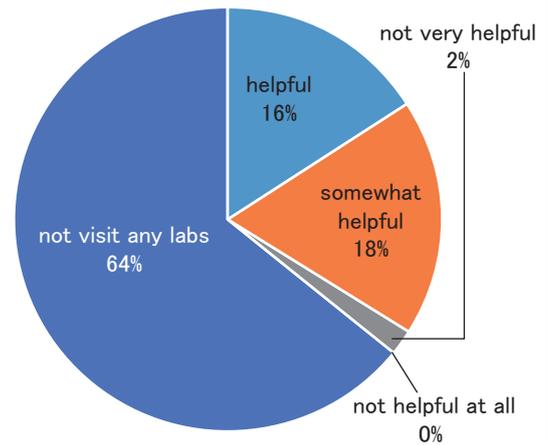
8. How strong was your desire to join GSFS at the time of your entrance examination?



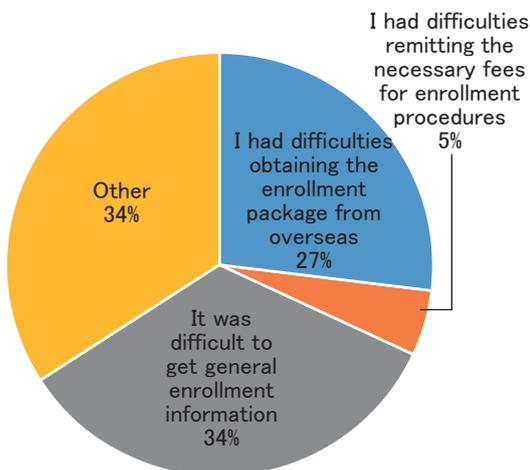
9. Did the session for general information on graduate schools help you choose your desired University?



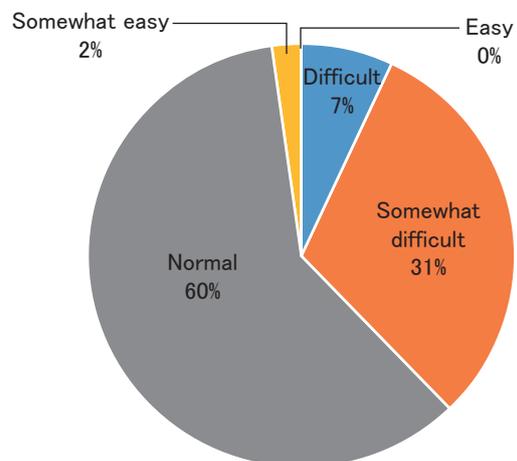
10. Did visiting laboratories help you choose your University?



11. Did you experience any problems because of the entrance examinations?



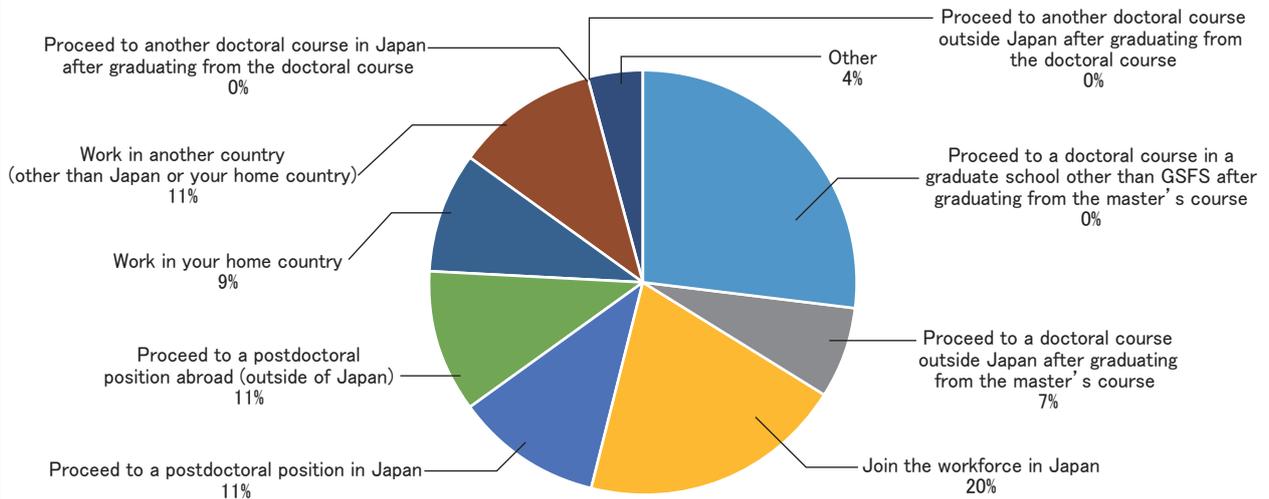
12. How did you feel about the entrance examination questions?



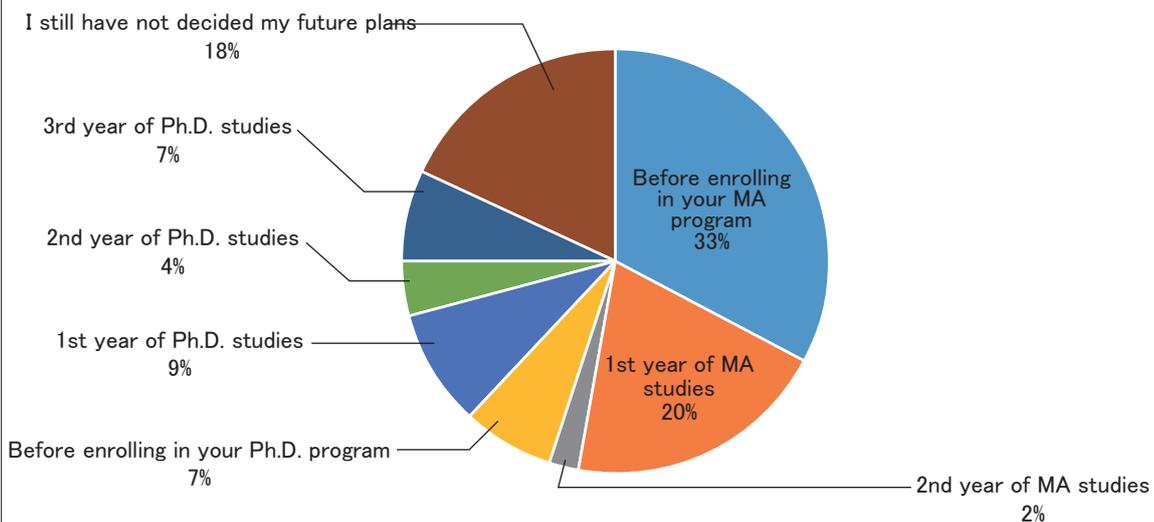
13. Research laboratory you joined



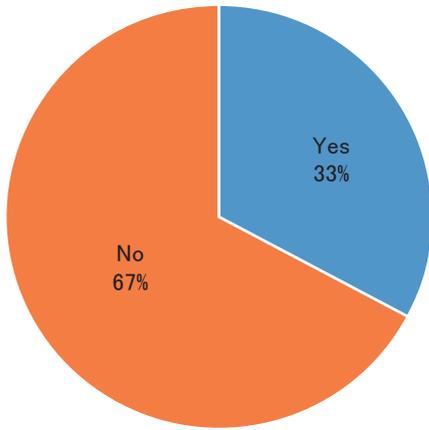
14. What are your plans for after graduation?



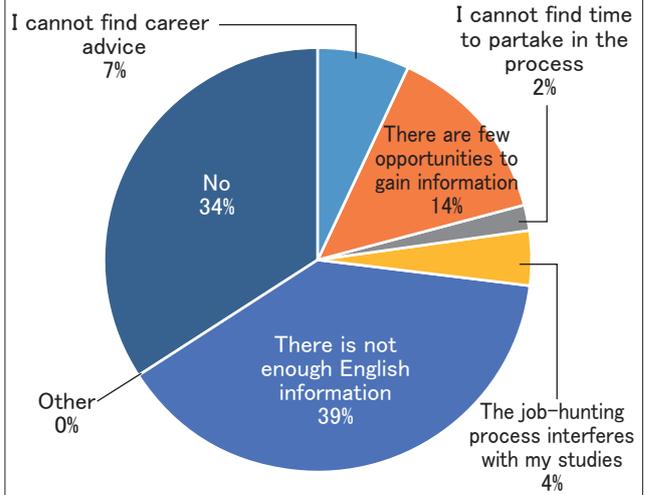
15. When did you decide on your plans for after graduation?



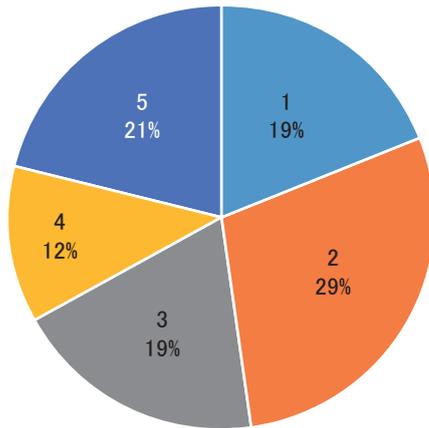
16. Have you ever participated in the job hunting process?



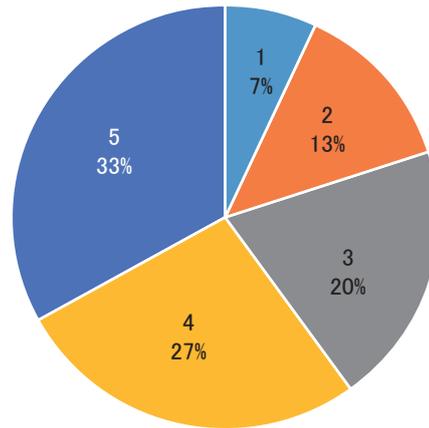
17. What trouble in the job hunting process did you experience?



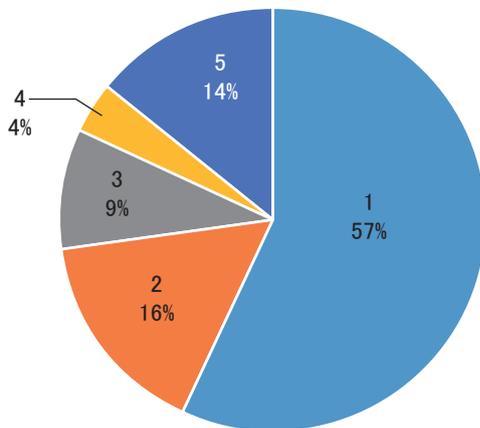
18. What type of career/industry are you interested in?
'Consulting firms/Think tanks'



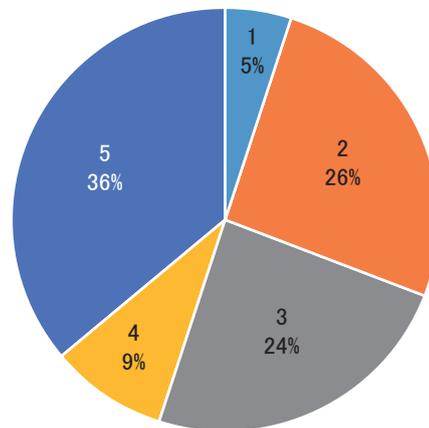
18. What type of career/industry are you interested in?
'Finance'



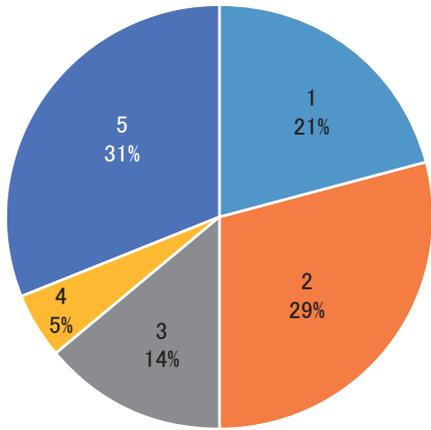
18. What type of career/industry are you interested in?
'Academic researcher, professor, staff'



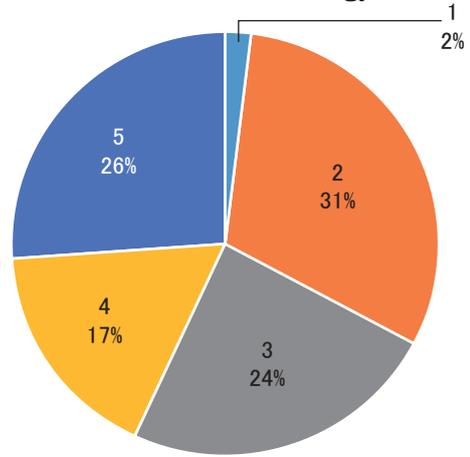
18. What type of career/industry are you interested in?
'Manufacturing'



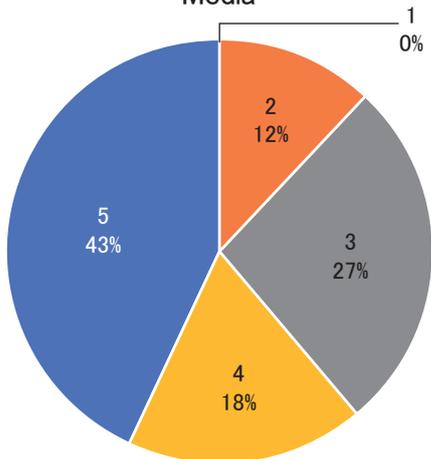
18. What type of career/industry are you interested in?
'Government Officer'



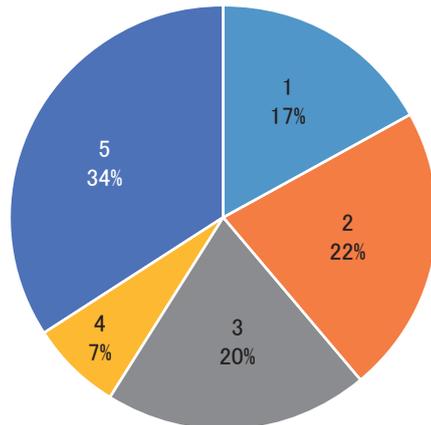
18. What type of career/industry are you interested in?
'Information Technology'



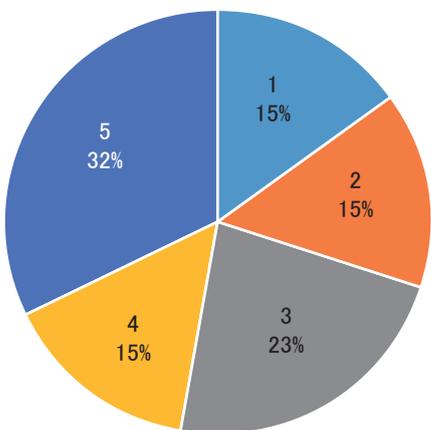
18. What type of career/industry are you interested in?
'Media'



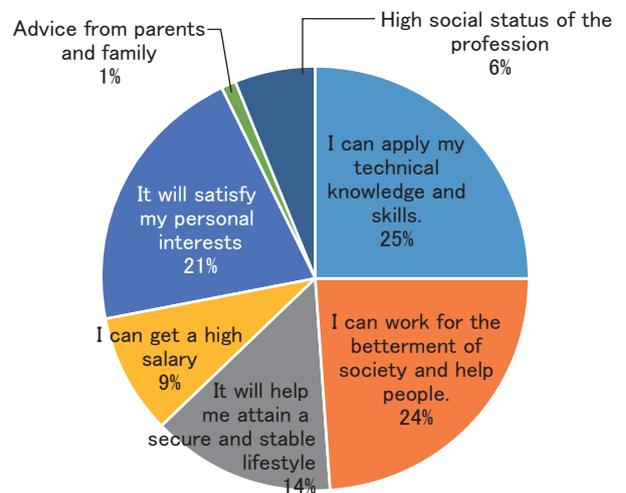
18. What type of career/industry are you interested in?
'Own Start-up Company'



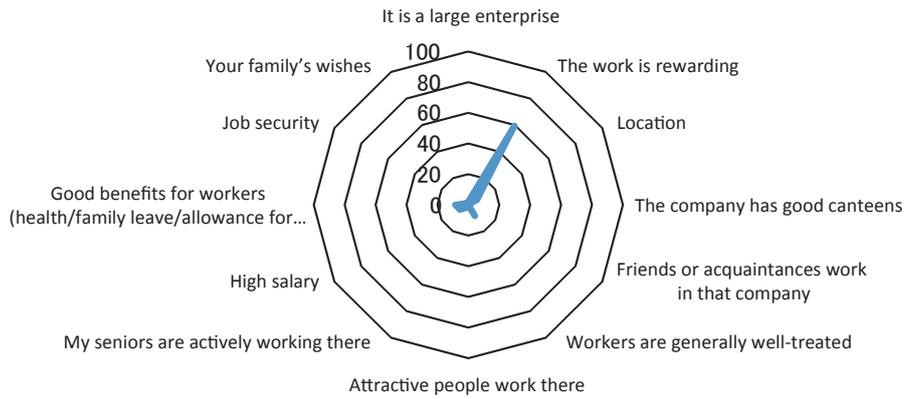
18. What type of career/industry are you interested in?
'Other'



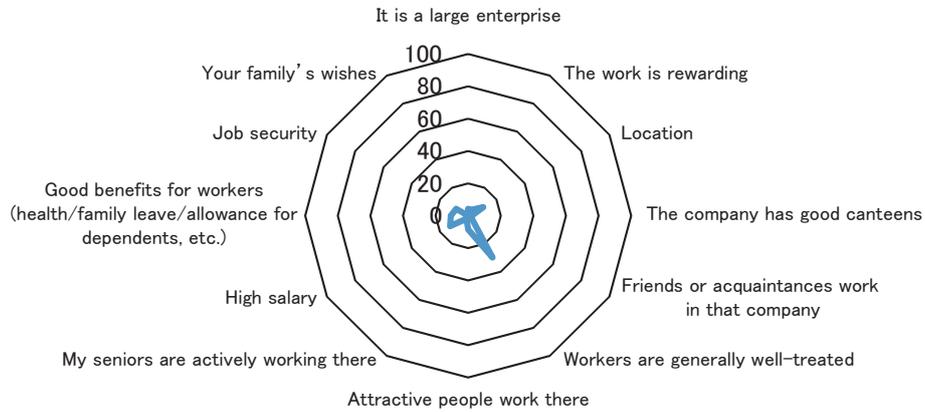
19. Why are you interested in that career path?



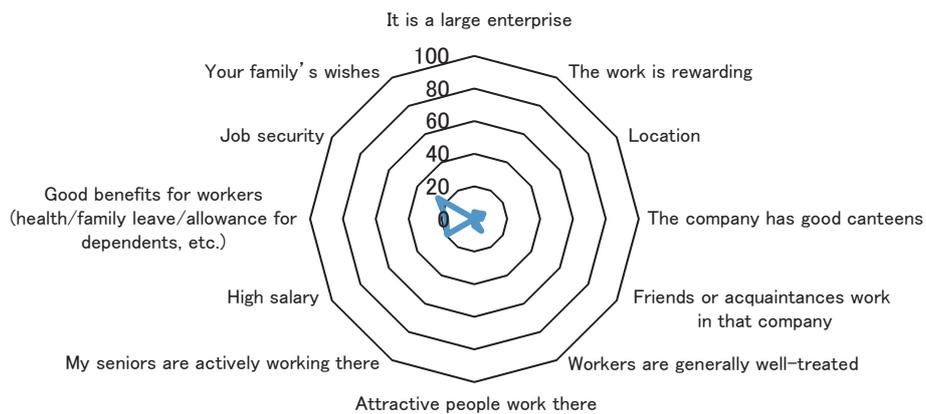
20. What do you consider important when choosing your work(place)? 1st



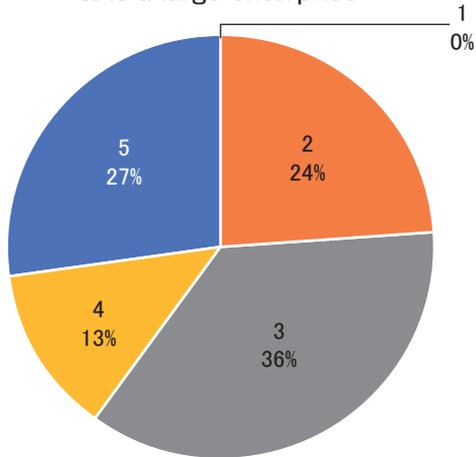
20. What do you consider important when choosing your work(place)? 2nd



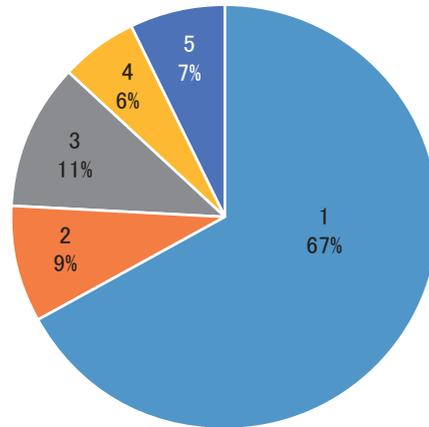
20. What do you consider important when choosing your work(place)? 3rd



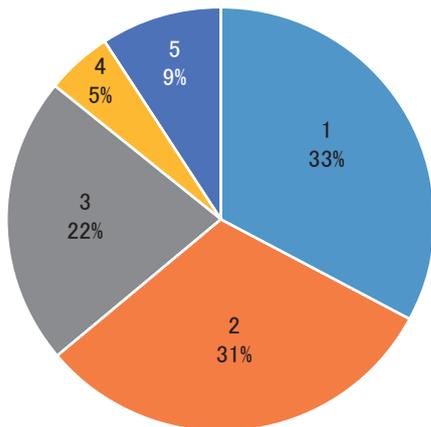
21. What do you consider important when choosing your work(place)?
'It is a large enterprise'



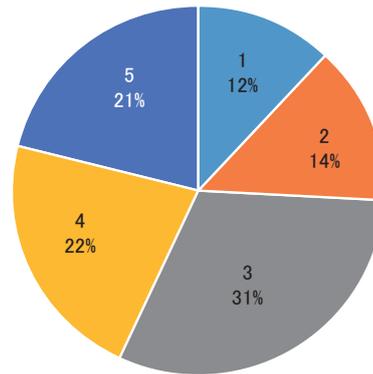
21. What do you consider important when choosing your work(place)?
'The work is rewarding'



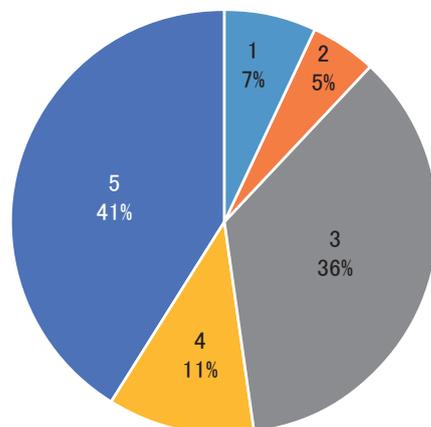
21. What do you consider important when choosing your work(place)?
'High salary'



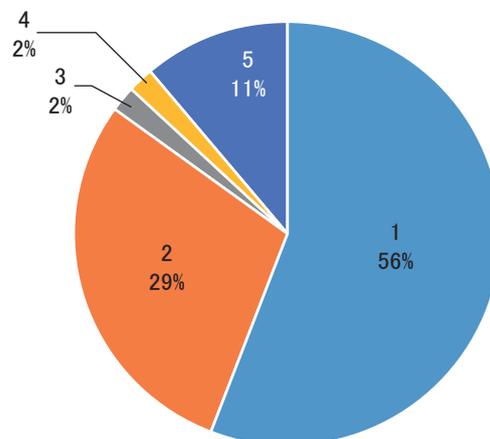
27. What are you unsatisfied with concerning the campus life at Kashiwa?
'There are not enough restaurants or places to eat'



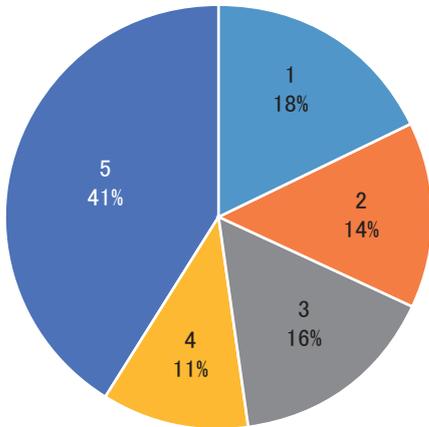
21. What do you consider important when choosing your work(place)?
'Friends or acquaintances work in that company'



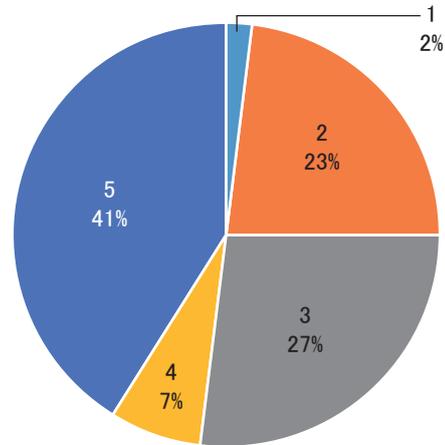
21. What do you consider important when choosing your work(place)?
'Workers are generally well-treated'



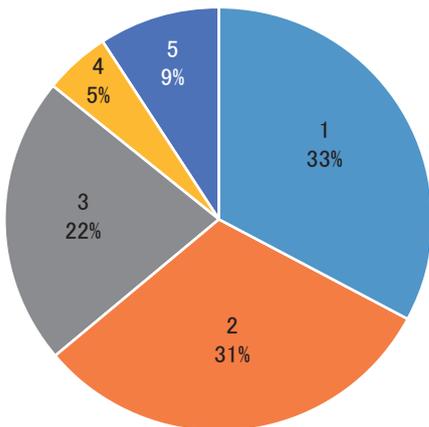
21. What do you consider important when choosing your work(place)?
'Attractive people work there'



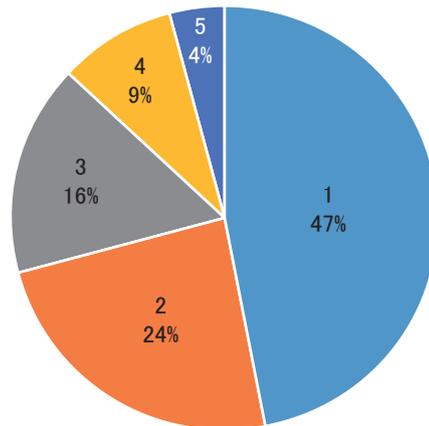
21. What do you consider important when choosing your work(place)?
'My seniors are actively working there'



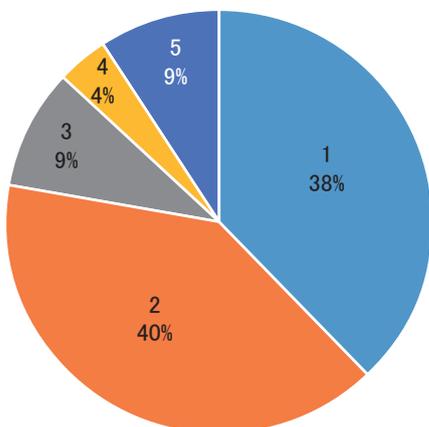
21. What do you consider important when choosing your work(place)?
'High salary'



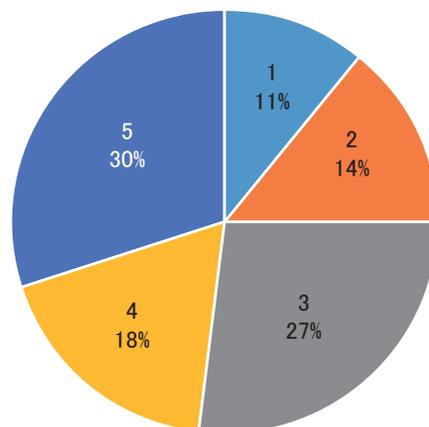
21. What do you consider important when choosing your work(place)?
'Good benefits for workers (health/family leave/allowance for dependants etc.)'



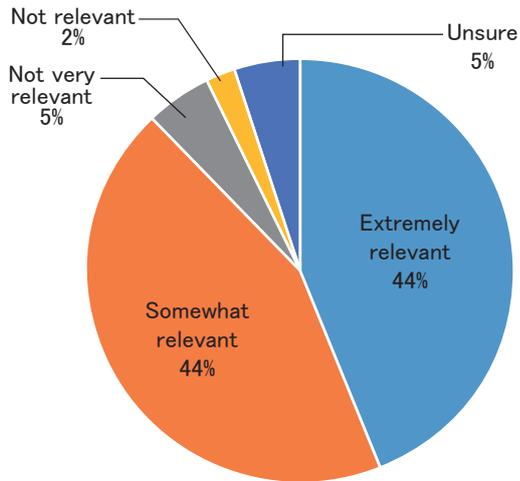
21. What do you consider important when choosing your work(place)?
'Job security'



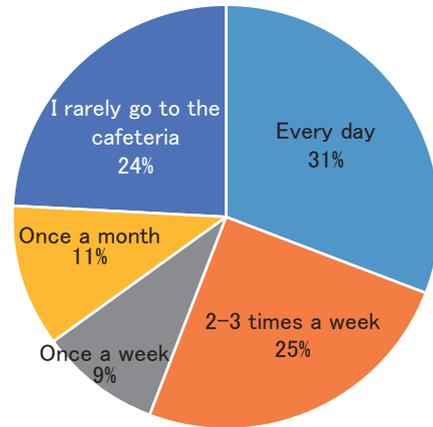
21. What do you consider important when choosing your work(place)?
'Your family's wishes'



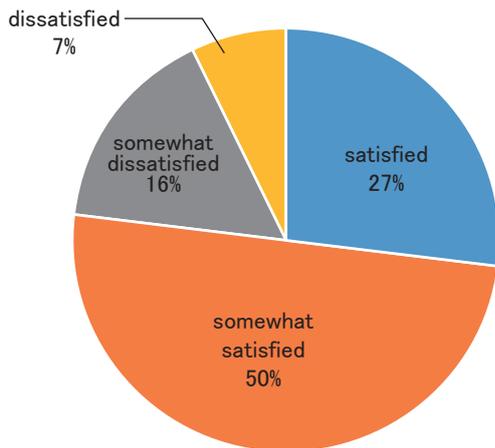
22. Is your current research relevant to your future life plans?



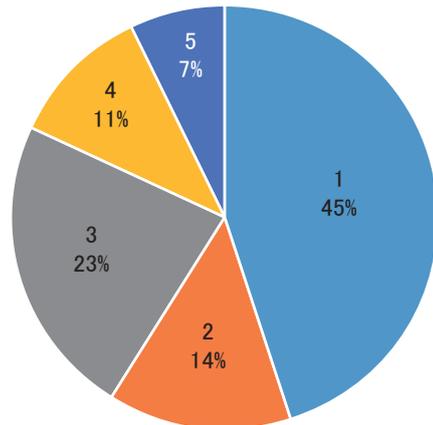
23. How often do you use the cafeteria?



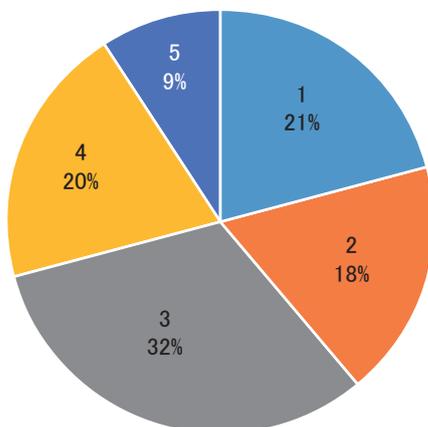
24. Are you satisfied with the selection available at the cafeteria?



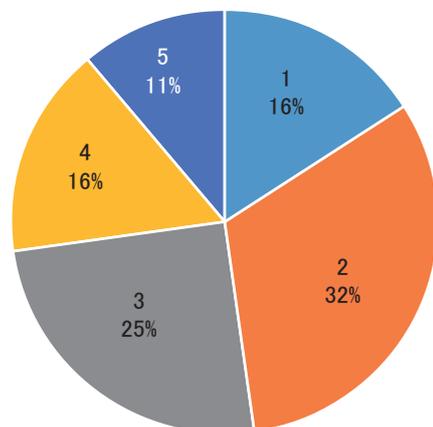
25. What is your favorite type of food? 'Japanese'



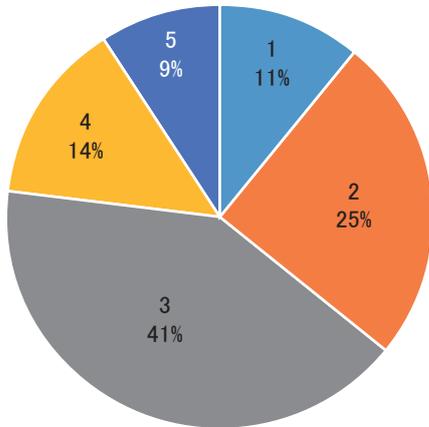
25. What is your favorite type of food? 'Chinese'



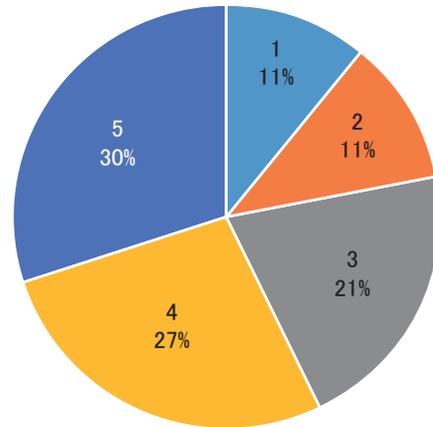
25. What is your favorite type of food? 'Italian'



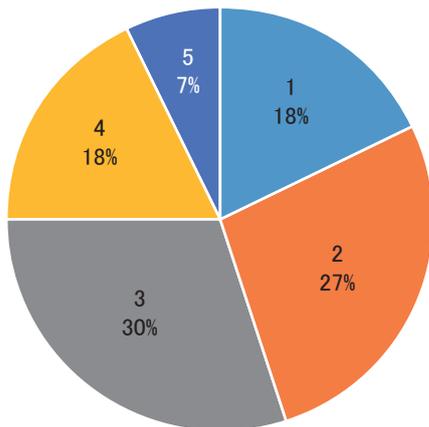
25. What is your favorite type of food?
'French'



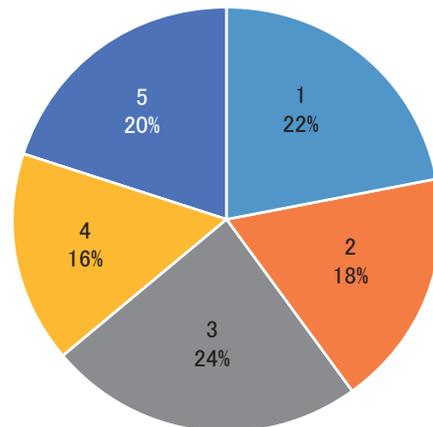
25. What is your favorite type of food?
'Fast food'



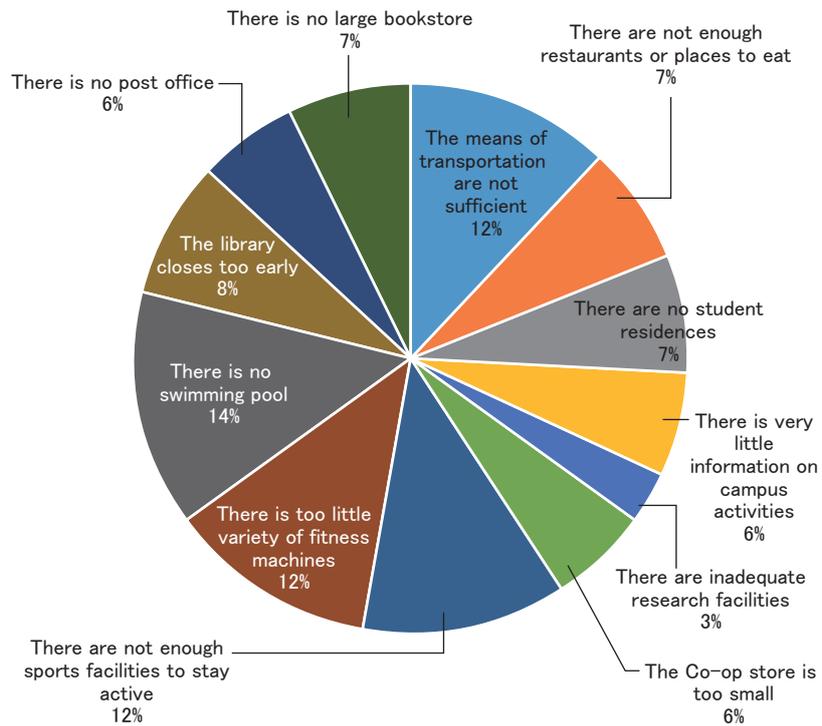
25. What is your favorite type of food?
'Western style'



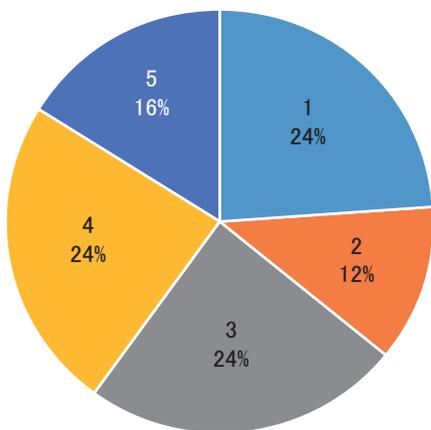
25. What is your favorite type of food?
'Vegetarian'



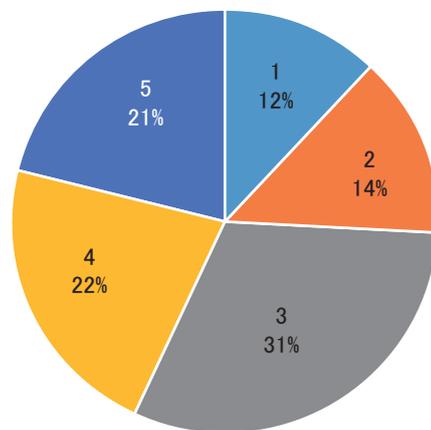
26. What are you unsatisfied about concerning the campus life at Kashiwa?



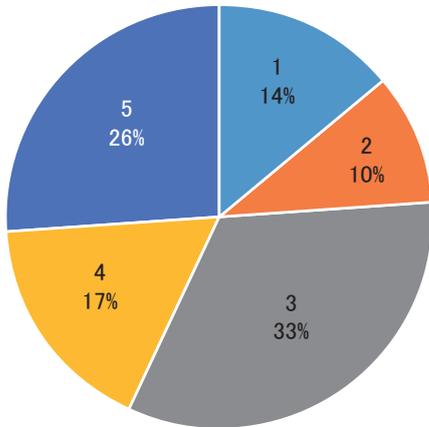
27. What are you unsatisfied with concerning the campus life at Kashiwa?
'The means of transportation are not sufficient'



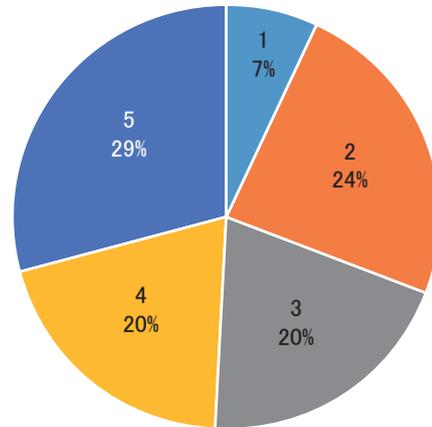
27. What are you unsatisfied with concerning the campus life at Kashiwa?
'There are not enough restaurants or places to eat'



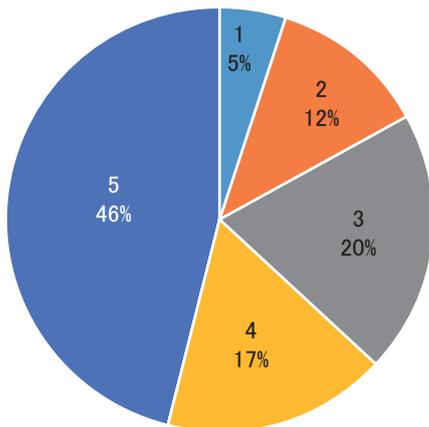
27. What are you unsatisfied with concerning the campus life at Kashiwa?
'There are no student residences'



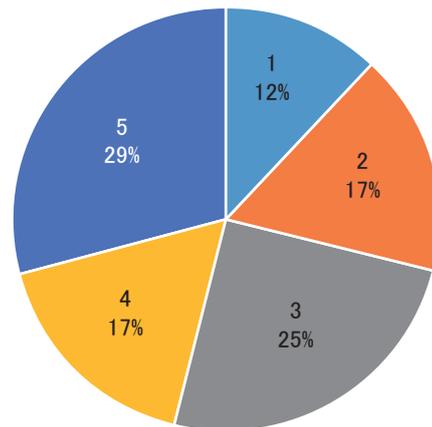
27. What are you unsatisfied with concerning the campus life at Kashiwa?
'There is very little information on campus activities'



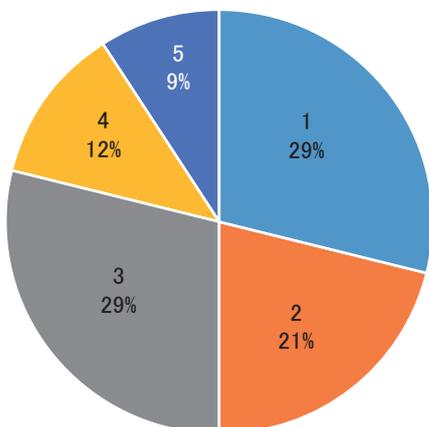
27. What are you unsatisfied with concerning the campus life at Kashiwa?
'There are inadequate research facilities'



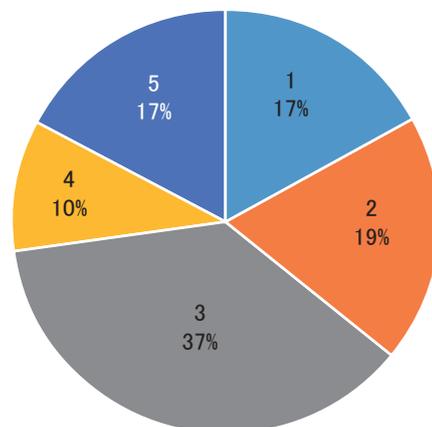
27. What are you unsatisfied with concerning the campus life at Kashiwa?
'The Co-op store is too small'



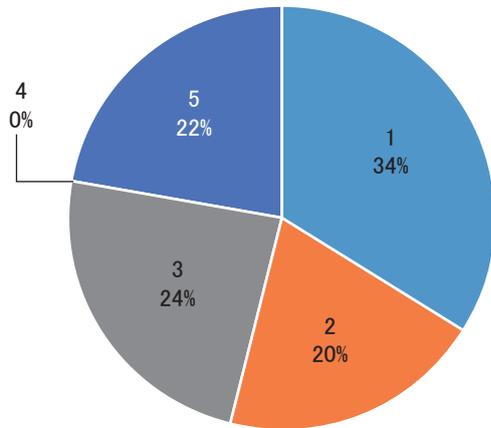
27. What are you unsatisfied with concerning the campus life at Kashiwa?
'There are not enough sports facilities to stay active'



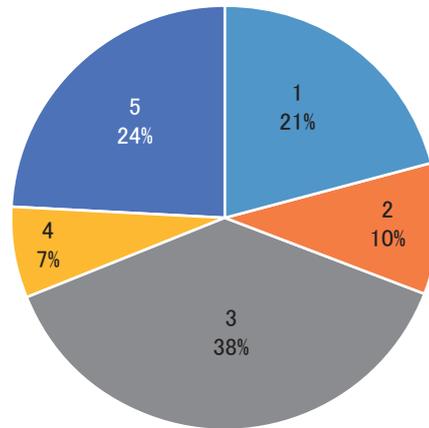
27. What are you unsatisfied with concerning the campus life at Kashiwa?
'There is too little variety of fitness machines'



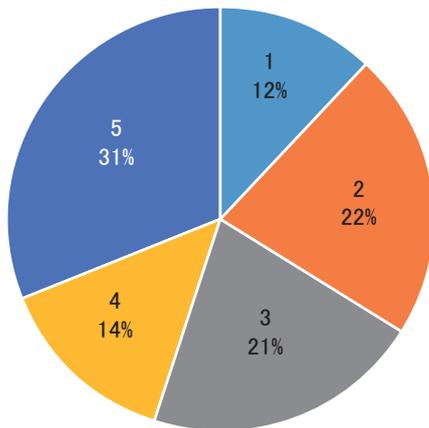
27. What are you unsatisfied with concerning the campus life at Kashiwa?
'There is no swimming pool'



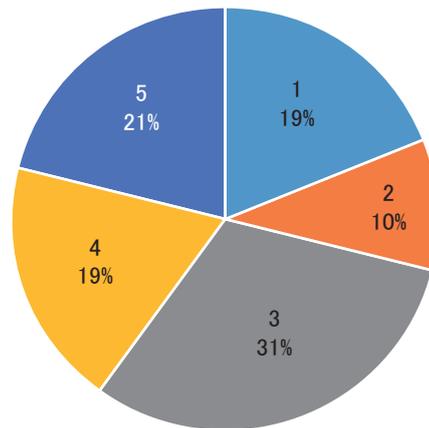
27. What are you unsatisfied with concerning the campus life at Kashiwa?
'The library closes too early'



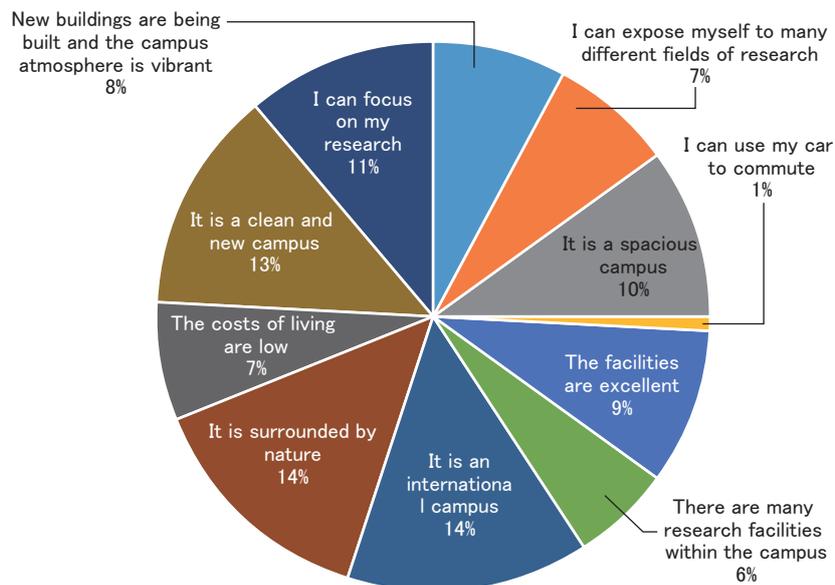
27. What are you unsatisfied with concerning the campus life at Kashiwa?
'There is no post office'



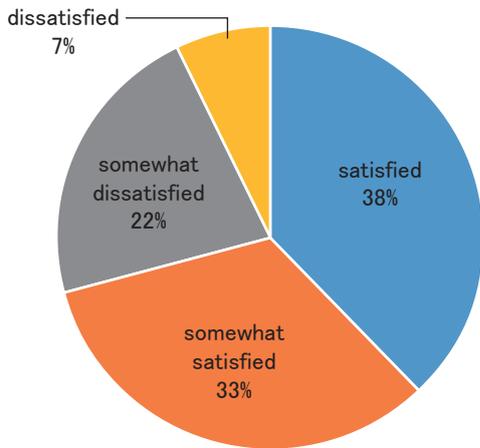
27. What are you unsatisfied with concerning the campus life at Kashiwa?
'There is no large bookstore'



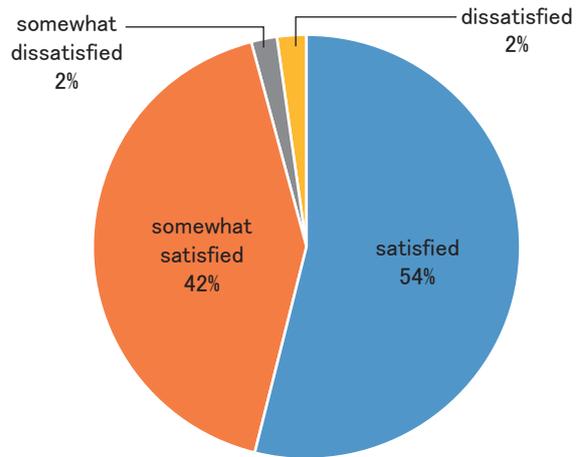
28. What do you like about Kashiwa Campus?



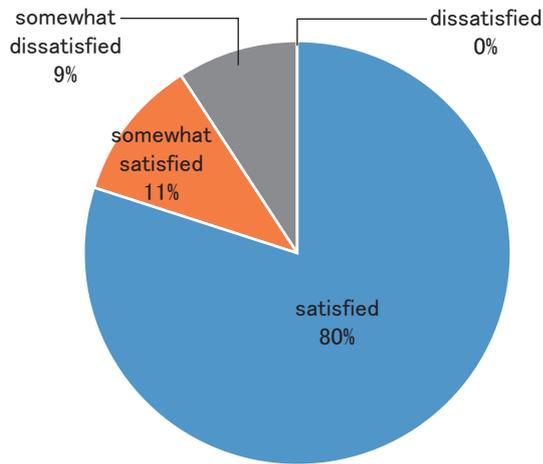
29. Are you satisfied with the curriculum offered in your department?



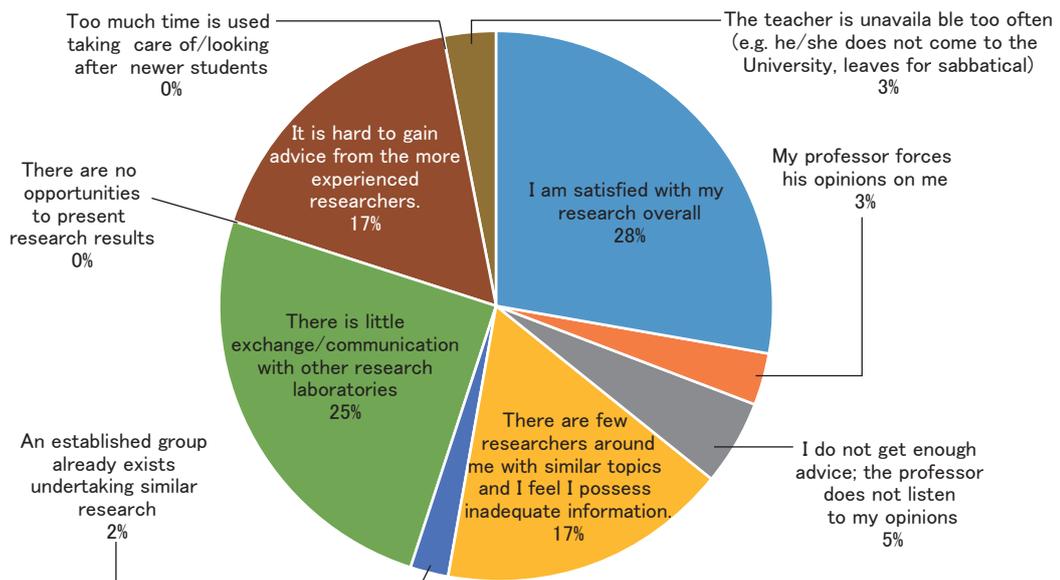
30. Are you satisfied with the research capacity and facilities of your laboratory?



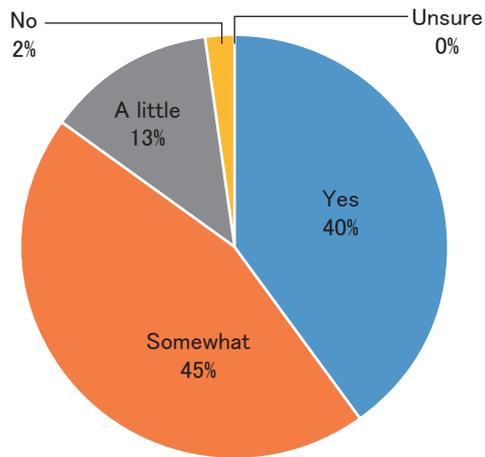
31. Are you satisfied with your supervising professor?



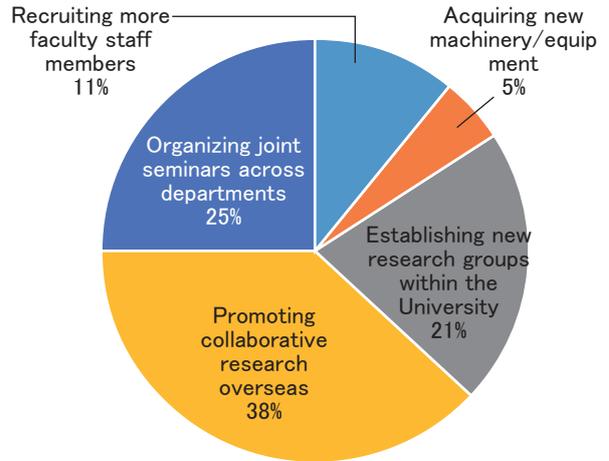
32. What problems do you have regarding your research process (advice, progress, subjects, etc.)?



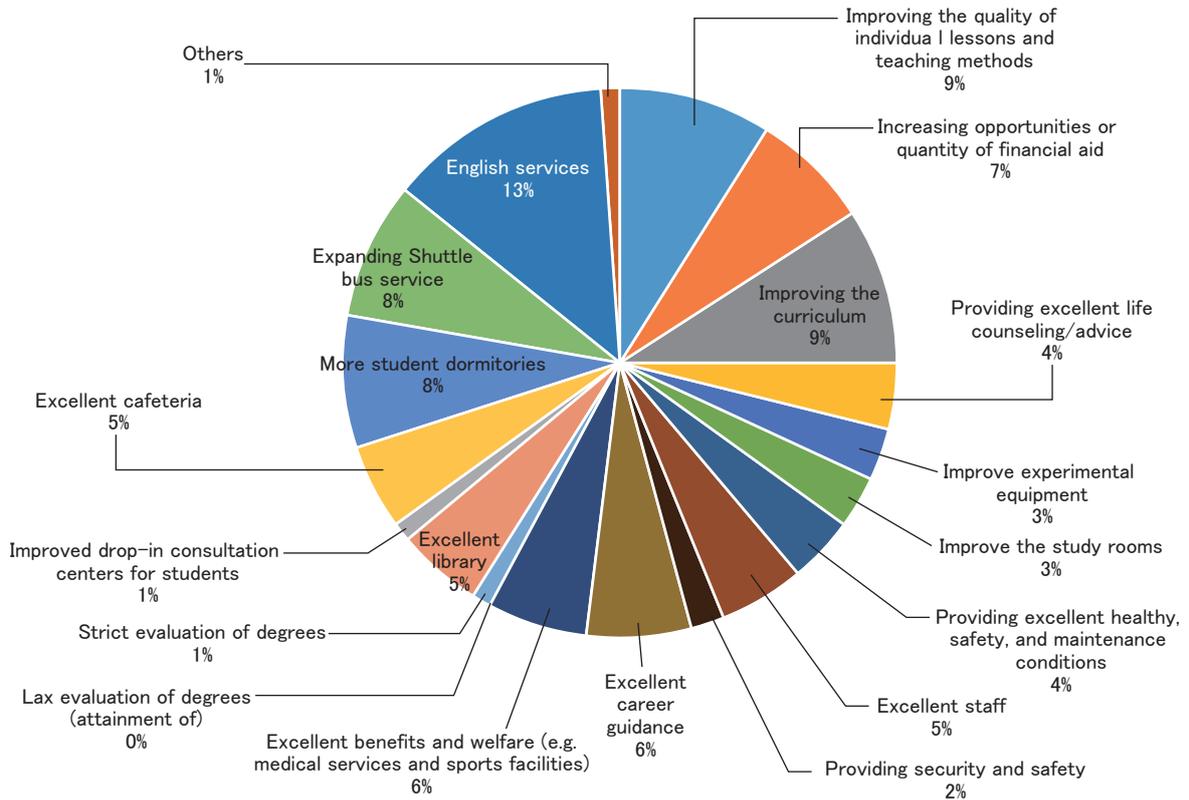
33. Do you feel that the GSFS is advancing in interdisciplinary studies?



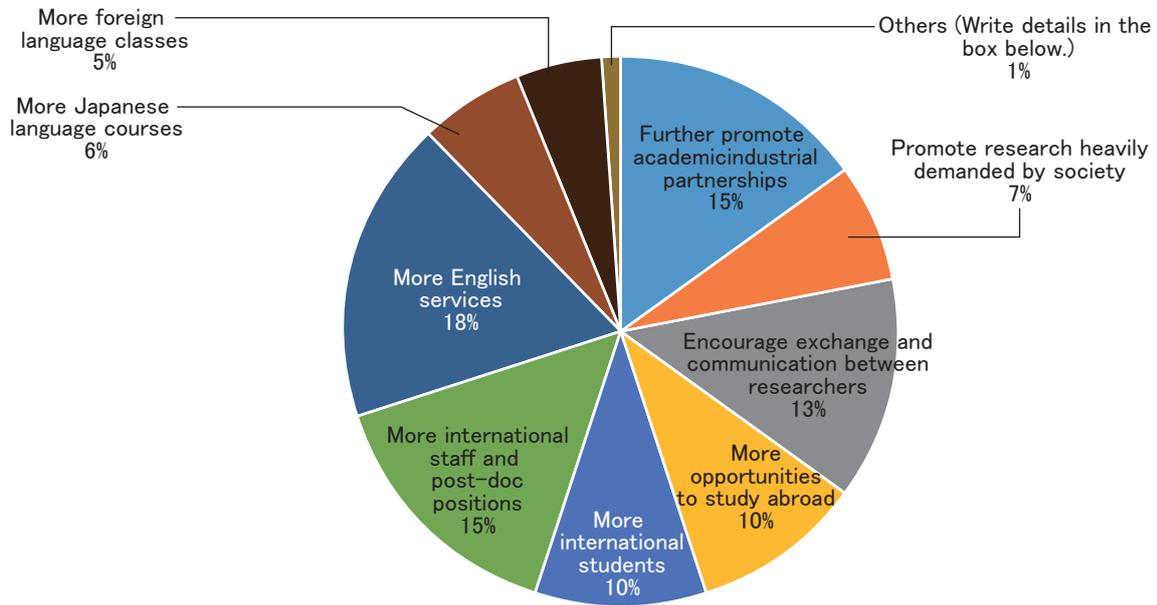
34. What do you think is necessary to promote better interdisciplinary studies?



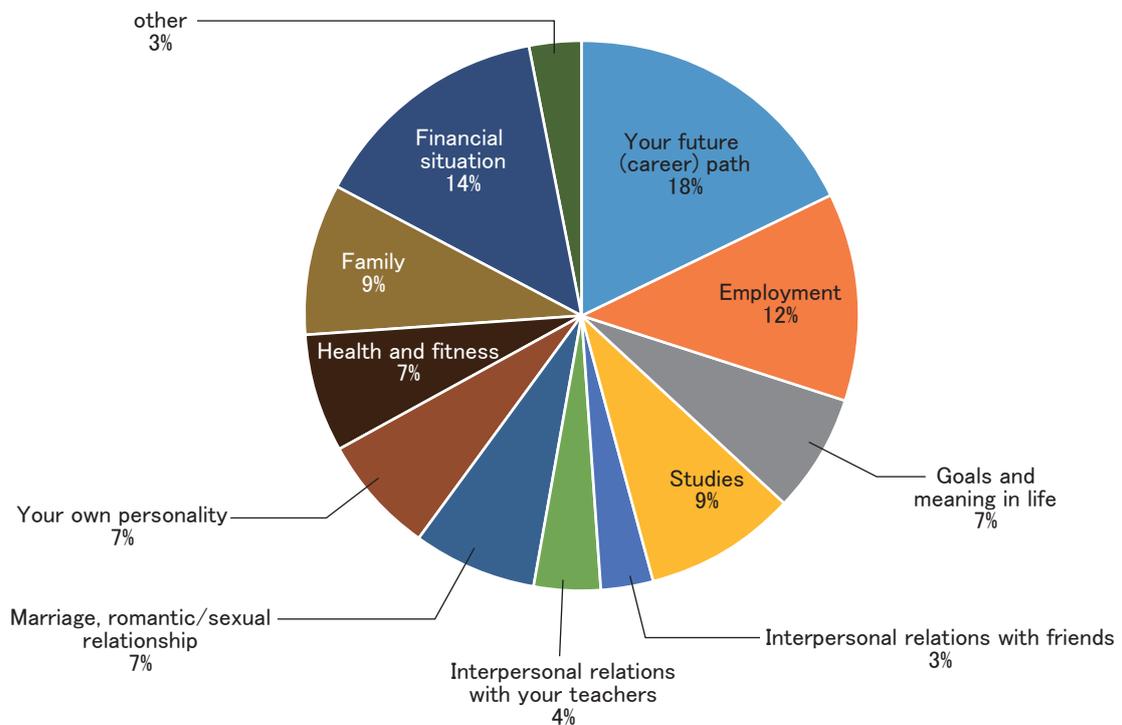
35. What do you expect or desire for the University to provide?

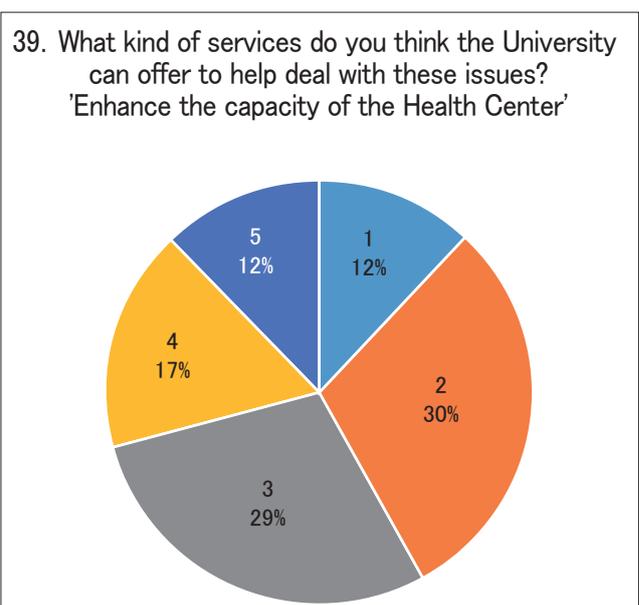
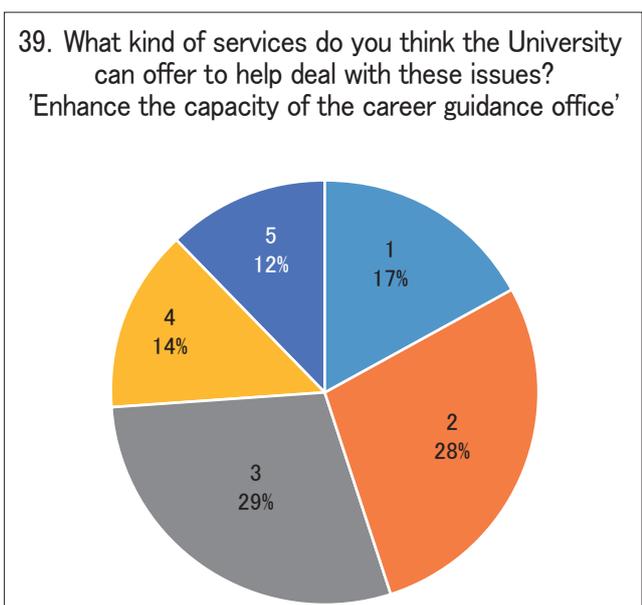
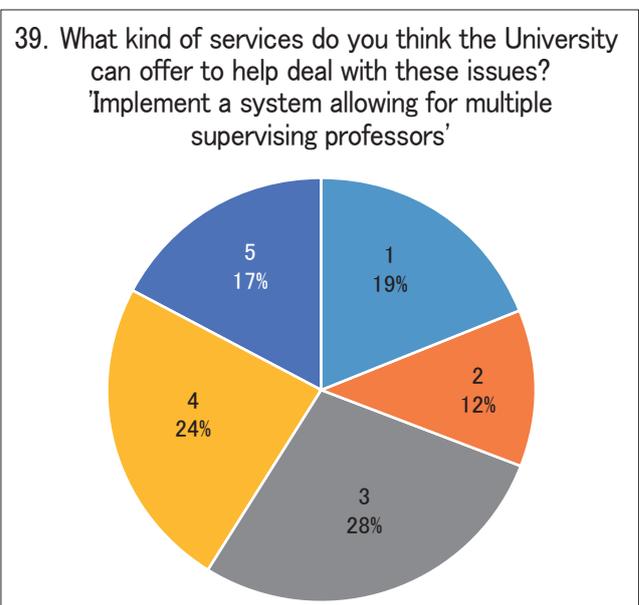
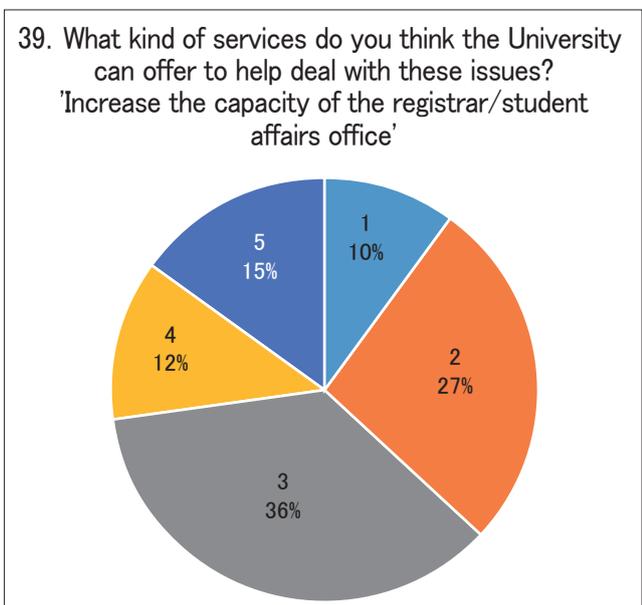
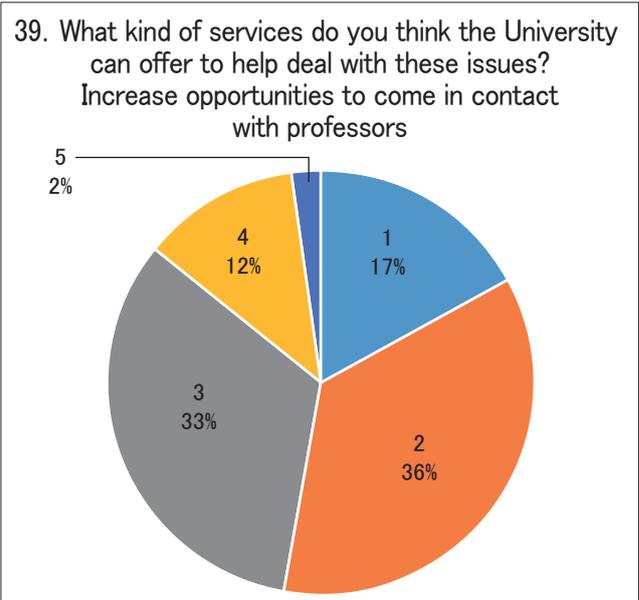
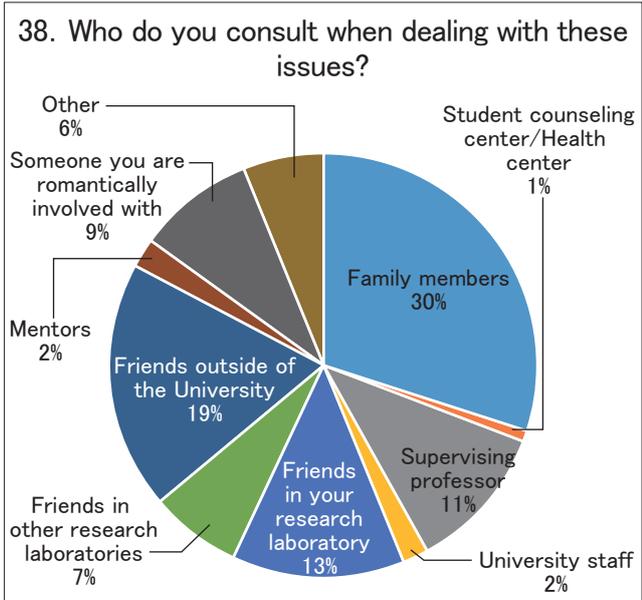


36. What methods do you believe would help the University to further contribute to society and internationalization?

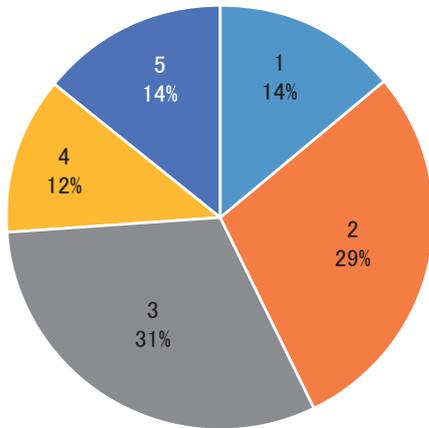


37. What are your main concerns within student life?

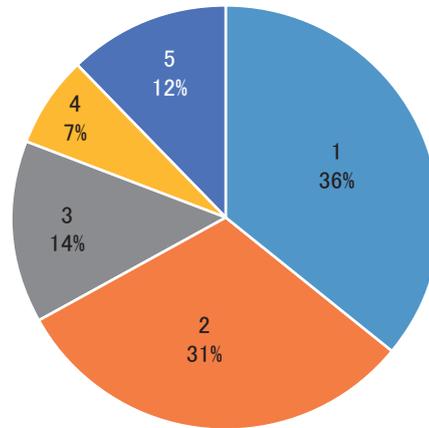




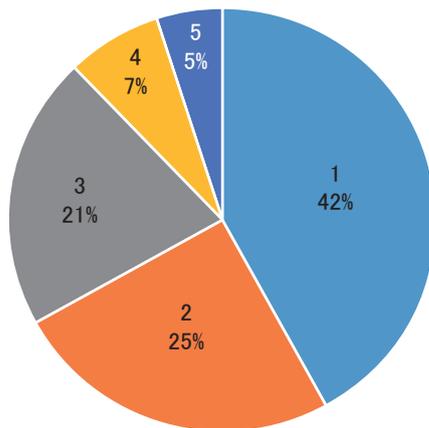
39. What kind of services do you think the University can offer to help deal with these issues?
'Enhance the capacity of the Student Counseling Office'



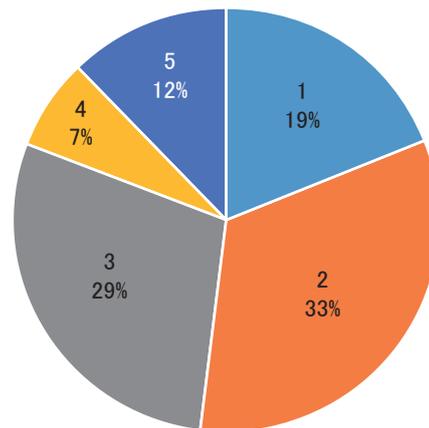
39. What kind of services do you think the University can offer to help deal with these issues?
'Increase the opportunities to receive scholarships, grants, and financial aid.'



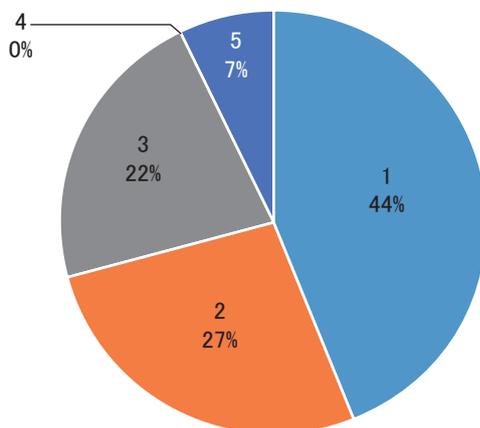
39. What kind of services do you think the University can offer to help deal with these issues?
'Increase the opportunities to become RA/TAs'



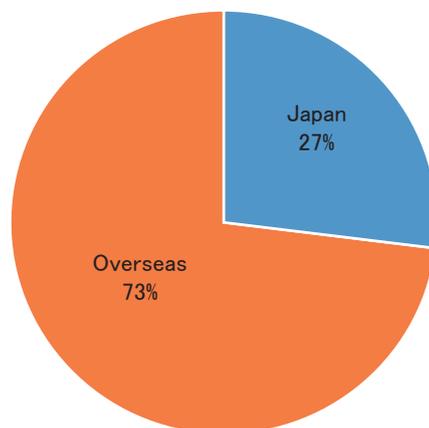
39. What kind of services do you think the University can offer to help deal with these issues?
'Support inter-faculty/student run activities'



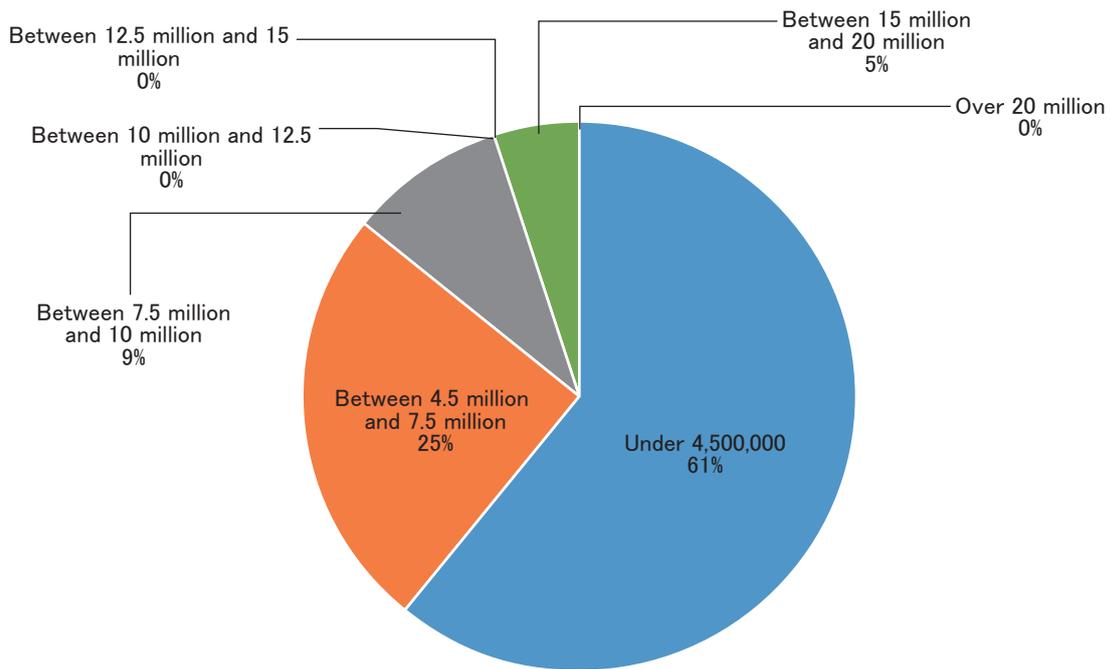
39. What kind of services do you think the University can offer to help deal with these issues?
'Create more sections that provide guidance and counseling in foreign languages.'



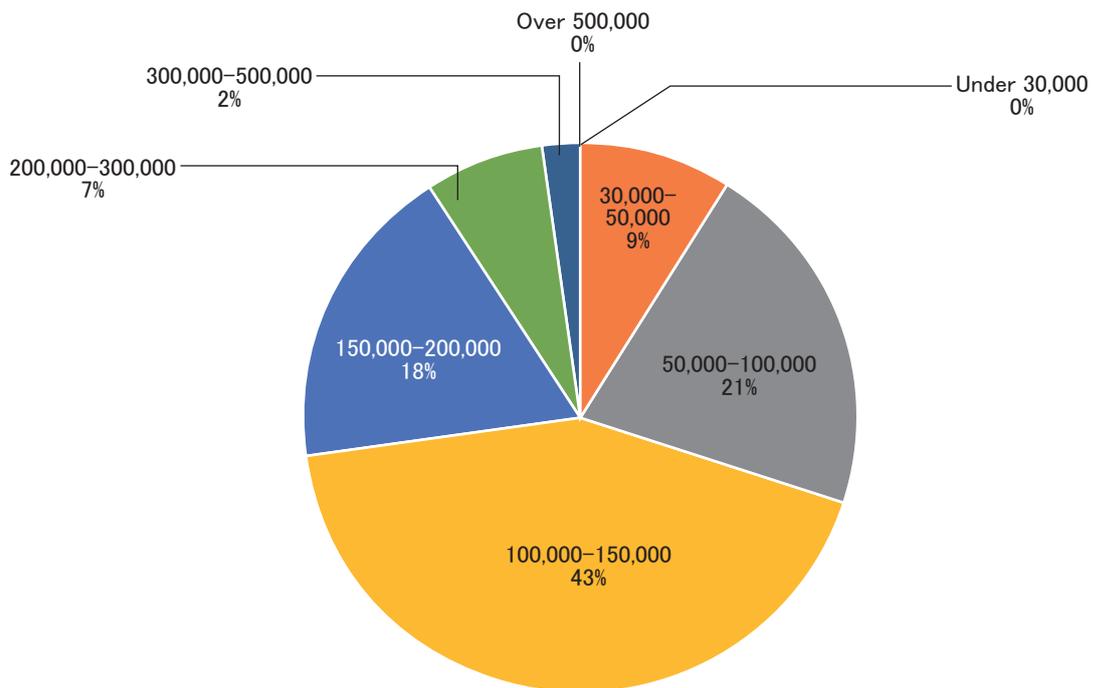
40. Where is your family currently staying?



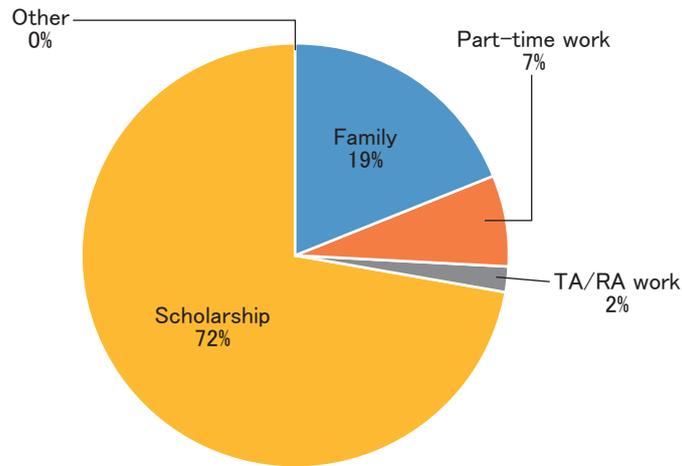
41. Please indicate the annual income of the person supporting your family (Japanese Yen) .



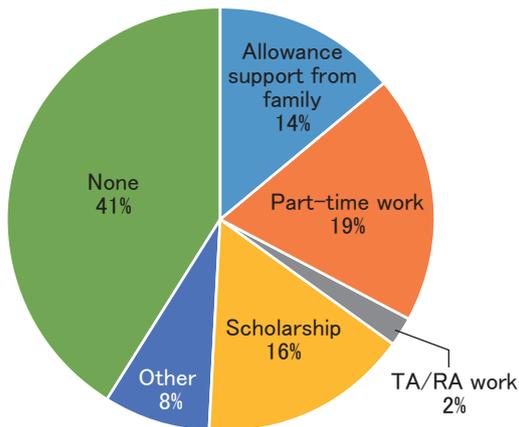
42. What is your monthly budget for living expenses (Japanese Yen)?



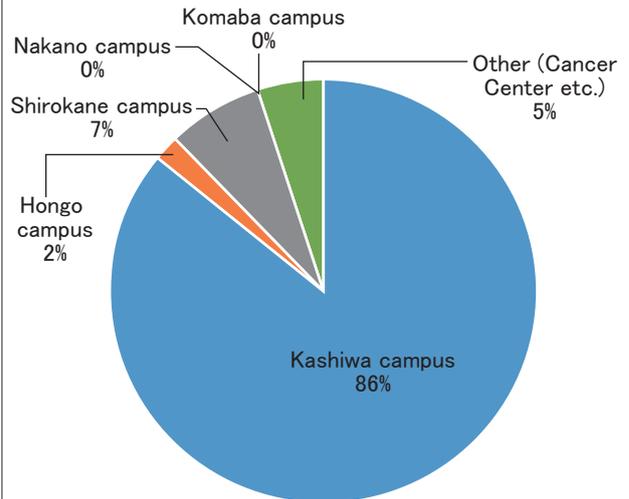
43. What is your primary source of income?



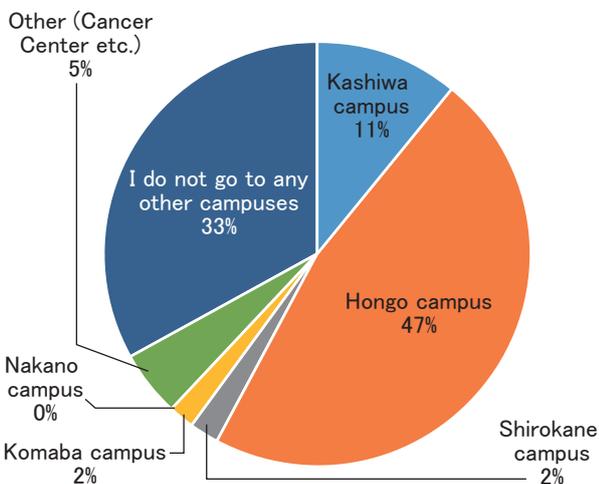
44. Do you have any other sources of income other than the one mentioned above?



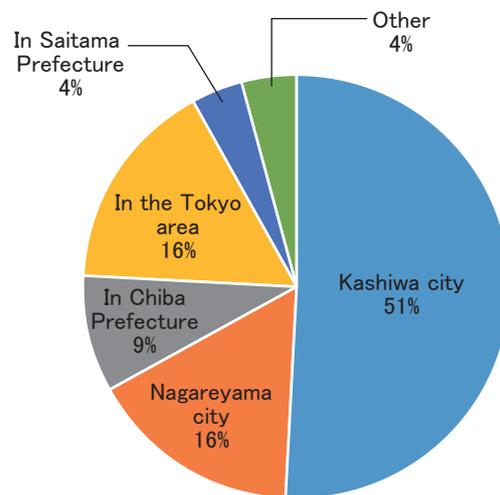
45. Location of your research laboratory



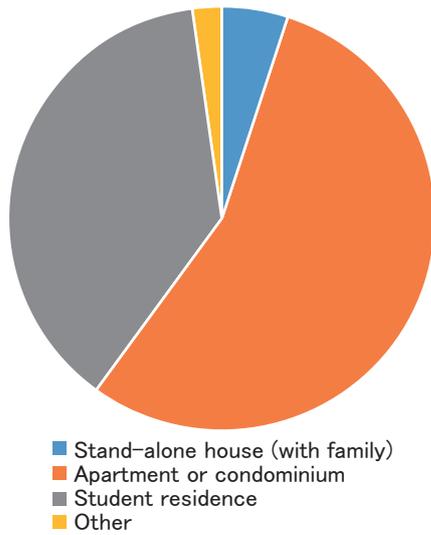
46. Which campuses other than the one which your lab is located do you regularly visit?



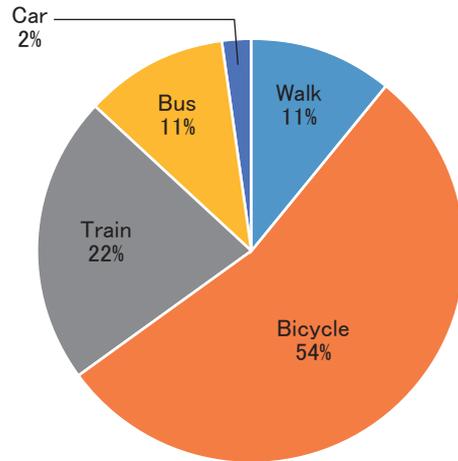
47. Where are you currently residing?



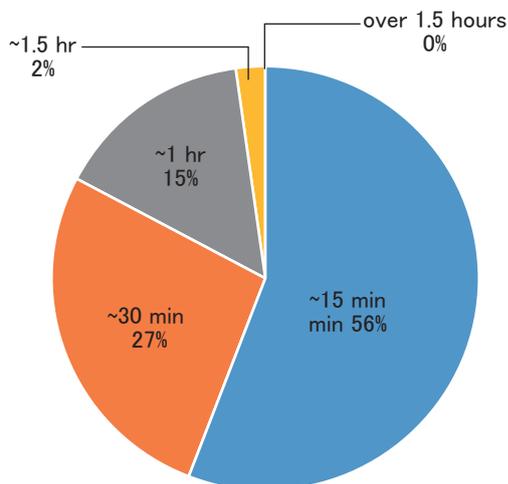
48. What type of residence do you live in?



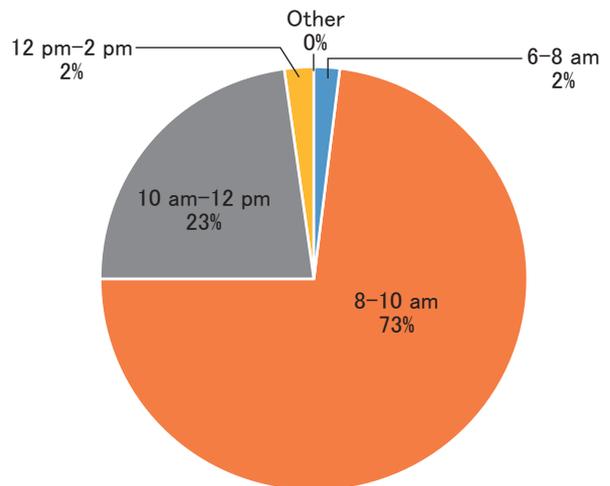
49. What is your regular means of transportation when commuting to school?



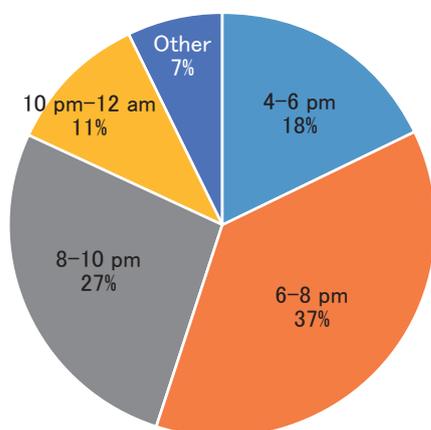
50. How long does it take one way?



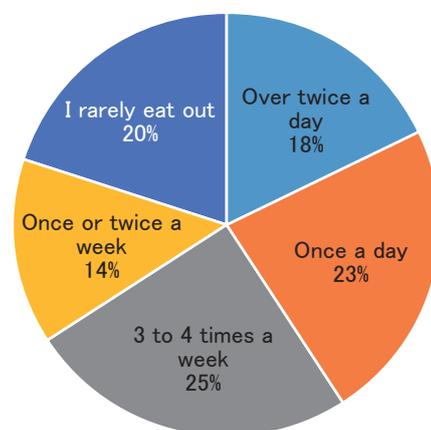
51. What time do you normally come to school on weekdays?

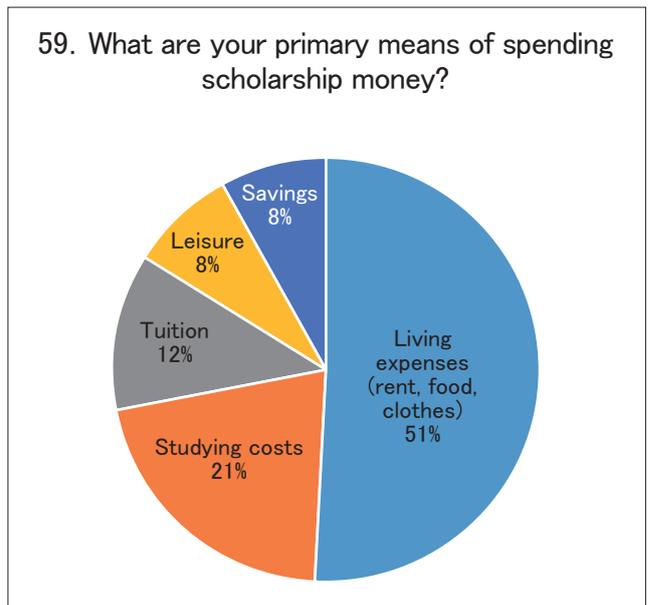
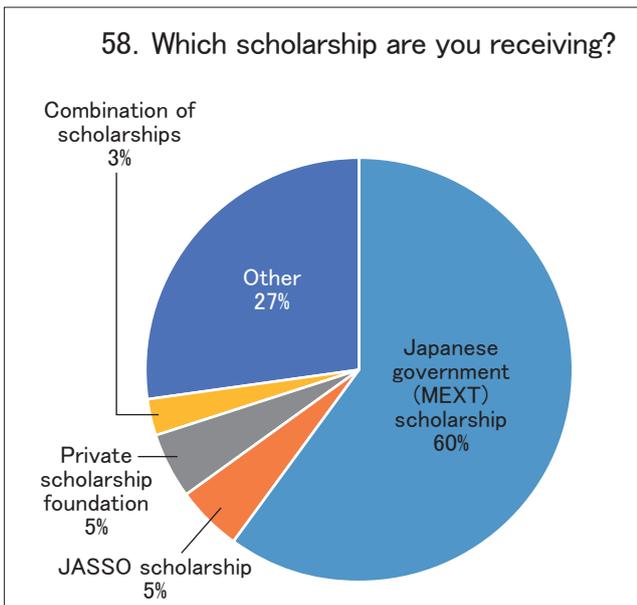
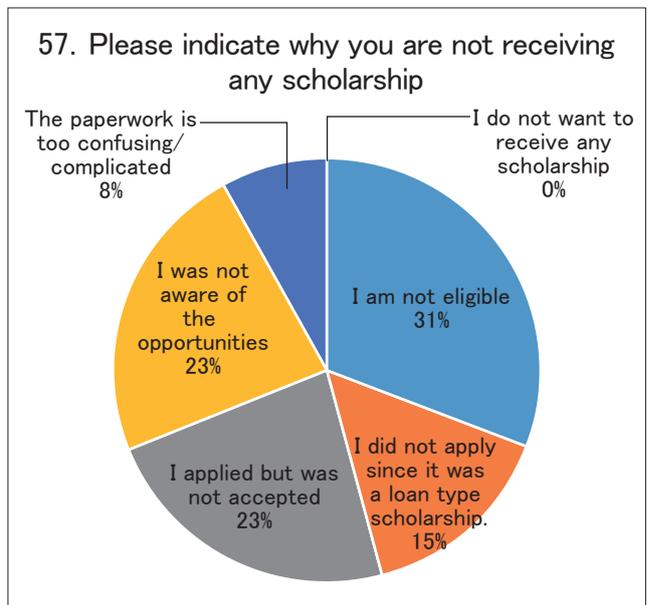
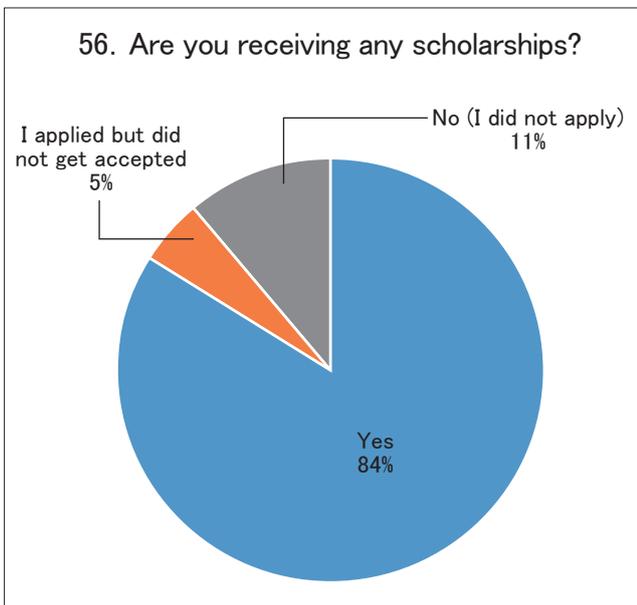
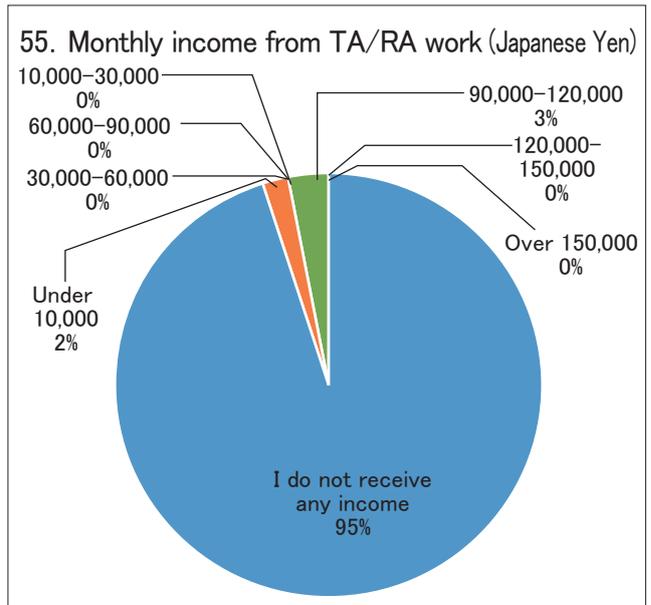
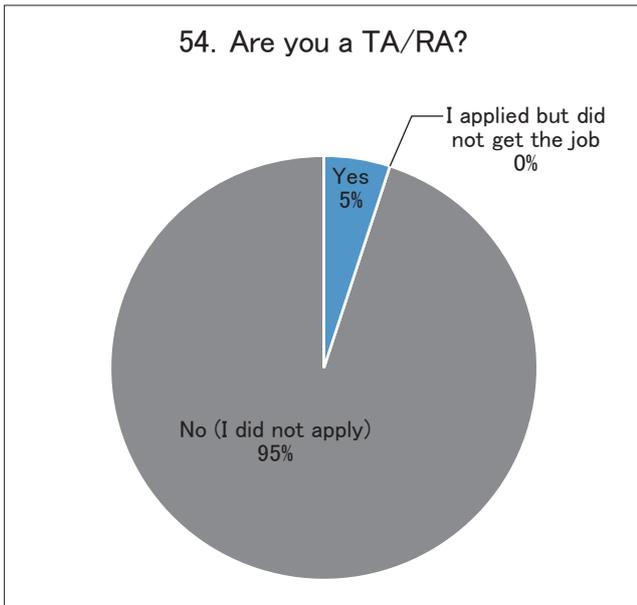


52. What time do you normally leave school on a weekday?

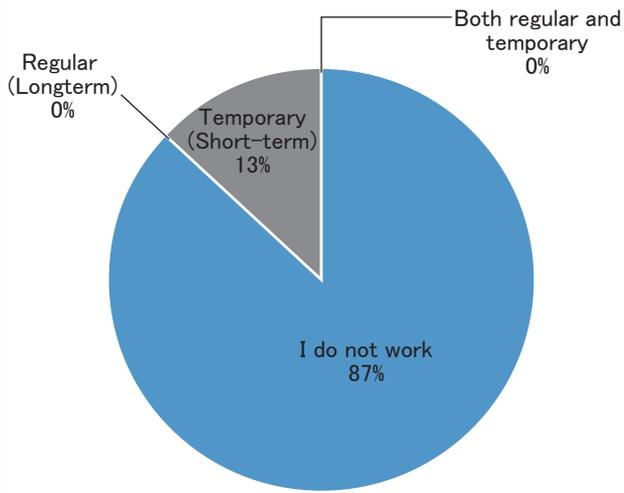


53. How often do you eat out of the house on weekdays?

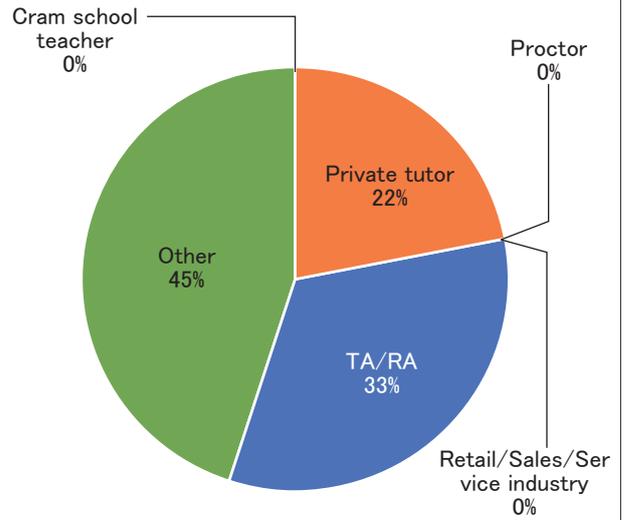




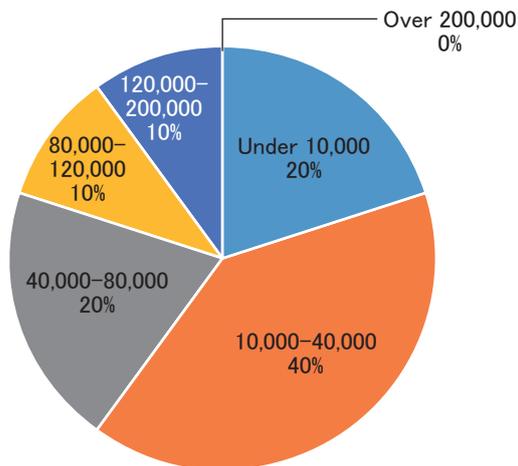
60. What is your current working agreement?



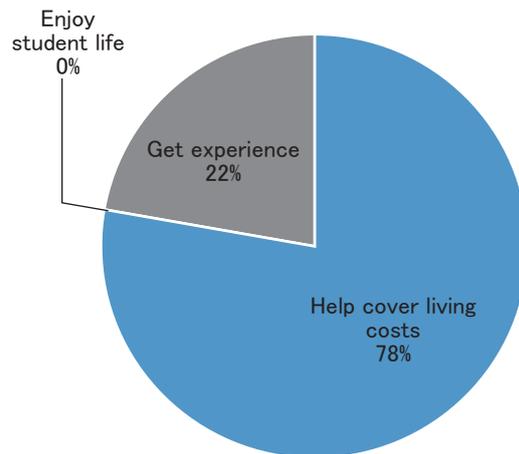
61. What type of part-time job do you have?



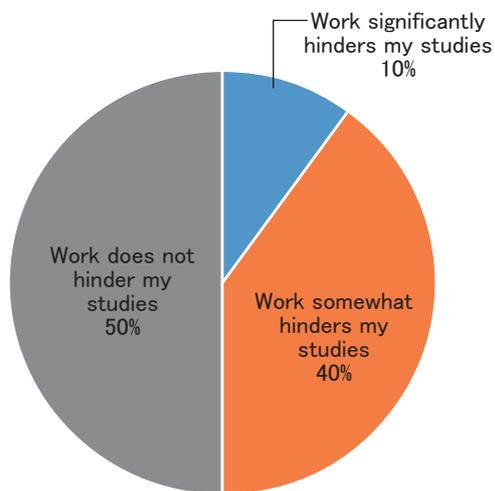
62. What is your average monthly salary (Japanese Yen)?



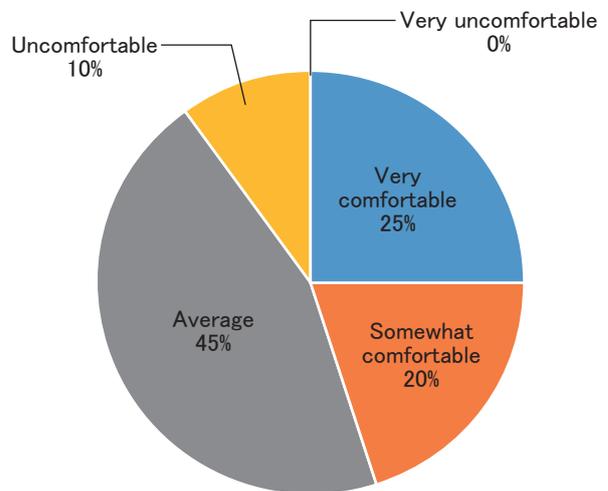
63. Main reasons for working part-time



64. Does working get in the way of your studies?



65. Your current living conditions are



12. 新領域創成科学研究科

I	新領域創成科学研究科の研究目的と特徴	12 - 2
II	「研究の水準」の分析・判定	12 - 5
	分析項目 I 研究活動の状況	12 - 5
	分析項目 II 研究成果の状況	12 - 16
III	「質の向上度」の分析	12 - 25

I 新領域創成科学研究科の研究目的と特徴

本研究科は、平成10年に東京大学の全部局の協力の元に設置された研究科であり、その研究科規則（資料12-1：研究科規則）に述べるとおり、学融合を通じて新たな学問領域の創成を目指した研究を行うことを目的としている。時代に即した研究体制を作り、領域横断的な視点、国際的な視点、高度な問題解決能力などを駆使して、人類が解決を迫られている課題に果敢に挑戦し、より良い社会の実現に積極的に貢献する。本目的は、東京大学の研究面での中期目標である「多様な分野での世界最高水準の研究の実施」「我が国の社会及び国際社会の持続的発展への貢献」「大学の知に対する社会的ニーズに応え、その普及・浸透に貢献」「研究の多様性を堅持しつつ、適正かつ機動的な教員配置の実施」などとも合致している。

（資料12-1：研究科規則）

東京大学大学院新領域創成科学研究科規則（抄）

（平成11年3月16日）

（教育研究上の目的）

第1条の2 本研究科は、学融合を通じて新たな学問領域の創成を目指した教育と研究を行うことを目的とする。現代社会の要請とその変化に対応して、人類が解決を迫られている課題に果敢に挑戦するとともに、領域横断的な視点と高度な問題解決能力を有する国際性豊かな人材を育成し、もってより良い社会の実現に積極的に貢献していく。

上記の目的を果たすために、本研究科は特に下記の点に重点を置いた研究活動を行っている。

- 領域横断的な学の融合と学際的協調による新たな学問領域の創成
- 新しい分野における創造性と独創性に優れた先端的研究拠点の形成
- 既存の学問領域と組織の枠組みを越えた学際的研究拠点の形成
- 研究成果の社会・地域への還元・活用
- 他研究機関との連携による研究の持続的な活性化
- 外国人研究員及び留学生の積極的な受け入れによる国際的共同研究の推進

「学融合」の基本理念の下に、上記の活動を実現するために、学内の多数の研究科や研究所、全学センター、および学外機関の協力を積極的に得て教育研究を行っている（資料12-2：組織運営規則）の別表3）、4）。本研究科の組織図を（資料12-3：研究科組織図）に具体的に示す。

（資料12-2：組織運営規則）

東京大学大学院新領域創成科学研究科組織運営規則（抄）

（平成16年4月1日東大規則第60号）

第4条 研究科の教育研究は、別表3に掲げる教育研究部局及び全学センターの協力を受けて実施する。

2 前項のほか、研究科の教育研究は、別表4に掲げる機関の協力を受けて実施する。

別表 3 教育研究の協力を受ける部局

人文社会系研究科、総合文化研究科、理学系研究科、工学系研究科、農学生命科学研究科、薬学系研究科、医科学研究所、東洋文化研究所、社会科学研究所、生産技術研究所、分子細胞生物学研究所、物性研究所、大気海洋研究所、空間情報科学研究センター、情報基盤センター

別表 4 教育研究の協力を受ける学外機関

国立研究開発法人国立がん研究センター、株式会社国際協力銀行、公益財団法人東京都医学総合研究所、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構、一般財団法人電力中央研究所、国立研究開発法人国立環境研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国立研究開発法人理化学研究所、国立研究開発法人農業生物資源研究所、大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所、国立研究開発法人国際協力機構、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人がん研究会がん化学療法センター

(資料 12-3 : 研究科組織図)

単位：人（平成 27 年度 5 月 1 日の現員）

		基幹講座	協力講座	連携講座	兼任教員 (協力講座以外)	特任教員 (教育担当者内数)	
大学院 新領域 創成科学 研究科	基盤科学研究系	物質系専攻	28	27	1	2	4 (3)
		先端エネルギー工学専攻	18	0	8	1	4 (3)
		複雑理工学専攻	19	0	3	4	3 (0)
	生命科学系	先端生命科学専攻	18	0	9	7	4 (0)
		メディカル情報生命専攻	21	5	19	42	13 (3)
	環境学研究系	自然環境学専攻	15	18	5	2	0 (0)
		海洋技術環境学専攻	8	3	2	0	0 (0)
		環境システム学専攻	12	0	3	4	1 (1)
		人間環境学専攻	15	0	4	11	0 (0)
		社会文化環境学専攻	15	15	0	1	6 (6)
		国際協力学専攻	10	3	2	0	0 (0)
	(合計)		179	71	56	74	35 (16)
	生涯スポーツ健康科学研究センター		(兼任教員4、専任教員1)				
	オーミクス情報センター		(兼任教員8、兼任特任教員1)				
	バイオイメーjingセンター		(兼任教員11、兼任特任教員2)				
	ファンクショナルプロテオミクスセンター		(兼任教員9、兼任特任教員1、専任特任教員1、客員教員1)				
	革新複合材学術研究センター		(兼任教員4、兼任特任教員1、客員研究員7)				

[想定する関係者とその期待]

本研究科では、ナノ、物質・材料、エネルギー、情報、複雑系、生命、医療、環境、国際など広範な学問分野を推進するとともに、異分野間での情報交換や交流の機会を頻繁に設定し、分野間の融合を常に強力に促進している。これらの広範な学問分野の特に融合領域の研究者が本研究科の関係者であり、学融合の実現による新領域・新学術分野の創成を期待している。また、産業界、官公庁、地域等も、新たな産業分野の創成や領域横断的な問題の解決など、学融合の成果の実務への還元を期待している。

II 「研究の水準」の分析・判定

分析項目 I 研究活動の状況

観点 研究活動の状況

(観点に係る状況)

本研究科では、学融合を通じて新たな学問領域の創成を目指した研究活動を推進しており、以下のような実績を上げている。

① 論文・著書等の研究業績や学会での研究発表の状況

本研究科の所属教員は、1人当たり年間平均 13.2 件程度の研究論文や著書、学会発表などを行っている(資料 12-4：平成 27 年度の研究業績)。また、会議の主催やチェアを 39 件行っており各分野における研究発信の中心的な役割も果たしている。原著論文数(学術論文誌および国際学会論文)は、1年あたり 800～1,000 件程度発表しており、助教も含めた教員1名当たり約 4～5 件の原著論文を毎年発表していることになる。研究成果の海外への積極的な発信を意識して、そのほとんどは英文で書かれている(資料 12-5：原著論文の推移)。国際会議等の重要な会議の基調講演・招待講演数は、年々増加傾向にあり、最近では助教も含めた教員1名当たり約1件以上の基調講演・招待講演を行っていることが分かる(資料 12-6：基調講演・招待講演数の推移)。

(資料 12-4：平成 27 年度の研究業績)

() 内は英語論文数で内数、単位：件

	論文		国際 会議	学会 発表 (左記 以外)	著書・ 教科書	マスコミ 報道	その他 出版物	計	教員数	業績数 /教員 数	会議 主催 ・ チェア
物質系	127	(124)	70	415	10	13	2	637	28.75	22.2	6
先端エネルギー工学	91	(79)	79	245	2	6	5	428	19.67	21.8	6
複雑理工学	74	(71)	48	206	6	22	9	365	23.58	15.5	5
先端生命科学	61	(60)	26	115	8	15	8	233	24.00	9.7	3
メディカル情報生命	97	(97)	26	114	5	2	8	252	28.92	8.7	9
自然環境学	57	(47)	23	73	3	6	9	171	15.00	11.4	0
海洋技術環境学	20	(16)	15	53	2	7	9	106	9.83	10.8	4
環境システム学	31	(24)	10	102	1	0	6	150	13.00	11.5	1
人間環境学	46	(37)	64	72	0	0	0	182	19.00	9.6	1
社会文化環境学	31	(17)	14	67	5	5	8	130	13.67	9.5	4
国際協力学	25	(13)	3	20	10	0	6	64	9.17	7.0	0
研究科総計	654	(579)	378	1,475	52	76	69	2,704	204.58	13.2	39

(注：専攻をまたいだ共著論文や共同研究があるため、研究科総計は各専攻の合計とは一致しない。教員数は特任教員を含む。年度途中で異動した教員数は少数として表示している。)

東京大学新領域創成科学研究科 分析項目 I

(資料 12-5 : 原著論文の推移)

上段: 学術論文誌()内は英語論文数で内数

下段: 国際学会発表論文(英語) 単位: 件

専攻名	年度(平成)						合計
	22年	23年	24年	25年	26年	27年	
物質系	92(84)	83(77)	77(72)	114(108)	95(91)	127(124)	588(556)
	17	21	12	18	15	70	153
先端エネルギー工学	81(52)	77(56)	80(56)	83(73)	109(87)	91(79)	521(403)
	118	130	108	120	101	79	656
複雑理工学	112(100)	67(62)	84(78)	77(72)	98(89)	74(71)	512(472)
	41	30	64	42	55	48	280
先端生命科学	57(57)	37(37)	47(46)	57(54)	61(58)	61(60)	320(312)
	29	28	24	11	30	26	148
メディカルゲノム	51(50)	48(48)	41(40)	47(42)	56(55)		243(235)
	11	14	3	14	10		52
情報生命科学	9(9)	18(18)	14(14)	16(16)	44(44)		101(101)
	0	0	0	0	5		5
メディカル情報生命						97(97)	97(97)
						26	26
自然環境学	45(28)	46(30)	44(28)	54(42)	50(33)	57(47)	296(208)
	14	27	25	25	24	23	138
海洋技術環境学	22(13)	9(6)	14(11)	18(9)	21(12)	20(16)	104(67)
	8	17	9	13	10	15	72
環境システム学	29(18)	38(29)	52(36)	38(22)	43(31)	31(24)	231(160)
	11	1	4	5	5	10	36
人間環境学	46(36)	47(32)	48(35)	55(35)	57(39)	46(37)	299(214)
	53	30	81	66	74	64	368
社会文化環境学	16(14)	10(7)	21(13)	34(18)	43(25)	31(17)	155(94)
	18	18	16	19	12	14	97
国際協力学	18(11)	11(11)	17(10)	23(14)	17(12)	25(13)	111(71)
	11	13	16	11	9	3	63
研究科総計	567(466)	481(403)	532(433)	593(490)	687(570)	654(579)	3,514(2,941)
	321	318	359	339	353	378	2,068

(注: 専攻をまたいだ共著論文があるため、研究科総計は各専攻の合計とは一致しない。メディカルゲノム専攻と情報生命科学専攻は、平成 27 年度からメディカル情報生命専攻に改組されている。)

(資料 12-6：基調講演・招待講演数の推移)

(対象：国際会議等の重要な会議)

単位：件

専攻名	年度（平成）						合計
	22年	23年	24年	25年	26年	27年	
物質系	18	19	20	50	57	115	279
先端エネルギー工学	21	28	31	32	25	40	177
複雑理工学	18	36	32	47	42	21	196
先端生命科学	18	22	15	16	29	14	114
メディカルゲノム	7	13	5	13	6		44
情報生命科学	0	4	0	0	5		9
メディカル情報生命						21	21
自然環境学	2	8	9	5	5	4	33
海洋技術環境学	8	6	10	12	16	7	59
環境システム学	6	5	2	3	3	6	25
人間環境学	13	13	23	33	32	23	137
社会文化環境学	2	4	5	8	19	7	45
国際協力学	2	3	4	1	4	9	23
研究科総計	115	161	156	220	243	267	1,162

(注：メディカルゲノム専攻と情報生命科学専攻は、平成 27 年度からメディカル情報生命専攻に改組されている。)

② 特許出願・取得状況

研究成果の特許出願件数は、概ね増加傾向にある。また、特許取得件数は、平成 22 年度から平成 27 年度までの間に国内 54 件、外国 14 件に上る（資料 12-7：特許出願・取得数）。特に平成 26 年度、27 年度は、画像解析技術や IT 技術と生命科学分野での学融合が進み、本研究科発のベンチャー企業として、平成 26 年にはライフサイエンス研究者向けの画像解析ソフトウェア・システムの研究開発に強みをもつ「エルピクセル株式会社」（関連特許 4 件）が、また平成 27 年には心臓シミュレータ技術を元にした「株式会社 UT-Heart 研究所」（関連特許 14 件）が設立されるとともに、材料分野で 20 件、モータ関連技術で 8 件など同一分野でのポートフォリオ構築型の出願が増加している。

(資料 12-7：特許出願・取得数)

単位：件

		年度（平成）						計
		22年	23年	24年	25年	26年	27年	
知的財産権出願	国内	4	17	26	23	25	25	120
	外国	4	10	20	36	25	11	106
知的財産権取得	国内	4	6	15	9	8	12	54
	外国	1	3	0	3	2	5	14

③ 共同研究、受託研究の状況

共同研究および受託研究の件数は 180 ～ 250 件程度で推移しているが、本研究科の理念である学融合の進展を反映し、より規模の大きな共同研究や受託研究が増え、総額は順調に増加している（資料 12-8：受託研究、共同研究、寄附金）。

一方、本研究科では、寄付講座、連携講座、協力講座の設置などに積極的に取り組み、学外の研究機関の協力も仰ぎながら、学融合を目指して融合的な共同研究の推進を強力に図っている（資料 12-9：寄付講座・連携講座・協力講座）。理系だけでなく文系の外部機関も多く含まれている点が、本研究科の特徴を良く表している。

（資料 12-8：受託研究、共同研究、寄附金）

単位：件数／千円

区分		年度（平成）					
		22 年	23 年	24 年	25 年	26 年	27 年
産学連携等	受託研究	83 918,612	83 737,436	73 773,966	79 856,907	94 946,331	111 1,261,143
	共同研究	106 206,655	130 299,379	105 392,991	130 407,304	130 475,357	139 447,756
寄附金		105 152,549	124 230,501	98 180,124	117 238,402	104 196,515	125 314,776
計		294 1,277,816	337 1,267,316	276 1,347,081	326 1,502,613	328 1,618,203	375 2,023,675

（資料 12-9：寄付講座・連携講座・協力講座）

寄付講座名	概要（期間、寄付者、内容）
健康スポーツ科学	平成 21 年 10 月 1 日～平成 26 年 9 月 30 日 味の素株式会社アミノ酸カンパニー
次世代医薬分子解析学 （富士フイルム）	平成 23 年 8 月 1 日～平成 28 年 7 月 31 日 富士フイルム株式会社
海洋開発利用システム実現学	平成 25 年 7 月 1 日～平成 30 年 6 月 30 日 株式会社 IHI、ジャパンマリンユナイテッド株式会社、川崎重工業株式会社、三菱重工業株式会社、新日鉄住金エンジニアリング株式会社、一般財団法人日本海事協会、千代田化工建設株式会社、株式会社商船三井、川崎汽船株式会社、国際石油開発帝石株式会社
メタゲノム情報科学	平成 27 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 カルピス株式会社発酵応用研究所、株式会社 AOB 慧央グループ、江崎グリコ株式会社、株式会社 エスアールエル、カゴメ株式会社、兼松ケミカル株式会社、京葉プラントエンジニアリング株式会社、株式会社サーマス、株式会社 DNA チップ研究所、東亜新薬株式会社、日環科学株式会社、バイオフェルミン製薬株式会社、株式会社日立ハイテクノロジーズ、富士レビオ株式会社、三菱化学フーズ株式会社、ミヤリサン製薬株式会社、ライオン株式会社

東京大学新領域創成科学研究科 分析項目 I

専攻名	連携講座名 (連携機関名)	協力講座名 (協力部局名)
物質系	物質科学連携講座第一 (国立研究開発法人理化学研究所)	物質科学 (物性研究所)
先端エネルギー工学	宇宙エネルギーシステム (国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構) 先端電気エネルギーシステム (一財)電力中央研究所 深宇宙探査学講座第二 (国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構)	
複雑理工学	物質科学連携講座第二 (国立研究開発法人理化学研究所) 計算論的神経科学 (国立研究開発法人理化学研究所) 深宇宙探査学講座第一 (国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構)	
先端生命科学	がん先端生命科学 (国立研究開発法人国立がん研究センター) 応用生物資源学 (国立研究開発法人農業生物資源研究所)	
メディカル情報生命	臨床医科学 (公財)東京都医学総合研究所) 生物機能分子工学 (国立研究開発法人産業技術総合研究所) システム構造生物学 (大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構) 感染制御分子構造機能学 (国立研究開発法人理化学研究所) がん分子標的治療学 (公財)がん研究会がん化学療法センター) 分子機能情報学 (国立研究開発法人産業技術総合研究所) システム情報生物学 (国立研究開発法人理化学研究所)	分子医療科学 (医科学研究所) 細胞情報システム (分子細胞生物学研究所) 生物機能情報 (分子細胞生物学研究所) 細胞機能情報 (医科学研究所)
自然環境学	自然環境循環学 (国立研究開発法人国立環境研究所) 地球表層地質環境学 (国立研究開発法人産業技術総合研究所)	地球環境モデリング学 (大気海洋研究所) 環境情報学 (空間情報科学研究センター) 海洋環境動態学 (大気海洋研究所) 海洋物質循環学 (大気海洋研究所) 海洋生命環境学 (大気海洋研究所)
海洋技術環境学	海洋研究開発システム (国立研究開発法人海洋研究開発機構)	海洋センシング工学 (生産技術研究所)
環境システム学	循環型社会創成学分野 (国立研究開発法人国立環境研究所)	
人間環境学	グローバルエネルギー工学 (一財)電力中央研究所) 低炭素工学システム学 (国立研究開発法人産業技術総合研究所)	
社会文化環境学		空間情報学 (空間情報科学研究センター)
国際協力学	国際環境協力学 (独)国際協力機構、(株)国際協力銀行)	国際日本社会学 (社会科学研究所) 地域間連関・交流学 (東洋文化研究所)
合計	23 講座	14 講座

また、国内の共同研究だけでなく、海外との共同研究の件数もこの数年で大きく増えている（資料 12-10：海外との共同研究）。特に、三カ国間以上の多国間の共同研究プロジェクトが 43 件、四カ国間以上の共同プロジェクトが 19 件（共に平成 27 年度）と、国際的な共同研究が一段と推進されている。さらに、外国人特任教授・准教授を毎年 20 人程度採用し、世界的な規模での国際協力関係の構築を積極的に推進している（資料 12-11：外国人特任教員の出身国一覧）。

(資料 12-10：海外との共同研究)

単位：件

年度（平成）	22 年	23 年	24 年	25 年	26 年	27 年
海外との共同研究 成果発表件数	59	63	72	94	124	145

平成 27 年度の多国間共同研究プロジェクトの例

多国間共同研究のプロジェクト名	4 カ国以上の共同研究の国名（日本以外）
文部科学省 GRENE 北極気候変動研究事業	カナダ、米国、韓国
文部科学省北極域研究推進プロジェクト	ドイツ、米国、韓国
Sensory genetics and ecology of spider monkeys in Meso and South America	英国、メキシコ、米国
ベトナム、タイにおけるキャッサバの侵入病害虫対策に基づく持続的生産システムの開発と普及カンボジア	ベトナム、カンボジア、タイ
TCP を用いた実時間伝送の特性調査およびその解析	ニュージーランド、ドイツ、南アフリカ、マカオ、トンガ王国、クック諸島
分散保管符号化に関する研究	オーストラリア、米国、香港
国際比較による「帰還を望まない避難者」が大災害に起因して生じる原因究明と解決策提言	米国、インドネシア、スリランカ
環境に関する情報と政策的課題の対称性を担保する仕組みとしての意思決定支援システム	英国、オーストリア、ベトナム
北東アジア市民社会の複雑性と安全保障	米国、オーストラリア、韓国、中国
東南アジア・マングローブ域の環境劣化機構と持続可能な利用条件に関する調査	タイ、ベトナム、インドネシア、イラン
日本学術振興会 (JSPS) Core-to-Core Program: Center for Magnetic Self-Organization	米国、英国、ドイツ、イタリア、スペイン
Human Frontier Science Program	フランス、オランダ、ドイツ
Pan-Asia human snp consortium	中国、韓国、タイ、フィリピン、マレーシア、シンガポール、インド、台湾、オーストラリア、ベトナム、モンゴル、インドネシア
Pan-Asia human genome consortium	中国、韓国、タイ、フィリピン、マレーシア、シンガポール、インド、台湾、オーストラリア、ベトナム、モンゴル、サウジアラビア、バーレーン
Global Virus Network	米国、ベルギー、英国、イタリア、フランス、アイルランド、ブラジル、レバノン
Directional dominance on stature and cognition in diverse human populations	英国、米国、エストニア、フィンランド、イタリア、アイスランド、スウェーデン、オランダ、スイス
GWAS of colorectal cancer	中国、米国、ドイツ、韓国、オーストラリア
DNA methylation analysis using single-molecule realtime sequencing	米国、シンガポール、ハンガリー
熱帯病病原性微生物のゲノム解析	インドネシア、タイ、ドイツ

(注：学融合による二国間の共同研究プロジェクト数はきわめて多く、三国間以上の共同研究プロジェクトは 43 件に上る。そのうち四カ国以上の共同研究プロジェクト 19 件を例示する。)

(資料 12-11：外国人特任教員の出身国一覧)

特任教授、特任准教授等

単位：人

国籍	年度（平成）					
	22年	23年	24年	25年	26年	27年
米国	5	4	4	3	2	4
英国	2	1	1	1	2	1
イタリア	2		1	1		
インド	2	2		1		
ウクライナ			1			
エジプト		1			1	1
オーストラリア	1			1		1
オーストリア						1
韓国	3	1	1	2	1	2
カンボジア		1				
ケニア						1
スロバキア	1					
タイ	1		1			
チェコ		2		1	1	
中国	4	4	2	4	2	5
中国（台湾）	1	2	2	3	3	2
チュニジア			1	1		
デンマーク			1			
ドイツ	3					
フィリピン	1					
ブラジル	1					
フランス	2		3		2	1
ポーランド	1		2		1	
マレーシア					1	
南アフリカ						1
ルーマニア			1			
ロシア	2	1			1	2
計	32	19	21	18	17	22

地域の連携プロジェクトへの協力や地域との共同研究についても積極的に取り組んでおり、UDCK（柏の葉アーバンデザインセンター）では、公民学の7つの組織が協力して、「まちづくりに係る研究・提案・人材育成」「実証実験・事業創出」「デザインマネジメント」「エリアマネジメント」などに取り組み、地域に密着した研究および社会貢献を進めている（資料 12-12：UDCK の活動状況）。

(資料 12-12 : UDCK (柏の葉アーバンデザインセンター) の活動状況)

<p>運営組織</p>	<p>公：柏市 民：三井不動産、首都圏新都市鉄道、柏商工会議所、田中地域ふるさと協議会 学：東京大学、千葉大学</p>
<p>活動内容</p>	<p>学習・研究・提案 (まちづくりに係る研究・提案・人材育成) 大学と地域の連携事業調査 (H17 年度～)、都市環境デザインスタジオ (H18 年度～)、UDCK まちづくりスクール (H19 年度～)、アーバンデザインセンター研究 (H20 年度～)、モバイル空間統計のまちづくり活用方策研究 (H22 年度～25 年度)、コミュニティグリッド研究 (H21 年度)、都市構造とモビリティデザイン研究 (H24 年度～)、人口分析・高齢社会まちづくり研究 (H24 年度～)、エリアマネジメント研究 (H25 年度～)、など</p>
	<p>実証実験・事業創出 (先端知・先端技術と地域の連携サポート) PLS(Public Life Space)(H20年度～)、TX アントレプレナーパートナーズ (H21年度～)、かしわ街エコ推進協議会 (H21年度～)、マルチ交通シェアリング (H23年度～H27年度)、街なか植物工場 (H24年度～)、共通認証カード「柏の葉キャンパスカード」(H25 年度～)、まちの健康研究所「あ・し・た」(H26年度～)、など</p>
	<p>デザインマネジメント (質の高い空間デザインの形成に係る調整・支援) 公共空間のデザイン協議 (H19 年度～)、農のあるまちづくり (H20 年度～)、景観まちづくりイベントの開催 (H22 年度～)、デザインマネジメント方策の研究 (H24 年度～)、など</p>
	<p>エリアマネジメント (持続的な地域運営体制の構築支援) ピノキオプロジェクト (H18 年度～)、マルシェコロール (H20 年度～)、まちのクラブ活動 (H20 年度～)、柏の葉キャンパス駅前まちづくり協議会 (H23 年度～)、柏の葉ポイントプログラム (H25 年度～)、柏の葉キャンパス駅西口道路空間運営 (H26 年度～)、など</p>

④ 研究資金の獲得状況

研究を支える研究資金は、基礎的な運営費交付金によるものの他、さまざまな外部資金の獲得によって賄われている。科学研究費の獲得状況は、1年当たりおおよそ8億～11億円(170件～200件)であり、他の競争資金を加えた競争資金全体では毎年11億～12億円程度を獲得している(資料12-13:科学研究費等の競争的資金獲得状況)。また、受託・共同研究費等(資料12-8;P12-8)と合わせた外部資金の総額は、平成23年度に東日本大震災の影響などで若干減少したものの、その後は資金種別ごとに増減はあるが、総額は年度を追って増加してきている(資料12-14:外部資金の年次推移)。獲得資金の総額では、基幹講座の教員および特任教員の総計214人に対し平成27年度に31億円を超えているが、これは教員1人当たり換算すると1,470万円を超えている。このように、外部資金の獲得が順調であるのは、学融合の推進により本研究科で誕生した新しい学問領域が科研費等の予算獲得や企業からの共同研究という観点からも一定の評価を受けていることを反映したものと分析している。

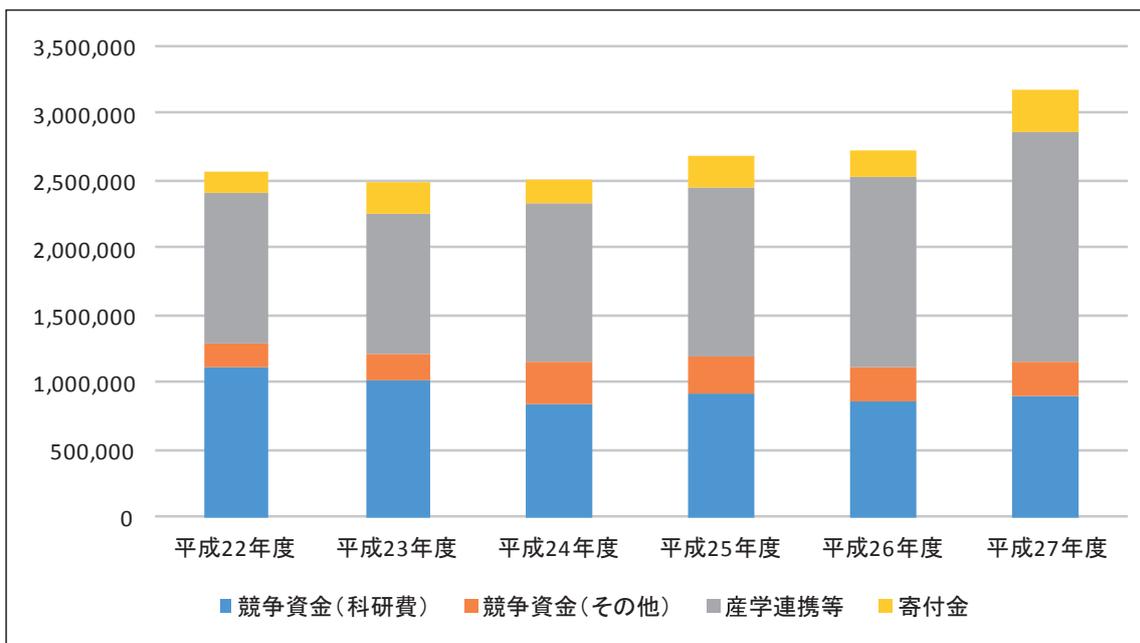
(資料 12-13 : 科学研究費等の競争的資金獲得状況)

単位：千円 (直接経費)

研究種目名	平成 22 年度		平成 23 年度		平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度	
	件数	内定額										
特定領域研究	7	66,700	6	61,200	2	15,900	0	0	0	0	0	0
新学術領域	17	273,500	18	205,000	17	197,200	26	242,000	24	193,300	18	137,800
基盤研究 (S)	7	183,400	6	131,000	5	98,300	5	83,300	3	105,800	4	126,700
基盤研究 (A)	22	240,300	25	278,800	22	201,400	26	238,000	24	235,300	22	220,900
基盤研究 (B)	51	223,500	50	185,200	41	162,000	41	174,500	42	165,800	52	206,700
基盤研究 (C)	16	18,900	15	19,800	15	18,100	19	26,400	20	24,400	23	26,200
挑戦的萌芽研究	13	19,000	25	39,000	39	55,100	36	45,500	34	39,600	42	63,500
若手研究 (S)	1	16,600	1	9,800	1	7,200	0	0	0	0	0	0
若手研究 (A)	6	22,300	7	44,700	8	48,000	14	68,500	14	66,700	12	50,400
若手研究 (B)	30	39,700	25	31,900	25	31,600	27	31,600	25	25,300	28	30,500
研究活動スタート支援	5	5,740	2	1,980	1	1,200	1	1,000	4	4,000	9	8,900
研究成果公開促進費	1	7,000	1	700	0	0	1	7,500	1	7,500	0	0
奨励研究	0	0	1	600	0	0	0	0	0	0	0	0
国際共同研究加速基金 (国際活動支援班)											1	8,200
国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化)											1	9,400
小計	176	1,116,640	182	1,009,680	176	836,000	196	918,300	191	867,700	212	889,200
厚生労働科学研究費	7	44,104	4	35,489	15	141,470	10	86,528	16	98,427	1	4,300
ERATO	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1,100	1	13,000
さきがけ	3	37,150	3	22,100	3	30,450	1	12,780	1	7,300	4	32,773
CREST	7	94,500	9	147,435	12	149,586	12	169,960	18	133,296	16	205,361
小計	17	175,754	16	205,024	30	321,506	23	269,268	36	240,123	22	255,434
合計	193	1,292,394	198	1,214,704	206	1,157,506	219	1,187,568	227	1,107,823	234	1,144,634

(資料 12-14 : 外部資金の年次推移)

単位：千円



⑤ 組織の改編

本研究科では、学融合を通じて時代に即した新しい領域創成や研究の促進ができるように、常に組織の見直しを実施している。平成 23 年度に2つのセンターを新たに設置するとともに、平成 27 年度には、生命科学の情報化を先導しライフイノベーションに大きく貢献できるように、メディカルゲノム専攻と情報生命学専攻を統合してメディカル情報生命専攻を設置している（資料 12-15: 組織の改編）。さらに、学外研究機関との連携を進めるための連携講座は、平成 21 年度の 16 講座から平成 27 年度までに 23 講座に増やすとともに（資料 12-16 : 連携講座数と教員ポストの分野変更件数）、寄付講座も4講座設置している（資料 12-9 ; P12-8）。

基幹講座に関しても、本研究科では常に適切な教育研究体制を作れるように、教員の空きポストに対して人事選考を行う前に、そのポストの分野が適切であるかどうかの見直しを毎回実施している。その結果、平成 22 年度～ 27 年度の間に 30 のポストの分野が新しい分野に変更されている（資料 12-16 : 連携講座数と教員ポストの分野変更件数）。

(資料 12-15 : 組織の改編)

平成 23 年 4 月	ファンクショナルイメージングセンター設置
平成 23 年 12 月	革新複合材学術研究センター設置
平成 27 年 4 月	メディカルゲノム専攻と情報生命学専攻を統合し、メディカル情報生命専攻を設置

(資料 12-16 : 連携講座数と教員ポストの分野変更件数)

	年度 (平成)					
	22 年	23 年	24 年	25 年	26 年	27 年
連携講座数	17	22	22	22	22	23
基幹講座教員ポストの 分野変更件数	4	6	5	7	8	4

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

全ての研究活動において、ほぼ第1期と同程度以上の高い水準を達成している(資料 12-17: 第1期中期目標期間との比較)。特に、外国人特任教員の招聘件数や3カ国以上に渡る多国間共同研究の件数が大きく増加しており、英文の学術論文や国際会議論文数も増加している。これらのデータおよび海外との共同研究の状況(資料 12-10; P12-10)(資料 12-11; P12-11)より、国際的な研究活動が非常に活発であることが分かる。外部資金の獲得額は若干減少しているものの、競争資金、共同研究、受託研究、寄附金等の多様な外部資金を多額に獲得している(資料 12-14; P12-13)。特に、民間企業や官公庁等からの受託研究・共同研究の件数は大きな伸びを示しており(資料 12-17: 第1期中期目標期間との比較)、新たな産業分野を模索している関連企業の期待にも大いに応えていることが分かる。また、地域密着型研究も着実に実績を積み上げている(資料 12-12; P12-12)。

本研究科は、時代に即した学融合の推進や新しい領域創成を目指して常に研究体制を変革していく必要があるが、組織変革も弛まなく実施している(資料 12-15; P12-14)(資料 12-16; P12-14)。以上より、新しい分野の開拓に大きく貢献しており、日本における関係学術団体の「学融合による新領域・新学術分野の創成」という期待にも十分に応えている。

(資料 12-17: 第1期中期目標期間との比較)

1年当たりの平均値または最終年度の比較

中期計画	英文論文数	一教員あたりの総業績数	会議主催・チェア	特許出願数	外部資金獲得額(億円)	共同研究受託研究の件数	3カ国以上多国間共同研究数	外国人特任教員招聘数
第1期	706.8	12.4	72	45.25	30.0	148.3	15	12.75
第2期	834.8	13.2	51	37.66	26.9	210.5	43	21.50
第2期/第1期	1.18	1.06	0.71	0.83	0.90	1.42	2.87	1.69

(注: 第2期中期目標期間では、「会議主催・チェア」は国際会議等の重要な会議のみを評価対象とすることにしたため、件数は減少しているが重要な会議により多く貢献している。)

観点 大学共同利用機関、大学の共同利用・共同研究拠点に認定された附置研究所及び研究施設においては、共同利用・共同研究の実施状況

(観点に係る状況)

該当しない。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

観点 研究成果の状況(大学共同利用機関、大学の共同利用・共同研究拠点に認定された附属研究所及び研究施設においては、共同利用・共同研究の成果の状況を含めること。)

(観点に係る状況)

原著論文の推移(資料 12-5 ; P12-6)、平成 27 年度の研究業績(資料 12-4 ; P12-5)、研究科所属教員の特許出願・取得数の推移(資料 12-7 ; P12-7)などから分かるように、高い水準の研究成果を出している。その中でも「研究業績説明書」に示すとおり、学術面及び社会、経済、文化面の両面において、重要な優れた成果を多数あげている。これら以外にも、S、SS の評価に準じる数多くの研究業績があるが、「研究業績説明書」には本研究科の特徴を表す代表的な例を抽出した。特に、本研究科の理念である学融合や新しい領域創成に係る成果を多数含んでいることは注目に値する。

いくつかの代表的な研究業績の例を(資料 12-18 : 優れた研究業績の例)に示す。本研究科の特徴である学融合研究として、「高次元データ駆動科学」の物性科学や生命科学、地球惑星科学への応用や、情報科学と医学の学融合研究成果である「心臓シミュレータ UT-Heart」などで大きな成果を得ている。また、新しい領域を切り開く研究成果である「空中触覚提示技術」は、SIGGRAPH 特別賞を始めとして 13 の学術賞を受賞している。さらに、「革新的超分子ネットワークマテリアル」の研究は、2014 年に ImPACT 革新的研究開発推進プログラムに採択されるなど、実用化研究においても高い評価を得ている。その他にも、学術的、社会的に優れた成果を多数あげている(資料 12-18 : 優れた研究業績の例)。

(資料 12-18 : 優れた研究業績の例)

学術的な意義のある研究	<p>学融合研究の事例</p> <p>「スパースモデリングを用いた高次元データ駆動科学の展開(業績番号 2)」では、大量の高次元データから情報抽出する普遍的方法を構築しており、これらの成果は物性科学や生命科学、地球惑星科学などの広範囲な自然科学へ応用されている。この成果に基づき、この分野は科学研究費の新学術領域に採択されると共に、NHK テレビ番組(サイエンス Zero)などで紹介されている。</p>
	<p>情報科学と医学の学融合研究成果で得られた「心臓シミュレータ UT-Heart(業績番号 6)」は、学術的に大きな反響を呼んでいるだけでなく、テーラーメイド医療のための臨床研究、創薬応用研究、医療機器開発への応用研究が実用レベルに達し、企業との共同研究に関わる特許出願は国内 31 件、国際 59 件(登録はそれぞれ 8 件、9 件)に上っている。</p>
	<p>新しい領域を切り開く研究事例</p> <p>超音波を用いて何も装備していない皮膚に触覚を惹起する「空中触覚提示技術(業績番号 1)」は、経済産業省 Innovative Technologies 2014 Industry 特別賞、SIGGRAPH 特別賞、ACM UIST2014 および IEEE WHC2015 の Best Demo Award、Annual BCI-Research Award 2014 の最優秀賞(Winner)など、2013 年から現在までの間に 13 の学術賞を受賞している。それらの成果は多くのテレビ番組で紹介されると共に、国内外の自動車・IT 企業・電気関連企業などが、本研究科の教員と情報交換しながら実用化研究を進めている。</p>
	<p>その他</p> <p>「ナノプローブを用いた固体表面及び界面の化学反応(業績番号 9)」「磁気圏型プラズマ(業績番号 8)」「昆虫の擬態紋様形成機構(業績番号 24)」「外生菌根菌の生態(研究業績 25)」「ニホンウナギの生態(業績番号 27)」「コンパクトMRIを用いた樹木内の水分通導の可視化(業績番号 26)」など、多くの研究においてその成果が有名論文誌に掲載され、世界的に高い評価を受けている。特に、ニホンウナギの産卵海域において初めて卵を発見した研究(業績番号 27)は「Nature Communications」に掲載されると共に、新聞記事 10 件テレビ放送 17 件で報道され大きな反響を受けている。</p>

社会、 経済、 文化的な 意義のある研究	<p>「革新的超分子ネットワークマテリアル（業績番号 11）」の研究は、2014 年に ImPACT 革新的研究開発推進プログラムに採択され、実用化研究が強力に進められている。その結果は、2015 年 9 月の総合科学技術・イノベーション会議において総理官邸で安倍総理はじめ主要閣僚に紹介されるなど、極めて高い評価を得ている。また、「炭素繊維強化高分子複合材料 (CFRP) のライフサイクルモニタリングと品質保証技術に関する研究（業績番号 16）」の研究成果に基づき、2014 年度より内閣府 SIP 革新構造材料プログラムの中核テーマである「樹脂・FRP」グループの中心的役割を本研究科で担っている。さらに、「植物由来の新規抗真菌物質（業績番号 4）」「電気自動車の制御とワイヤレス給電（業績番号 13）」「北極航路航行支援システム開発（業績番号 17）」「浮体式洋上風力発電システムの研究（業績番号 19）」などの研究は、環境・エネルギー・安全などの社会的な面から世界的に注目を集めており、新聞やテレビなどの多くのメディアで報道がなされ社会的に大きなインパクトを与えている。</p>
-------------------------------	--

これらの事例より、伝統的な分野に加えて、学融合分野や新しい領域において、世界的に優れた業績をあげるとともに、社会にも大きく貢献をしていることがわかる。平成 22 年度以降に学会や政府機関等から 180 を超える賞を受賞しており、研究レベルの高さを示している（資料 12-19：主な受賞例）。

（資料 12-19：主な受賞例）（平成 22 年度～平成 27 年度）

受賞者名	賞の名称	授与機関	受賞年度 (平成)
高木英典	ASP Fellow	American Physical Society	22 年
川合眞紀	ASP Fellow	American Physical Society	22 年
藤原晴彦	日本蚕糸学会賞	日本蚕糸学会	22 年
宮副裕之	第 29 回応用物理学会・講演奨励賞	応用物理学会	22 年
佐々木裕司	Best Poster Award	the IX-th European Symposium of the Protein Society	22 年
武田展雄	2010 Person of the Year	Structural Health Monitoring: An International Journal	22 年
武田展雄、他	SAMPE Tech. 2010, Outstanding Paper Award Second Place	SAMPE (国際先進材料加工協会)	22 年
堀洋一	電気学会産業応用部門特別賞「貢献賞」	電気学会	22 年
大崎博之	星野賞	電気設備学会	22 年
大崎博之	工業標準化事業表彰 経済産業大臣賞	経済産業省	22 年
水口周	第 52 回構造強度に関する講演会若手奨励賞最優秀賞	日本航空宇宙学会	22 年
吉田善章、小川雄一、森川惇二、斎藤晴彦、矢野善久、他	プラズマ・核融合学会賞 技術進歩賞	社団法人 プラズマ・核融合学会	22 年
山田琢磨	第 5 回日本物理学会若手奨励賞	日本物理学会	22 年
藤本博志	Isao Takahashi Power Electronics Award, 2010	IEEE of Japan	22 年
藤本博志	2010 年度著述賞	計測自動制御学会	22 年
堀洋一	電気学会業績賞	電気学会	22 年
横山明彦	電力エネルギー部門誌優秀論文賞	電気学会	22 年
大崎博之	電気学会 産業応用部門活動功労賞	電気学会	22 年
大崎博之	星野賞	電気設備学会	22 年
西田友是、他	画像電子学会論文賞	画像電子学会	22 年
関根康人	日本惑星科学会最優秀研究者賞	日本惑星科学会	22 年
山本博資	IEEE Fellow	IEEE	22 年
楽詠コウ、西田友是、他	CG 国際大賞優秀賞	NICOGRAPH (芸術科学会)	22 年
西田友是	Best Paper Award (1位)	SCCG (Spring Conference on Computer Graphics) 2011	22 年

東京大学新領域創成科学研究科 分析項目Ⅱ

受賞者名	賞の名称	授与機関	受賞年度 (平成)
斉木幸一郎	第9回 APEX/JJAP 編集貢献賞	応用物理学会	22年
斎藤馨	平成22年度関東総合通信局長表彰	総務省	22年
久田俊明、杉浦清了、他	第15回学術奨励賞 最優秀賞	日本心電学会	22年
木村伸吾	水産海洋学会宇田賞	水産海洋学会	22年
高木健、他	Best Poster Award	Organizing Committee of RENEWABLE ENERGY 2010	22年
浦環	2010 IEEE Oceanic Engineering Society Distinguished Technical Achievement Award	IEEE Oceanic Engineering Society	22年
鈴木英之、高川真一、他	住田正一海事技術奨励賞受賞	日本海運集会所	22年
鈴木英之、高川真一、他	日本船舶海洋工学会賞(著書部門)受賞	日本船舶海洋工学会	22年
吉永淳	環境化学学術賞	日本環境化学学会	22年
柳沢幸雄、他	論文賞(技術調査報告)	大気環境学会	22年
愛知正温	日本地下水学会若手優秀講演賞	日本地下水学会	22年
大和裕幸、稗方和夫、坪内孝太、他	研究会優秀賞	人工知能学会	22年
大和裕幸	平成22年度情報化月間 国土交通大臣表彰 情報化推進部門	情報化月間推進会議	22年
坪内孝太	Outstanding Paper Award	ITS World Congress	22年
坪内孝太	ITS シンポジウム2010 ベストポスター賞	ITS Japan	22年
松橋隆治、吉田好邦、他	40周年記念論文賞	環境技術会	22年
松橋隆治、吉田好邦、他	The Best Paper Award	7th International Conference on Environmental Informatics	22年
杉浦清了、久田俊明、他	阪本賞(論文賞)	日本生体医工学会	22年
大野秀敏	2011年日本建築学会賞	日本建築学会	22年
浅見泰司、他	平成22年度日本不動産学会論文賞	日本不動産学会	22年
小貫元治	平成23年度水環境国際活動賞	社団法人日本水環境学会	23年
大田修平	日本植物学会若手奨励賞	日本植物学会	23年
堀洋一	電気学会フェロー賞	電気学会	23年
高際良樹、木村薫、他	第5回欧文論文賞	日本熱電学会	23年
高際良樹	第8回学術講演会・講演奨励賞	日本熱電学会	23年
横山英明	高分子学会 Wiley 賞	高分子学会	23年
有馬孝尚	第17回論文賞	日本物理学会	23年
川合眞紀	第23回 向井賞	東京応化科学技術振興財団	23年
吉田善章、小川雄一、森川惇二、他	超伝導科学技術賞	未踏科学技術協会超伝導科学技術研究会	23年
西田友是	フェロー	画像電子学会	23年
楽詠コウ	優秀研究発表賞	情報処理学会 グラフィクスとCAD 研究発表会	23年
國廣昇	Best Paper Award	IWSEC2011	23年
永田賢二	IBIS2011 ポスター奨励	電子情報通信学会 情報論的学習理論と機械学習研究会	23年
楽詠コウ	優秀研究発表賞	映像情報メディア学会	23年
楽詠コウ	山下記念研究賞	情報処理学会	23年
永田賢二	2011年度 IEEE CIS Japan Chapter Young Researcher Award	IEEE Computational Intelligence Society Japan Chapter	23年
河野重行	平瀬賞	日本植物形態学会	23年
今須良一、他	JMSJ Award	日本気象学会	23年
北川貴士、木村伸吾	平成23年度日本水産学会論文賞	日本水産学会	23年
佐藤克文	平成24年度文部科学大臣表彰科学技術賞 研究部門	文部科学省	23年
芳村圭	平成24年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞	文部科学省	23年

東京大学新領域創成科学研究科 分析項目Ⅱ

受賞者名	賞の名称	授与機関	受賞年度 (平成)
山口一	気象文化大賞	WNI 気象文化創造センター	23年
杉浦清了、久田俊明、他	平成22年度日本生体医工学会論文賞坂本賞	日本生体医工学会	23年
鈴木英之	日本船舶海洋工学会賞(著書部門)	公益社団法人日本船舶海洋工学会	23年
高木健、他	日本船舶海洋工学会賞(論文賞)	公益社団法人日本船舶海洋工学会	23年
山路永司、他	2011 Paper Award	International Society of Paddy and Water Environment Engineering	23年
横張真	農村計画学会賞	農村計画学会	23年
貴田徳明	日本物理学会若手奨励賞	日本物理学会	24年
居村岳広	2012年度研究開発奨励賞優秀賞	一般財団法人エヌエフ基金	24年
武田展雄	フェロー	日本航空宇宙学会	24年
永田賢二	IEEE CIS Japan Chapter Young Researcher Award	IEEE CIS Japan	24年
関根康人	地球化学研究協会奨励賞	地球化学研究協会	24年
桧垣匠	日本バイオイメージング学会奨励賞	日本バイオイメージング学会	24年
宮本万理子	研究論文部門研究奨励賞	日本造園学会	24年
小谷潔	中山賞奨励賞	財団法人中山科学振興財団	24年
山口一	第二回気象文化大賞	一般財団法人 WNI 気象文化創造センター	24年
奈良一秀	日本森林学会賞	日本森林学会	24年
占部継一郎	Best Presentation Award	ISPlasma 2014/IC-PLANTS 2014	25年
占部継一郎	第23回学術シンポジウム「奨励賞」	日本MRS	25年
占部継一郎	Prize for the Best Combination of Pre-Poster Talk and Poster Presentation	16th International Symposium on Laser-Aided Plasma Diagnostics	25年
武田展雄	NDE Lifetime Achievement Award	国際光工学会	25年
鈴木宏二郎、他	日本航空宇宙学会技術賞(基礎技術部門)	日本航空宇宙学会	25年
大崎博之	超伝導科学技術賞	一般社団法人未踏科学技術協会超伝導科学技術研究会	25年
國廣昇、他	IWSEC2013 Best Poster Award	IWSEC2013	25年
野田聡人	平成25年度 船井研究奨励賞	船井情報科学振興財団	25年
三谷啓志、尾田正二、他	Best Poster Award	第19回小型魚類研究会	25年
大田修平	日本藻類学会奨励賞	日本藻類学会	25年
小林一三	2014年度日本農芸化学会大会トピックス賞	日本農芸化学会	25年
長谷川圭介、篠田裕之、他	Finalist, WHC 2013 Best Paper Award	IEEE World Haptics Conference 2013	25年
久恒辰博	第10回農芸化学研究企画賞	日本農芸化学会	25年
桧垣匠	日本バイオイメージング学会奨励賞	日本バイオイメージング学会	25年
堀洋一、藤本博志、他	Best Transaction Paper Award in IEEE Trans. on Industrial Electronics in 2013	IEEE Trans. on Industrial Electronics	25年
居村岳広	研究開発奨励賞優秀賞	エヌエフ基金	25年
岡田純一、鷲尾巧、杉浦清了、久田明、他	優秀ポスター賞受賞	日本応用数理学会 2013年度年会	25年
岡田純一	ベストオーサー賞(論文部門)受賞	日本応用数理学会	25年
党超鋌、飛原英治、他	学術賞	日本冷凍空調学会	25年
飛原英治	空気調和・衛生工学会功績賞	空気調和・衛生工学会	25年
愛知正温、塩莉恵、徳永朋祥	日本地下水学会論文賞	公益社団法人日本地下水学会	25年
岡本洋明	研究奨励賞	日本冷凍空調学会	25年
井原智彦、他	学会論文賞	日本ヒートアイランド学会	25年
徳永朋祥	エンジニアリング功労者賞	一般社団法人エンジニアリング協会	25年
鎌田実	フェロー	日本機械学会	25年
鎌田実	交通物流部門功績賞(2012年度)	日本機械学会	25年

東京大学新領域創成科学研究科 分析項目Ⅱ

受賞者名	賞の名称	授与機関	受賞年度(平成)
鳥居徹、他	IDW'13 Outstanding Poster Award	The Institute of Image Information and Television Engineers The Society for Information Display	25年
山田一郎	関東支部創立20周年記念表彰	日本機械学会	25年
割澤伸一、山田一郎	Best Paper Award	ASME 2013 Conference on Information Storage and Processing Systems	25年
小林寛道	第16回秩父宮記念スポーツ医・科学賞 功労賞	公益財団法人日本体育協会	25年
芝内孝禎	Highly Cited Researchers	Thomson Reuters	26年
高際良樹、木村薫、他	The 2014 ITS Outstanding Poster Award	International Conference on Thermoelectrics-ICT2014	26年
寺嶋和夫	フェロー表彰	応用物理学会	26年
岡本敏宏	平成26年度高分子学会日立化成賞	高分子学会	26年
貴田徳明	Outstanding Referees 表彰	アメリカ物理学会	26年
松浦宏行	第40回奨励賞	一般社団法人資源・素材学会	26年
伊藤耕三	シクロデキストリン学会賞	シクロデキストリン学会	26年
武田展雄	協会特別賞	先端材料技術協会	26年
武田展雄	SPIE Smart Structures/NDE 2014 非破壊評価・生涯功績賞	SPIE (米国光工学会)	26年
大崎博之	超伝導科学技術賞	未踏科学技術協会超伝導科学技術研究会	26年
鈴木宏二郎、他	第23回(2013年度)日本航空宇宙学会賞 技術賞〔基礎技術部門〕	日本航空宇宙学会	26年
藤本博志、堀洋一	Best Paper Award for the IEEE Transactions on Industrial Electronics	IEEE Industrial Electronics Society	26年
門内靖明、長谷川圭介、篠田裕之、他	People's Choice Best Demo Award	ACM UIST (Symposium on User Interface Software and Technology) 2014	26年
篠田裕之、他	The winner of the BCI Award 2014	Annual BCI-Research Award	26年
門内靖明、長谷川圭介、篠田裕之、他	Honorable Mention of Best Demonstration Award	Asia Haptics 2014	26年
長谷川圭介、篠田裕之	Honorable Mention of Best Demonstration Award	Asia Haptics 2014	26年
篠田裕之、他	日本機械学会 ROBOMECH 表彰	日本機械学会 ロボティクス・メカトロニクス部門	26年
牧野泰才、篠田裕之、他	Industry 特別賞 Innovative Technologies 2014	経済産業省 一般財団法人デジタルコンテンツ協会	26年
牧野泰才、篠田裕之、他	SIGGRAPH 特別賞 Innovative Technologies 2014	経済産業省 一般財団法人デジタルコンテンツ協会	26年
篠田裕之、他	計測自動制御学会 論文賞	計測自動制御学会 計測部門	26年
門内靖明	船井研究奨励賞	船井情報科学振興財団	
大田修平	日本藻類学会研究奨励賞	日本藻類学会	26年
保田隆子	岩崎民子賞	日本放射線影響学会	
稗方和夫	日本船舶海洋工学会賞(論文賞)	社団法人日本船舶海洋工学会	26年
斎藤静雄、党超鋺、飛原英治	日本冷凍空調学会学術賞	日本冷凍空調学会	26年
飛原英治、他	空気調和・衛生工学会論文賞技術論文部門	空気調和・衛生工学会	26年
飛原英治	日本機械学会熱工学部門研究功績賞	日本機械学会	26年
北山健、橋本学、奥田洋司、他	ICCM 2014 Best Paper Award	ICCM (International Conference on Computational Methods)	26年
佐藤弘泰	論文賞	社団法人日本水環境学会	26年
佐藤弘泰	ポスター発表・最優秀賞	日本下水道協会	26年

東京大学新領域創成科学研究科 分析項目Ⅱ

受賞者名	賞の名称	授与機関	受賞年度(平成)
佐藤弘泰、庄司仁、他	新技術・プロジェクト賞	土木学会環境工学委員会	26年
佐藤淳	日本建築仕上学会賞、作品賞・建築部門	日本建築仕上学会	26年
斎藤馨	日本造園学会田村剛賞	日本造園学会	26年
横尾英史	2014年度環境経済・政策学会奨励賞	環境経済・政策学会	26年
戸野倉賢一	平成25年度特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会書面審査員の表彰	日本学術振興会	26年
井原智彦 他	Award	Third International Conference on Countermeasures to Urban Heat Island	26年
井原智彦、他	第9回全国大会ベストポスター賞	日本ヒートアイランド学会	26年
井原智彦、他	第2回論文賞	日本ヒートアイランド学会	26年
Miguel Esteban	Outstanding Reviewer Award	Journal of Waterway, Port, Coastal and Ocean Engineering, American Society of Civil Engineers	26年
和田良太	日本船舶海洋工学会奨励賞(乾賞)	公益法人日本船舶海洋工学会	26年
割澤伸一	功労賞	日本ウォータージェット学会	26年
鯉淵幸夫	The WET Excellent Research Award	Water of Environment Technology Conference (WET)	26年
清松啓司、小平翼、門元之郎、早稲田卓爾	日本船舶海洋工学会賞(論文賞)	公益法人日本船舶海洋工学会	27年
久保麦野	第69回日本人類学会大会若手会員大会発表賞	日本人類学会	27年
川合眞紀	Distinguished Women in Chemistry/Chemical Engineering	IUPAC(国際純正・応用化学連合)	27年
川合眞紀	Gerhard Ertl Lecture Award 2015	Uni Cat	27年
塚原規志	日本物理学会若手奨励賞	日本物理学会	27年
木村薫、他	第9回日本熱電学会 欧文論文賞	日本熱電学会	27年
三津井親彦、竹谷純一、岡本敏宏、他	優秀ポスター発表賞	第5回CSJ化学フェスタ2015	27年
三津井親彦、竹谷純一、他	欧文誌論文賞(BCSJ賞)	日本化学会	27年
伊藤耕三	平成27年度シクロデキストリン学会賞	シクロデキストリン学会	27年
眞弓皓一	第27回エラストマー討論会若手優秀発表賞	日本ゴム協会	27年
長谷川圭介	日本バーチャルリアリティ学会研究奨励賞	日本バーチャルリアリティ学会	27年
長谷川圭介	日本バーチャルリアリティ学会論文賞	日本バーチャルリアリティ学会	27年
長谷川圭介	SICE センシングフォーラム研究奨励賞	SICE センシングフォーラム	27年
佐藤弘泰	論文賞	公益社団法人日本水環境学会	27年
永田賢二	情報処理学会 2015年度山下記念研究賞	情報処理学会	27年
牧野泰才、篠田裕之、他	Best Demo Award Winner	IEEE World Haptics Conference 2015	27年
田辺博士	プラズマ・核融合学会第20回学術奨励賞	プラズマ・核融合学会	27年
清松啓司、小平翼、門元之郎、早稲田卓爾	日本船舶海洋工学会賞(論文賞)	(公)日本船舶海洋工学会	27年
久田俊明	The 2015 JACM Award for Computational Mechanics	JACM	27年
岡田純一、鷺尾巧、杉浦清了、他	第20回日本計算工学会ベストペーパーワード	日本計算工学会	27年
鎌田実	交通文化賞	国土交通省	27年
小竹元基、鎌田実	論文賞	公益社団法人自動車技術会	27年
森田剛	第一回永守賞	永守財団	27年
党超鋌、飛原英治、他	日本冷凍空調学会学術賞	日本冷凍空調学会	27年
鳥居徹、他	化学工学会技術賞	化学工学会	27年

受賞者名	賞の名称	授与機関	受賞年度(平成)
観山恵理子	日本農業市場学会学会誌賞(湯沢賞)	日本農業市場学会	27年
井原智彦	第6回奨励賞	日本LCA学会	27年
大島義人、大友順一郎、他	Outstanding Paper Award of 2014	化学工学会	27年
橋本学、奥田洋司、他	Best Paper Award	Asia Simulation Conference 2015	27年
田辺博士	第20回学術奨励賞	プラズマ・核融合学会	27年

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

本研究科は、広範な学問分野についてそれぞれの分野を代表する優れた成果を数多く創出するとともに(資料12-18; P12-16)、異分野間での情報交換や交流する機会を頻りに設定し、学融合を常に強力に促進している。これらの成果に対して、180件以上の賞を受賞している(資料12-19; P12-17)ことから、その評価が高いことがわかる。また、英文の学術論文および国際会議論文に関しては、件数が第1期中期目標期間より2割近く増えただけでなく(資料12-17; P12-15)、NatureやScienceなどの非常に高いImpact Factorを持つ著名論文誌にも多数の論文が掲載され(資料12-20: 著名論文誌への掲載例)、国際的な賞の受賞数も35件を超えている(資料12-19; P12-17)。これらより、本研究科の多くの研究成果が、国際的にも高く評価されていることがわかる。

特許出願件数は、第1期中期目標期間に比べて若干減少しているものの、情報科学と生命科学分野の学融合研究の成果として、本研究科発のベンチャー企業である「エルピクセル株式会社」や「株式会社 UT-Heart 研究所(業績番号6)」が設立され、それら関連特許が多数出願されるなど、学融合分野の産業化やベンチャー企業の設立など新規産業分野の創出・育成で着実な成果を出している。さらに、(資料12-18; P12-16)に示したように、空中触覚提示技術(業績番号1)、高次元データ駆動科学(業績番号2)、革新的超分子ネットワークマテリアル(業績番号11)などを始めとして、未踏分野を切り開きそれを実用化する研究で、世界的に高い評価を得ている。また、地元の自治体や企業との地域連携プロジェクトへも積極的に参加し、地域に密着した公・民・学の連携でも大きく貢献している(資料12-12; P12-12)。

以上のように、広範囲な伝統的学問領域に加えて、学融合による新たな学術領域の創成、産業化、地域貢献等において多数の優れた成果を出していることより、本研究科に期待される水準を上回るものであるといえる。

(資料 12-20 : 著名論文誌への掲載例)

(注: 著者名は本研究科所属の著者のみを記載)

S. Kawan, et al.: Chloroplasts divide by contraction of a bundle of nanofilaments consisting of polyglucan, <i>Science</i> 329, 949–953 (2010).
Z. Yoshida, et al.: Twisting space–time: Relativistic origin of seed magnetic field and vorticity, <i>Phys. Rev. Lett.</i> 10, 095005 5 (2010).
Z. Yoshida et al.: Magnetospheric vortex formation: self–organized confinement of charged particles, <i>Phys. Rev. Lett.</i> 104, 235004 (2010).
Y. Sekine, S. Sugita, et al.: Replacement and late formation of atmospheric N ₂ on undifferentiated Titan by impacts, <i>Nature Geoscience</i> , 4, 359–362. (2011)
T. Waseda, M. Hallerstig, K. Ozaki, et al.: Enhanced freak wave occurrence with narrow directional spectrum in the North Sea, <i>Geophysical Research Letters</i> , 38, 10.1029/2011GL047779. (2011).
Y. Sekine, et al.: Osmium evidence for synchronicity between a rise in atmospheric oxygen and Palaeoproterozoic deglaciation, <i>Nature Communications</i> , 2:502, 1–6, doi:10.1038/ncomms1507 (2011)
Y. Ono, H. Tanabe, Y. Hayashi, T. Ii, M. Inomoto, et al.: Ion and Electron Heating Characteristics of Magnetic Reconnection in a Two Flux Loop Merging Experiment, <i>Phys. Rev. Lett.</i> 107, 185001 (2011).
Yu Chen, et al.: Herd behavior in a complex adaptive system, <i>PNAS (Proceedings of the National Academy of Sciences)</i> , Vol. 108, No. 37, 15058–15063, (2011).
Z. Kikvidze, et al.: Importance versus intensity of ecological effects: Why context matters, <i>Trends in Ecology & Evolution</i> , 26: 383–388 (2011)
M. Yamagishi, K. Nakano, A. Miyake, T. Yamochi, Y. Kagami, A. Tsutsum, Y. Matsuda, S. Muto, T. Watanabe, et al.: Polycomb–mediated loss of miR–31 activates NIK–dependent NF–kB pathway in adult T–cell leukemia and other cancers, <i>Cancer Cell</i> , 21(1):121–135, doi:10.1016/j.ccr.2011.12.015 (2012)
N. Kutsuna, T. Higaki, S. Hasezawa, et al.: Active learning framework with iterative clustering for bioimage classification, <i>Nature Communications</i> , 3, 1032 (2012)
T. Yoshiyama–Yanagawa, et al.: Mutations in neverland gene turned <i>Drosophila</i> <i>pachea</i> into an obligate specialist species, <i>Science</i> , 337, 1658–1661 (2012)
S. Hasezawa, et al.: Mechanism of microtubule array expansion in the cytokinetic phragmoplast, <i>Nature Communications</i> , 4, 1967 (2013)
M., Higaki, K. Akita, et al.: A Munc13–like protein in <i>Arabidopsis</i> mediates H ⁺ –ATPase translocation that is essential for stomatal responses, <i>Nature Communications</i> , 4, 2215 (2013)
J. Yamaguchi, T. Ando, H. Fujiwara, et al.: Periodic Wnt expression in response to ecdysteroid generates twin–spot markings on caterpillars, <i>Nature Communications</i> , 4, e1857 (2013)
T. Higaki, K. Akita, S. Hasezawa, et al.: A Munc13–like protein in <i>Arabidopsis</i> mediates H ⁺ –ATPase translocation that is essential for stomatal responses, <i>Nature Communications</i> , 4:2215 (2013)
T. Hamura, S. Sugita et al.: Production of sulphate–rich vapour during the Chicxulub impact and implications for ocean acidification, <i>Nature Geoscience</i> , 7, 279–282, doi:10.1038/ngeo2095. (2014)
A. Nose, et al.: A group of segmental premotor interneurons regulates the speed of axial locomotion in <i>Drosophila</i> larvae, <i>Current Biology</i> , 24(22):2632–42. (2014)
S. Yoda, J. Yamaguchi, T. Ando, H. Fujiwara, et al.: The transcription factor apontic–like controls diverse coloration pattern in caterpillars, <i>Nature Communications</i> , 5, 4936. (2014)
H. Sakai H, S. Sugano, Y. Suzuki, M.G. Suzuki, et al.: A single female–specific piRNA is the primary determiner of sex in the silkworm, <i>Nature</i> , 509(7502):633–636. doi: 10.1038/nature13315 (2014)
Y. Miyamoto, K. Nara, et al.: The mid–domain effect in ectomycorrhizal fungi: range overlap along an elevation gradient on Mount Fuji, Japan, <i>The ISME Journal</i> , 8: 1739–1746 (2014)
T. Kodaira, T. Waseda, et al.: Nonlinear internal waves generated and trapped upstream of islands in the Kuroshio, <i>Geophysical Research Letters</i> , DOI: 10.1002/2014GL060113. (2014)
T. Sato, et al.: Detection and impacts of leakage from sub–seafloor deep geological Carbon Dioxide Storage, <i>Nature Climate Change</i> , 4 pp. 1011–1016. (2014)

H. Matsubayashi, Y. Kuruma, T. Ueda: In Vitro Synthesis of the E. coli Sec Translocon from DNA, <i>Angew Chem Int Ed Engl.</i> , 53(29):7535–8. doi: 10.1002/anie.201403929. Epub (2014).
Y. Sekine, et al. Ongoing hydrothermal activities within Enceladus, <i>Nature</i> , 519, 207–210 (2015)
K. Saiki et al.: Radiation Mode Optical Microscopy on the Growth of Graphene, <i>Nature Communications</i> , 6, 6834, doi:10.1038/ncomms7834. (2015)
K. Abe, M. Cao, Y. Suzuki, M.G.Suzuki, F. Aoki, et al: The first murine zygotic transcription is promiscuous and uncoupled from splicing and 3' processing, <i>EMBO J.</i> , 34: 1523–1537, (2015)
H. Okada, Y. Ohya, et al.: The plant derived, antifungal agent poacic acid targets β -1,3-glucan, <i>PNAS (Proceedings of the National Academy of Sciences)</i> , 112:E1490–1497 Doi:10.1073/pnas.1410400112 (2015)
H. Nishikawa, T. Iijima, J. Yamaguchi, T. Ando, Y. Suzuki, S. Sugano, H. Morimoto, H. Fujiwara et al.: A genetic mechanism for female-limited Batesian mimicry in <i>Pupilio</i> butterfly, <i>Nature Genetics</i> , 47, 405–409 (2015)
J. Okada, T. Washio, S. Sugiura, T. Hisada, et al : Screening system for drug-induced arrhythmogenic risk combining a patch clamp and heart simulator, <i>Science Advances</i> , 1 (4) , e1400142 (2015)
K. Fukuda, D. Kawaguchi, M.Y. Ogasa, T. Umebayashi, et al.: Vulnerability to cavitation differs between current-year and older xylem: nondestructive observation with a compact MRI of two deciduous diffuse-porous species, <i>Plant, Cell and Environment</i> , doi: 10.1111/pce.12510 (2015)
H. Tadakuma, Y. Tomari, et al.: Defining fundamental steps in the assembly of the Drosophila RNAi enzyme complex, <i>Nature</i> , 521, 533–536, doi:10.1038/nature14254 (2015)
Y. Tomari, H. Tadakuma, et al.: Single-Molecule Analysis of the Target Cleavage Reaction by the Drosophila RNAi Enzyme Complex, <i>Molecular Cell</i> , 59, 125–132, doi:10.1016/j.molcel.2015.05.015 (2015)
Tsai, C., S. Behera, T. Waseda: Indo-China Monsoon Indices, <i>Scientific Reports</i> , 5 : 8107, DOI: 10.1038/srep08107 (2015)
H. Yamaguchi, et al.: Additional Arctic observations improve weather and sea-ice forecasts for the Northern Sea Route, <i>Scientific Reports</i> , 5:16868, DOI: 10.1038/srep16868, 1–8 (2015)
H. Yamaguchi, et al.: The impact of radiosonde data on forecasting sea-ice distribution along the Northern Sea Route during an extremely developed cyclone, <i>J. Advances in Modelling Earth Systems</i> , 8, doi:10.1002/2015MS000552, 1–12 (2016)
H. Nishikawa, T. Iijima, J. Yamaguchi, T. Ando, Y. Suzuki, S. Sugano, H. Fujiwara, et al.: A genetic mechanism for female-limited Batesian mimicry in <i>Papilio</i> butterfly, <i>Nature Genetics</i> , 47, 405–409 (2015)
K. Kimura, et al.: Visualizing the Mixed Bonding Properties of Liquid Boron with High-Resolution X-Ray Compton Scattering, <i>Physical Review Letter</i> , 114, 177401 (2015).
K. Sakai, J. Takeya et al: The emergence of charge coherence in soft molecular organic semiconductors via the suppression of thermal fluctuations, <i>NPG Asia Materials</i> , 8, e252 (2016)
K. Saiki, et al: Radiation-mode optical microscopy on the growth of graphene, <i>Nature Communications</i> , 6, 6834 (2015)
J. Okada, T. Washio, S. Sugiura, et al: Screening system for drug-induced arrhythmogenic risk combining a patch clamp and heart simulator, <i>Science Advances</i> , 1 (4) , e1400142 (2015)
H. Tanabe, T. Watanabe, K. Gi, K. Kadowaki, M. Inomoto, Y. Ono et al.: Electron and Ion Heating Characteristics during Magnetic Reconnection in the MAST Spherical Tokamak, <i>Physical Review Letters</i> , 115, 215004 (2015)

Ⅲ 「質の向上度」の分析

(1) 分析項目Ⅰ 研究活動の状況

本研究科では、学融合を通じて時代に即した新しい領域創成や研究の促進ができるように、常に組織の見直しを実施している。平成23年度に2つのセンターを新たに設置するとともに、平成27年度には、生命科学の情報化を先導しライフイノベーションに大きく貢献できるように、メディカルゲノム専攻と情報生命学専攻を統合してメディカル情報生命専攻を設置している。さらに、学外研究機関との連携を進めるための連携講座は、平成21年度の16講座から平成27年度までに23講座に増やすと共に（資料12-16；P12-14）、寄付講座も4講座設置している（資料12-9；P12-8）。基幹講座に関しても、本研究科では常に適切な教育研究体制を作れるように、教員の空きポストに対して人事選考を行う前に、そのポストの分野が適切であるかどうかの見直しを毎回実施している。その結果、平成22年度～27年度の間34ポストの分野が新しい分野に変更されている（資料12-16；P12-14）。民間企業や官公庁等からの受託研究・共同研究の件数が、第1期中期目標期間に比べて1.4倍以上に増加しているが（資料12-17；P12-15）、これは、上記のように、時代に即した（あるいは時代を先取りした）研究体制が、新たな産業分野を模索している民間企業や官公庁等の要請とよく合致していることを示している。

本研究科では、外国人特任教員を多数招聘すると共に、国際的な共同研究を積極的に推進している。第1期中期目標期間に比べて、外国人特任教員の招聘数は1.7倍に増加しているが、その効果として、3カ国以上の多国間共同研究が3倍に増加し、英文の原著論文（学術誌掲載論文および国際会議発表論文）は19%増加しており（資料12-17；P12-15）、国際的な共同研究が、第2期中期目標期間に大きく進んでいる。

これらのことより、第2期中期目標期間において、研究活動の状況に重要な質の向上があったと判断される。

(2) 分析項目Ⅱ 研究成果の状況

分析項目Ⅰで述べたような研究活動状況の質の向上にともない、研究成果の質も向上もなされている。（資料12-19；P12-17）に示したように、賞の受賞は180件以上にのぼり第1期中期目標期間の74件を大きく超え、国際的な賞の受賞数も35件を超えている。また、NatureやScienceなどの非常に高いImpact Factorを持つ著名論文誌に40編以上の論文が掲載されており、研究成果の質が高いことを示している（資料12-20；P12-23）。

「研究業績説明書」において説明しているように、「高次元データ駆動科学（業績番号2）」や「心臓シミュレータUT-Heart（業績番号6）」などの研究において、新しい学融合研究の分野を開拓している。また、「空中触覚提示技術（業績番号1）」では世界に先駆けて、超音波を用いて何も装備していない皮膚に触覚を惹起するという全く新しい研究領域を開拓している。さらに、「革新的超分子ネットワークマテリアル研究（業績番号11）」は、2014年にImPACT革新的研究開発推進プログラムに採択され、実用化研究が強力に進められている（資料12-18；P12-16）。他方、地域に密着した連携プロジェクトにおいても多くの新しい取り組みで成果を出しており、地域社会に大きく貢献している（資料12-12；P12-12）。

このように、さまざまな分野で優れた研究成果を多数創出しており、第2期中期目標期間において、研究成果の状況も重要な質の向上があったと判断される。

25. 新領域創成科学研究科

I	新領域創成科学研究科の教育目的と特徴	25 - 2
II	「教育水準」の分析・判定	25 - 6
	分析項目 I 教育活動の状況	25 - 6
	分析項目 II 教育成果の状況	25 - 23
III	「質の向上度」の分析	25 - 32

I 新領域創成科学研究科の教育目的と特徴

新領域創成科学研究科の教育目的は、学術の融合を通じて新たな学問体系の創成を目指して教育と研究を行い、これまでの分野細分型の学部・研究科組織では解決できない物質、エネルギー、情報、生命科学、環境などの融合的な分野に問題解決能力を持った国際性豊かな人材を養成することにある（資料 25- 1：研究科規則）。

（資料 25- 1：研究科規則）

東京大学大学院新領域創成科学研究科規則（抄）

（平成 11 年3月 16 日）

（教育研究上の目的）

第1条の2 本研究科は、学融合を通じて新たな学問領域の創成を目指した教育と研究を行うことを目的とする。現代社会の要請とその変化に対応して、人類が解決を迫られている課題に果敢に挑戦するとともに、領域横断的な視点と高度な問題解決能力を有する国際性豊かな人材を育成し、もってより良い社会の実現に積極的に貢献していく。

この学融合の理念に基づき、基盤科学研究系、生命科学研究系、環境学研究系の3研究系の中に 11 専攻を配置し（資料 25- 2：研究科組織図）、各研究系では、それぞれ下記の目的に沿った教育を実施している。

基盤科学研究系：

物理学・物理工学、化学・応用化学、材料科学、エネルギー科学、航空宇宙工学、プラズマ科学、電気工学、情報科学、数理工学、脳・バイオ科学、非線型科学、地球惑星科学など多岐にわたる分野の教員が、既存の分野の壁を越えた学融合による新たな研究領域の創成を通して、既存の科学・技術では解決できない現代の諸問題の解決に貢献できる人材を育成する。

生命科学研究系：

これまでの理学、農学、薬学、医学等の分野で確立された生命科学を、分子レベルから個体レベルまで、基礎から応用までを網羅する次世代生命科学を構築するための先導的・横断的な教育研究を行うことを目的とする。そのために、新しいゲノム科学を軸とした展開や、知財等の新しい分野への展開を重点としている。

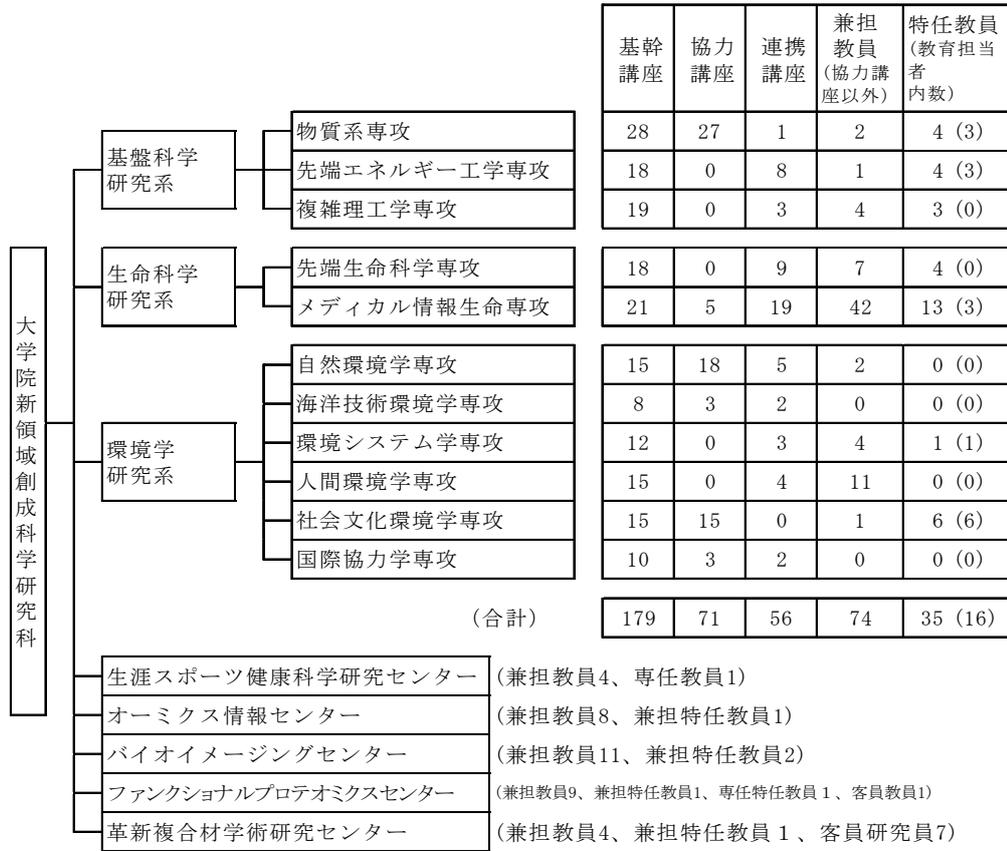
環境学研究系：

陸と海の自然環境、環境システム、人間と人工物、社会と文化、国際協力、海洋技術環境という融合的な分野設定を行い、それぞれを専攻として教育研究のユニットとしている。各専攻には狭い学術的体系性よりもむしろ多様なディシプリン（学問領域）を配し、広範な環境学を構築しようとしている。

これらの理念に基づき、各専攻ではさらに（資料 25- 3：各専攻の教育研究上の目的）に示す具体的な教育目的を設定している。

(資料 25- 2 : 研究科組織図)

(平成 27 年度5月1日の現員) 単位 : 人



(資料 25- 3 : 各専攻の教育研究上の目的)

研究系名/専攻名	教育研究上の目的
物質系専攻	物質系専攻では、天文学的な数の電子や原子核から構成され多様な自由度をもつ物質の未開拓な自由度を開拓して、新奇な現象の探索、新しい物質観の構築を行い、さらに、それらの応用展開を目指し研究を推進する。物質科学のフロンティアにおける先導的研究の実践と総合的・系統的な幅広い物性教育を通じて、高度な専門知識を基盤に分野横断的な視点と創造性溢れる問題解決能力を有し、次世代の社会と科学を牽引する人材を育成する。
先端エネルギー工学専攻	先端エネルギー工学専攻の中心的研究課題は、物質の極限状態におけるエネルギーの発生、利用と制御、極限構造材料設計、また、電磁エネルギーを代表とするエネルギーの効率的な利用、貯蔵、さらに環境適合性も考慮した新たなエネルギー源と高度なエネルギー利用の可能性をもたらす未来社会の設計である。教育上の目的は、未来のエネルギー計画について具体的な可能性をイメージした先端的・独創的な研究・技術開発を行える人材養成である。
複雑理工学専攻	多数の非線形要素が強く相互作用する複雑系の理解は 21 世紀の新しい科学技術を創成する原動力となり得ることが明らかになってきた。複雑理工学専攻では、「脳・バイオ」「アストロバイオロジー」「極限物質」の3つのモジュールと、これらの分野に共通する「複雑系プラットフォーム」を構築することにより新たな展開を図っている。教育面では「複雑性」を理学と工学を融合した新しいアプローチにより解明し、新しいパラダイムを創成できる研究者・技術者を養成することを目的とする。

研究系名／専攻名		教育研究上の目的
生命科学 研究系	先端生命科学 専攻	先端生命科学専攻は、生命科学の急速な展開に即応できる先導的かつ分野横断的な教育研究を共通理念として、生命現象を支える根本原理と統合的な生物機能を理解し、将来の生命科学関連諸問題の解決に資する人材を育成する。また、生命をつかさどる基本分子の構造及び機能に着目し、分子・細胞レベルから個体レベルまでをつないだ基礎から応用までを網羅する、先端的な次世代生命科学の創出を目指す。
	メディカル情報 生命専攻	メディカル情報生命専攻は、生命科学・医科学の領域における情報科学の急激な進展に伴う新たな研究スタイルの変化とパラダイムシフトに対応し、医科学を中心とする生命科学と情報科学の融合を先導する研究を進めると同時に、実践的な実習を組み込んだ医科学と情報科学のダブルメジャー教育を実施し、その融合を通じた将来のイノベーションの担い手や、医学生物学を応用する各方面での新しい時代の要求に応える人材の教育を行う。
環境学 研究系	自然環境学専攻	自然環境学専攻は、生命科学、地球科学、自然認識論、情報処理科学等の緊密なコラボレーションにより、「自然環境とその変貌の解明」や「人間と自然とのよりよいかかわりあいの創出」を探求する。特に、野外調査、理論、実験に基づき、環境問題の解決、自然環境の保全、自然資源の持続的活用や人間活動と共存しうる自然環境創成のための研究を行うとともに、社会においてそれらを実践しうる人材を養成する。
	海洋技術環境学 専攻	世界的に逼迫しつつあるエネルギー・資源・食糧の確保や温暖化など地球規模の環境問題の解決に、海洋が重要な役割を果たしうることを踏まえ、環境と調和させながら海洋を大規模に利用するための技術や政策科学に関する教育・研究を行う。それらを基盤に、高度な専門性と国際性を持って海洋関連政策の立案、産業振興、環境保全の実現に貢献できる人材を育成する。
	環境システム学 専攻	21世紀のあるべき環境を、大気、水、地殻、地球の視点及び物質、エネルギー、プロセス及び環境安全の視点からシステムとして捉え、そのために必要な統合化技術及び要素技術の研究と教育を行う。環境問題を技術で解決するための工学的センスと環境施策立案や環境リスク管理のセンスを養うことで、環境問題に対する広い見識を有し、包括的に取り組むことができる人材を育成する。
	人間環境学専攻	人類の活動が地球規模で環境に影響を及ぼすこと、および高齢社会が確実に進行する、という前提のもとで人類の持続的な発展を可能とする仕組みが求められている。このような社会の要請に応えるため、産業と経済活動を、人間を取り巻く環境の視点で捉えた環境学の基礎知識と、今日の豊かな社会を築き上げてきた工学・情報学の知識を有し、人それぞれの生活の向上と社会の繁栄を目指す基礎研究や技術開発、あるいは持続的発展の仕組みのデザインに従事できる人材を育成する。
	社会文化環境学 専攻	物理的かつ人文社会的な様々な要素の相互作用の中にある、住居・建築・都市・地域・地球といった幅広いスケールの「環境」を対象に、分析・評価・予測・形成・管理に関する研究を行うことにより、自然科学及び人文社会科学の多面的なアプローチによる研究の学融合の理念を専攻レベルで具現化しようとしている。そのような専門的かつ学融合的な研究を基礎にして、複雑で錯綜した環境問題に対して、高い専門性を持ちつつ、多領域の専門家と連携して対処できる人材の育成を目指す教育を行うことを、教育の目的としている。
	国際協力学専攻	国際協力における主要課題、すなわち、貧困削減、開発協力、環境協力・資源管理、制度設計・政策協同等の、世界が直面している課題を、学融合的アプローチで分析し、その予防や解決の具体的な方策を提案できる世界レベルの研究者の育成及び国際社会の最前線で政策立案能力と実務マネジメント能力を備えてリーダーシップを発揮して活躍できる人材の育成を図る。

本研究科は、次のような教育上の特徴を持つ。

- 本研究科は固有の学部組織がなく、本学および他大学の理学、工学、農学、薬学、社会文化学などの多様な学部卒業者を、大学院学生として受け入れている。
- 学融合教育を充実させるために、学内他部局の協力による協力講座（14 講座）および学外組織の協力による連携講座（23 講座）を設置している。
- 各専攻の教育課程に加えて、研究科共通科目、専攻内のより深い教育や専攻をまたいだ教育を実施するための教育プログラムを数多く設置している。
- 本学の学部1、2年生や海外の学部学生を対象に、将来の研究者としての基礎トレーニングを積むための先端研究体験学習を実施している。

これらの教育目的および特徴は、本学の教育に関する第2期中期目標である「本学で学ぶにふさわしい資質・能力を有する全ての者に門戸を開き、優秀な人材を受け入れる。」「未踏の領域に果敢に挑戦する開拓者精神に富み国際的に活躍できる研究者、高度専門職業人等、社会の先頭に立つ人材を育成する。」「学問や社会の変化に対応して教育体制を見直す。」と合致している。

[想定する関係者とその期待]

まず学生が第一の関係者であり、基盤科学、生命科学、環境学の広範な課題に対して解決能力を身につけ、国際性豊かな人材となることを期待している。また、修了生を受け入れる官公庁、企業、国際機関等では新しい分野を開拓する指導的人材や研究者の育成を期待している。

II 「教育水準」の分析・判定

分析項目 I 教育活動の状況

観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

本研究科は、個別学術分野の融合による新しい学問の展開を目的とするために、既存学術を伝授するための学部組織は持たず独立研究科となっている(資料 25-2 ; P25-3 : 研究科組織図)。融合的および先端的な充実した教育を推進するために、平成 27 年度には、メディカルゲノム専攻と情報生命科学専攻を統合し、メディカル情報生命専攻を設置している(資料 25-4:組織の改変)。また、協力講座および兼担教員として学内の 15 部局、連携講座として学外の 13 機関と連携して教育を行っている(資料 25-5 : 教育の協力組織)。

(資料 25-4 : 組織の改変)

平成 23 年 4 月	ファンクショナルイメージングセンター設置
平成 23 年 12 月	革新複合材学術研究センター設置
平成 27 年 4 月	メディカルゲノム専攻と情報生命科学専攻を統合し、メディカル情報生命専攻を設置

(資料 25-5 : 教育の協力組織) (平成 27 年度)

【連携講座および協力講座】

専攻名	連携講座		協力講座	
	連携機関名	講座数	学内部局名	講座数
物質系専攻	国立研究開発法人理化学研究所	1	物性研究所	1
先端エネルギー工学専攻	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構	2		
	一般財団法人電力中央研究所	1		
複雑理工学専攻	国立研究開発法人理化学研究所	2		
	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構	1		
先端生命科学専攻	国立研究開発法人国立がん研究センター	1		
	国立研究開発法人農業生物資源研究所	1		
メディカル情報生命専攻	公益財団法人東京都医学総合研究所	1	医科学研究所	2
	国立研究開発法人産業技術総合研究所	2	分子細胞生物学研究所	2
	大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構	1		
	国立研究開発法人理化学研究所	2		
	公益財団法人がん研究会がん化学療法センター	1		
自然環境学専攻	国立研究開発法人国立環境研究所	1	大気海洋研究所	4
	国立研究開発法人産業技術総合研究所	1	空間情報科学研究センター	1
海洋技術環境学専攻	国立研究開発法人海洋研究開発機構	1	生産技術研究所	1
環境システム学専攻	国立研究開発法人国立環境研究所	1		

東京大学新領域創成科学研究科 分析項目 I

専攻名	連携講座		協力講座	
	連携機関名	講座数	学内部局名	講座数
人間環境学専攻	一般財団法人電力中央研究所	1		
	国立研究開発法人産業技術総合研究所	1		
社会文化環境学専攻			空間情報科学研究センター	1
国際協力学専攻	独立行政法人国際協力機構	1	社会科学研究所	1
	株式会社国際協力銀行		東洋文化研究所	1
合計	組織数：13	23	部局数：8	14

【学内協力部局】

学内協力部局 (協力講座教員および兼担教員の所属部局)	人文社会系研究科、総合文化研究科、理学系研究科、工学系研究科、農学生命科学研究科、医科学研究所、東洋文化研究所、社会科学研究所、生産技術研究所、分子細胞生物学研究所、物性研究所、大気海洋研究所、空間情報科学研究センター、情報基盤センター (計：15部局)
--------------------------------	---

【非常勤講師】

所属		連携講座教員数	他の非常勤講師数
学内	工学系研究科	/	5
	理学系研究科		3
	農学生命科学研究科		3
	人文社会系研究科		3
	その他の研究科		4
	物性研究所		1
	生産技術研究所		1
他大学	0	37	
国立研究開発法人／独立行政法人／大学 共同利用機関法人	45	18	
一般財団法人	11	4	
国、地方公共団体	0	5	
私企業 他	0	46	
合計	56	130	

さらに、国連大学との連携を特徴とする「サステナビリティ学グローバルリーダー養成大学院プログラム」などの博士課程教育リーディングプログラムや、最先端の教育あるいは専攻をまたいで役に立つ知識を教育するための教育プログラムを多数設けている(資料25-6:各種教育プログラム)。また、全専攻に渡る学融合教育の推進、科学・技術英語の向上、海外留学の推進、高度教養教育などのために、研究科共通科目を設けている(資料25-7:研究科共通科目)。

(資料 25- 6 : 各種教育プログラム)

博士課程教育リーディングプログラム	開始年度
サステナビリティ学グローバルリーダー養成大学院プログラム	平成 23 年度 *
統合物質科学リーダー養成プログラム	平成 24 年度
社会構想マネジメントを先導するグローバルリーダー養成プログラム	平成 25 年度
活力ある超高齢社会を共創するグローバル・リーダー養成プログラム	平成 25 年度

(*: 前身のサステナビリティ学教育プログラムの開始は平成 19 年度)

教育プログラム名	開始年度
核融合研究教育プログラム	平成 20 年度
基盤科学領域創成研究教育プログラム	平成 21 年度
バイオ知財コース	平成 18 年度
メディカルゲノムサイエンス・プログラム	平成 19 年度
情報生命科学プログラム	平成 27 年度
環境マネジメント (MOT) プログラム	平成 16 年度
環境デザイン統合教育プログラム	平成 19 年度
環境技術者養成プログラム	平成 18 年度
環境管理者養成プログラム	平成 18 年度
サステナビリティ学グローバルリーダー養成大学院プログラム ・マイナープログラム	平成 25 年度

(資料 25- 7 : 研究科共通科目)

研究科共通科目
新領域創成科学特別講義 I ~ IV 平成 24 年度以前：グローバル COE プログラム「ゲノム情報ビッグバン」に関する先端研究の紹介 平成 27 年度以降：高度教養教育（異分野の知識の習得を目的とした、人文社会系研究科（集英社高度教養寄付講座）教員による文系講義（美術、東アジア文化、建築史、心理学など））
新領域創成科学特別講義 VII ~ IX（学融合セミナー） 研究科全般に渡る最先端研究内容を分かりやすく講義する。
新領域創成科学特別講義 VII ~ IX（科学・技術英語） 英語による論文の執筆法やプレゼンテーション法について、実践的な教育を行う。
新領域創成科学海外演習 I ~ IV 海外の協定校の授業を受講して取得した単位をこの科目として認定する。
ストレスマネジメント論 大学院における研究や生活等によって生じるストレスと健全に付き合いそれを克服するための知識を学ぶ。
健康スポーツ科学 I ~ IV 心身の健康づくりのための運動方法とその効果に関する基礎的な知識を学び、同時に実践を通して具体的な運動方法を習得する。

東京大学新領域創成科学研究科 分析項目 I

本研究科が求める学生像（資料 25-8：求める学生像）に合致した学生を選抜するために、筆記試験、英語、口述試験等からなる入学試験を実施している。修士課程および博士課程の定員に対する入学者数の割合は、年度により若干の増減があるが、平均ではそれぞれ 120%と 91%となっている（資料 25-9：入学定員と入学者数）。基幹講座と協力講座の教員一人当たりの平均の学生数は約 5.5 名（平成 19 年度約 4.0 名）であり、第 1 期中期目標期間より増加しているが、第 2 期中期目標期間に連携講座が多数設置されたため、連携講座教員や兼任教員まで含めた平均では約 2.7 名（平成 19 年度 4.8 名）と減少しており、適切な指導体制となっている。

（資料 25-8：求める学生像）

（本研究科の学生募集要項からの抜粋）

本研究科がめざす新しい分野を創成する為には、様々な学術の持つ方法論を駆使して問題を分析し再構成することが必要です。そのために以下のような学生を求めます。

- (1) 修士レベルでの専門学術に対する深い理解がある人
- (2) 多くの分野を能動的に学び、積極的な活動を展開しうる人
- (3) 将来、広く国際社会のために積極的な貢献を行う能力や意欲を持つ人

（資料 25-9：入学定員と入学者数）

単位：人

	入学定員	入学者数					
		平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
修士課程	366	458	428	456	405	416	462
博士課程	163	162	159	146	155	151	116

本研究科では、世界各国で活躍している研究者を外国人特任教員として数ヶ月～1年ほど雇用し、大学院学生が海外の最先端研究の指導を受け、国際感覚を養う機会を作っている（資料 25-10：外国人特任教員）。また、国際交流室において、外国人学生のための来日手続きの相談、生活情報の提供、地域連携窓口サービスの提供など、安心して快適なキャンパス生活を送るための支援を行っている。これらは、教員の負担軽減と留学生のスムーズな日本定着に役立っている（資料 25-11：国際交流室）。

（資料 25-10：外国人特任教員）

単位：人

国籍	年度（平成）					
	22 年	23 年	24 年	25 年	26 年	27 年
米国	5	4	4	3	2	4
英国	2	1	1	1	2	1
イタリア	2		1	1		
インド	2	2		1		
ウクライナ			1			
エジプト		1			1	1

国籍	年度（平成）					
	22年	23年	24年	25年	26年	27年
オーストラリア	1			1		1
オーストリア						1
韓国	3	1	1	2	1	2
カンボジア		1				
ケニア						1
スロバキア	1					
タイ	1		1			
チェコ		2		1	1	
中国	4	4	2	4	2	5
中国（台湾）	1	2	2	3	3	2
チュニジア			1	1		
デンマーク			1			
ドイツ	3					
フィリピン	1					
ブラジル	1					
フランス	2		3		2	1
ポーランド	1		2		1	
マレーシア					1	
南アフリカ						1
ルーマニア			1			
ロシア	2	1			1	2
計	32	19	21	18	17	22

(資料 25-11：国際交流室（International Liaison Office, ILO）)

(新領域創成科学研究科国際交流室ホームページより)

ILO の目的

国際交流室は、新領域創成科学研究科の国際的活動を支援し、そして協力して企画・実施するとともに、留学生、外国人研究者及びその家族の柏キャンパスでの学術的活動そして日常生活がより快適に行われるよう、次のような支援をしています。

1. 新領域創成科学研究科へ入学をしたいと考えている留学生への入試に関する情報提供
2. 在籍中の留学生や外国人研究者への在留資格・査証および奨学金などの情報提供、日本語教室の開催、日本文化紹介ツアーなどの企画・実施
3. 国際学術交流協定締結に関する手続き
4. 交換留学を希望する学生への情報提供及び手続き
5. 新領域創成科学研究科への公式な訪問をする場合の学内調整

本研究科では、学生に研究倫理を教育するために、入学時に「研究倫理簡易ガイダンス」を受講させるとともに、修了時まで「研究倫理詳細ガイダンス」の受講を義務付けている。さらに、生命科学研究系の専攻では、生命倫理に関する講義科目の受講を必須としている（資料 25-12：生命科学研究系の倫理教育）。

（資料 25-12：生命科学研究系の倫理教育）

先端生命科学専攻	科学技術倫理論	必修
	科学技術倫理討論演習	選択必修
メディカル情報生命専攻	研究倫理／医療倫理 I	必修
	研究倫理／医療倫理 II	選択

本研究科では、研究教育改善室において、教務、入試、学生支援、学位授与、講義評価等を統括して実施できる体制を作っている（資料 25-13：研究教育改善室）。また、教員に対する FD を研究科の全教員に対して年に 2 回実施している（資料 25-14：FD の実施状況）。本研究科の大学院学生はさまざまな大学や学部の卒業生であり、多様な背景を有しているが、この FD は、そのような学生を適切に指導するために大いに役立っている。

（資料 25-13：研究教育改善室）

新領域創成科学研究科研究教育改善室規則（抜粋）

第 2 条 研究教育改善室は、次の各号に掲げる事項について、学術経営委員会を補佐するものとする。

- (1) 教務関係（カリキュラム作成など）
- (2) 入試関係（入試の実施業務など）
- (3) 学生関係（奨学金など）
- (4) 図書関係（図書室の管理運営など）
- (5) 学位関係（学位論文の審査体制など）
- (6) 評価関係（自己評価、外部評価など）
- (7) 国際交流関係（国際交流協定、留学生の支援など）
- (8) その他、学術経営委員会の運営に資すること。

(資料 25-14 : FD の実施状況)

平成 22 年 4 月 28 日 (出席者数 : 96 名) 情報セキュリティ向上方策について (新領域創成科学研究科ネットワーク室 藤枝助教)
平成 22 年 11 月 18 日 (出席者数 : 113 名) メンタルヘルス向上に向けての教職員と専門家の共同作業 (学生相談ネットワーク本部精神保健支援室 佐々木司教授) (学生相談ネットワーク本部精神保健支援室 大島紀人講師) (学生相談ネットワーク本部学生相談所 高野明講師)
平成 23 年 4 月 14 日 (出席者数 : 116 名) 学生・職員の身を守るために (総合防災情報センター長 田中淳教授)
平成 23 年 11 月 10 日 (出席者数 : 89 名) 柏キャンパスにおける学生相談体制について (学生相談ネットワーク本部精神保健支援室 大島紀人講師) (学生相談ネットワーク本部学生相談所 高野明講師) (教育・学生支援部キャリアサポート課 中丸典子専門職員)
平成 24 年 4 月 19 日 (出席者数 : 101 名) コンプライアンスについて (清水法律事務所 溝内健介弁護士)
平成 24 年 11 月 22 日 (出席者数 : 107 名) 学生のメンタルヘルスの概要と新たな取組みについて (学生相談ネットワーク本部学生相談所 高野明講師) (学生相談ネットワーク本部保健センター 武井邦夫助教)
平成 25 年 4 月 18 日 (出席者数 : 95 名) 新領域の安全管理・安全教育について (新領域創成科学研究科安全管理室長 大島義人教授)
平成 25 年 11 月 21 日 (出席者数 : 90 名) 学生の自殺防止のためにできること (学生相談ネットワーク本部精神保健支援室 大島紀人講師) (学生相談ネットワーク本部学生相談所 高野明講師)
平成 26 年度 4 月 17 日 (出席者数 : 108 名) 若手研究者に対する研究倫理教育を進めるために (医科学研究所 神里彩子 特任准教授)
平成 26 年度 11 月 20 日 (出席者数 : 106 名) 発達障害のある学生を理解して支援する (学生相談ネットワーク本部学生相談所 高野明講師)
平成 27 年度 4 月 16 日 (出席者数 : 93 名) Critical Thinking and the DNA of Communicating in English ! (新領域創成科学研究科 John Freeman 特任教授)
平成 27 年度 11 月 19 日 (出席者数 : 95 名) 不登校学生の理解と対応 (学生相談ネットワーク本部学生相談所所長 高野明准教授)

(注 : 講師の所属・身分は、講演時のもの)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

本研究科では、時代に即した新しい学融合教育が行えるように、教育体制の改善に常に努めている（資料 25-15:教育体制の変遷）。平成 21 年度は、全 12 専攻の中に 14 協力講座（学内8部局）と 16 連携講座（学外 12 機関）を有する教育体制であったが、平成 27 年度には、2 専攻を改組してメディカル情報生命専攻を設置し、全 11 専攻の中に 14 協力講座（学内8部局）と 23 連携講座（学外 13 機関）を有する教育体制に充実されている。教育プログラムは、平成 21 年度に 8 プログラムであったが、平成 27 年度までに 10 プログラムに増強するとともに、平成 23 年以降、本研究科が中心に実施している「サステナビリティ学グローバルリーダー養成大学院プログラム」に加えて、他に 3 つの「博士課程教育リーディングプログラム」に参画している。

さらに、研究教育改善室において教育に関する全ての事柄を統括的に審議するとともに、留学生や国際交流に対しては国際交流室において、きめ細かい対応を行っている。また、様々な背景を持つ学生を適切に指導ができるように、教員に対する FD を継続して実施している。

以上のことより、第1期中期目標期間よりもさらに充実して、学生がより広い学融合分野をより深く学べる教育実施体制が整備されている。

(資料 25-15 : 教育体制の変遷)

年度（平成）	第1期中期目標期間						第2期中期目標期間					
	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年
専攻の改組	*1			*2	*3							*4
連携講座数	5	5	14	14	15	16	17	22	22	22	22	23
博士課程リーディングプログラム数								1	2	4	4	4
教育プログラム数	1	1	4	6	7	8	8	8	8	9	9	10

*1：メディカルゲノム専攻の設置

*2：環境学研究系を5専攻に改組

*3：基盤情報専攻を工学系研究科電気系工学専攻に改組、海洋技術環境学専攻の設置

*4：メディカルゲノム専攻と情報生命科学専攻を統合して、メディカル情報生命専攻を設置

観点 教育内容・方法

(観点に係る状況)

本研究科の学位授与方針(資料 25-16: 学位授与方針)に基づき、教育課程の編成・実施方針(資料 25-17: 教育課程の編成・実施方針)を定めている。さらに各専攻は、それらの方針の下で、専攻の教育目的(資料 25- 3; P25- 3: 各専攻の教育研究上の目的)を達成するために必要なカリキュラムを用意すると共に学位名称(資料 25-18: 学位と修了単位数)を定めている。一例として、自然環境学専攻の教育課程を(別添資料 25- 1: 自然環境学専攻カリキュラム)に示す。フィールドワークを重視した教育課程が作られ、そのために必要な講義、実験、演習を配した特徴的な課程の編成となっている。各専攻ともに多彩なカリキュラムを用意しているが、どのような科目を履修すべきかを、専攻ガイダンスや指導教員により適切に指導を行っている。

(資料 25-16: 学位授与方針)

「学位授与方針／教育課程の編成・実施方針／入学者受入方針 平成 27 年 3 月 12 日東京大学」より抜粋

東京大学大学院新領域創成科学研究科は、研究科の教育研究上の目的に定める人材を養成するため、次に掲げる目標を達成した学生に修士・博士の学位を授与します。

- ・ 学融合の精神に基づき、新たな学問領域の積極的な開拓を行い、次世代の研究・指導リーダーとなるための最先端科学知識・技術を修得している。
- ・ 国際社会でリーダーシップを発揮し、積極的な交流と協力を推進するための素養を修得している。
- ・ 高い研究倫理意識のもと、社会からの要請に応じて問題解決に貢献するとともに、豊かな未来社会をデザインする能力を発揮するための素養を修得している。

(資料 25-17: 教育課程の編成・実施方針)

「学位授与方針／教育課程の編成・実施方針／入学者受入方針 平成 27 年 3 月 12 日東京大学」より抜粋

東京大学大学院新領域創成科学研究科は、研究科の学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を体系的に編成・実施します。

- ・ 学融合を目指す柔軟かつ実践的な分野横断型カリキュラムの編成、学融合型研究教育プログラムを充実させる。
- ・ 国内外の学生が共に学び研究を行うための授業・カリキュラムを整備する。
- ・ 研究倫理教育の推進。附置研究所、学外研究機関と連携した最先端研究体験や、地域・社会連携実験プログラムを通じた実地教育を充実させる。

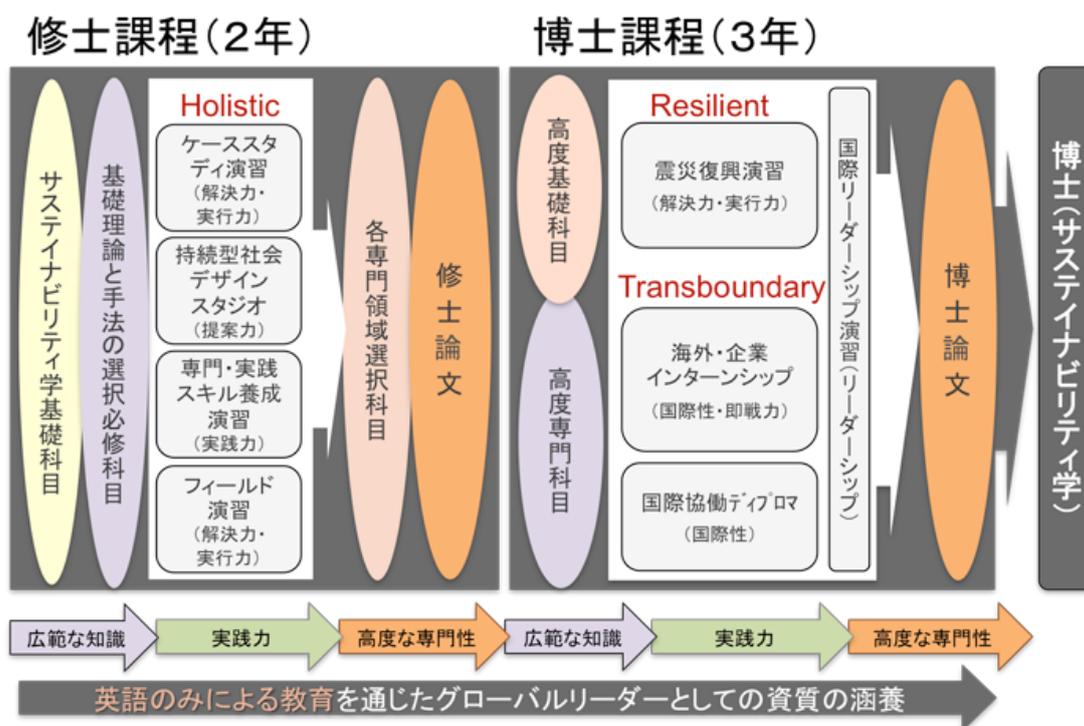
(資料 25-18 : 学位と修了単位数)

学位の種類	専攻名
科学	物質系専攻、先端エネルギー専攻、複雑理工学専攻、メディカル情報生命専攻、人間環境学専攻
生命科学	先端生命科学専攻
医科学	メディカル情報生命専攻
環境学	自然環境学専攻、海洋環境学専攻、環境システム学専攻、人間環境学専攻
国際協力学	国際協力学
サステナビリティ学	サステナビリティ学グローバルリーダー養成大学院プログラム

課程	修了必要単位数
修士課程	30
博士課程	20

修士博士の一貫教育を実施する「サステナビリティ学グローバルリーダー養成大学院プログラム」の教育課程の概要を(資料 25-19 : GSPP-GLI のカリキュラムの概要)に示す。修士課程でサステナビリティに関連する基礎的な知識とスキルを修得し、博士課程で国際経験とリーダーシップスキルを習得することで、あらゆるスキルを統合して学べるように工夫されている。また、国際的な場で指導力を発揮できる次世代のグローバルリーダー養成のために、これらの講義や演習はすべて英語で行われている。横断的教育のために専攻の形態をとっていないが、修了者にはサステナビリティ学の学位を与えている。

(資料 25-19 : GSPP-GLI のカリキュラムの概要)



東京大学新領域創成科学研究科 分析項目 I

専攻をまたいだ教育プログラムの一例として、核融合教育プログラムのカリキュラムを（資料 25-20：核融合研究教育プログラムのカリキュラム）に示す。理学および工学の核融合に関連する広範な基礎学術を総合的かつ体系的に学べる講義と実践的な演習からなり、世界的にも最も充実した核融合の教育プログラムとなっている。

（資料 25-20：核融合研究教育プログラムのカリキュラム）（平成 27 年度）

授業科目	ターム	単位数	注
プラズマ計測法	S1,S2	2	A
プラズマ応用工学	S1,S2	2	A
プラズマ基礎論	A1,A2,W	2	A
非線形科学	A1,A2,W	2	A
プラズマ核融合学	S1,S2	2	A
核融合エネルギー工学	S1,S2	2	A
Fusion Science Special Lecture I	A1,A2,W	1	A,C,E
Fusion Science Special Lecture II	A1,A2,W	1	A,C,E
プラズマ波動物理学	S1	2	B
乱流輸送物理学	A1,A2	2	B
先進核融合理工学	S1,S2	2	B
核融合実践演習	S1,S2	2	B,C

注 A：先端エネルギー工学専攻開講科目、B：複雑理工学専攻開講科目
C：短期集中科目、E：英語の講義

さらに、学融合教育と国際化を推進するために、研究科全般に渡る最先端の研究内容を分かりやすく紹介する講義、英語による論文の執筆法やプレゼンテーション法の実践的な講義などを、研究科共通科目として実施している（資料 25-21：研究科共通科目と受講生数）（資料 25-22：学融合セミナー）。

（資料 25-21：研究科共通科目と受講生数）

単位：人

	年度（平成）					
	22 年	23 年	24 年	25 年	26 年	27 年
新領域創成科学特別講義 I～IV （グローバル COE プログラム「ゲノム情報ビッグバン」 に関連する最先端の研究を紹介）	19	29	44	-	-	-
新領域創成科学特別講義 I～IV （人文社会系研究科（集英社 高度教養寄付講座） 教員による文系講義）	-	-	-	-	-	55
新領域創成科学特別講義 VII～IX （学融合セミナー）	43	70	62	55	51	61
新領域創成科学特別講義 VII～IX （科学・技術英語）	58	43	43	46	47	43
新領域創成科学海外演習 I～IV	0	2	4	1	1	0
ストレスマネジメント論	113	132	143	139	155	150
健康スポーツ科学 I～IV	75	44	36	44	26	39

（注：新領域創成科学特別講義 I～IV は、平成 27 年度より講義内容を変更）

(資料 25-22 : 学融合セミナー) (平成 27 年度)

講義タイトル	分野
スパースモデリングとデータ駆動科学	基盤科学系
イヌゲノム研究でわかること、できること	生命科学系
圧電メカトロニクス	環境学系
小型宇宙機用の推進システム	基盤科学系
昆虫研究を通して生命科学を研究を考える	生命科学系
海から教わる科学技術	環境学系
水の局所構造をめぐる最近の話題	基盤科学系
人類は何を食べてきただろうか	生命科学系
古くて新しい地盤沈下の問題	環境学系
自立燃焼を見据えた核融合プラズマ物理研究	基盤科学系
遺伝暗号解読メカニズムと tRNA 擬態タンパク質によるシステム拡張性	生命科学系
社会資本の経済評価：ヘドニック・アプローチ	環境学系
自己修復性を有する非着性表面の構築	基盤科学系
藻類バイオ：クロレラ、デンプン、オイル	生命科学系
コーヒーを通じた国際協力	環境学系
機械学習：データの背後に潜む知識を探る	基盤科学系
先発医薬品企業による市場独占戦略	生命科学系
水俣病問題とサステイナビリティ教育	環境学系
鉄鋼材料のリサイクルを通して見つめる物質循環社会	基盤科学系
ヒトゲノムのどの辺が未解明か？	生命科学系
南極地域観測隊の船舶氷中航行性能計測および海水観測について	環境学系
触覚を介して情報に触れる	基盤科学系
DNA 配列設計	生命科学系
「木の文化」を支える森林	環境学系

博士論文審査では、慎重な審査を行うとともに学生に修正の機会を与えるために、予備審査を課しており、予備審査に合格した者が本審査に進める。また、修士課程では、修士論文を重視しており、専攻ごとに、中間発表や副指導教員制度を設けるなど、研究が順調に進むようにさまざまな工夫がなされている（資料 25-23 : 研究指導等での工夫の事例）。

(資料 25-23 : 研究指導等での工夫の事例)

1. 連携講座（宇宙エネルギーシステム、先端電気エネルギーシステム、深宇宙探査学）を設置し、JAXA 及び電力中央研究所の連携教員が関与する大型プロジェクトへの学生の参画を通して研究論文の指導をお願いしている。（先端エネルギー専攻）
2. 論文の中間発表では、発表に先立って研究計画書を提出させている。中間発表はポスター発表形式で行い、教員を含む審査員で質疑およびコメントを与えている。博士課程の学生については、他の研究室で自身の研究についてのセミナーを行い、質疑応答も行うことで、自分の研究意義の再確認や発表スキルの向上、指導教員以外からの幅広い視点でのコメントを受けて、博士論文研究をより充実したものとするようにしている。（先端生命専攻）
3. 博士課程学生には、専攻教員から 2 名ずつのアドバイザーが任命され、学年ごとに評価、助言を受ける。修士課程中間発表会、博士課程予備審査会は、全教員参加型の発表会形式で行われ、「研究内容」「プレゼン技能」「ディスカッション能力」などに関して討論、助言する。（メディカル情報生命専攻）
4. グラントを通じた国立研究機関、財団との共同研究に学生を参加させ、実務家との交流を行わせるようにしている。（メディカル情報生命専攻バイオ知財コース）
5. 副指導教員制度を設けており、異分野の教員からの指導を受けることを義務づけている。（社会文化環境学専攻）
6. 修士課程の学生に対しては、2 年目の最初にプロポーザル発表会、その半年後に中間発表を行っている。（国際協力学専攻）
7. 国際協力機関と連携し、講師の派遣や、インターンシップの優遇などの機会を提供して頂いている。また、連携教員として迎え、研究指導も補佐して頂ける体制を取っている。（国際協力学専攻）
8. 各学生に対して若手教員が生活上のさまざまなメンタルケアのみならず具体的な研究上のアドバイスも与えるメンター制度を設置しており、時宜を得た事細かな指導が可能となっている。（サステナビリティ学グローバルリーダー養成大学院プログラム）

博士課程の学生に対しては、学生の国外における学会報告及び各種研究上の調査に対して学術研究奨励金を給付し国際学術交流及び研究の充実を図る「海外出張補助制度」により、補助を行っている（資料 25-24 : 博士課程学生支援）。

(資料 25-24 : 博士課程学生支援)

【海外出張補助制度】

単位：人

	年度（平成）					
	22 年	23 年	24 年	25 年	26 年	27 年
申請件数	93	69	82		62	47
採択件数	27	32	23		10	11

注：平成 24 年度までは全学の学術活動等奨励事業（国外）とあわせて研究科で支援を実施したが、平成 25 年度に全学制度が短期留学支援へ変更となったため実施しなかった。平成 26 年度より研究科独自の制度として再実施している。

【博士課程研究遂行協力制度】

単位：人

	年度（平成）					
	22年	23年	24年	25年	26年	27年
申請件数	204	241	244	210	188	151
採択件数	193	208	211	197	183	146

注：全学で実施している博士課程学生への補助制度

学生の海外留学については、協定校を設けて単位の互換や授業料の免除などの特典を与えている。平成22～27年度の合計で、海外留学した学生は40人を超えている（資料25-25：海外協定校との交流実績）。また、海外の協定校からの受入学生は、55人（正規の大学院学生を除く）を超えている。

（資料25-25：海外協定校との交流実績）（平成22～27年度の合計）

単位：人

国名	大学名	日本からの留学	日本への留学
イギリス	インペリアルカレッジ	2	6
イギリス	ダラム大学	4	
イタリア	ローマ大学		1
フランス	インサリオン校	3	4
フランス	ENS リヨン校	3	5
フランス	ジャモネ大学	1	
フランス	UCBL		2
フランス	ECN		2
フランス	国立パリ建築大学ラヴィレット校	1	4
オーストリア	ウィーン工科大学	6	1
スイス	スイス連邦工科大学チューリッヒ校	9	1
スイス	ジュネーブ大学		1
ドイツ	シュツットガルト大学	4	1
ドイツ	ミュンヘン工科大学	3	5
オーストラリア	ロイヤルメルボルン大学		1
オーストラリア	シドニー大学	1	
ベルギー	シントルーカス建築大学	2	5
ベルギー	ルーベントリック大学		1
ベルギー	サンリュック大学	1	
デンマーク	コペンハーゲン大学	1	
スウェーデン	リンシェピン大学	1	
ポルトガル	リスボン工科大学	3	4
ブルガリア	University of Architecture, Civil Engineering and Geodesy		2
カナダ	マギル大学	1	
タイ	アジア工科大学		1
タイ	カセタート大学		1
中国	同済大学		4
中国	北京航空航天大学		1

国名	大学名	日本からの留学	日本への留学
シンガポール	シンガポール国立大学		2
韓国	KAIST		1
UAE	マスダール工科大学	2	1
計		48	57
参考（第1期中期目標期間（平成16年度～21年度）の合計）		19	32

本研究科は独立大学院のため学部組織を持っていないが、本学の学部1、2年生や海外の学部学生を対象に、将来の研究者としての基礎トレーニングを積むための先端研究体験学習を実施している（資料25-26：学部学生に対する体験型教育プログラム）。全学体験ゼミナール先端研究体験学習（本学学部1、2年生対象）では3泊4日、UTSIP（Summer Internship Program in Kashiwa）（海外の学部学生対象）では40日程度に渡り、体験学習を行っている。平成26年度から開始したUTSIPでは、平成27年度までの3年間に、海外の学部学生73人が本研究科で研究体験学習を受けている。

（資料25-26：学部学生に対する体験型教育プログラム）

全学体験ゼミナール「先端研究体験学習 柏キャンパスサイエンスキャンプ」受け入れ学生数

単位：人

	平成26年度（トライアル）	平成27年度
新領域創成科学研究科	19	60
宇宙線研究所	4	16
物性研究所		18
大気海洋研究所		6
カブリ数物宇宙連携機構		*
合計	23	100

（*：建物見学等への協力）

夏季インターンシッププログラム UTSIP（Summer Internship Program in Kashiwa）参加学生数

単位：人

国籍	年度（平成）		
	25年	26年	27年
中国	3	11	6
インドネシア	3	2	3
インド	1	5	3
日本			2
タイ		2	2
カナダ			2
エジプト			2
英国		1	1
マレーシア			1
フランス			1

国籍	年度（平成）		
	25年	26年	27年
トルコ		2	1
ドイツ	1	1	1
タジキスタン			1
スイス			1
カザフスタン		1	1
アメリカ	2		1
モロッコ		1	
ポルトガル		1	
チリ		1	
アイルランド	2	1	
チュニジア	1		
イタリア	1		
イラン	1		
合計	15	29	29

（水準）

期待される水準を上回る。

（判断理由）

学融合教育を行うための多彩で配慮されたカリキュラムを専攻ごとに準備すると共に、本研究科が中心として実施しているサステナビリティ学グローバルリーダー養成大学院プログラムに加えて、3つの博士課程教育リーディングプログラムに参画している。さらに、核融合、バイオ・知財、環境などの特色のある教育プログラムや、学融合を進めるための研究科共通科目を設置している。また、国際化を進めるための英語による教育、海外大学への交換留学生の派遣や受入にも大きな実績を残している。他方、学部学生に対する体験型教育プログラムにも積極的に取り組んでいる。特に、夏季インターンシッププログラム UTSIP は、平成 28 年度（募集時期 27 年度）に対して 1,000 人以上の応募があり、学融合と国際化を進める東京大学の大きな柱の1つとして、海外の大学から注目を集めている。

第2期中期目標期間に、教育内容に関して（資料 25-27：新たな取り組みの要約）に示す新たな取り組みを実施しており、第1期中期目標期間よりさらに充実したものとなっている。

(資料 25-27 : 新たな取り組みの要約)

1. メディカル情報生命専攻の設置(メディカルゲノム専攻と情報生命科学専攻からの改組)
2. 博士課程教育リーディングプログラムの実施・参画 (サステナビリティ学グローバルリーダー養成大学院プログラムの実施、他 3 つのプログラムに参画)
3. 教育プログラムの拡充 (8 プログラムから 10 プログラムへの拡充)
4. 夏季インターンシッププログラム UTSIP の実施
5. 全学体験ゼミナールの実施
6. 海外協定校との交流活性化 (受入 48 人、留学 57 人)
(第 1 期中期目標期間 : 受入 19 人、留学 32 人)

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

修士および博士の学位取得状況を(資料 25-28: 修士修了者)(資料 25-29: 博士号取得者数)に示す。修士は毎年 360 ~ 460 人、また、博士は毎年 95 ~ 125 人が学位を取得している。また、平成 22 年 ~ 27 年で 2 名の学生が、博士課程を 3 年間より短い期間で修了し博士号を取得している。外国人学生に関しては、平成 22 年度 ~ 平成 27 年度の 5 年間に 269 人が修士の学位を取得し、139 人が博士の学位を取得している。

(資料 25-28: 修士修了者)

単位 人 () 内は外国人数内数

専攻名	年度 (平成)					
	22 年	23 年	24 年	25 年	26 年	27 年
物質系専攻	55 (0)	48 (2)	52 (2)	58 (3)	36 (0)	42 (3)
先端エネルギー工学専攻	36 (2)	37 (4)	37 (3)	32 (1)	40 (2)	39 (5)
複雑理工学専攻	36 (3)	22 (1)	26 (0)	26 (1)	26 (1)	31 (1)
先端生命科学専攻	43 (0)	45 (2)	46 (3)	52 (3)	41 (1)	32 (1)
メディカルゲノム専攻	58 (7)	53 (5)	58 (5)	46 (3)	55 (8)	
情報生命科学専攻	12 (1)	9 (1)	14 (0)	17 (1)	9 (1)	
メディカル情報生命専攻						61 (4)
自然環境学専攻	36 (1)	28 (1)	29 (4)	41 (2)	33 (3)	30 (3)
海洋技術環境学専攻	21 (3)	16 (1)	19 (3)	23 (0)	14 (2)	17 (3)
環境システム学専攻	28 (1)	37 (5)	13 (1)	23 (2)	14 (2)	29 (6)
人間環境学専攻	50 (3)	50 (4)	35 (7)	31 (0)	40 (5)	44 (5)
社会文化環境学専攻	47 (6)	41 (2)	34 (4)	37 (5)	27 (3)	30 (2)
国際協力学専攻	28 (6)	28 (5)	23 (3)	32 (8)	21 (5)	18 (4)
サステナビリティ学グローバル	15 (10)	19 (15)	16 (9)	19 (14)	12 (9)	14 (12)
リーダー養成大学院プログラム						
合計	465 (43)	434 (48)	402 (44)	437 (43)	368 (42)	387 (49)
標準修業年限で修了した学生 (割合)	89.5%	91.2%	90.8%	89.5%	91.3%	89.7%
標準修業年限 × 1.5 (3 年) 以内で修了した学生数 (割合)	99.4%	98.8%	99.9%	98.6%	99.2%	99.0%

(注: メディカルゲノム専攻と情報生命科学専攻は、平成 27 年度からメディカル情報生命専攻に改組されている。サステナビリティ学グローバルリーダー養成大学院プログラムによる学位取得者数は、その前身のサステナビリティ学教育プログラムのもとの合わせた数字である。)

(資料 25-29 : 博士号取得者数)

単位 人 () 内は外国人数内数

専攻名	年度 (平成)					
	22年	23年	24年	25年	26年	27年
物質系専攻	15 (2)	7 (1)	13 (5)	14 (3)	15 (5)	10 (1)
先端エネルギー工学専攻	1 (0)	6 (3)	7 (2)	11 (2)	9 (3)	7 (0)
複雑理工学専攻	4 (2)	6 (1)	10 (2)	10 (1)	1 (0)	7 (0)
先端生命科学専攻	10 (0)	12 (2)	12 (2)	12 (0)	13 (0)	10 (0)
メディカルゲノム専攻	27 (5)	24 (3)	36 (3)	25 (6)	30 (4)	4 (0)
情報生命科学専攻	7 (1)	4 (2)	5 (1)	6 (2)	4 (1)	2 (1)
メディカル情報生命専攻						18 (2)
自然環境学専攻	10 (5)	10 (2)	12 (0)	9 (2)	14 (2)	10 (4)
海洋技術環境学専攻	0 (0)	1 (0)	3 (1)	5 (2)	2 (0)	5 (1)
環境システム学専攻	7 (0)	3 (0)	8 (1)	4 (1)	4 (0)	8 (2)
人間環境学専攻	2 (2)	10 (0)	7 (2)	9 (4)	6 (1)	7 (2)
社会文化環境学専攻	6 (1)	6 (3)	7 (4)	5 (3)	9 (3)	7 (2)
国際協力学専攻	6 (1)	6 (0)	3 (0)	4 (0)	7 (3)	6 (2)
サステイナビリティ学グローバル	0 (0)	0 (0)	1 (1)	3 (3)	2 (1)	5 (5)
リーダー養成大学院プログラム						
合計	100 (24)	95 (17)	125 (24)	117 (29)	116 (23)	106 (22)
標準修業年限で修了した学生 (割合)	55.0%	53.7%	55.2%	65.8%	56.0%	62.3%
標準修業年限×1.5 (3年) 以内で修了した学生数 (割合)	84.0%	88.4%	85.6%	88.0%	83.60%	88.70%

(注 : メディカルゲノム専攻と情報生命科学専攻は、平成 27 年度からメディカル情報生命専攻に改組されているが、旧専攻としての修了生もいる。サステイナビリティ学グローバルリーダー養成大学院プログラムによる学位取得者数は、その前身のサステイナビリティ学教育プログラムのもものと合わせた数字である。)

4つの博士課程教育リーディングプログラムでは、合わせて 125 人の学生が教育を受けている (資料 25-30 : 博士課程教育リーディングプログラムの在籍学生数)。また、各教育プログラムでは規定の単位を取得した者に、その教育プログラムの修了証書を授与しているが、その修了者数は、全教育プログラムを合わせると毎年 60 ~ 100 人に上る (資料 25-31 : 教育プログラムの修了者数)。

(資料 25-30 : 博士課程教育リーディングプログラムの在籍学生数)

単位 人 (平成 27 年 10 月現在)

プログラム名	博士課程			修士課程		合計
	3年生	2年生	1年生	2年生	1年生	
サステイナビリティ学グローバルリーダー養成大学院プログラム	12	10	11	15	14	62
統合物質科学リーダー養成プログラム	9	9	11	8	8	45
社会構想マネジメントを先導するグローバルリーダー養成プログラム		4	3	4	3	14
活力ある超高齢社会を共創するグローバル・リーダー養成プログラム		3		1		4

(資料 25-31 : 教育プログラムの修了者数)

単位 : 人

教育プログラム名	年度 (平成)					
	22 年	23 年	24 年	25 年	26 年	27 年
核融合研究教育プログラム	11	15	13	10	16	16
基盤科学領域創成研究教育プログラム	5	3	22	4	4	6
バイオ知財コース	1	0	1	0	2	0
メディカルゲノムサイエンス・プログラム	17	22	18	10	18	20
情報生命科学プログラム	—	—	—	—	—	3
環境マネジメント(MOT)プログラム	45	35	44	28	30	33
環境デザイン統合教育プログラム	5	8	5	11	8	9
環境技術者養成プログラム	0	0	0	0	0	1
環境管理者養成プログラム	3	2	0	1	4	2
サステナビリティ学グローバルリーダー	—	—	—	0	1	0
養成大学院プログラム・マイナープログラム						
計	87	85	103	64	83	90

学生の研究成果は、学術論文誌、国際会議、国内会議等で発表しており、その多くで高い評価を得ている。それらの成果に対して、平均として1年間に 50 件以上もの賞を受賞している (資料 25-32 : 学生の受賞状況)。これは第1期中期目標期間より、2倍近く増加している。また、国際会議の発表に対する賞など、国際的な賞も多い (資料 25-33 : 国際的な賞の受賞例)。

(資料 25-32 : 学生の受賞状況)

受賞件数

専攻名	年度					
	22 年	23 年	24 年	25 年	26 年	27 年
物質系専攻	4	2	2	5	7	9
先端エネルギー工学専攻	8	8	6	9	16	7
複雑理工学専攻	2	10	5	3	7	8
先端生命科学専攻	1	1	2	1	3	4
メディカルゲノム専攻	7	8	5	9	6	
情報生命科学専攻		1	2	1		
メディカル情報生命専攻						1
自然環境学専攻	7	1	6	6	8	1
海洋技術環境学専攻	2	5	5	3	7	3
環境システム学専攻	3	2	3	3	7	7
人間環境学専攻	2	8	3	10	9	2
社会文化環境学専攻	1	2	5	5	2	5
国際協力学専攻		1		2	2	2
計	37	49	44	57	74	49

(注 : 平成 27 年度より、メディカルゲノム専攻と情報生命科学専攻がメディカル情報生命専攻に統合されている。)

(資料 25-33 : 国際的な賞の受賞例)

平成 22 年度

IWN 2010, Poster Award / The Materials Research Society, Poster Award / IEEE IMWS-IWPT2011, Best Paper Award Bronze / 6th HPBB, Best Poster Award / American Bureau of Shipping, ABS Award / ITS World Congress, Outstanding Paper Award / 19th CSDS, Young Investigator's Award

平成 23 年度

ISAPS 2011, Poster Award / IWSEC2011, Best Poster Awards / Motion in Games, Best Paper Award / The 38th ISNAC Poster Award / Cold Spring Harbor Asia conference on Bioinformatics of Human and Animal Genomics, Best Poster Award / IWMO2011, Outstanding Young Scientist Awards (1st place and 2nd place) / MTS/IEEE OCEANS' 11, Student Poster Program 2nd Place Award / American Bureau of Shipping, ABS Award / PAWEES2011, Paper Award

平成 24 年度

The 10th Int. Workshop on Advanced Genomics, Best Poster Award / IWMO2012, Outstanding Young Scientist Award (2nd place) / American Bureau of Shipping, ABS Award / GIScience 2012, Student Scholarship

平成 25 年度

ICRP-8, Young Award Silver Medal / International HPLA/BEP Symposium 2014, 2nd Place Poster / IWSEC2013, Best Poster Awards / ICOS2013, The 5th Outstanding Poster Award / IHMC2013, Outstanding Paper Award / SAME13, Most Outstanding Poster Award / American Bureau of Shipping, ABS Award / IWMO2013, Outstanding Young Scientist Award (2nd place) / SuperGreen 2013, The 8th International Conference on Supercritical Fluids, Best Student Poster Award / 5th Int. Conf. Solar Air-Conditioning, Best Poster Presentation Award (1st Prize) / IDW' 13, Outstanding Poster Award / IEEE GCCE2013, Excellent Poster Award (3rd Prize) / HCI International Conference, Best Paper Award

平成 26 年度

ECRYS2015, Poster Award / IUMRS-ICA2014, Encouragement of Research / ACC2014, Best Presentation Award / ICEE2014, Best Paper Award / AMBS2014, Young Scientist Award / IWMO2014, Outstanding Young Scientist Award (2nd Place) / American Bureau of Shipping, ABS Award / IEEE GCCE 2014, Best Student Paper Award (1st Prize) / IRED2014, Poster Award for Young Engineer

平成 27 年度

M&BE8, Outstanding Student Poster Award (2 件) / AEPSE2015, Student Award / 30th ISTS, Modi Memorial Jaya-Jayant Award / IEEE PELS Workshop on Emerging Technology 2015, Best Paper Award / IECON2015, Best Presentation / SFEM2015, Student Presentation Award / American Bureau of Shipping, ABS Award / ViolentFlows2016, Best Student Paper Award / SUPERGREEN2015, Best Poster Award / IDW' 15, Outstanding Poster Award / GDN 2015, Young Researcher Award (Runner up) / International Society of Environmental and Rural Development, Best Paper Award

講義に関する学生の評価は、「授業の計画性、教員の熱意や質問への対応など」で評価が高い（別添資料 25- 2：講義評価アンケート）。これは、これまでの教科書では扱われていない学融合領域分野での各教員の講義に対する準備や、講義実施における意気込みが学生に高く評価されているものと考えられる。研究指導に対しては、多様な背景をもつ学生が多いにもかかわらず、約 80% 以上の学生が「満足」または「まあ満足」と評価しており（別添資料：25- 4：修了生アンケート）（別添資料 25- 5：在学生アンケート）、各教員が工夫し適切に研究指導していることが分かる。

（水準）

期待される水準を上回る。

（判断理由）

第2期中期目標期間では、毎年平均として、約 400 人の修士修了者と 110 人の博士号取得者を輩出しており、学生の賞の受賞者数も1年で平均 50 人を上回っている（資料 25-32：学生の受賞状況）。第1期中期目標期間に比べて、博士号取得者が2割以上増加し、賞の受賞者数は8割以上増加している（資料 25-34：第1期第2期の比較）。各専攻のカリキュラムに加えて、4つの博士課程教育リーディングプログラム、10 個の教育プログラム、研究科共通科目の履修などを通じて、最先端および幅広い融合分野の知識を習得した学生が育っている。

多くの企業で本研究科の学融合教育を評価しており（別添資料：25- 3：企業アンケート）、修了生の約8割は、在学中に学んだ知識が現在の仕事に役立っていると評価している（別添資料：25- 4：修了生アンケート）。これらより、本研究科の教育目的である学融合分野の人材を育成するという目的を十分に達成していると言える。

さらに、多数の外国人学生を受け入れ、日本人学生と外国人学生と一緒に教育研究指導すること、あるいは海外の協定校への派遣や、国際会議での発表などを通じて、日本人学生の国際化にも大きな成果を出している。この成果は、314 件の学生の受賞のうち、約 25% が国際会議の発表などの国際的な賞であることに現れている（資料 25-33：国際的な賞の受賞例）。

（資料 25-34：第1期第2期の比較）

中期目標期間	修士課程修了者数	博士課程修了者数	賞の受賞数
第1期	2413	541	169
第2期	2493	659	314
第2期／第1期	1.03	1.22	1.86

観点 進路・就職の状況

(観点に係る状況)

企業の情報や仕事内容等を、実際に企業で働いている社員や修了生を通じて直接説明を受ける機会を学生に与えるために、セミナーやワークショップを開催している(資料 25-35:企業セミナー/ワークショップ)。毎年、合わせて100社以上参加しており、本研究科の学生に対する企業の採用意欲が大きいことがわかる。

(資料 25-35: 企業セミナー/ワークショップ)

基盤科学系キャリアアップセミナー参加組織(企業・独立行政法人・省庁等)の数

年度(平成)	22年	23年	24年	25年	26年	27年
参加組織数	69	72	70	67	75	85

新領域を拓くジョイントワークショップ参加組織(企業・独立行政法人・省庁等)の数

年度(平成)	22年	23年	24年	25年	26年	27年
参加組織数	33	40	41	35	47	53

毎年、修士課程修了者は15~20%が博士課程に進学し、約40%が研究者・技術者として企業等に就職している(資料 25-36: 修士課程修了者の就職・進学状況)。また、博士課程修了者は30%弱が大学等の研究機関に就職し、約20%が企業の研究職、残り30%弱がポスドクなどに就いている(資料 25-37: 博士課程修了者の就職状況)。

(資料 25-36: 修士課程修了者の就職・進学状況)

			平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
			人数	比率										
進学者数	博士課程	本学	103	22.15%	65	14.98%	68	16.92%	86	19.68%	75	20.38%	78	20.16%
		他大学	2	0.43%	1	0.23%	2	0.50%	0	0.00%	2	0.54%	3	0.78%
	小計		105	22.58%	66	15.21%	70	17.41%	86	19.68%	77	20.92%	81	20.93%
就職者数	研究機関(大学を含む)	国公立	5	1.08%	2	0.46%	3	0.75%	5	1.14%	3	0.82%	3	0.78%
		民間	0	0.00%	1	0.23%	1	0.25%	2	0.46%	2	0.54%	2	0.52%
	企業	研究者・技術者	207	44.52%	119	27.42%	155	38.56%	168	38.44%	158	42.93%	165	42.64%
		事務	65	13.98%	7	1.61%	18	4.48%	34	7.78%	49	13.32%	10	2.58%
	公務(事務・技術)		20	4.30%	13	3.00%	13	3.23%	16	3.66%	5	1.36%	15	3.88%
	その他		13	2.80%	53	12.21%	63	15.67%	51	11.67%	48	13.04%	73	18.86%
	小計		310	66.67%	195	44.93%	253	62.94%	276	63.16%	265	72.01%	268	69.25%
その他	学部再入学・研究生		1	0.22%	0	0.00%	1	0.25%	2	0.46%	0	0.00%	0	0.00%
	その他(未回答も含む)		37	7.96%	166	38.25%	70	17.41%	52	11.90%	15	4.08%	23	5.94%
	無業		12	2.58%	7	1.61%	8	1.99%	21	4.81%	11	2.99%	15	3.88%
	小計		50	10.75%	173	39.86%	79	19.65%	75	17.16%	26	7.07%	38	9.82%
合計			465		434		402		437		368		387	

(注: 外国への留学と修士課程再入学については、その他の「その他」欄に含む。平成23年度に「その他(未回答)」が多いのは、東日本大震災の混乱による。)

(資料 25-37 : 博士課程修了者の就職状況)

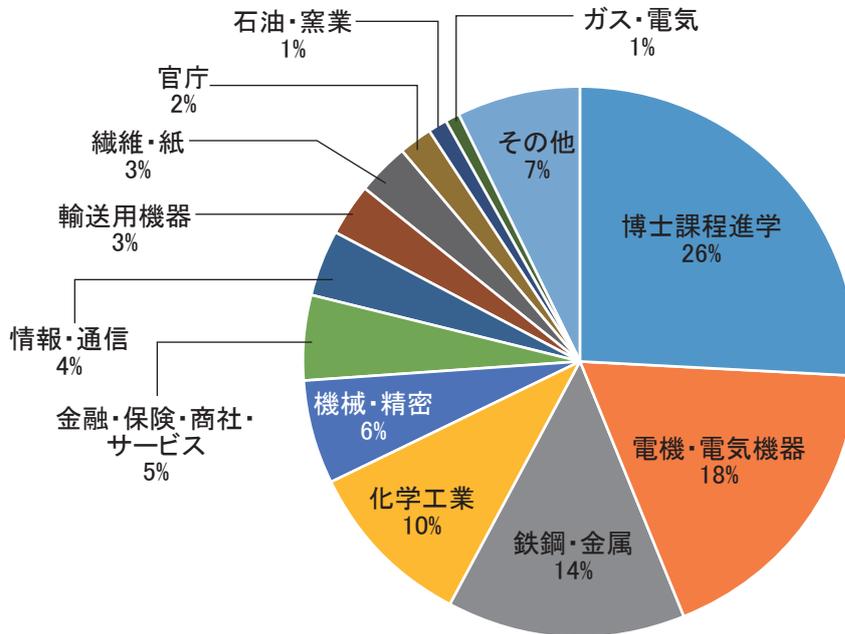
			平成 22 年度		平成 23 年度		平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度		
			人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	
就職者数	研究機関 (大学を含む)	国公立	18 (6)	16.67%	5 (5)	7.58%	34 (3)	23.42%	37 (9)	27.22%	39 (3)	27.63%	31 (7)	25.68%	
		民間	11 (1)	8.33%	1 (1)	1.52%	5 (2)	4.43%	3 (1)	2.37%	4 (1)	3.29%	6 (1)	4.73%	
	企業	研究者・ 技術者	14 (17)	21.53%	12 (5)	12.88%	23 (9)	20.25%	25 (12)	21.89%	22 (8)	19.74%	18 (8)	17.57%	
		事務	2 (2)	2.78%	1 (1)	1.52%	3 (0)	1.90%	0 (2)	1.18%	1 (0)	0.66%	1 (1)	1.35%	
	公務 (事務・技術)		1 (3)	2.78%	2 (0)	1.52%	1 (2)	1.90%	2 (1)	1.78%	2 (1)	1.97%	3 (0)	2.03%	
	その他		3 (2)	3.47%	7 (3)	7.58%	4 (3)	4.43%	6 (8)	8.28%	8 (4)	7.89%	6 (0)	4.05%	
	小計		49 (31)	55.56%	28 (15)	32.58%	70 (19)	56.33%	73 (33)	62.72%	76 (17)	61.18%	65 (17)	55.41%	
	その他	学振特別研究員 (PD)		10 (0)	6.94%	4 (2)	4.55%	15 (0)	9.49%	12 (0)	7.10%	14 (0)	9.21%	11 (1)	8.11%
		その他 (未回答も含む)		41 (13)	37.50%	63 (18)	61.36%	38 (13)	32.28%	28 (18)	27.22%	26 (15)	26.97%	27 (23)	33.78%
		無業		0 (0)	0.00%	0 (2)	1.52%	2 (1)	1.90%	4 (1)	2.96%	0 (4)	2.63%	3 (1)	2.70%
小計		51 (13)	44.44%	67 (22)	67.42%	55 (14)	43.67%	44 (19)	37.28%	40 (19)	38.82%	41 (25)	44.59%		
合計			100 (44)		95 (37)		125 (33)		117 (52)		116 (36)		106 (42)		

(注：修了者数には、退学後論文を提出して学位を授与された者を含む。当該年度に博士課程を満期退学し学位を取得していない者については、() 内に外数として人数を示す。比率は、その外数を含めた比率。外国への留学は、その他の「その他」欄に含む。平成 23 年度に「その他 (未回答)」が多いのは、東日本大震災の影響による。)

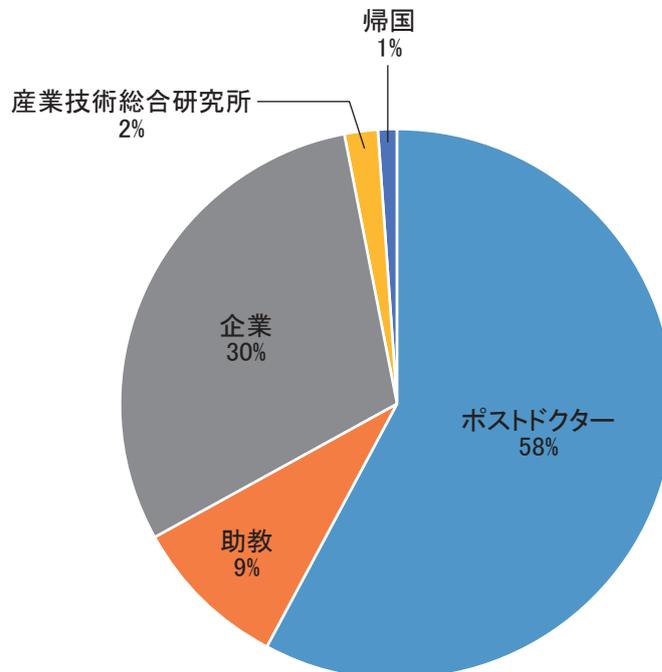
事例として物質系専攻の就職先の企業の業種を (資料 25-38 : 物質系専攻修了者の就職先業種) に示す。修士課程修了者は幅広い業種に就職していることがわかる。また、本研究科の修了生が中心となって、学融合を活かしたベンチャー企業を起業する事例も生まれている (資料 25-39 : ベンチャー企業の起業の事例)。

(資料 25-38 : 物質系専攻修了者の就職先業種)

修士課程修了者292人(平成22年～27年度)



博士修了69人(平成22年～27年度)



(資料 25-39：ベンチャー企業の起業の事例)

会社名：エルピクセル株式会社

設立年月：平成 26 年3月

場所：東京大学アントレプレナープラザ

特徴：先端生命科学専攻の修士課程修了生（CEO）

先端生命科学専攻博士課程修了者3名（中心メンバー）

特徴：ライフサイエンス研究者向けの画像解析ソフトウェアシステムの研究開発に強みを持つ企業であるが、生命科学・画像処理・数理工学・情報科学等の知識を駆使した業種であり、本研究科の修了生の特徴を発揮したベンチャー企業となっている。

本研究科の修了生の約8割は、在学中に学んだ知識が現在の仕事に役立っていると評価している（別添資料：25- 4：修了生アンケート）。また、多くの企業で本研究科の学融合教育を評価している（別添資料：25- 3：企業アンケート）。以上より、本研究科の理念である学融合教育が企業に受け入れられ役立っており、人材育成の目的を達成できているといえる。

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

本研究科で開催している就職に関連するセミナーやジョイントワークショップへの企業参加が毎年100社を超え、本研究科修了生への採用意欲が高い（資料 25-35：企業セミナー／ワークショップ）。修士課程修了者は、約2割の学生が博士課程に進学し、他の者は様々な企業に就職しているが、その8割以上の者が本人の希望した職業に就けている（別添資料：25- 4：修了生アンケート）。博士課程修了者は、第1期中期目標期間より2割以上増加しているが、大学や企業の研究職に7割近くが就職している（資料 25-37：博士課程修了者の就職状況）。

企業アンケートの本研究科の修了生に対する評価は高く（別添資料：25- 3：企業アンケート）、学融合教育の強みを持ったベンチャーを起業する（資料 25-39：ベンチャー企業の起業の例）など、修了生の多くが本研究科の学融合教育の強みを発揮して活躍している。

Ⅲ 「質の向上度」の分析

(1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

(資料 25-15 ; P25-12 : 教育体制の変遷) および (資料 25-27 ; P25-19 : 新たな取り組みの要約) で示したように、第2期中期目標期間に「サステナビリティ学グローバルリーダー養成大学院プログラム」を開始するとともに、他に3つの博士課程教育リーディングプログラムに参画し、125名の学生を教育している。また、生命科学と情報科学の学融合教育をさらに進めるために、平成27年度にはメディカルゲノム学専攻と情報生命学専攻を統合し、メディカル情報生命専攻を設置した。さらに、より充実した学融合教育や研究指導が行えるように、連携講座を学外12機関16講座(平成21年度末)から学外13機関23講座に充実させている。これらにより、最先端研究分野およびより広い学融合分野に対して、研究指導や教育がより適切に実施できるようになっている。これらの効果は、博士課程の学位取得者が第1期中期目標期間に比べて2割以上増加していることに現れている(資料 25-34 ; P25-24 : 第1期第2期の比較)。

上記に加えて、平成25年度より海外の大学の学部学生に対する夏季インターンシッププログラム UTSIP を、また平成26年度より本学の学部1、2年生に対する全学体験ゼミナール(先端研究体験学習)を開始するなど、国際的な学部教育などにも積極的に取り組んでいる(資料 25-26 ; P25-20 : 学部学生に対する体験型教育プログラム)。

これらのことより、第2期中間目標期間において、教育活動の状況に重要な質の向上があったと判断される。

(2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

(資料 25-34 ; P25-24 : 第1期第2期の比較) に示したように、第1期中期目標期間に比べて、博士課程修了者が2割増加し、賞の受賞者数も8割以上増加している。また、企業アンケート(別添資料: 25-3: 企業アンケート) および修了生アンケート(別添資料: 25-4: 修了生アンケート) においても、本研究科の学融合教育に対する評価が高い。

教育活動の状況に記載した多様な取組みにより、上記のように顕著な教育成果があがっていることから、第2期中期目標期間において、教育成果の状況も重要な質の向上があったと判断される。